自己点検・評価報告書

（第５回報告書）

平成27年３月

独立行政法人国立高等専門学校機構
秋田工業高等専門学校

目　　次

第５回自己点検・評価報告書の発刊に当たって…… 1
秋田工業高等専門学校の概要…… 2
1. 設立の目的と教育理念・教育目標 …… 2
2. 沿革 …… 3
3. 組織図 …… 6

各項目による自己点検・評価　本文編
項目１　教育理念・目標等 …… 7
項目２　教育活動 …… 14
項目３　研究活動 …… 32
項目４　教員組織 …… 37
項目５　施設設備 …… 46
項目６　国際交流 …… 51
項目７　生涯教育への対応 …… 53
項目８　社会との連携 …… 54
項目９　クラブ活動 …… 59
項目10　学生寮生活 …… 60
項目11　管理運営・財政 …… 62
項目12　その他必要な項目 …… 70

各項目による自己点検・評価　資料編

第５回自己点検・評価報告書発刊に当たって

校　長
山　田　宗　慶

本校は昭和39年４月に国立の工業高等専門学校として創設され，平成16年４月から独立行政法人国立高等専門学校機構秋田工業高等専門学校となり現在に至っている。

本校は機械工学科，電気情報工学科，物質工学科，環境都市工学科の４学科より成り，各学科とも１学年１学級でそれぞれ40名を定員としている。平成６年度に，本科５年の上に修業年限２年の生産システム工学専攻と環境システム工学専攻の２専攻で構成する専攻科が設置され，両専攻の定員はそれぞれ８名である。本校では，深く工業に関する専門の学芸を研究教授すると共に，特色のある５年一貫教育によって，職業に必要な素質と能力を育成し，豊かな教養と高度の専門技術を身につけた技術者を養成する実践的専門教育を行っている。

本校の教育・研究活動，学生支援・学生指導，地域連携活動，管理運営等に関する諸活動に関しての内部改革をまとめたものとしては，「本校の現状と課題」として平成６年12月に第１回報告書（中間報告），平成10年10月に第２回報告書を作成し，学内の諸活動の改善のための検討の基盤とした。更に平成15年12月に秋田高専自己点検・評価委員会を組織した。

平成16年４月からの独立行政法人化に伴い、高専機構は５年毎に中期目標・中期計画を策定し、一方本校はそれに基づいて毎年度計画をたて実行する、という運営体制に移行した。ちなみに、昨年度（平成25年度）は第２期中期目標・中期計画期間の最終年度、今年度は第３期中期目標・中期計画期間の初年度にあたる。独立行政法人化後の秋田高専は平成16年12月から学外有識者７名で構成する参与会を設置し，外部から教育研究活動・管理運営全般に対して適切なる御助言・御提案をいただくこととした。様々な外部評価も参考にして自己点検評価を継続し、平成16年12月に「自己点検・評価報告書－現状と課題（第３回報告書）」、平成21年12月に「自己点検・評価報告書－現状と課題（第４回報告書）」をそれぞれ作成し公表した。

第４回報告書を公表して以来５年が経過すると同時に，平成21年度から平成25年度までの５年間に亘る第２期中期目標・中期計画の期間が終了したことを受けて，この度本校では平成26年度中に第５回自己点検・評価報告書をまとめることとした。本報告書は第２期中期目標・中期計画に沿って５年間に亘る実施状況・実施結果をまとめると同時に，平成23年度と26年度に受審した日本技術者教育認定機構による「創造工学システムプログラム」の教育プログラムと、同じく平成26年度に受審した独立行政法人大学評価・学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」に関する内容も参考にした。

本報告書を作成することによって秋田高専構成員の自己点検と自立的改革の速度を一段と速め，今後の教育研究活動，地域連携活動、国際交流等の改善の指針として活用いただきたいと考えている。

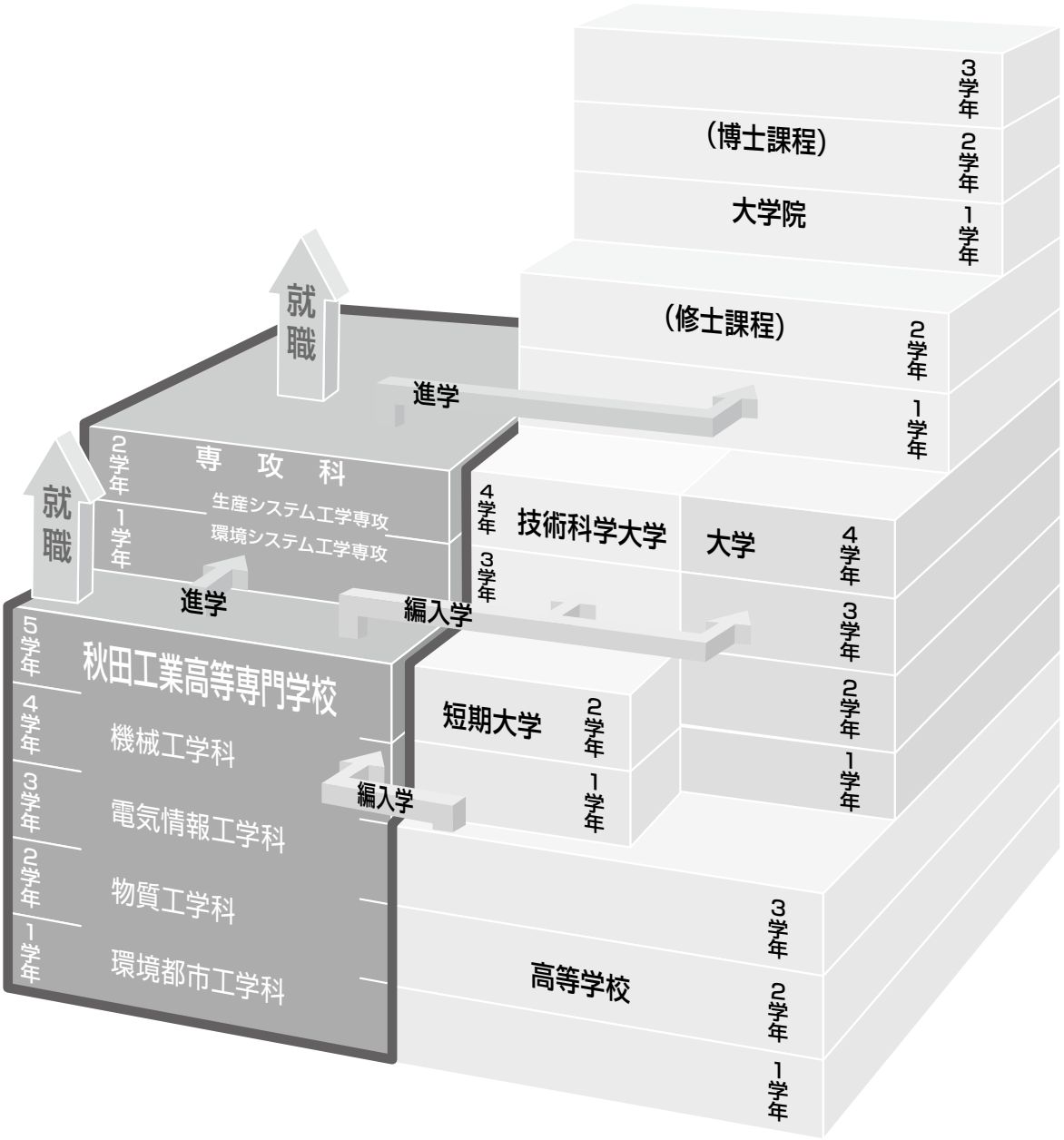
秋田工業高等専門学校の概要

1．設立の目的と教育理念・教育目標

高等専門学校（高専）は，我が国の産業の発展と，科学技術教育のより一層の振興を図るために，昭和37年度に新しい高等教育機関として創設された。

高専には，『深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する』という目的があり，中学校卒業生を入学資格とする5年制の一貫教育を行う高等教育機関である。

なお，日本の学校制度の中で，高専の占める位置は図のようになっている。



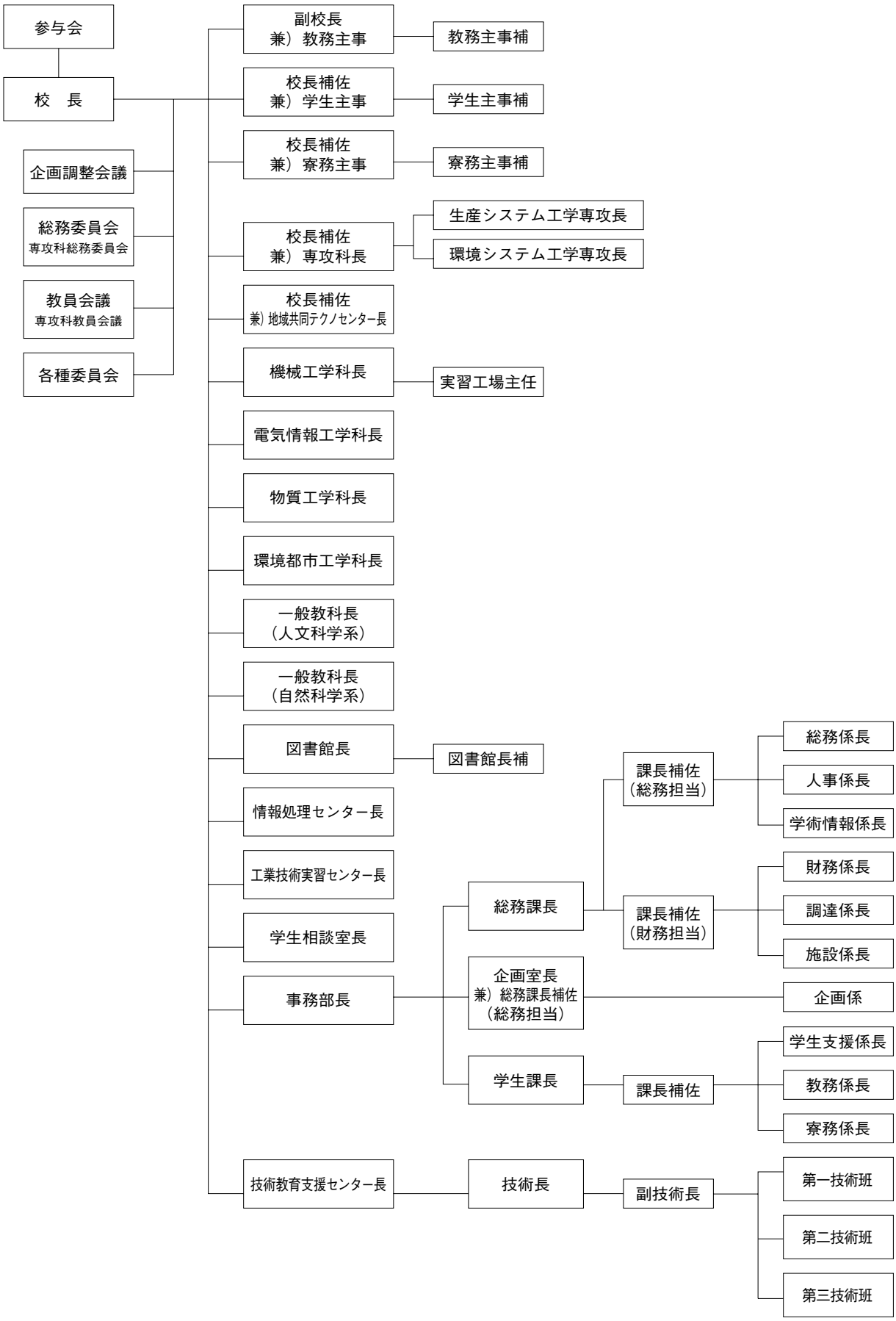
2．沿　革

1963	昭和38年１月23日	秋田工業高等専門学校設置準備会開催
	３月31日	秋田市飯島に秋田工業高等専門学校設置決定
1964	昭和39年２月22日	昭和39年度入学者選抜試験実施
	～月23日	
	３月５日	昭和39年度合格者発表
	３月21日	校舎竣工
	４月１日	国立学校設置法の一部改正（昭和38年法律第69号）により秋田工業高等専門学校設置
		機械工学科、電気工学科、工業化学科設置
		初代校長に秋田大学鉱山学部長理学博士　丹　桂之助　就任
	４月18日	開校式並びに第１回入学式を秋田県産業会館において挙行
	９月11日	校章制定
1965	昭和40年３月20日	校舎（寄宿舎、実習工場）竣工
	７月１日	第二代校長に秋田大学鉱山学部教授　赤尾　孝太郎　就任
1966	昭和41年１月31日	陸上競技場竣工
	３月20日	校舎、体育館、寄宿舎竣工
	７月１日	第三代校長に元秋田大学鉱山学部長　野口　清　就任
	11月15日	球技コート竣工
	12月26日	野球場竣工
1967	昭和42年３月20日	学生食堂兼集会所竣工
	４月１日	事務部に庶務課、会計課設置
	９月５日	校歌制定
1968	昭和43年１月29日	武道場竣工
	９月25日	校舎落成式挙行
	10月31日	水泳プール及び付属施設竣工
1969	昭和44年３月18日	第１回卒業証書授与式挙行
	４月１日	土木工学科設置
1970	昭和45年３月25日	土木工学科棟、寄宿舎竣工
1971	昭和46年３月30日	熱機関実験室竣工
1972	昭和47年４月１日	事務部に学生課設置
	11月20日	図書館竣工
1974	昭和49年３月25日	電子計算機室竣工
	４月１日	第四代校長に東北大学教授工学博士　亀田　満雄　就任
	10月５日	創立10周年記念式典挙行
1977	昭和52年３月16日	第五代校長に秋田大学鉱山学部長工学博士　梅津　良之　就任
1978	昭和53年12月12日	第二体育館竣工
1979	昭和54年３月15日	実験廃水処理施設・生活廃水処理施設竣工

1980	昭和55年３月15日	一般教室棟竣工
1981	昭和56年２月23日	第六代校長に宇都宮大学工学部長理学博士　鈴木　一夫　就任
	３月５日	厚生会館竣工
1983	昭和58年10月31日	ハンドボールコート竣工
1984	昭和59年１月31日	武道場増改築竣工
	３月22日	課外活動施設竣工
	10月21日	創立20周年記念特別講演会開催（於　秋田県民会館）
	11月20日	基幹整備（運動場）竣工
1985	昭和60年１月21日	基幹整備（電気）竣工
		非常用放送設備竣工
	３月15日	テニスコート整備竣工
1986	昭和61年12月15日	図書館渡廊下竣工
1987	昭和62年３月30日	寄宿舎誘導灯竣工
	８月10日	第22回全国高等専門学校体育大会開催（本校主管）
	～12日	
	10月２日	第七代校長に東北大学工学部教授工学博士　島田　平八　就任
1989	平成元年10月６日	創立25周年記念式典挙行
1992	平成４年４月１日	工業化学科を物質工学科に改組
1993	平成５年３月31日	寄宿舎改修竣工（東１棟・西１棟）
	４月１日	第八代校長に東北大学工学部教授工学博士　萬谷　志郎　就任
		土木工学科を環境都市工学科に改組
1994	平成６年３月25日	物質工学科棟竣工
	４月１日	専攻科設置（生産システム工学専攻、環境システム工学専攻）
	８月10日	水泳プール新設竣工
	８月25日	寄宿舎改修竣工（管理棟）
	12月１日	創立30周年記念式典挙行
	12月２日	専攻科設置記念式典挙行
1995	平成７年６月13日	電子計算機室を情報処理センターに名称変更
	８月31日	寄宿舎（東２号棟・西２号棟）改修竣工
1996	平成８年３月４日	専攻科棟竣工
	３月29日	情報ネットワーク電機設備竣工
1997	平成９年４月１日	一般科目文科系及び理科系を人文科学系及び自然科学系に名称変更
1998	平成10年３月25日	図書総合管理システム導入
1999	平成11年３月26日	図書館に自動入退館システム導入
	４月２日	第九代校長に東北大学科学計測研究所教授理学博士　石亀　希男　就任
2000	平成12年４月１日	既設寄宿舎を女子寮に転用
2001	平成13年１月29日	科学技術教育棟竣工（1F：地域共同テクノセンター、2F～4F：低学年講義室）
	３月24日	一般教育棟等・管理棟改修・その他工事着工

	3月31日	寒冷環境工学研究教育センター廃止
	4月1日	地域共同テクノセンター設置
	7月31日	一般教育棟等・管理棟改修・その他工事竣工
	9月13日	地域共同テクノセンター開所式並びに科学技術教育棟新築・一般教室棟・管理棟改修工事竣工式典挙行
2002	平成14年3月27日	物質工学科棟等改修・その他工事着工
	7月31日	物質工学科棟等改修・その他工事竣工
2003	平成15年5月15日	機械工学科棟・電気工学科棟・環境都市工学科棟・実習工場改修・その他工事着工
	10月20日	機械工学科棟・電気工学科棟・環境都市工学科棟・実習工場改修・工業技術実習センター新築・その他工事完成
	12月18日	校舎整備完了記念式典挙行
2004	平成16年4月1日	独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年法律第113号）の施行により、独立行政法人国立高等専門学校機構秋田工業高等専門学校となる 第十代校長に東北大学多元物質科学研究所教授 理学博士 島田 昌彦 就任 電気工学科を電気情報工学科に名称変更
	11月19日	創立40周年記念特別講演会開催（於　秋田県民会館）
2007	平成19年4月1日	事務部の3課を2課（総務課、学生課）に改組 技術教育支援センター発足
	5月14日	「創造工学システムプログラム」が日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受ける
2008	平成20年3月27日	高等専門学校機関別認証評価において、認証評価基準を満たしていると認定される
2009	平成21年4月1日	第十一代校長に東北大学大学院工学研究科教授工学博士　山田　宗慶 就任
2013	平成25年8月20日	第48回全国高等専門学校体育大会開催（本校主管）
	～21日	
	9月1日	
2014	平成26年9月24日	創立50周年記念特別講演会開催（於　秋田県民会館）

３．組 織 図


参与会
校　長
企画調整会議
総務委員会
専攻科総務委員会
教員会議
専攻科教員会議
各種委員会
副校長
兼）教務主事
教務主事補
校長補佐
兼）学生主事
学生主事補
校長補佐
兼）寮務主事
寮務主事補
校長補佐
兼）専攻科長
生産システム工学専攻長
環境システム工学専攻長
校長補佐
兼）地域共同テクノセンター長
機械工学科長
実習工場主任
電気情報工学科長
物質工学科長
環境都市工学科長
一般教科長
（人文科学系）
一般教科長
（自然科学系）
図書館長
図書館長補
情報処理センター長
工業技術実習センター長
学生相談室長
事務部長
総務課長
課長補佐
（総務担当）
総務係長
人事係長
学術情報係長
課長補佐
（財務担当）
財務係長
調達係長
施設係長
企画室長
兼）総務課長補佐
（総務担当）
企画係
学生課長
課長補佐
学生支援係長
教務係長
寮務係長
技術教育支援センター長
技術長
副技術長
第一技術班
第二技術班
第三技術班

項目ごとの自己評価

項目１　教育理念・目標等

（1）観点ごとの分析

観点１－１　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第 115 条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校では学校の目的として，①使命，②基本方針，③養成しようとしている人材像（準学士課程および専攻科課程），④達成しようとしている基本的な成果（準学士課程および専攻科課程）を以下に明文化して定めている。

①使命

「創造・誠実・責任」と「健康・研究・協働」を校訓として準学士課程および専攻科課程の使命を定めている。

②基本方針

教育に関する基本方針は，「自立・挑戦・創造」を教育理念に，教養教育・専門教育・専攻科複合教育および卒業・特別研究をとおして地域貢献・地球環境の共生に寄与し，異分野融合に必要な総合力や創造力豊かな人材育成を目指している。

③養成しようとしている人材像

準学士課程と専攻科課程にそれぞれ養成しようとする人材像を定めている。準学士課程では基盤技術を修得し，自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者，専攻科課程では，より専門分野に精通するとともにプレゼンテーション能力を身に付け，国際分野で活躍できる技術者を養成しようとしている。

④達成しようとしている基本的な成果

準学士課程と専攻科課程にそれぞれ達成しようとしている成果を定めている。準学士課程では教養教育を本科１年～３年，専門教育を本科４年～５年にそれぞれ実施し，基本的な成果を決めている。専攻科課程では準学士課程の教育を基盤として，技術者倫理を理解した創造力豊かな技術者となるための基本的な成果を決めている。

以上の内容は，学校要覧等に記載されている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的として，使命，基本方針，養成しようとしている人材像が，準学士課程および専攻科課程ごとに明確に策定されている。さらにこれらの課程ごとに達成しようとしている基本的な成果の内容についてもそれぞれ定めている。

以上のことから，本校は目的を明確に定めており，学校教育法第 115 条に定められた規定に沿っていると判断される。

観点１－２　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的を記載した学校要覧，学生便覧，授業計画（準学士および専攻科課程）などを配布して周知を図っている。全学生に対しては始業式当日に学生便覧，シラバスを配布するとともに，新入生には合宿研修を実施し，オリエンテーションをとおして本校の目的等について説明している。また，新任教員に対

しては，４月に研修会を実施し本校の目的等についてガイダンスを行っている。さらに本校のホームページにも目的を掲載し，学生および教職員が常に閲覧できるようにしている。本校の目的について，学生および教職員の周知状況を把握するため，アンケート調査を実施した（資料１－２－①，②）。学生および教職員の周知状況に関するアンケート調査の結果を資料１－２－③～⑧に示す。この結果，全体的に非常勤を含めた教職員の周知はおおむね良好であるが，学生に対しては継続した周知が必要である。

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的を記載した印刷物を学校構成員（教職員・学生）に配布し周知している。さらにホームページへの掲載もしており，目的を学校構成員に周知している。また周知状況を検証するために，構成員を対象とするアンケート調査を行った。その結果，明文化された目的があることを知っている割合は，準学士課程の学生では 49%，専攻科課程の学生では 51%，教員では 92%，非常勤講師では 88%，職員では 90%，非常勤職員では 91%であった。また内容の理解度を調べるために，教育の目標と教科の関係ついて質問したところ，ある程度以上分かる割合は，準学士課程の学生では 54%，専攻科課程の学生では 47%，教員では 87%，非常勤講師では 79%，職員では 61%，非常勤職員では 36%であった。この結果，全体的に非常勤を含めた教職員の周知はおおむね良好であるが，学生に対しては継続した周知が必要である。

以上のことから，今後も継続した周知活動が必要なものの，おおむね本校の目的が学校構成員に把握されている。

観点１－３　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的を記載した学校要覧，学生便覧は，関係団体などに配布している。また，本校の目的はホームページにより広く一般に公表している。さらに，就職先企業へのアンケート調査時点で，学校の目的を記載した印刷物を同封し，広く公表する努力を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的を記載した資料は，県内の中学校，工業高校さらに関係団体に配布し，公表している。またホームページにも目的を掲載し，公表されている。以上のことから，本校の目的は社会に広く公表していると判断される。

観点１－４　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の教育の目的において，準学士課程の使命は「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」であり，基本方針は「自立・挑戦・創造」を教育理念に，「地域を含む世界の産業界発展に貢献し，かつ，地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成すること」，「教養および専門知識・技術の修得に加え，自立した人間形成を基本に，新しいことへ挑戦する心，異分野の融合に必要な協調性と総合力，および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成」を目指している。

本校は機械工学科，電気情報工学科，物質工学科，環境都市工学科の４学科により構成され，各学科の人材の養成に関する目的は学則に定められている。学科の構成は社会の基盤を形成する基本となる専門分野から成り立っており，「地域を含む世界の産業界発展に貢献し，かつ，地球環境の共生・創成に寄与する人材」の育成が十分に可能な構成となっている。各学科の目的は先に述べた本校の教育の目的に十分適合しており，各学科の教育内容は目的における達成しようとしている基本的な成果に具体的に示されている。

また，本校では学科の構成が社会のニーズや産業構造の変化に照らして適切なのか継続的に検討してきた。その結果として機械工学科以外の学科は改組および名称変更を行っている。物質工学科は，平成４年

に工業化学科から改組した。それまでの工業化学に代わり，材料化学，精密化学，環境科学，生物化学へと産業構造の変化に対応するためである。環境都市工学科は，平成５年に土木工学科から改組した。土木工学から，環境の保全や都市工学といった社会基盤に必要とされる分野の変化を取り入れるためである。電気情報工学科は発展の著しい情報関連技術へ対応するため，平成 16 年に電気工学科から名称変更した。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の使命である「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」，基本方針である「地域を含む世界の産業界発展に貢献し，かつ，地球環境の共生・創成に寄与する人材」に基づき，本校は機械工学科，電気情報工学科，物質工学科，環境都市工学科の４学科を設置している。学科の構成および目的は学校の目的を達成する上で適切なものとなっており，各学科は改組等を行うことで，社会ニーズの変化に対応した技術者教育に努めている。

以上のことから，本校の学科の構成は，教育の目的を達成する上で適切なものになっている。

観点１－５　専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

学生便覧等に示されている通り，専攻科課程では準学士課程を基に，「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し，すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。また，養成しようとしている人材像は「準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え，より専門分野に精通するとともにプレゼンテーション能力を身につけ，国際分野で活躍できる技術者を養成する。また，複数の領域をまとめる総合力，複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考，複合領域にも対応できる能力を備え，技術者倫理を理解し高度で実践的な知識と技術を備えた自己啓発型の創造性豊かな技術者」である。

本校の専攻科は生産システム工学専攻（８名），環境システム工学専攻（８名）の２専攻で構成している。創造性豊かな実践的技術者を育成するため，準学士課程から継続性を活かし，専門分野の融合・複合化も視野に入れた構成となっており，専攻科の構成は本校の教育の目的に合致している。また，各専攻の目的は先に述べた本校の教育の目的に十分適合しており，各専攻の教育内容は目的における達成しようとしている基本的な成果に具体的に示されている。これらの目的を達成するために，専攻科では特別研究が行われており，その成果は学会等でも発表されている。

さらに，４・５年と専攻科課程１・２年の４年間については，４学科２専攻を一体化した融合的教育プログラム「創造工学システムプログラム」を設定し，創造性豊かな実践的かつ力量のある技術者を育成することを推進している。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程の使命である「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し，すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」に基づき，本校は生産システム工学専攻，環境システム工学専攻の２専攻を専攻科に設置している。専攻科の構成および目的は学校の目的を達成する上で適切なものとなっており，準学士課程の教育を基礎にして，さらに高度な内容を教授している。

また，融合的教育プログラムである「創造工学システムプログラム」をとおして，創造性と力量のある実践的技術者を育成するために，学際分野の技術にも対応できる，融合性を兼ね備えた教育を行っている。

以上のことから，本校の専攻科の構成は，教育の目的を達成する上で適切なものになっている。

観点１－６　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本科及び専攻科課程のアドミッション・ポリシーは明確に定められ，募集要項等に記載されている。アドミッション・ポリシーおよび入学者選抜方針は，要点を箇条書きにし，かつ，平易な表現にし，中学生にも理解しやすくしている。

アドミッション・ポリシーはホームページで公表しているほか，入学者募集要項，編入学生募集要項，専攻科学生募集要項，学校要覧，学校案内（中学生の皆さんへ），学生便覧等の冊子にも記載している。教職員には，アドミッション・ポリシーを掲載した各募集要項，学校要覧，学校案内，学生便覧等の配布，中学校訪問をする教職員に対する説明会等により周知を図っている。

アドミッション・ポリシーの本校教職員への周知の状況を，アンケートにより確認した。その結果，常勤の教員の認識率は80％であり，その内65%以上が内容をほぼ理解していると回答し，非常勤講師での認識率は94％であり，その内65%以上が内容をほぼ理解していると回答している。また，常勤職員では認識率は70％であり，その内45%が内容をほぼ理解しているといえる。これらの結果より教職員の約８割が「分かる」と回答していることから，周知されている（資料１－６－①）。

準学士課程への入学者選抜

アドミッション・ポリシーは，入学者募集要項，編入学生募集要項，学校要覧，学校案内（中学生の皆さんへ），そして本校ホームページへの掲載により，広く社会に公表している。入学者募集要項，学校要覧，学校案内は秋田県内の全中学校に，編入学生募集要項は秋田県内の全高等学校に配布している。また，本校教員が関わる小中学生向けのイベントにて学校案内を配布するなど，特に将来の学生に対するアドミッション・ポリシーの周知に努めている。特に，県内中学校２，３年生全員にアドミッション・ポリシー等が記載されたリーフレット等を配布している。

秋田県内の中学校に対しては，中学校訪問による学校紹介ならびに中学校主催の学校説明会における学校紹介を行っている。中学校訪問では，校長ならびに全教員が中学校を訪問し，高専の教育システムの特色をはじめ，学校生活，編入学制度，卒業後の進路，学生寮などの説明を行うとともに，入学者に求める学生像および入学者選抜方法等の周知を行っている。平成25年度は，延べ104校の中学校への訪問を実施した（資料１－６－②）。また，中学校主催の学校説明会では，生徒ならびに保護者に対して学校紹介を行うとともに，アドミッション・ポリシーの周知を行っている。平成25年度は，８校の中学校にて学校紹介を行った（資料１－６－③）。

さらに，中学校の生徒，保護者，教員に向けた本校主催の進学説明会ならびに学校説明会を毎年９～11月に，本校ならびに秋田市内，横手市内，そして大館市内で開催し，学校紹介を行うとともにアドミッション・ポリシーの周知を行っている。本校で開催する中学校教員を対象とした学校説明会では，中学校の進路指導の教員に対して高専の教育システムの特色，学校生活などの説明，本校の教育研究設備の見学会を行った後，意見交換会を実施している。平成25年度は県内30校の中学校から参加があった（資料１－６－④）。また，中学校の生徒およびその保護者を対象とした進学説明会は，秋田市内だけでなく県南の横手市内，県北の大館市内で開催しており，平成25年度は３会場合計で45名の参加があった（資料１－６－⑤）。

それ以外に，９～10月に中学校の生徒およびその保護者に向けたキャンパスツアーならびに一日体験入学を開催し，本校の教育研究施設および実験・実習設備を見学，体験してもらうとともにアドミッション・ポリシーの説明を行っている。キャンパスツアーでは，平成25年度は25校の中学校から41名の参加があった（資料１－６－⑥）。また，１日体験入学では，生徒の付き添いとして中学校教員，保護者も参加していることから，進学相談コーナーを設け，進学・入学試験に関する相談を行っている。平成25年度は，生

徒173名，中学校教員１名，保護者100名，合計274名の参加があった（資料１－６－⑦）。
また，秋田県内の高等学校に対しては，高等学校主催の学校説明会において学校紹介を行っている。平成25年度は，１校の高等学校にて学校紹介ならびに入学者に求める学生像および入学者選抜方法等の周知を行った。
その他，本校と連携協定を結んでいる秋田銀行の全支店に学校案内パンフレット等を配置し，教育活動の周知をしている。

専攻科課程への入学者選抜
アドミッション・ポリシーは，専攻科学生募集要項，学校要覧，学校案内（中学生の皆さんへ），そして本校ホームページへの掲載により，広く社会に公表している。

（分析結果とその根拠理由）
本校では，準学士課程（第１学年入学生，第４学年編入学生）および専攻科課程のアドミッション・ポリシーを明確に定め，各募集要項，学校要覧，学校案内，学生便覧ならびに本校ホームページにて公開している。教職員には，各募集要項等の配布などにより周知しており，教職員へのアンケート調査結果から概ね周知されていることを確認している。
アドミッション・ポリシーおよび入学者選抜方針は，要点を箇条書きにし，かつ，平易な表現にし，中学生にも理解しやすくしている。また，中学校および工業高等学校への募集要項・学校案内等の配布，直接中学校を訪問しての説明，進学説明会，学校説明会，キャンパスツアー，一日体験入学等での周知を通じて，将来の学生を含めた社会に理解されやすい形で広く公表している。
以上のことから，教育の目的に沿ってアドミッション・ポリシーを明確に定め，学校の教職員に周知している。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形でわかりやすく公表している。

観点１－７　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）
本校の準学士課程の使命は「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力の育成」であり，養成しようとしている人材像は「実践的かつ専門的な知識と技術を有する実践的技術者」である。この目的のために，機械工学科・電気情報工学科・物質工学科・環境都市工学科を設置している。各学科に応じた内容を，中学校卒業後５年一貫教育で学ぶ。中学校卒業生を対象にすることから，工学の専門分野に段階的に慣れるような教育体系としている。授業計画に示すように，低学年では一般科目を多くし，徐々に専門科目を多く配置している。一般科目は工学共通の基礎科目や教養科目で，すべての学科で同一の学修を行う。
本校の目的（達成しようとする基本的な成果）のうち，「（A）自らの意思を的確に表現し行動できる能力，知識を整理し総合化できる能力，技術者倫理等，人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する」に沿って，「特別活動」を本科１年から３年までに90単位時間配置し，人間としての豊かな素養の育成に資している。また，技術者としての教養，かつ技術者としての社会的責任を自覚できるように，第４学年と第５学年に人文科学系の必修，選択科目を設定している。
本校の目的（達成しようとする基本的な成果）のうち，「（B）工学基礎としての自然科学系科目を理解する」に沿って，自然科学系の数学，物理，化学，生物に関しては，本科１年から５年まで必修，選択科目が設定されており，低学年では基礎的な内容を身につけさせ，高学年では専門的な内容を身につけさせるよう科目を構成している。
本校の目的（達成しようとする基本的な成果）のうち，「（C）世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力，互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する」に沿って，英語教育に関し

ては，低学年に基礎的授業を中心とした授業科目を配置し，高学年になるにつれて専門性を高めた授業や会話力の育成を図るよう科目を構成している。

本校の目的（達成しようとする基本的な成果）のうち，「（D）実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する」，「（E）教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし，現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する」，「（F）問題・課題解決のための方法・手段を模索し，実行できる能力を身につける」に沿って，専門科目では各学科とも学年の進行に伴って，基礎的な科目から専門的な科目へと段階的に配置されると同時に，実験・実習科目が適切に配置されている。さらに，本科４～５年においては学修単位科目を設定し，自学自習の時間を設けて，自分で考え行動する実践的な技術者の育成に取り組んでいる。

授業内容は，学校の目的に沿うとともに，社会の要求する水準を考慮し決めている。毎年すべて授業計画を更新することにより，授業内容の見直しを図っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的，特に「達成しようとする基本的な成果」に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程の体系性を確保している。一般科目を低学年に多く配置し，徐々に専門科目を多くすることで，工学の専門分野に段階的に慣れるような教育体系としている。

「専門基礎学力の修得」，「現象・動作を理解できる能力の修得」，「問題・課題解決のための方法・手段を模索し，実行できる能力を身につける」に沿って，専門科目では，各学科とも学年の進行に伴って，基礎的な科目から専門的な科目へと段階的に配置している。実験・実習科目も学修の段階に応じて適切に配置している。

授業内容は，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。授業内容は，学校の目的に沿うとともに，社会の要求する水準を考慮し決めている。毎年すべて授業計画を更新することにより，授業内容の見直しを図っている。

以上のことから，教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されており，また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点１－８　専攻科課程では，教育の目的に照らして授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程の授業科目は，授業計画に示す通り効率のよい形で修得できるカリキュラム編成となっており，授業科目は適切に配置されている。

本校専攻科課程の目的（達成しようとしている基本的な成果）は次の３つの能力を身に付けることである。

（１） 問題を発見・解決する能力：自ら問題を発見・解決する能力を備え，生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。

（２） プレゼンテーション能力：産業社会におけるグローバル化に対応するため，正しい日本語で表現（記述，口述，討論）し，国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。

（３） 複合領域に対応できる能力：複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し，複合領域にも対応できる能力を修得する。

「（１）問題を発見・解決する能力」を達成するために，専攻科では特別研究，特別実験，創造工学演習の科目を設定している。特別研究は，多くの場合，本科５年の卒業研究から継続して行うことが可能である。特に専攻科２年では，特別研究に集中できるカリキュラムとなっており，後期は，特別研究の総点

検に時間を確保できる編成となっている。特別実験では，各専攻とも互いに本科と異なる分野の実験（例えば機械工学科出身の学生は電気情報工学科の実験）を経験し，広い分野の知識を修得するとともに，未知の問題に関しても解決できる能力を養うことができる。創造工学演習では，異なる出身学科の学生がメンバーとなるグループ構成（例えば機械工学科と電気情報工学科）として，自らの考えを実現するために協力しながら問題を解決する能力の育成を目指している。

「（2）プレゼンテーション能力」を達成するために，専攻科では国語系科目（日本文化論），社会系科目（社会経済史，事業経営論），英語系科目（応用英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）を設定している。コミュニケーション能力育成のために，準学士課程から継続して，国語系科目では正しい日本語の表現，社会系科目では多様な文化や価値観の理解を目指している。特に，今後ますます可能性があるグローバル化に適応できる技術者を育成するため，準学士課程から専攻科まで英語系科目は継続して配置している。専攻科では応用英語Ⅰ，Ⅱを必修科目として，TOEIC 400 点相当の達成を目指している。

「（3）複合領域に対応できる能力」を達成するために，両専攻共通の必修科目として，一般科目の応用数学，環境科学，専門共通科目の熱・統計力学，システム情報工学，応用力学を配置している。応用数学は，準学士課程の工学基礎となる大学工学部レベルの数学からさらに発展した内容とし，環境科学は，広い工学分野に共通して必要となる科目として配置した。また，統計，情報，力学をキーワードに複合領域にも適応できる科目を専門共通科目として配置したほか，各専攻の専門選択科目では，２年間にほぼ平均して配置し，専攻科ごとに半数以上は両出身学科に共通した科目となっている。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程では，準学士課程の教育を基盤とし，教育の目的に照らして，体系的かつ効率的なカリキュラムを編成しており，本校の教育目的を達成するために適切な授業内容となっている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

特になし。

（改善を要する点）

特になし。

（３）項目１の自己評価の概要

本校の教育理念や目標は，「使命」，「基本方針」，「達成しようとしている人材像」などとして，学則に明確に定められており，この内容は，本校創立当時から，学校教育法に規定された目的に適合するものである。また，学科，及び専攻科ごとの目的も詳細かつ明確に定められている。これらの目的は学内の教職員や学生に周知されているのみならず，学外にもホームページや入試，広報関係等の多様な機会を通じて，広く社会に公表されている。学校の目的に照らして，準学士課程及び専攻科課程共に適切な教育課程が編成されている。

項目２　教育活動

（１）観点ごとの分析

観点２－１　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の入学者選抜では，準学士課程１年への入学者選抜および専攻科課程の入学者選抜を学力選抜と推薦選抜で，準学士課程４年への編入学生選抜を学力選抜で行っている。全ての入学者選抜は，入学者選抜委員会ならびに専攻科選抜委員会などが中心となって実施している。いずれの選抜方法においても本校の合格者判定方針に従って合否の判定を行い，調査書，面接などによりアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを図っている。

ただし，本校のアドミッション・ポリシーには求める人物像は記載されているものの，入学者受け入れ方針は明記されていないため，早急な対応が求められる。

準学士課程１年への入学者選抜

準学士課程１年への入学者選抜は，入学者選抜の合格者判定方針に基づき，推薦選抜と学力選抜で行っている。

推薦選抜は，面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行うなど，調査書，在籍学校長が作成した推薦書および本校が実施する作文，面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を募集定員の 50%程度選抜している。本校の合格者判定方針は，調査書の成績（内申点）に対して評価順位付けを行い，さらに推薦書・作文・面接の評価点の結果を総合して，入学者選抜委員会に諮り，校長が合否を決定している。

学力選抜は，面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行うなど，国立高等専門学校の共通試験，調査書および本校が実施する面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している。本校の合格者判定方針は，共通試験による英語・数学・国語・理科の学力点と調査書の成績（内申点），面接の評価点の結果から，入学者選抜委員会に諮り，校長が合否を決定している。なお，採点方法は高等専門学校機構の定めた手順により行っている。

準学士課程４年への入学者選抜

準学士課程４年への入学者選抜は，面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行うなど，学力試験，調査書の成績（内申点）および本校が実施する面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している。学力検査は，数学，英語，各学科の専門科目の３教科で実施している。また，物質工学科においては，普通高等学校の生徒も編入学の対象としており，「数学，英語，専門科目」または「数学，英語，理科（物理・化学）」のいずれかを選択できるようにしている。学力検査の成績，調査書の成績（内申点），面接の評価点の結果から，入学者選抜委員会に諮り，校長が合否を決定している。

専攻科課程の入学者選抜

専攻科課程への入学者選抜は，推薦選抜と学力選抜，社会人特別選抜を実施している。

推薦選抜は，調査書，本校以外の在籍者は在籍学校長が作成した推薦書あるいは本校の在籍者は学科長が作成した推薦書および本校が実施する口頭試問と面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している。学力選抜は，面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行うなど，学力検査，調査書および本校が実施する面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している。

社会人特別選抜は，調査書，所属の長が作成した推薦書および本校が実施する口頭試問と面接により，アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している。これらの結果から，専攻科入学者選抜委員会に諮り，校長が合否を決定している。

（分析結果とその根拠理由）

入学者選抜は，入学者選抜委員会ならびに専攻科入学者選抜委員会などが中心となって適切に実施しており，いずれの選抜方法においても本校の合格者判定方針（入学者受入方針）に従って合否の判定を行い，調査書，面接などによりアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを図っている。

ただし，本校のアドミッション・ポリシーには求める人物像は記載されているものの，入学者受け入れ方針は明記されていないため，早急な対応が求められる。

観点２－２　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れと改善は，入学者選抜委員会ならびに専攻科入学者選抜委員会が行っている。入学者選抜委員会では，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているか検証するため，入学者選抜方法の見直しを継続して取り組んでいる。

準学士課程では，推薦入学者の追跡調査を行い，本科２年から５年までの４学年において，推薦選抜により入学してきた学生は，学力選抜により入学してきた学生より，留年率が低い状況であった。この検証結果を踏まえて，平成 20 年度からは推薦選抜の枠数を募集人員の 40%から 50%程度とし，さらに平成 21 年度からは各中学校への推薦枠提示の廃止などについて改善を行った（資料２－２－①）。また，学力選抜における面接について検証しており，平成 24 年度から面接の評価方法の改善を行った（資料２－２－②）。さらに，推薦基準の見直しの検討，推薦選抜と学力選抜に加えて体験型入試方式の導入の検討を行うなど，改善に取り組んでいる（資料２－２－③）。

専攻科課程では，学校長推薦による選抜における推薦基準の見直しおよび学力検査による選抜における TOEIC スコアによる英語科目の試験免除について検討を行うなど，改善に取り組んでいる（資料２－２－④）。

（分析結果とその根拠理由）

これまで準学士課程推薦入試では，各中学校への推薦枠提示の廃止などについて改善を重ね，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを図っている。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているかどうかについては，推薦入学者の追跡調査を行い検証しており，入学者選抜の改善に役立てている。

観点２－３　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では，過去５年間に実入学者数が，各学科の定員 40 名に対して最大５人上回り，定員の約 1.1 倍となった年度があるが，下回ったことはない（資料２－３－①）。入学者選抜委員会では，入学者選抜試験実施後，受験者数と倍率などを集計し，入学定員と合格者数などの分析を継続的に行っている。合格者で入学辞退する者は例年ほとんどいない。

専攻科課程では，過去５年間に実入学者が，定員 16 名に対して 29 名，29 名，28 名，22 名，20 名となっており，定員の約 1.8 倍となった年度があるものの，下回る状況にはなっていない。入学定員をオーバーしても，専攻科担当教員が指導できる状況にあり問題はない。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程，専攻科課程どちらも実入学者数が，入学定員を大幅に超える，または下回る状況にはなっていない。準学士課程では，過去５年間に実入学者数が定員の 1.1 倍となった年度があるが，定員を下回ったことはない。また，専攻科課程では，過去５年間に実入学者数が定員を超える状況であり，定員の 1.8 倍となった年度があるが，十分な教育指導体制をとっており，指導時間の確保ができている。

観点２－４　教育課程の編成または授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

本校では，学生の多様なニーズ，学術の発展動向等に対応すべく教育課程を編成している。中学校の教育内容の変更によって影響される数学の学力を補充するため，平成 17 年度入学生から，本科３年の微分積分学Ⅱを２単位から３単位に増やして基礎学力の不足分を補うことにし，これを継続している。

本科１年において，数学および英語の成績不振者や希望者を対象にそれぞれ週２時間の補習授業が前期と後期で行われている。また，高校からの編入生に対して，授業内容に不足が生じている数学に対して補習授業を行っている。さらに，留学生に対しては，日本語教育および専門基礎科目について補習授業を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

入学生の学力変動に対応するための数学の授業時間の増加，本科１年における数学および英語の成績不振者や希望者を対象にした補習授業，高校からの編入生に対する数学の補習授業，留学生に対する日本語教育および専門基礎科目について補習授業を行うなど，本校の教育課程は学生の多様なニーズ，学術の発展動向等に配慮した編成となっている。

観点２－５　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

教育の目的（達成しようとしている基本的な成果）に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態をバランス良く配置している（資料２－５－①）。一般科目，専門科目を問わず，教育内容によっては，講義科目であっても演習を取り入れるなどして，学生の理解を深める学習指導を行っている。専門科目における講義，演習，実験・実習の各授業形態別の単位数の配分において，演習，実験・実習は必要な量を確保している。実験・実習を通じて，講義で学んだ理論を修得できるようにしている。

「（B）工学基礎としての自然科学系科目を理解する」という目的に沿って，低学年では基礎的な内容を身につけさせ，高学年では専門的な内容を身につけさせるよう科目を構成している。教材の工夫については，本科１年から３年の低学年の数学では独自の問題集を作成し，それを利用して計算力をつける工夫をしている。

「（C）世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力，互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する」という目的に沿って，英語教育に関しては，基礎的内容から始まり，高学年では専門に関する英語の講義を行っている。また，会話力の育成を図るために，ＬＬ教室の設備を充実させ，ALC NetAcademy2 を利用した情報機器を取り入れた教育も行っている。

「（E）教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし，現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する」という目的に沿って，各専門学科では，本科１年にものづくり教育の一環として「工作実習」，「ものづくり工作実習」および「ものづくり実習」を導入している。

「（F）問題・課題解決のための方法・手段を模索し，実行できる能力を身につける」という目的に沿って，専門学科では，少人数授業として，本科４年から基礎研究，本科５年では卒業研究を行い，一人の教員が２～５人程度の学生を受け持って，コミュニケーション能力を高めるために，対話・討論型授業が頻繁に行われている。

基礎学力不足の学生に対する配慮としては，夏季休業と春季休業中に再試験期間を設けている。さらに，数学教員は本科１，２年で数学の基礎学力の定着を確認するためにこまめにチェックテストを実施している。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の達成しようとする基本的な成果に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態をバランス良く配置している。実験・実習を通じて，講義で学んだ理論について修得できるようにしている。教育内容によっては，講義科目であっても演習を取り入れるなどして，学生の理解を深める学習指導を行っている。教材の工夫，少人数授業，対話・討論型授業，情報機器を取り入れた教育，基礎学力不足の学生に配慮した教育も行われている。数学においては，独自の教材を作成しこれに基づいた教科指導を行うと同時に，本科１，２年で数学の基礎学力の定着を確認するためにこまめにチェックテストを実施している。

以上のことから，教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点２－６　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

科目ごとのシラバスを毎年作成している。シラバスには，達成目標と評価方法が明示され，学生が学習を進めるうえで必要な情報を載せている。シラバスは，年度の初めに全学生と全教員に配布されている。各教員は学期の初めの授業時に，シラバスを用いて学生に授業内容や学習方法についてのガイダンスを行っている。また，各教員は授業において，学生による授業進行状況の確認の際にシラバスを活用している。

シラバスの活用度については，学生による「授業アンケート」ならびに「学校の授業の諸制度と学習の達成度に関するアンケート」によって実態を把握している（資料２－６－①）。アンケート結果から，各項目とも90%程度の学生がシラバスを活用している状況にある。

高学年に導入している学修単位については，シラバスに明記するとともに，最初の授業のガイダンスで詳しく説明している。特に，自学自習時間と単位の関係を学生に理解させている。

（分析結果とその根拠理由）

教育課程表に沿って，科目ごとのシラバスを毎年作成し，全学生と全教員に配布している。シラバスの内容は，学生が学習を進めるうえで必要な情報をコンパクトにまとめている。学修単位についても，授業以外の学修の時間についてシラバスに明示している。シラバスは，各教員による授業ガイダンス，授業の進行状況の学生による確認などに活用している。学生のシラバス活用度については，アンケートから実態を把握し，良好な結果を得ている。

以上のことから，教育課程の編成の趣旨に沿い，適切なシラバスが作成され活用されている。

観点２－７　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

学生の創造性を育む取り組みの一環として，平成 18 年度より工作実習による「ものづくり教育」を，本科１年に取り入れている。各学科各学年で実施する実験・実習でも，自ら装置を作ることにより，創造性が発揮できるようにしている。たとえば，機械工学科では以前から，本科３年に工作実習等の基礎的技術，図面作製，部品加工を基に，学生自ら設計し製作する「創造設計製作」を設けている。物質工学科では，本科４年に精留塔を自らの判断で操作・運転し，アルコールの分離・精製をする「化学工学実験」を設けている。環境都市工学科では，本科３年の「意匠設計Ⅱ」において，学生に対して同一の敷地と設計条件の下で各自の小学校の計画案を製作させている。また，電気情報工学科では本科３年の実験実習において，学生一人一人が自らプログラムを作り，ワンチップマイコンを動作させる実験を行っている。また，Field Programmable Gate Array（FPGA；書き換え可能な論理回路）を電気情報工学科５年の「ＩＣ応用回路演習」において導入し，各学生に自主的に学習させている。

本校の教育で，もっとも学生の創造性を育んでいるのは本科５年の卒業研究である。学生は与えられた課題について，調査や議論を行いながら，計算や実験を進め，成果を出すことが求められる。そして，卒業論文や卒業研究発表により，課題を仕上げなくてはならない。この過程をとおして，教員は指示を行うが，学生自らの発想で課題解決に至るように配慮を行っている。

インターンシップについては，社会経験の大事さを説き，積極的に参加するよう指導しており，多くの学生が経験している。インターンシップ発表会はクラスおよび高専祭において実施されており，その後の学業や進路決定の助けになるようにしている。

（分析結果とその根拠理由）

ものづくりの重要性を認識した教育活動として，工作実習を本科１年の全学科に取り入れている。創造教育を育む教育は，創造設計製作，実験実習，基礎研究，卒業研究などにおいても行われている。インターンシップは多くの学生が参加しており，その後の学業や進路決定の助けになっている。

以上のことから，創造性を育む教育方法やインターンシップの活用が積極的に行われている。

観点２－８　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価方法，単位認定規定，進級規定，卒業認定規定は明確に定められている。その内容は，学生便覧およびシラバスに明記されており，いずれも毎年学生に配布し，周知している。

成績評価・単位認定や進級・卒業認定に関しては，学生に対するアンケートにより，周知の度合いの把握に努めている。平成 25 年度の調査の結果，本科５年で 78%以上，本科１～４年で 85%程度が理解していた（資料２－８－①）。

各科目の成績評価および単位認定は，全教員が出席する成績判定会議において，規定に基づいてなされ，それにより進級判定および卒業認定が行われている。平成 19 年度からは，成績評価の異議申し立てを受け付けるために，試験終了後に試験の解答と解説を行う授業時間を設けている。

（分析結果とその根拠理由）

成績評価方法，単位認定規定，進級認定規定，卒業認定規定は明確に定められており，学生便覧およびシラバスに明記され，学生に周知されている。これらの規定に従い，全教員が出席する成績判定会議にお

いて，成績評価や各認定が適切に実施されている。

観点２－９　教育の目的に照らして，専攻科の教育課程は準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程のカリキュラムは，本科からの連携を考慮に入れた編成となっており，準学士課程の専門科目からの発展および複合領域を考慮した内容となっている。また，基礎研究および卒業研究から専攻科課程の特別研究への連携・発展も考慮した教育課程となっている。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程では，一般科目（人文科学系，自然科学系），各専門分野をとおして，準学士課程のカリキュラム体系と連携し，それを発展させた教育課程となっている。また，研究活動に関しては，準学士課程の基礎研究，卒業研究から専攻科課程の特別研究まで，希望すれば３年以上継続して研究活動に取り組むことができ，より深い研究が可能である。

観点２－10　教育の目的に照らして，専攻科の教育課程では，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程の目的（達成しようとしている基本的な成果）ごとの講義，演習，実験・実習の開設単位内訳は，資料２－10－①に示すとおりである。目的（１）はその内容に照らして，演習，実験・実習形式，目的（２），（３）は講義形式が主となっている。しかし，分類は講義形式になっているものの，目的（２）に相当する応用英語は，授業は基本的に演習形式となっている。また，目的（３）に関しては，高度な専門的内容の修得や理論解析能力の向上のため，講義形式がほとんどであるが，演習形式である校外実習が含まれるほか，分類は講義であっても適宜演習を取り入れている科目も少なくない。応用英語Ⅱでは，情報機器（ALC Net Academy）を利用した演習を継続的に行い，TOEIC のスコアアップを指標にプレゼンテーション能力も含めた，実践的なコミュニケーション能力を育成している。創造工学演習では，準学士課程の学習の応用として，出身学科が異なるメンバーによる小グループで，問題解決のための対話・討論を実施しながら演習を行い，最終的に発表会を設定し，互いに批評する形式で行われている。この演習では，本校の校訓の中の「創造」，「協働」が最も顕著に育成される。

（分析結果とその根拠理由）

講義形式を基本とした授業においても，授業内容によっては，演習を多く取り入れ，その他の科目においても，適宜演習を織り交ぜ，バランスのとれた授業形態となっている。また，創造工学演習に見られるように，対話・討論形式の授業も取り入れ，創造，協働，自立を目指した教育内容となっている。

観点２－11　専攻科課程の教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

シラバスは，授業の目標，進め方，授業内容の他，到達目標，評価方法等が示され，学生にわかりやすく適切な情報提供ができるよう，毎年改善を重ねている。専門科目の到達目標は大学工学部相当を設定しており適切であり，評価方法も内容が適切である。授業担当教員がシラバスを作成し，第１回目の授業で

シラバスに基づいた授業内容，評価方法を学生に周知している。特に，評価方法では，試験結果，小テスト結果，レポートの評価割合を明確化している。半期ごとに行われる学生による授業アンケートでは，シラバスに関する項目があり，それを授業担当教員が各自分析し，次回の授業機会に対応するよう求められている。１単位の履修時間は授業時間外の学修等を合わせて45時間であることを明示し，「自学自習に係わる課題提出の一覧表」を提出させ，各担当教員が確認している（資料２－11－①）。

（分析結果とその根拠理由）

シラバスには，授業の目標，進め方，授業内容，達成目標，評価方法の他，事前に行う準備学習のために関連科目が記載されている。シラバスの活用に関しては，第１回目の授業で必ず学生に周知すると共に，授業アンケート結果に対応し，常に，授業内容の修正が繰り返され適切に整備されている。

観点２－12　専攻科課程において創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。

（観点に係る状況）

創造性を育む教育方法として，「創造工学演習」を導入している。各専攻の１年，２年に配置され，それぞれの専攻の特徴を考慮した内容を設定している。さらに，「特別研究」では準学士課程の卒業研究からの継続で研究を進める学生が大多数で，指導教員の適切なアドバイスを基に，研究計画，実施方法，まとめ方は各自が積極的に行っている。これは，豊かな創造性の育成と，自立した技術者の育成に大いに寄与している。

（分析結果とその根拠理由）

創造性を育む科目として創造工学演習，特別研究などが設定されており，創造性の育成と発展に活かされている。

観点２－13　教育の目的に照らして，専攻科課程では教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

本校の教養教育は，専攻科の目的のうち「（２）プレゼンテーション能力」を修得するために位置づけられている。社会系科目は産業社会におけるグローバル化に対応するため，国語系科目は正しい日本語表現のため，英語系科目は国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得するためであり，専攻科にふさわしい内容となっている。専攻科の研究室配属に関しては，適切な環境を提供できるよう学内規定を設け，１研究室同一学年原則２名までとし，また，密度の濃い指導が可能となるよう主指導教員１名の他，副指導教員２名の態勢で指導にあたっている。研究室配属は，学生の希望を第１とし，学内規定に沿う形で調整が行われ，配属される。専攻科の教育・研究指導は，指導教員の他，技術教育支援センターの技術職員の協力を得て行われ，学生は，専攻科１年末に実施される中間発表会，専攻科２年の年度末に行われる特別研究発表会において学内教職員の指導を受ける。さらに，学外の学会発表をできるだけ行うよう指導されており，学生の旅費を補助するなどの配慮をしている。なお，修了生の研究実績は，専攻科特別研究論文集に掲載されている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の教養教育は，専攻科の目的のうち「（２）プレゼンテーション能力」を修得するために位置づけられており，専攻科にふさわしい内容となっている。学生の特別研究の指導には，大学評価・学位授与機構の審査に合格している教員があたり，さらに副指導教員２名を配置することにより，適切な助言が得られ，研究の方向性の確認が随時行われている。

観点２－14　専攻科課程では成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価，単位認定規定や，修了認定は，専攻科授業計画および学生便覧に明記している。学生への周知は，授業計画，学生便覧の配付の他，専攻科１年生に対しては，入学式後，２年生に対しては始業式後に専攻科ガイダンスを実施し，全員に説明している。成績評価・単位認定や進級・卒業認定に関する規定の周知状況については，学生へのアンケートにより確認している（資料２－14－①）。１単位の履修時間が，授業時間以外の学修と合わせて 45 時間である授業科目については，シラバスに授業時間と自学自習時間として明記することにより学生に周知させている。その評価については，学生各人に「自学自習に係わる課題提出の一覧表」を提出させ，担当教員が確認している。成績評価に対する学生からの異議申立は，シラバスの授業内容に示すように，試験終了後に必ず時間を確保し，試験内容の説明と共に機会を設けている。追試，再試の評価方法に関しては，成績評価関連保管資料の中に，追試，再試の実施の記載も義務付け，その評価に関しては，教務事務ガイドに示し，統一している。

（分析結果とその根拠理由）

成績評価，単位認定および修了認定規定が組織として整備され，学生便覧およびシラバスにも掲載されており，学生には周知している。また，入学式および始業式の専攻科ガイダンスにおいて説明があり，授業ガイダンスにおいて各授業担当教員からシラバスに基づき説明がなされている。成績評価に関する学生の異議申立に関しては，試験終了後に試験の解説とともに機会が与えられている。成績評価・単位認定に関しては，規定に基づいて専攻科単位認定会議を経て適切に実施している。

観点２－15　高等専門学校として，その教育の目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，目的に沿って，学生が準学士課程卒業あるいは専攻科課程修了時に，身につける学力や資質・能力を明確に定め，それに対応した授業科目を設定している。本校のカリキュラムでは，準学士課程および専攻科課程ともに，各達成すべき目標ごとに，必修科目と選択科目がバランスよく配置されており，選択科目により偏る状況にはなっていない。すなわち，本校の準学士課程卒業要件，専攻科課程修了要件を満たせば，本校の目的を達成できるようになっている。

学生の達成度状況の把握・確認については，以下のプロセスにて行われる。

準学士課程

各学生の各科目における最初の達成度把握は，「各科目担当教員」が行う。その結果をもとに，各学生の達成状況は，学期末ごとに「各学科会議」において把握・評価が行われている。その後，「教員会議」において学内全体における把握・評価が行われている。

以上のプロセスを学年ごとに行い，最終的に卒業認定会議において卒業認定を行っている（資料２－15－①）。

専攻科課程

各学生の各科目における最初の達成度把握は，準学士課程同様「各科目担当教員」が行う。その結果をもとに，「専攻科教員会議」において学内全体における把握・評価が行われ，修了認定を行っている。また，

本科４年から専攻科の課程では，JABEE プログラムに認定されている。専攻科の修了要件ではないが JABEE プログラムの要件の確認は，カリキュラム検討専門部会で行い，達成状況の把握・確認を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，目的に沿った形で，学生が準学士課程卒業時および専攻科課程修了時に身につけるべき学力や資質・能力ごとに，その達成要件（準学士課程卒業要件および専攻科課程修了要件）を定めている。卒業時および修了時における学生の学力や資質・能力，養成する人材像等について，達成状況の把握・評価は，「学科会議」，「教員会議」および「専攻科教員会議」，さらに「カリキュラム検討専門部会」において適切に行われている。

観点２－16　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の留年者と退学者および全学生数に対する割合の，過去５年間の推移を示す（資料２－16－①）。両者の合計からは，年度によってばらつきが大きく，傾向はみられない。本科３年修了以上の者は，大学入学資格の一つである「通常の課程による 12 年の課程を修了した者」として大学受験資格が与えられることから，本科３，４年における退学者は進学・就職等の新たな目標に向かって進路変更していると考えられる。

専攻科における大学評価・学位授与機構による学士の取得者と専攻科修了者の関係では，専攻科設置後，生産システム工学専攻および環境システム工学専攻のいずれもほとんど全員が，専攻科修了と同時に学士の称号を取得している（資料２－16－②）。

また，後援会による資格試験の受験料補助を利用する学生が多くなっている。特に，英検および TOEIC 受験では，英語教員を中心として学校として取り組んでおり，一定の成果を上げている（資料２－16－③）。特に，準学士課程および専攻科課程とも，TOEIC を対象とした学習が効果を上げており，500 点以上のスコアをもつ成績優秀者が増加している（資料２－16－④）。また，専攻科では TOEIC スコアを具体的な成果の目標に入れており，修了生の英語力を保証するとともに，成績向上に努めている。

ロボコン，プロコン，デザコン，英語スピーチコンテストに積極的に参加しており，学生の資質・能力の向上に役立っている。また，航空宇宙研究会は全日本飛行ロボットコンテストにおいて，優勝を重ねている。エコレース部では，ソーラーカーおよびバイシクルの大会に参加し，優秀な成績を収めている。このほか，授業内容と関連して，秋田の住宅コンクールなどの秋田県内のコンペティションにも参加実績があり，優秀な成績を収めている（資料２－16－⑤）。

（分析結果とその根拠理由）

学生が卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力について，進級の状況，修了時の学士取得状況，卒業研究，特別研究の内容などから判断して，教育の成果や効果が上がっている。

観点２－17　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

過去３年間において，準学士課程卒業後はほぼ 100％の就職率を満たしている（資料２－17－①～③）。平成 23 年度１名，平成 24 年度２名，平成 25 年度２名の進路未決定者がいるが，率の観点から判断すると社会の要請する人材養成を満足していると考えられる。

同様に過去３年間において，準学士課程卒業後専攻科・専門学校等への進学もしくは大学編入学する学生は，平成23年度52名，平成24年度47名，平成25年度46名と推移し，入学時定員160名を考慮すると，その30%ほどがさらに高度な教育を受けようと志願しており，本校は学生に対しより高度な学習に対する意欲を喚起していると考えられる。

専攻科課程においても，準学士課程同様にその修了後はほぼ 100%の就職率を満たしている（資料２－17－①～③）。

過去３年間における全卒業生および全修了生に対する就職者・進学者・進路未決定者等の割合は，準学士課程では就職者・進学者の割合が概ね７対３となっており，本校の準学士課程卒業生は，即戦力として企業（社会）に求められている。なお，進路未決定者はほとんどいない。

卒業生，修了生のほとんどは専門性を活かした就職先，進学先に進んでいることから，教育の成果は上がっている。

（分析結果とその根拠理由）

教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断すると，卒業生，修了生は，各学科および各専攻の特徴を活かした就職先あるいは進学先を選択しており，本校の教育の成果や効果が上がっている。

観点２－18　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本科５年，専攻科１年に対し達成度評価を行った（資料２－18－①，②）。

本科５年では，学校の目的にある基本的な成果（A）～（F）および「学科ごとの成果」の７項目について，アンケートにより５段階評価で行った。成果（C）を除く項目において，３以上の評価をした学生の割合は80%以上であり，おおむね学校の意図する教育の成果は上がっている。

専攻科２年では，成果（１）～（３）および「専攻ごとの成果」の４項目について達成度評価を行った。全ての項目において，３以上の評価をした学生の割合は90%程度であり，学校の意図する教育の成果は上がっている。

平成25年度後期から，本科４年，専攻科１年に対して「学習達成度記録簿」を導入した。卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力について学生自身が評価した結果に基づいて教育の成果や効果が上がっているか把握するよう努めている（資料２－18－③，④）。

（分析結果とその根拠理由）

本科５年および専攻科１年の学生に対して，学校の目的にある基本的な成果について，アンケートによる達成度評価を行った。アンケート結果から，学校の意図する教育の成果は上がっており，特に専攻科課程の学生による達成度評価は良好であった。

以上のことから，教育の成果や効果が上がっている。

観点２－19　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成 23 年度準学士課程卒業生および専攻科課程修了生の進路先関係者ならびに卒業生，修了生に，学校の目的に対する達成度について，アンケート調査を行った。

準学士課程卒業生の進路先関係者ならびに卒業生について，達成度評価は，学校の目的にある基本的な成果（A）～（F）および「学科ごとの成果」の７項目について，アンケートにより５段階評価で行った。各項目とも３以上の評価の割合は，進路先関係者による評価では 90%台となり（資料２－19－①），卒業生の評価では 90%台を中心に，いずれの項目でも約 80%以上となったが，基本的な成果（C）「コミュニケーション能力」のみが 70%弱であった（資料２－19－②）。

同様に，専攻科課程修了生の進路先関係者ならびに修了生に対し，基本的な成果（１）～（３）および「専攻ごとの成果」の４項目について，アンケート調査を行った。各項目とも３以上の評価の割合は，進路先関係者による評価では，３項目で 100%であり，他の１項目でも 90%であった（資料２－19－③），修了生の評価でも，３項目で 100%，他の１項目でも 90%となった（資料２－19－④）。

（分析結果とその根拠理由）

平成 23 年度準学士課程卒業生および専攻科課程修了生の進路先関係者ならびに卒業生，修了生に，学校の目的に対する達成度について，アンケート調査を行った。アンケート調査結果から，卒業（修了）生や進路先関係者からの評価は良好であり，教育の成果は上がっている。

観点２－20　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

本科では，年度始めに全ての学年において，学級担任から学習上の留意事項が，１年間のスケジュールとともに説明されている。この際，学生便覧，授業計画が活用され，各学科の履修要領，本校の目的，自学自習などの学習支援についてオリエンテーションが行われている。また，本科４年から成績の合格点が 50 点から 60 点に変更になるため，それも関連した履修に関するガイダンスを実施している。加えて，本科１年では「新入生合宿研修」において，教務主事，学生主事，学生相談室長による説明と，情報処理センター長による情報モラルに関する講演を行い，本校に戻った後に，施設見学を行う。

専攻科では，専攻科１年と２年の年度始めにそれぞれガイダンスが行われており，学習を進めるための解説を行っている。

全教員がオフィスアワーを週１回，各１時間ずつ設定し，かつ教務係で集約した資料を各教室に掲示している。また，このオフィスアワーに限らず随時学生の学習の相談を受け，助言を行っている。オフィスアワーに関するアンケートを実施した（資料２－20－①）。アンケートの集計結果より，大部分の学生が，オフィスアワーの制度を理解していることが分かった。オフィスアワーの制度の利用に関しては，オフィスアワーを実際に利用する学生は，半数程度に留まっている。一方で，オフィスアワー以外に質問をする学生は，80～90%になっており，オフィスアワー以外の時間も含めると，大部分の学生が教員に質問・相談をしたことがある。

（分析結果とその根拠理由）

本科においては，学習を進めるために，担任から単位認定，成績評価，進級・卒業要件や本校の目的，自学自習などの学習支援などが説明されている。また，全教員がオフィスアワーを週１回，各１時間ずつ設定し，学生の学習の相談を受け，助言を行っている。アンケートの集計結果より，オフィスアワーやその他の時間帯に，教員に質問・相談をする学生は 80～90%であり，大部分の学生が積極的に利用していることが分かった。

以上のことから，学習を進めるためのガイダンスおよび，学生の学習相談・助言の体制が整備され，機能している。

観点２－21　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受

講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

本校ホームページに「校長への提案箱」を設け，学生のニーズの把握に努めている。また，学校の制度に関するアンケートの自由記述欄に学習支援等に関する項目を設けて，ニーズの把握に努めている。

資格試験や検定試験に対しては，単位認定する制度が整備されており，近年この単位認定者が増加している（資料２－21－①）。また，資格試験や検定試験受験者には，後援会から受験費用に対して補助が実施されている（資料２－21－②）。図書館には資格試験コーナーが設けられており，図書貸出回数ランキング上位 10 冊のほとんどが，資格試験に関するもので占められるなど活用されている。さらに，技術職員による電気工事士などの資格取得支援も行っている。

平成 20 年６月に本校が海外の高等教育機関と初めて交流協定を締結したことを受け，短期留学生の派遣と受け入れを円滑に実施するために，平成 22 年５月に「国際交流室」が設置された。ＴＯＥＩＣのスコアが所定の点数以上の学生を対象に，本科生は海外インターンシップ，専攻科生は短期留学へと派遣している。海外派遣に際して，現地での生活や勉学に支障がないようにすべく，英語をはじめとして各種言語の補講を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

ホームページに「校長への提案箱」を設けるとともに，アンケートの自由記述欄に学習支援等に関する項目を設けて，ニーズを汲み上げている。

資格試験や検定試験を単位化する制度が整備され，受験者に対して財政的な補助も実施し，社会情勢の変化に応じて見直しも行っている。図書館の資格試験コーナーの設置等，受験しやすい状況を作っており，学生も高い関心を持ち，それらを有効利用している。

国際交流室を設置し，学生の海外派遣を円滑にこなすための組織作りを行っている。現地での生活や勉学を支障なくこなすための語学補講を実施しており，外国留学を円滑に進めるための支援体制が整備されている。

観点２－22　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

外国人留学生の学習支援・生活支援等のためにチューター制度を設け，寮生をもって充てることで，寮生活も円滑に過ごせるよう配慮している。また，留学生の支援教育として，「日本語教育」および各学科専門基礎の科目を行っている。学生寮においても外国人留学生の生活をサポートしており，寮内の一部を外国人留学生フロアとして使用し，留学生専用のシャワー室および補食室などを完備している。留学生の要望を調査し，設備の変更や書類等の一部英文化を試みている。

発達障害の学生の支援については，学級担任，教科担当の教員，学科教員が情報共有し，密なコミュニケーションを取ることで，速やかに支援を行うことができる。平成 24 年度に発達障害学生に対する特別修学支援要項を整備し，学習障害，発達障害の学生に対する生活支援も併せて行っている。また，厚生補導研究協議会を開催し，メンタルヘルスに関する諸問題や発達障害の学生への支援について，専門家の講演を聴講し，学生指導の質を上げる機会を設けている。

本科４年への編入生には，編入学前に説明会を行い，英語，数学について学習指導を行っている。さらに，編入学後は数学の補習授業を開講している。また，本科１年では，入学後に英語・数学の成績不振者を対象に補習授業を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

外国人留学生の学習支援・生活支援等のためにチューター制度を設け，支援教育として，「日本語教育」および各学科専門基礎の科目を開講している。

学習障害，発達障害の学生に対する学習支援の取り組みとして平成 24 年度に発達障害学生に対する特別修学支援要項を整備し，機能している。

本科４年への編入生には，編入学前に説明会を行い，英語，数学について学習指導を行っている。さらに，編入学後は数学の補習授業を開講している。また，本科１年では，入学後に英語・数学の成績不振者を対象に補習授業を行っている。

以上のことから，特別な支援が必要な学生に対する学習支援体制が整備され，機能している。

観点２－23　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の生活面をサポートするために，全学年に学級担任を配置している。専攻科では，専攻長，特別研究指導教員が主にこの役割を担う。このほか，多様化する学生の悩みに対応するために，学生相談室を設置している。学生相談室は，相談室長や相談室員，およびカウンセラーにより構成されており，教室や掲示板にポスターを掲載するなど，学生が利用しやすいように周知している（資料２－23－①）。ハラスメントへの対応については，相談員を設置して相談の窓口になるとともに，ハラスメント防止対策委員会を設置して，防止に努めている。

学生の授業料など経済面に関しては，入学料・授業料免除制度や各種奨学金制度（日本学生支援機構・自治体等）により支援を行っている。学級担任から学生にはこれらの制度の周知，助言を行い，入学料・授業料の減免，奨学金の貸与等に関しては，学生委員会において調整，決定している（資料２－23－②）。また，本科１～３年は授業料について，平成 22 年度から高等学校等就学支援金制度により，公立高校生が負担軽減される額と同額の支援金が支給されている。さらに，本校独自の制度として，秋田高専学修奨励金制度や，秋田高専学資貸与制度が設けられている（資料２－23－③）。

（分析結果とその根拠理由）

学生の生活面をサポートするために，全学年に学級担任を配置しており，専攻科では専攻長，特別研究指導教員が主にこの役割を担う。このほか，多様化する学生の悩みに対応するために，学生相談室を設置し活用されている。ハラスメントへの対応については，相談員を配置して相談の窓口になるとともに，防止に努めている。学生の授業料など経済面に関しては，入学料・授業料免除制度や各種奨学金制度により支援を行っている。

以上のことから，学生の生活や経済面に関わるサポート体制が整備され，機能している。

観点２－24　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の学生に対する進路指導に関しては，主に本科５年の学級担任が窓口となり，各学科主任と連携しながら対応している。専攻科課程の学生に対しては，主に各専攻長が窓口となり，特別研究担当教員と連携して対応しており，いずれの課程も学生課事務職員の協力を得て進めている。

進路指導の一環として，本科４年には，就職講演会と保護者進路相談会を行っている。就職講演会は 10 月に行い，学生の就職，進学に対する興味と意欲の喚起に努めている。なお，就職講演会は専攻科１年も対象としている。11 月に行われる保護者進路相談会では，学生，保護者，学級担任の間で進路に関する共通認識をもってもらい，希望や状況について相談して，進路情報を共有できるよう配慮している。専攻科１年には，１月下旬～２月上旬に進路相談週間を設け，学生，保護者，指導教員の間で進路に関する相談を

行う。また，最先端の研究開発に従事している研究者や技術者を招いて，実体験も踏まえて研究開発の醍醐味や苦労を講演して頂く，最先端技術講演会を開催し，学生が進路を決定する上で助けになるような機会を設けている。

就職・進学のための資料は，学生課前の進路コーナーや各学科のコミュニティホールにおいて閲覧でき，過年度の本校の就職，進学の情報については学校のホームページで閲覧できるほか，学校だよりにも掲載している。

就職先の開拓や，進路に関する学生指導，支援などを円滑に行うために，進路対策委員会を設置している。また，学科長，本科４年学級担任，専攻長は，就職先を開拓するために企業訪問を行っている。

以上のようなきめ細かい学生への進路指導取り組みの結果，卒業時にはほぼ全員の進路が決定しており，常に就職率が 100%近い状態を維持している。

（分析結果とその根拠理由）

本科の学生に対しては，主に本科５年の学級担任が窓口となり，専攻科の学生に対しては，主に各専攻長が窓口となり，関係教員と連携しながら学生課事務職員の協力を得て進路指導を進めている。

進路指導の一環として，就職講演会や保護者進路相談会などを行っており，学生，保護者，学級担任の間で進路に関する情報を共有できるよう配慮している。

就職先の開拓や，進路に関する学生指導，支援などを円滑に行うために，進路対策委員会を設置しているほか，学科長，本科４年学級担任，専攻長は，就職先を開拓するために企業訪問を行うなどの努力を重ねている。

以上のことから，就職や進学などの進路指導体制は整備されており，就職率が 100%近い状態を維持していることに示されているように，進路指導体制は機能している。

観点２－25　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

教育活動の実態を示す資料として成績原簿がある。各々の教員は担当する科目の学生の成績と出欠状況を記載した電子ファイルをグループウェアに提出し，グループウェア上では成績管理ソフトウェアを利用して成績原簿が作成される。教員はこれらの資料を一定の間自由に閲覧することができ，また，学科会議および成績判定会議において報告・議論される。成績原簿，成績・出欠データ，およびその関連資料は，学生課教務係が適切に管理している。また，その成績づけのエビデンスとして，JABEE 資料保管室に科目ごとに成績一覧表と成績の根拠となった合格最低レベルの試験答案や実験実習報告書，および宿題等が直近２年間分保管されている。なお，平成 24 年度からは直近５年間分を保管するよう改定した。

その他に，本校教員の教育活動の実態を示す資料は，教員活動報告書および教員の活動計画・報告書である。前者は本校教員の当該年度４月から 10 月までの活動の全体像を示すもので，これらは教育活動ばかりでなく，研究や地域貢献の活動など教員の総合的な活動の実態を示す資料でもある。後者は，「教育」「課外活動支援」「授業アンケート対策」「校務分掌での役職」「研究」および「その他」に関して，改善点やその年度に最も力を入れる点について計画を立て６月中旬までに提出し，翌年の４月末にその計画を踏まえての反省等の自己点検を提出する。これら２つの報告書の提出先は総務課人事係になっており，データも適切に管理されている。これらのデータをもとに，校長による業績評価が行われている。

さらに，教育を中心とした活動に顕著な業績を上げている教員（平成 17 年度からは教員顕彰の被推薦者と，各学科で学術賞を受賞した学生の指導教員）に対して校長賞が与えられ，顕彰している。この他に，教員の総合的な活動の実態を示す資料として本校ホームページに各教員の教育研究の実績が公開されており，毎年更新されている。

（分析結果とその根拠理由）

教育活動の実態を示すデータや資料として，各教員は授業に関しては科目ごとに成績とそのエビデンスを提出し，また教育活動の全体像を示す資料として教員活動報告書ならびに活動計画・報告書を提出している。上記のデータをもとに，教員の業績評価ならびに教員顕彰を行っている。

以上のことから，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を実施できる体制を整備している。

観点２－26　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

学生による授業評価のためのアンケート調査の結果は，科目ごとに集計された結果と回答用紙（学生の自由記述が含まれる）が各担当教員に返却されており，学生から指摘された問題点等について，個々の教員が改善のための対応表「課題と対応」を作成し，前年度より良くする方策を示している。これは教員の活動計画・報告書においても「授業アンケート対策」という項目で，その年度で特に力を入れて改善することを述べ，次の年度にどれだけ達成できたか自己点検・評価するとともに，総務課人事係を通して学校に提出し，これらのデータをもとに校長による業績評価が行われている。

先に述べたように，平成 24 年度前期の授業アンケートから個々の授業の集計結果が返却されるようになり，授業ごとにきめ細かく対応することが可能になった。個々の教員は学生からの意見等を反映して，より分かりやすい教材を開発する，授業内での質疑応答や問題演習を積極的に採り入れるなど，学生の理解を深めるために様々な改善を試みている。その結果，平成 24 年度後期の授業アンケートにおいて，座学・体育・実習の種別ごとの平均点は，多くの項目において過去３半期と比較してポイントが大きく上昇した（資料２－26－①）。このことから，個々の教員がアンケート評価結果に基づいて，各々の質の向上を図るとともに，授業内容・教材・教授技術等の改善を行っていることが示唆される。

また，本校教員による公開授業が年２回実施されており，他の教員の授業を参観することで，相互に授業方法等の質的向上を図っている。参観した教員は「公開授業記録」を記載・提出することが義務づけられ，この記録は公開授業を行った教員の授業内容の改善のため，フィードバックされる。

平成 18 年度からは公開授業に関する FD 研究会を開催しており，授業方法などに関して活発な意見交換が行われている。また，平成 22 年度からは模範授業と評して，前期の授業アンケートにおいて各学科・学系の高評価を得ている教員の授業を他の教員に公開している。これらの模範授業は，見学する教員の教授技術の改善の一助となっている。

教員の教育に関する貢献については，平成 14 年度から実施されている国立高等専門学校教員顕彰の評価法に基づき評価し，「教員顕彰者の推薦」を行っている。この顕彰制度は，各教員の教育力向上に向けての目標となっている。本校独自の教員の教育に関する貢献度評価として「教員の自己評価」，「教員同士による教員評価」，および「学生による教員評価」がある。

平成 14 年度に実施された国立高等専門学校教員顕彰の評価法を改定し，平成 15 年度から国立高等専門学校機構から示されている「教員の教育業績等の評価」により，教員自身が教育貢献度を自己評価している。この評価項目には，1）授業について，2）FD 活動・地域貢献 3）学生生活指導，4）経歴関係等の大項目があり，高専教員の業務を広く網羅した自己評価項目を示している。また，この評価法は点数で集計する方法を採っており，各教員は教育現場での自己の活動について客観的に評価し，高専における教育の充実・向上を目指している。

教員同士による教員評価は，平成 15 年度から実施されており，教員同士により教育貢献が顕著であると思われる教員を推薦し，評価の高い教員を順位付けしている。また，学生による教員評価に関するアンケートも実施しており，授業評価の高い教員を推薦している。

以上より，これら３つの評価を総合し，その結果もっとも高い評価を得た教員を「教員顕彰者の推薦」により表彰する形式をとり，4 月に行われる教員会議で教員が公表され，全体から１名，若手から１名，計２名表彰される（資料２－26－②）。

また，平成 16 年度から校長賞を創設し，本校における教育活動・学生指導・地域社会への貢献度等において顕著な功績が認められた教員や，教職員の模範となる功労のあった教員を対象に，校長表彰を実施している。平成17年度からは教員顕彰の被推薦者と，各学科で学術賞を受賞した学生の指導教員に校長賞が授与されている（資料２－26－②）。

（分析結果とその根拠理由）

毎年行われている，学生による授業評価のアンケート調査結果を受けて，個々の教員は教育改善のための資料としている。その対応と課題については，報告書としてまとめている。他の教員の授業を参観することにより，相互に授業方法などの質的向上を図ることを目的に，公開授業を継続的に実施している。公開授業の記録表は各授業担当者にフィードバックされ，当該教員の授業改善に利用されている。

また，個々の教員に対する教育の改善とその活動状況を，教育貢献度という評価法に基づいて評価し，「教員顕彰の推薦」を行っている。さらに，教育活動・学生生活指導・地域社会への貢献に対して校長賞を創設し，貢献度の高い教員を表彰している。

以上のことから，評価結果により各教員は教育内容の質の向上を図っている。学校は個々の教員の改善活動状況を把握しており，顕著な功績が認められた教員について表彰などを行っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているかどうかについては，入学者の追跡調査を行い，調査結果を入学者選抜の改善に役立てている。

グローバル化に対応すべく英語教育には力を入れており，本科１年から５年まで英語科目を途切れなく配置し，ALC NetAcademy による情報機器を利用した教育を行うなど，教育課程および授業方法ともに充実した内容になっている。

特別研究では，在学期間中少なくとも１回の学会発表を強く推進している。その支援のために，学生の旅費を補助するなど配慮を行っている。

準学士課程，専攻科課程ともに就職率はほぼ100％であり，準学士課程では30％ほどが進学を希望している。ほとんどの学生は，それぞれの各学科，各専攻の専門分野を活かす就職先，進学先に進んでいることから，本校の目的に沿った卒業生，修了生を輩出しており，教育の成果が上がっている。

英検やTOEIC などの資格試験を利用した教育には，英語教員を中心に学校として取り組んでおり，一定の成果を上げている。特に，準学士課程および専攻科課程とも，TOEIC を対象とした学習が効果を上げており，成績優秀者が増加している。資格試験および単位認定に対しては，単位認定する制度が整備されており，資格試験の受験料の補助を行うなどの支援をしている。

外国人留学生にはチューター制度を設け，学習支援・生活支援を行っているほか，補習授業として，専門基礎および日本語教育について授業を行っている。学習障害，発達障害の学生に対する学習支援の取り組みとして平成24年度に発達障害学生に対する特別修学支援要項を整備している。同様に，工業高校からの第４学年への編入学生に対しても数学の補習授業を行うなど配慮している。

（改善を要する点）

より詳細な追跡調査を行うなど，さらに入学者受け入れ方法の改善を行う必要がある。

アドミッション・ポリシーに入学者受け入れ方針も明記する必要がある。

（３）項目２の自己評価の概要

入学者選抜については，準学士課程では推薦選抜，学力選抜が実施されており，本校の合格者判定方針（入学者受入方針）に従って合否の判定がなされている。推薦選抜においては，理工系学生の基礎となる数学，理科の成績が優秀であることを推薦条件としており，アドミッション・ポリシーに沿って，適切な学生の受け入れ方法を採用している。推薦選抜，学力選抜いずれにおいても，本校の求める学生の受け入れを目的に，面接でアドミッション・ポリシーに沿った質問を行っている。また，募集要項に従った入学者選抜を適切に実施している。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われているかどうかについては，推薦入学者の追跡調査を行い，入学者選抜の改善に役立てている。

専攻科課程では，準学士課程と同様に推薦選抜および学力選抜だけでなく，社会人特別選抜を行っており，広く門戸を開放している。また，面接においてアドミッション・ポリシーに沿った質問を行い，本校の求める学生の受け入れに努めている。

入学者数に関しては，準学士課程は適正な人数となっており問題はない。専攻科課程は定員を超える状況になっているが，十分な教員組織で対応ができている。

準学士課程の達成しようとする基本的な成果に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態をバランス良く配置している。学生の理解を深めるために，講義で学んだことを実験・実習を通じて体験できるようにしているだけでなく，講義科目であっても演習を取り入れている。教育課程の編成の趣旨に沿い，適切なシラバスを作成し活用している。シラバスの内容は，学生が学習を進めるうえで必要な情報をコンパクトにまとめている。シラバスは，各教員による授業ガイダンス，授業の進行状況の学生による確認などに活用している。学生のシラバス活用度については，アンケートにより実態を把握し，良好な結果を得た。

創造性を育む教育方法やインターンシップの活用を積極的に行っており，本科の１年を対象に工作実習を実施している。さらに，創造設計製作，基礎研究，卒業研究などにおいても創造を育む教育を行っている。インターンシップは多くの学生が参加しており，積極的に推進している。

成績評価方法，単位認定規定，進級認定規定，卒業認定規定は明確に定めており，学生便覧およびシラバスに明記し，学生に周知している。これらの規定に従って，教員会議において成績評価や各認定を適切に実施している。

専攻科課程のカリキュラムは，準学士課程との連携を考慮した教育課程としている。研究活動においては，卒業研究と特別研究を併せて，３年間継続して研究活動に取り組むことができ，深い内容を学習できる。また，学生の創造性の育成のために，「創造工学演習」や「特別研究」などの科目を配置している。

英検およびTOEIC受験を利用した教育に，英語教員を中心に学校として取り組んでおり，一定の成果をあげている。特に，準学士課程および専攻科課程とも，TOEIC を対象とした学習が効果を上げており，成績優秀者が増加している。また，ロボコン，プロコン，デザコンや部活動同好会など，各種コンクールにも積極的に参加し，優秀な成績を収めていることから，学生の資質・能力の向上に役立っている。専攻科課程における特別研究は，修了者のほぼ全員が学位取得していることから，学力および研究能力を身につけている。

準学士課程，専攻科課程ともに就職率はほぼ100％であり，準学士課程では30％ほどが進学を希望している。ほとんどの学生は，それぞれの各学科，各専攻の専門分野を活かす就職先，進学先に進んでいることから，本校の目的に沿った卒業生，修了生を輩出しており，教育の成果が上がっている。また，本科５年および専攻科２年の学生に対する達成度評価，卒業生および修了生ならびに進路先関係者に対するアンケート調査はおおむね良好な結果が得られており，本校の教育の成果や効果は上がっている。

年度始めに全ての学年において，学級担任から学習上の留意事項が，１年間のスケジュールととも

に説明されている。この際，学生便覧，授業計画が活用され，単位認定，成績評価，進級・卒業要件や，本校の目的，自学自習のための学習支援などについて説明される。

全教員がオフィスアワーを週１回，各１時間以上ずつ設定し，学生の学習の相談を受け，助言を行っている。アンケート結果から多数の学生が教員に質問，相談している。

資格試験および単位認定に対しては，単位認定する制度が整備されており，資格試験の受験料の補助を行うなどの支援をしている。

外国人留学生にはチューター制度を設け，学習支援・生活支援を行っているほか，補習授業として，専門基礎および日本語教育について授業を行っている。学習障害，発達障害の学生に対する学習支援の取り組みとして平成24年度に発達障害学生に対する特別修学支援要項を整備している。

進路指導体制としては，本科５年の学級担任および各専攻長が，各学科長と連係して対応に当たっており，進路対策委員会の支援体制が整っている。進路関係の資料も学生課前や各学科コミュニティホールにそろっており，学生はいつでも閲覧できるようになっている。就職講演会や保護者進路相談会を実施するなどきめ細かい対応により，卒業，修了時にはほぼ全員が進路を決定している。

本校教員の教育活動の実態を示すデータや資料として，授業に関しては，科目ごとに成績とそのエビデンスを提出し，適切に収集されている。また，教育活動の全体像を示す資料として教員活動報告書および活動計画・報告書を提出している。

学生からの授業を中心とする学習に関しての意見聴取として，前期末と学年末に授業アンケートが行われている。平成25年度後期からは教育目標に対する達成度の継続的な自己評価として学習達成度記録簿による調査も試行的に始めた。

個々の教員は，学生による授業評価のアンケート調査結果を受けて，それを教育改善のための資料としている。その対応と課題については，報告書としてまとめている。また，公開授業を定期的に実施し，他の教員の授業を参観することで授業方法などの質的向上を図っている。さらに，公開授業の記録表の提出を義務付けており，それらはそれぞれの公開授業担当者にフィードバックされ，当該教員の授業改善に利用されている。個々の教員に対する教育の改善とその活動状況は教員活動報告書と活動計画・報告書により把握されている。

項目３　研究活動

（１）観点ごとの分析

観点３－１　高等専門学校の研究の目的に照らして，研究体制及び支援体制が適切に整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

本校の教員は様々な分野に配置され，各自に研究テーマを有している。

本校における研究の目的として，独立行政法人国立高等専門学校機構法第 12 条三に基づき，「①実学に根ざした技術を探求し，独創的な工業技術を創造する研究開発を目指す。」，「②産学官連携を進めるとともに，地域産業界との共同研究や技術連携を推進する。」，「③教員は研究の一層の充実，活性化を図り，研究成果を教育活動に反映させる。」という目的を掲げ，その実現に向けて地域共同テクノセンターが中心となり，秋田工業高等専門学校産学協力会（以下，産学協力会）とも連携して推進している。以下，目的に沿って，研究体制および支援体制について述べる。

①実学に根ざした技術を探求し，独創的な工業技術を創造する研究開発を目指す。

実学に根ざした技術開発を目指し，本校では平成 16 年度より，秋田工業高等専門学校プロジェクト研究（通称：「学科横断型プロジェクト研究」）を推進している。申請者は，申請書に従って，研究概要と年次計画を作成して校長宛に提出する。校長は，申請書の内容を審議して採否の判定を下す。

②産学官連携を進めるとともに，地域産業界との共同研究や技術連携を推進する。

地域共同テクノセンターは，本校における外部との受託研究，共同研究の窓口となる。地域共同テクノセンターの組織運営等については，各種規則で規定している。

また，テクノセンターは，「テクノコミュニティ」と「テクノラボ」から構成されている。「テクノコミュニティ」は，各種研究会・研修会や地域企業等との技術交流会議の場として活用され，「テクノラボ」の共同利用設備としては，(a)マルチチャンネル波動分析装置，(b)光・電子デバイス物性解析システム，(c)ICP 発光分光分析装置，(d)CNC 表面あらさ輪郭形状測定機，(e)全自動細孔分布測定装置，(f)AFM/STM 装置，(g)全自動元素分析装置，(h)分光エリプソメーター等が設備され活用している。このような研究設備を始め，各学科学系等に設備されている機器等をも含め，企業との共同研究や技術相談，企業からの研究者の受け入れ・研究指導，また，特別研究や卒業研究にも活用可能な実験室として利用され，それらの成果の一部は，教員および学生が各種学会等で発表している。

産業技術の振興を図り，地域社会の発展に資することを目的として，平成４年に発足した産学協力会は，平成 26 年４月現在，その参加企業が 58 社になっており，地域共同テクノセンターの活動を支援している。

③教員は研究の一層の充実，活性化を図り，研究成果を教育活動に反映させる。

教員の研究および受託研究，共同研究等の研究内容は，教育活動に反映するために担当教員の卒業研究や特別研究の一部として行われている。

教員の研究活動の活性化を図り，組織的に支援するために，学内予算で措置する創造教育支援経費および校長裁量経費による教員の教育研究費の支援を行っている。創造教育支援経費は授業や実験実習の改善に利用されており，校長裁量経費は研究の立ち上げなどに利用されている。また，科学研究費補助金の採択件数の向上を目的にした，科学研究費補助金申請説明会を行い，外部資金の獲得に努めている。組織的には学校要覧に示すように地域共同テクノセンターと企画室が設けられ，企業と教員との窓口をつとめると共に，各種助成金に関する外部資金情報の提供を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

実学に根ざした技術開発を目指し，本校では秋田工業高等専門学校プロジェクト研究の制度を推進している。そのための研究体制および支援体制は整備されている。

地域共同テクノセンターは，本校における外部との受託研究，共同研究の窓口となる。また，平成４年に発足した産学協力会は，地域共同テクノセンターの活動を支援している。

教員の研究活動を組織的に支援するために，創造教育支援経費および校長裁量経費による教員の教育研究費の支援を行っている。また，科学研究費補助金の採択件数の向上を目的にした，科学研究費補助金申請説明会を行うことで外部資金の獲得に努めている。

以上のことから，本校の研究の目的に照らして，研究体制および支援体制が適切に整備され，機能している。

観点３－２　研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

（観点に係る状況）

それぞれの目的ごとに活動の成果をまとめる。

①　　実学に根ざした技術を探求し，独創的な工業技術を創造する研究開発を目指す。

工学的応用を目指して，平成 25 年度に環境技術等に関する研究４件，平成 24 年度にはバイオ・ナノテク技術に関する研究５件，平成 23 年度に化学プロセス・バイオ技術等に関する研究５件，平成 22 年度に環境・電子応用技術等に関する研究５件，平成 21 年度にナノテク・環境技術等に関する研究４件の学科横断型プロジェクト研究を実施した（資料３－２－①）。研究を推進するに当たり，最新技術と特許の情報収集として毎年，最先端技術講演会と知的財産教育講演会を教職員および学生対象に実施した。

②　　産学官連携を進めるとともに，地域産業界との共同研究や技術連携を推進する。

地域社会の発展に貢献し，教育研究の充実，地域産業の発展に寄与することを目的とした，地元企業 40 社からなる産学協力会が平成４年に発足した（資料３－２－②）。発足時から年２～３回の会報の発行，会員企業紹介誌，卒業生名簿を発行するとともに，定期的に研修会と交流会を企画している。産学の最新技術情報の交換，人的ネットワーク作りを意識した活動を行っている。地域共同テクノセンターと産学協力会は，産学官連携における車の両輪と位置づけられ，今後のさらなるタイアップにより，地域産業界とのより密接な産学連携が期待される。また，地域企業に本校の研究シーズの紹介と，企業におけるニーズ把握のために，県内企業をテクノセンターコーディネーターが中心となり，計画的に訪問している。本校の名誉教授２名，元教授１名の３名にコーディネーターを委嘱し，月１～２回程度の割合の企業訪問（２～３社／回程度）を実施している。今後一層企業との絆が強まり，さらなる産学連携の活性化が図れるものと期待している。

これらの組織的な支援活動を継続的に行うことで，科学研究費補助金，共同研究等の外部資金の獲得状況は一定の水準を維持しているが，今後もさらなる獲得に向けての努力が必要である（資料３－２－③）。

共同研究等の成果も出始めてきており，その成果が新聞等に掲載された一部を資料３－２－④，資料３－２－⑤にそれぞれ示す。また，産学官連携による受託研究，共同研究等の状況を資料３－２－⑥に示す。

地域産業界との交流の場として，地域共同テクノセンター主催の技術研究会を行っており（資料３－２－⑦），「あきた産学官連携フォーラム」にも積極的に参加している。

③　　教員は研究の一層の充実，活性化を図り，研究成果を教育活動に反映させる。

産学官連携による受託研究，共同研究等の研究内容は，担当教員の卒業研究や特別研究の一部として行われており，その成果は教育活動に反映されている。研究成果は，研究紀要に示すように論文や口頭発表として発表されており，資料３－２－⑧に示すように特許として出願される場合もある。このような教員

の研究業績が認められ資料３－２－⑨に示すように多方面の学協会から各賞を受賞している。
また，教員の研究活動の活性化のために，創造教育支援経費および校長裁量経費による教員の教育研究費の支援を行っており，平成 25 年度はそれぞれ 32 件，37 件が採択されている。

（分析結果とその根拠理由）
学科横断型プロジェクト研究および創造教育支援経費（学内予算で措置された競争的予算）は，申請時に校長によるヒアリングを行うことで，内容の確認をするとともに，報告書または報告会により，研究教育活動の進捗状況を把握，確認する制度が構築されている。
特に，創造教育支援経費は単年度の研究教育活動経費として利用されており，創造教育支援経費の申請時には，前年度報告書の内容や各学科，学系の研究教育状況をふまえて，効率的な経費の配分が行われる仕組みになっている。
地域共同テクノセンターの活動および業務内容である共同研究や受託研究の状況については，地域共同テクノセンター運営委員会により把握され，問題点や課題を改善する体制が整っている。外部からの意見や要望は，地域共同テクノセンター運営委員会の外部委員，参与会の外部委員，産学協力会における外部役員や参加者から寄せられており，参与会報告書などの形で評価を受けている。
このように，研究活動等の実施状況や問題点を把握し，改善を図っていくための体制が整備され，機能している。

観点３－３　研究活動等の実施状況や問題点を把握し，改善を図っていくための体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）
観点３－１で述べた学科横断型プロジェクト研究で申請が採択された場合は，計画書に基づいて研究者（教員）は研究を推進し，１年ごとに進捗状況をチェックし，報告書を作成し校長に提出する。校長は提出された内容を確認し，問題があれば担当者から説明を受ける。最終期間が終了したときには，成果などを報告書にまとめ，報告会を開催して終了報告を行う。
研究の立ち上げにも使える創造教育支援経費および校長裁量経費は，単年度の研究教育活動経費として利用され，次年度の始めに活動の内容をまとめたものを報告書として提出することで，活動内容が把握できるようになっている。よって，申請時には，前年度の報告書の内容や各学科，学系の研究教育状況をふまえて，効率的な経費の配分が行われる仕組みになっている。平成 25 年度の創造教育支援経費および校長裁量経費については，それぞれ 32 件，37 件が採択されている。
地域共同テクノセンターの活動および業務内容である共同研究や受託研究の状況については，地域共同テクノセンター運営委員会により把握され，問題点や課題を改善する体制が整っている。また，産学官連携に関する教職員等の意見は，地域共同テクノセンター専門部会や教員会議等をとおして受け入れている。外部からの意見や要望は，地域共同テクノセンター運営委員会の外部委員，参与会の外部委員，産学協力会における外部役員や参加者から寄せられており，参与会報告書などの形で評価を受けている。そのほか，あきた産学官連携フォーラム等の共催事業において寄せられる意見についても同様である。

（分析結果とその根拠理由）
学科横断型プロジェクト研究および創造教育支援経費（学内予算で措置された競争的予算）は，申請時に校長によるヒアリングを行うことで，内容の確認をするとともに，報告書または報告会により，研究教育活動の進捗状況を把握，確認する制度が構築されている。特に，創造教育支援経費は単年度の研究教育活動経費として利用されており，創造教育支援経費の申請時には，前年度報告書の内容や各学科，学系の研究教育状況をふまえて，効率的な経費の配分が行われる仕組みになっている。
地域共同テクノセンターの活動および業務内容である共同研究や受託研究の状況については，地域共同

テクノセンター運営委員会により把握され，問題点や課題を改善する体制が整っている。外部からの意見や要望は，地域共同テクノセンター運営委員会の外部委員，参与会の外部委員，産学協力会における外部役員や参加者から寄せられており，参与会報告書などの形で評価を受けている。

このように，研究活動等の実施状況や問題点を把握し，改善を図っていくための体制が整備され，機能している。

観点３－４　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

平成 24 年 11 月～平成 25 年 11 月の一年間に本校教員の行った研究活動については研究紀要に掲載されている。これより，著書および学術雑誌等に掲載された論文は併せて 20 件，学会等での講演論文や報告書が併せて 87 件と，本校教員が活発な研究活動を行っていることが分かる。

各教員は，研究活動を教育の質の改善に資するために，それぞれの専門分野に関連した授業を担当するとともに，本科５年の卒業研究や専攻科学生の特別研究において，専門分野のテーマで学生の研究指導を行っている。特に，卒業研究や特別研究では，少人数の学生を交えて研究活動を行うことが多く，学生の総合的な教育の場として，より直接的に教育の質の改善に役立っている。

研究活動が教育の質の改善に寄与している例として，自然科学系 数学科教員による本校独自の数学問題集（全３巻）の作成・発刊がある。この問題集は平成 14 年度から「創造教育支援経費」によって印刷・製本されており，本科１年から３年までの数学教育に有効に利用されているとともに，教育研究活動を通しての継続的な改訂が行われている。また，人文科学系 英語科では平成 13 年度に「実践的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする秋田高専英語教育改善プロジェクト」を立ち上げ，TOEIC に重点を置いた英語教育を始めた。教育研究の成果としては，平成 11 年度から平成 23 年度まで連続して実用英語技能検定奨励賞，団体優良賞，団体優秀賞に選考されている。平成 21，22 年度においては高専改革推進事業に「国際的な情報発信のための e-learning による人材養成プログラム」が採択され（資料３－４－①），TOEIC に関連した e-learning が授業において有効に活用されている。なお，TOEIC スコア優秀学生には校内において表彰（奨励賞）を実施している。

専門学科においても，教員の専門分野を活かした自作テキストを教材および補助教材として講義に使用することもしばしば見られる（資料３－４－②）。また，実験実習においては担当教員の専門分野および関連分野の実験実習の手引き書を作成している。これらの自作テキストや実験実習の手引き書は学生の理解を進める上で有効に利用されているとともに，研究・教育活動を通して継続的な改訂が行われている。

（分析結果とその根拠理由）

各教員は研究活動を活発に行っており，研究で得られた知見を授業，実験実習，卒業研究および特別研究の学生の教育に還元して有効に活用するとともに，継続的な教育の質の改善を行っている。また，教育研究活動によって，一般教科での組織的な問題集の作成と継続的な改訂，専門教科における各教員の専門分野を活かした補助教材や実験実習手引き書の作成と継続的な改訂がそれぞれに進められており，教育の質の改善に有効に役立っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学科横断型プロジェクト研究では学科の垣根を越えた複合融合領域の研究がおこなわれ，教員相互の研究シーズを新しい分野に発揮できる仕組みが整った。また，企業との共同研究ではナノテク，材料，医療福祉などの開発が行われている。学科間や地域と連携した研究活動が成果を上げている。平成４年に発足した産学協力会は，発足時から継続して年２～３回の会報の発行，会員企業紹介誌，卒業生名簿

を発行するとともに，定期的な研修会と交流会をとおして産学連携を推進している。今後テクノセンターとのさらなるタイアップにより，地域産業界との積極的な産学連携が期待される。

（改善を要する点）
科学研究費補助金，共同研究等の外部資金については，今後もさらなる獲得に向けての努力が必要である。

（３）項目３の自己評価の概要

実学に根ざした技術開発を目指し，本校では平成 16 年度から秋田工業高等専門学校プロジェクト研究を推進している。工学的応用を目指して，平成 16～25 年度に 13 件のプロジェクト研究を立ち上げた。

地域共同テクノセンターは，本校における外部との受託研究，共同研究の窓口となる。また，平成４年に発足した産学協力会は，地域共同テクノセンターの活動を支援している。また，地域企業に本校の研究シーズの紹介と，企業におけるニーズ把握のために，県内企業をテクノセンターコーディネーターが中心となり，計画的に訪問している。

教員の研究活動を組織的に支援するために，創造教育支援経費および校長裁量経費による教員の教育研究費の支援を行っており，科学研究費補助金の申請数は 40%向上するなど外部資金の獲得に努めている。これらの組織的な支援活動を継続的に行うことで，科学研究費補助金，共同研究，受託研究等の外部資金の獲得状況は一定の水準を維持しているが，今後もさらなる獲得に向けての努力が必要である。

産学官連携による受託研究，共同研究等の研究内容は，担当教員の卒業研究や特別研究の一部として行われており，その成果は教育活動に反映されている。

学科横断型プロジェクト研究および創造教育支援経費および校長裁量経費は，報告書または報告会により，研究教育活動の進捗状況を把握，確認する制度が構築されている。

外部からの意見や要望は，地域共同テクノセンター運営委員会の外部委員，参与会の外部委員，産学協力会における外部役員や参加者から寄せられている。

項目４　教員組織

（１）観点ごとの分析

観点４－１　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

本校専任教員の任用等（採用・昇任）については，高等専門学校設置基準第 11 条～14 条をふまえ，「秋田工業高等専門学校人事委員会規則」，「秋田工業高等専門学校教員の選考について」を制定し，当該規則により実施・運用している。

採用は原則として公募によるものとし，公募の必要が生じた時は人事委員会委員長の付託により，当該公募に関する人事専門委員会が設置され，公募の準備を行う。締め切り後，同専門委員会は各応募者の適否を検討し，適任と認める候補者数名を選考のうえ，当該候補者の教育評価および研究評価について審査し，結果を人事委員会委員長に報告する。同委員長はこの報告を受けて第一候補者を決定し，当該候補者との面接を実施し，結果を人事委員会に報告する。その後，人事委員会で当該者の採用の可否について審議される。

応募書類には，履歴書のほか，教育・研究実績の業績目録，主要著書・論文の別刷り，高専における教育・研究についての抱負，推薦書（または応募者について所見を求めることができる者の氏名）等の提出を義務付けており，教育上の能力については書類選考および面接の際に総合的に考慮され，適切に評価されている。

昇任についても，当該候補者の履歴書，教育・研究実績の業績目録，主要著書・論文の別刷りにより教育・研究評価について審査している。規則等での整備はされていないが，特に一般科目担当教員の審査にあたっては，分野によって，専門科目担当教員と同様の評価がしづらい面もあるため，研究業績のみに偏ることなく，本校における教育活動・役職等についても考慮しつつ，総合的な評価を行っている。

また，非常勤講師の採用については秋田工業高等専門学校非常勤講師採用基準に基づき，校長の承認を得ている。なお，あらかじめ教務主事と協議することとしており，教育上の能力についても適切に評価されている。

しかし，教員採用や昇任等に関する基準が規定されておらず，総合的判断で行われていることが多く明確に規定されるべきである。また，非常勤講師の教育活動に対する学校としての評価が十分に行われておらず，改善が必要である。

（分析結果と根拠理由）

高専における教育を担当するにふさわしい教育上の能力についても，然るべき書類審査・面接等，数次に亘る審査を実施し，適切に評価されている。採用応募者，昇任候補者の提出書類についても十分な内容となっている。

また，非常勤講師の採用についても，本校の基準で明確に定めている。

以上のことから，教員の任用（採用・昇任）については，高等専門学校設置基準を満たしつつ，本校規則等により明確かつ適切に定め，運用されている。

観点４－２　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の一般科目担当教員は，高等専門学校設置基準第６条第２項に定められている 18 人（助手を除く）を上回る 20 人の専任教員と，22 名の非常勤講師の計 42 名で構成され，学校要覧等に示す通り，担当科目ごとに専任の教員をバランス良く配置している。

また，教育目標等を達成するために必要な科目に対して各教員の専門分野を考慮のうえ，学生便覧等に示す通り，適切に配置している。しかしながら，教員の定数の関係から全ての科目に対して教員を配置することは困難であるため，一般科目の一部について適任者がいない，または必要とする教員数が不足している場合には，秋田工業高等専門学校非常勤講師採用基準に基づき，非常勤講師を採用している。

なお，実践的技術者の育成および工学基礎としての自然科学系科目を深く理解させるために，数学，物理，化学に重点をおいて配置しているほか，「世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力，互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。」とした教養教育における基本的な成果の達成のために，外国語担当教員の比率を多くするなど配慮している。

（分析結果と根拠理由）

一般科目担当教員の構成は，高等専門学校設置基準の要件を満たしつつ，本校教育課程の編成に照らして，バランス良く配置している。

また，数学，物理，化学に重点的に配置するなど，本校の教育目標に沿った教員配置を行っているほか，教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

観点４－３　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の専門科目担当教員は，高等専門学校設置基準第６条第３項に定められている 29 人（助手を除く）を上回る 44 人の専任教員と，19 名の非常勤教員の計 63 名で構成され，学校要覧等に示す通り，学科ごとに専任教員および非常勤講師をバランス良く配置している。同設置基準第８条に定められている専任の教授および准教授の数についても，一般科目担当専任教員数と専門科目担当専任教員数との合計の２分の１（32 名）を上回る 34 名であり，基準をクリアしている。

また，具体的な教育目標等を達成するために必要な科目に対して各教員の専門分野を考慮のうえ，学生便覧等に示す通り，適切に配置している。しかしながら，教員の定数の関係から全ての科目に対して教員を配置することは困難であるため，専門科目の一部について適任者がいない，または必要とする教員数が不足している場合には，秋田工業高等専門学校非常勤講師採用基準に基づき，非常勤講師を採用している。

「生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術，与えられた問題を解決する能力」を有した技術者を養成するために，深い専門知識を教授するにふさわしい教員として，修士または博士の学位を取得した教員を中心に配置している。また，応用実践力の育成のため，企業経験のある教員を各学科に複数名配置している（資料４－３－①）。

（分析結果と根拠理由）

本校の目的を達成するため，その教育課程は時代の要請に見合った編制となるよう適宜見直され，これに対する教員配置についても，そのカリキュラムの内容を専門とする教員が配置されている。

専門科目担当教員の構成は，高等専門学校設置基準の要件を満たしつつ，各教員の専門分野を考慮し，バランス良く配置している。また，本校が目指す人材像「生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術，与えられた問題を解決する能力を有する実践的技術者」を養成するために，学位取得者，企業経験者を各学科に複数配置するなど，教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員を適切に配置している。

観点４－４　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校では，生産システム工学専攻，環境システム工学専攻の２専攻を設置している。専攻科の一般科目では，より深い一般基礎知識を教授するために，修士または博士の学位取得者を専門分野と担当授業科目に対応させ，適切に配置している。また，専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果「（２）産業社会におけるグローバル化に対応するため，正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し，かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。」の実現のために英語を必修化するほか，一般科目の授業科目においてもその重要性を考慮し，学生便覧等に示す通り，適任の教員を配置している。

また，専門科目においても担当授業科目と教員の専門分野とに対応させて適切に配置し，専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果「（１）自ら問題を発見・解決する能力を備え，生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。」および「（３）複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し，学際領域にも対応できる能力を修得する。」の達成のために，企業経験のある教員を中心に専門科目担当教員を配置している。さらに，特別研究を指導するため，博士の学位を有する教員を特別研究指導教員として配置している。

専攻科科目担当教員は，本校独自の資格審査及び５年に１回の学位授与機構の審査を受けている。なお，本校教員の専門分野以外の授業科目については，秋田工業高等専門学校非常勤講師採用基準に基づき，非常勤講師を採用している。

（分析結果と根拠理由）

本校の専攻科課程では，一般科目，専門科目ともに，それぞれ専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果を達成させるために，博士の学位取得者や企業経験のある教員を中心に配置している。

以上のことから，専攻科の教育の目的に照らして専門分野と担当授業科目に対応させ，専攻科の授業科目担当教員を適切に配置している。

観点４－５　設置されているセンター等においても，教育の目的を達成するために必要な担当教職員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

全学的なセンターとして，本校は，工業技術実習センター，技術教育支援センター，地域共同テクノセンター，情報処理センターを設置している。

（１）工業技術実習センター

工業技術実習センターは，本校の学生自らが自立心と新しいことへの挑戦の心を持ち，ものづくりの基礎となる創造性教育の促進に寄与することを目的に設置されており，学生のものづくり実習，課外活動等で積極的に活用されている。

（２）技術教育支援センター

技術教育支援センターは，実験・実習や卒業研究，特別研究，教員の教育研究活動の技術的支援を行っている。さらに，他のセンターの支援も行い，本校の技術支援に関する全般的な業務を受け持っている。実習工場では全学科１年に対してものづくり工作実習を行うなど広く利用されている。

（３）地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンターは，本校と民間等外部の機関との共同研究および技術相談等を推進することで，地域産業の振興，活性化に寄与することを目的として設置されているものであるが，センターのテクノラボラトリーに設置されている機器の教育面での活用もなされており，本校の技術者教育の一端を担っている。また，卒業生を活用した共同教育プログラムの一環として講演会も行っている。

（4）情報処理センター

情報処理センターは，本校の情報処理教育およびマルチメディア教育のサポートを行う。授業の演習で使うとともに，放課後の自習用にも開放している。また，平成18年度からe-Learningシステムの導入により，学生の英語の自学自習の場を提供している。

各センターは，秋田高専規則集の各センター規則にしたがって，各センターが有する教育目的を十分達成できる適切な人員が配置され運用されている。

（分析結果と根拠理由）

本校の使命は，準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」，専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し，すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」である。これらを全うするためには，必要な設備や施設を有し，その維持・管理，操作を行うことが必要不可欠である。本校では工業技術実習センター，技術教育支援センター，地域共同テクノセンター，情報処理センターの４つの全学的なセンターを設置しており，各センターは本校の教育を強力にサポートするために，センター規則において，教育目標を達成する上で必要な業務が定められ，また必要な人員が適切に配置されている。

観点４－６　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

教員の年齢構成についてはホームページ等に示すように，特定の範囲の年代に著しく偏ることのない構成となっている。教員採用には原則として公募制を導入しており，研究業績等のほか，今後の年齢構成を考慮して選考を行っている。また，平成25年度からは，「独立行政法人国立高等専門学校機構女性教員比率向上のためのポジティブ・アクション」に基づき，教員公募要項に「業績の評価において同等と認められる場合には，女性を優先的に採用する」旨の文言を記載し，女性教員比率向上に向けて取り組んでいるが，一層の努力が必要である（資料４－６－①）。

さらに，教員組織の活動をより活発なものとし，教員の質の向上を図るべく，秋田工業高等専門学校教員顕彰要項に基づき，顕著な業績を上げた教員を「校長賞」として表彰している。その他にも，教員の力量を高め，教育及び研究の向上を図るために，「高専・両技科大間教員交流制度」により，平成２４～２５年度に教員１名を長岡技術科学大学に派遣するなど他機関との連携を深めている。他機関との人事交流は，今後の秋田高専の質保証の上で戦略的にも必要で，より積極的に取り組む必要がある。

また，教員が研究・教育活動を行えるようにゆとりの時間を確保（週に一度授業のない日の設定）するなどの配慮を行っている。

（分析結果と根拠理由）

年齢構成は各学科等の間で若干の差異はあるものの，いずれも各年代にわたりバランスのとれた構成となっている。教員の採用にあたっては，均衡のある年齢構成となるように，公募による応募者を選考する段階で年齢も考慮しており，均衡ある年齢構成が維持されている。

また，女性教員比率の向上に向けた取り組み，顕著な業績を上げた教員の評価・表彰および他教育機関との人事交流などにより，教員組織の活動の更なる活発化と，教員の質の向上に取り組んでいる。

観点４－７　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）
本校の教育活動を有効に展開するために，準学士課程については教務委員会，専攻科課程については専攻科教務委員会，さらに教務委員会と専攻科教務委員会にまたがる諸教務についてはカリキュラム検討専門部会がそれぞれの規則に沿って担当し，本校の教育活動等に係る重要な審議事項について企画，調整している。
また，教育課程そのものの見直しなどを審議するために総務委員会および専攻科総務委員会を設置している。両委員会では，規則制定・規則改定など教育活動に係る重要事項の審議を行うことにより，教育課程全体を管理・運営している。

（分析結果と根拠理由）
本校の教育活動は，教育の企画・審議を教務委員会，専攻科教務委員会，カリキュラム検討専門部会が担当し，５年間の準学士課程と２年間の専攻科課程の最適な連携について企画，調整している。また，規則制定・規則改定など教育活動に係る重要事項の審議は総務委員会，専攻科総務委員会が担当し，教育課程全体を管理・運営している。
以上のことから，本教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われている。

観点４－８　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）
本校において各科目を担当する教員間の連携は必要に応じて行われている。例えば，電気情報工学科の専門科目基礎科目の授業内容の見直しに関する議論は，一般科目担当教員もオブザーバとして同席して行われた（資料４－８－①）。
また，一般科目担当教員と専門科目担当教員が連携を深める場としては，FD 検討会（旧公開授業研究会）がある。FD 検討会では公開授業後に授業内容，教授方法および科目間連携などについて討論を行っている。

（分析結果と根拠理由）
一般科目および専門科目を担当する教員間の連携が行われ，例えば，数学の授業進度と対応した専門基礎科目の授業内容の見直しなどが行われている。その他，　FD 検討会における討論などが行われており，継続して科目間連携について検討している。
以上のことから，一般科目および専門科目を担当する教員間の連携が行われている。

観点４－９　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）
本校では教員の教育活動を円滑に実施するために各種支援が行われている。教務事務に関する支援としては教務上の細かな規則がまとめられた教務事務ガイドの作成と配布を行い，学生便覧，シラバスとともに全教員に利用されている（資料４－９－①）。また，シラバスおよび成績報告票は効率と利便性を考えて電算化されており，シラバス作成要領，成績報告票の電算化に関するマニュアルを作成することで円滑な事務処理をサポートしている。
新任教員に対しては新任教員研修会を行っており，本校になるべく早く順応できるような配慮をしている（資料４－９－②）。また，学級担任同士で問題を共有し，議論する場として学級担任会が組織されており，学級担任を支援している。特別な支援が必要な学生がいる場合は，支援チームを組織し，担任が負担を抱えすぎないように配慮している。

（分析結果と根拠理由）

教務事務を円滑に行うための支援，新人教員や学級担任へのサポート，創造性ある教育への予算措置など物的，人的支援体制は整備されており，有効に活用されている。

以上のことから，教育活動を円滑にするための支援体制が整備され，機能している。

観点４－10　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上，改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

本校における教員の資質向上のための取り組み，すなわちファカルティ・ディベロップメント（以下，FD とする）として，学内 FD 研修会，学外への研修会の派遣，および公開授業による教員相互の意見交換の３つがある。

学内 FD 研修会は，教育改善専門部会や教務主事が中心となって開催する。平成 24～25 年度に開催された主な FD 研修会を資料４－10－①にまとめる。学内での研修会が教育の質の向上に結びついた一つの例として，平成 24 年 12 月に「学生の潜在能力を引き出す教育への転換を目指して」という題目の研修会で紹介され，その後，複数のクラスで取り上げられた「試験の目標と達成度調査」やポートフォリオ形式の学習達成度記録簿（資料２－18－⑤，⑥）がある。

この他に，他の委員会や専門部会でも教育，教育研究，もしくは技術研究に関する発表会や研修会を開催している。定期的に実施されている学内の FD 研修会として，学生委員会が主催する学生指導，課外活動など学生支援に関連した厚生補導研究協議会や，地域共同テクノセンターと秋田県発明協会が共催する研究公開の促進や学生を含めた特許教育を目的とした知的財産教育講演会がある。

学外でも教育改善に関する研修会は数多く開催されており，本校からも教職員が派遣されている。研修会の内容は，教員会議もしくは FD 研修会において報告される場合もある。例えば，平成 25 年 11 月 13 日に「高等教育における質保証の最近の動向」という題目で開催された FD 研修会は，その講演者が参加した「高等専門学校機関別認証評価に関する説明会」（平成 24 年６月 20 日，平成 25 年６月 18 日），「ポートフォリオの活用による高等教育の活性化」（平成 24 年８月 31 日），「全国高専教育フォーラム」（平成 25 年８月 21～22 日）「高等教育質保証学会第３回大会」（平成 25 年８月 23～25 日） についての総合報告として行われた。そして，その内容の一部は，本校の学習達成度記録簿の作成や授業アンケートの集計結果の公表の見直しなどのように，本校の自己点検・評価活動や教育改善活動に活かされている。

本校教員の授業は，年に二度，全教員に対し公開されている。公開授業では，他の教員の授業を参観するとともに，公開授業記録を記載・提出することが義務づけられており，それらは教務係を通して記載者の氏名を消した上で公開授業担当者に渡される。これにより，公開授業担当者と参観者相互の教授方法等の質的向上を図っている。平成 18 年度から，より効果的な授業改善や教育の質の向上を狙って，公開授業後に教員相互の意見交換の場として公開授業研究会を設けた。平成 22 年度からは，最も多くの参観者を集めた担当教員の授業について，担当教員と参観者を集め，公開授業研究会を行っている（名称は「FD 検討会」と変更した）。平成 25 年７月には人文科学系 英語科教員の授業について９名の教員による FD 検討会が開催されている。

（分析結果と根拠理由）

本校の FD 活動は，学内 FD 研修会，学外への研修会の派遣，および公開授業による教員相互の意見交換である。これらの FD 活動の推進に関しては，教育改善専門部会と教務主事が中心となって行っている。学内 FD 研修会は，昨今の高等教育の質保証の重要性や高専機構の推進する教育改善活動とも絡み，活発に開催されている。また，授業の改善ばかりでなく，他の委員会主催ではあるが，学生指導などに関連した厚生補導協議会，特許教育のための知的財産教育講演会が開催されており，研修会の内容は多岐に亘る。学外への研修会の派遣も積極的に行っており，本校教員への報告会などでそれらの情報の本校教員への還

元も適切に行われている。また，校長による授業参観を含め，公開授業やその後の研究会などが定期的に行われている。

以上より，本校での FD は適切な方法で実施されており，組織として教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

観点４－11　全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

本校の教育活動に関する評価体制は「教員本人による自己評価」，「学生による授業評価」の二つの軸で整備されている。前者については，教員業績評価実施要項に基づき，所定の様式により教員自ら作成し，校長に提出することによりＡ～Ｉの９段階評価されることとなるが，ＨおよびＩ評価された教員には校長が面談を行うこととしている。

この評価結果は，教員の賞与および昇給に関する事項のみならず，役職教員や昇任の決定等教員組織に関する事項の判断の際に考慮される。

学生による「授業評価アンケート」は自己点検・評価実施要項に基づき，平成 13 年度から実施されており，調査結果は教員にフィードバックされている。教員は「『学生による授業アンケート』の対応・課題」に対応と課題をまとめ，提出している。「授業評価アンケート」および「『学生による授業アンケート』の対応・課題」をまとめたものはそれぞれグループウェアにアップロードされており，授業内容の改善に役立てられている。

（分析結果と根拠理由）

教育活動に関する評価体制は「教員本人による自己評価」と「学生による授業評価」の二つの軸で整備されており，適切な評価体制となっている。評価結果は，役職教員や教員の昇任の決定等教員組織に関する事項の判断に活用されている。

観点４－12　各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校の教育課程に関する改善システムを，資料４－12－①に示し，以下に主な役割を記す。

教務委員会および専攻科教務委員会がそれぞれ本科および専攻科の教務関係の企画・立案（Plan）を行い，本科と専攻科にまたがる事項については，カリキュラム検討専門部会で審議する。その結果を踏まえて各教員が実施（Do）する。教育活動に関する点検・評価（Check）は，自己点検・評価委員会に設置された専門部会である自己点検・評価専門部会，認証評価専門部会，「技術者教育プログラム」に関する専門部会，教育プログラム改善専門部会，およびアンケート対応専門部会が行う。自己点検・評価専門部会と認証評価専門部会は，高等専門学校機関別認証評価と関連して本校の教育課程に関する点検項目や基準を作成し，自己点検・評価を行う。「技術者教育プログラム」に関する専門部会と教育プログラム改善専門部会は日本技術者教育認定機構（JABEE）の行う審査と関連して本校の教育課程に関する点検項目や基準を作成し，自己点検・評価を行う。また，授業アンケートをはじめとする各種アンケートは，アンケート対応専門部会，認証評価専門部会，および教育プログラム改善専門部会が中心となって行い，問題点等を分析する。これらの点検・評価の結果は教育改善専門部会に報告され，問題点について見直し，教育課程および教育方法について審議し，提言・要請（Action）を行う。この提言を受けて，教務委員会，専攻科教務委員会では，新たな改善策について企画・立案（Plan）が行われる。以上のように，立案（P）→ 実施（D）→ 点検・評価（C）→ 改善（A）→ 立案（P）　との順番で教育の質をスパイラルアップするシステムが整

備されている。なお，PDCA サイクル全体の調整・運営・点検は，前述の自己点検・評価委員会で行われる。

いくつかのPDCAサイクルが回っているが，具体的な改善例を２つ紹介する。

第三者評価において「教員の科目間連携ネットワークが不足している」との指摘があり，この問題に対して教育プログラム改善専門部会より，各学科・学系に「学科・学系における教育改善 WG 」と「学習・教育目標ごとの教育改善 WG 」の２つの WG の設置について審議するよう平成23年１月に要請した。この要請を受け，教育改善専門部会では，審議の結果，どちらも各学科・学系を中心に構成した方がその効果の向上が見込めると判断し，平成23年２月初旬に各学科，学系に設置することをカリキュラム検討専門部会に提言することとした。さらに，この提言はカリキュラム検討専門部会で認められ，平成23年２月下旬に学科長・一般教科長会議の席上でカリキュラム検討専門部会部会長によって平成23年度から各学科・学系に設置するよう要請された。その後，年に数回，学科会議もしくは学系会議と並行する形で開催されている。

本校では平成 21 年度より，多様な進路選択が可能となることを目的として，本科第１学年に混合学級を導入した。しかしながら，混合学級を運営していく中で様々な問題点が指摘されるようになり，平成22年度に本科１，２年生を対象に，また，平成24年度に教員を対象に混合学級についてのアンケート調査を行った。その集計結果がアンケート対応専門部会によって点検・評価され，教育改善専門部会を通じて混合学級の廃止と学科別のクラス編成にすることが提案された。そして，この案件について教務委員会で審議し，校長に混合学級の廃止を提言することとなり，最終的にこの提言を受けて，企画調整会議および総務委員会において平成26年度から混合学級を廃止し，学科別のクラス編成にすることが決定された。

（分析結果と根拠理由）

学生による授業アンケートや達成度評価，教職員を対象とした「学校の目的」および「学習等の諸制度」に関するアンケート，参与会による外部評価，JABEE 審査などの様々な評価の結果をもとに，PDCA サイクルによって教育の質の向上，改善を行うシステムが整備されている。また，例示した「学科・学系における教育改善 WG および学習・教育目標ごとの教育改善WGの設置」「混合学級の廃止」などをはじめ，学校の教育課程や諸制度の見直しや改善が継続的に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

担任会の組織が整備され，定期的な会合を実施しており，担任業務上での問題を解決するとともに，他の担任からの経験上のサポートを受け易くなっている。また，担任会からの意見として，規則を含めた改善要求を遅延無く問題提起できている。

（改善を要する点）

教員採用や昇任等に関する基準が規定されておらず，総合的判断で行われていることが多く明確に規定されるべきである。また，非常勤講師の教育活動に対する学校としての評価が十分に行われておらず，改善が必要である。

教員採用においては女性教員採用に向けた配慮がなされているが，女性教員比率の向上に向け一層の取組みが必要である。また，他機関との人事交流は，今後の秋田高専の質保証の上で戦略的にも必要で，より積極的に取り組む必要がある。

（３）項目４の自己評価の概要

教員採用については，原則公募制で然るべき書類審査・面接等，数次に亘る審査を実施し採用が行われ

ている。また，教員構成は，準学士課程および専攻科課程において，一般科目および専門科目ともに高等専門学校設置基準の要件を満たしつつ，本校教育課程の編成に照らして，学位取得者や企業経験のある教員を中心にバランス良く適切に配置している。また，年齢構成についても採用時の考慮によりほぼ均衡ある年齢構成が維持されている。

教育活動において，教務関係は教務委員会，専攻科教務委員会，カリキュラム検討専門部会が中心となり準学士課程から専攻科課程まで最適な連携を十分に考慮して企画，調整している。また，総務委員会，専攻科総務委員会が教育課程全体を管理・運営しており，活動を有効に展開する運営体制となっている。また，教務事務を円滑に行うための支援，新人教員や学級担任へのサポート，創造性ある教育への予算措置など物的，人的支援体制は整備され，有効活用されている。教員間連携については，FD 検討会や講演会も年間を通じて十分に企画・実行されている。

教育活動に関する評価は，「教員本人による自己評価」と「学生による授業評価」の二つの軸で整備されており，定期的に卒業・修了生へのアンケートによる調査も行われており，適切な評価体制となっている。これら学校における教育活動等に関しては，多方面からの PDCA 改善サイクルが機能しているかについて JABEE や認証評価の審査を通じて確認し，諸制度の見直しや改善が継続的に行われている。

以上のことから，学習教育目標の達成に向け概ね良好な教員組織，教育体制を有しているが，一部基準の明確化と積極的・戦略的人事交流に伴うプラス効果を一層活用すべきである。

項目５　施設設備

（１）観点ごとの分析

観点５－１　自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

各クラスの教室以外の自主的学習環境としては，図書館および情報処理センターが主に利用されている。図書館の学習スペースとしては，閲覧席のほか，ブースで仕切られた個人閲覧室，学習用パソコン 12 台が整備されており，長期休業中を除いて平日は 20 時までの夜間と，土曜日（10 時～16 時まで）も開放されている。平成 25 年度の入館者数は月平均約 4100 名，うち夜間開館時間帯で月平均約 740 名，土曜日も月平均約 80 名が利用している（資料５－１－①）。

また，情報処理センターは，情報教育ルームとマルチメディアルームにパソコンがそれぞれ 48 台の合計 96 台整備されており，講義等の使用時間を除く時間帯において，自主学習に活用されている。平成 24 年度の利用者数は，情報教育ルームは月平均約 860 名，マルチメディアルームは約 550 名である。また夏季休業中の９月の利用者が年々増加している（資料５－１－②）。平成 18 年８月から，情報処理センターも夜間開放をしており，学生の自主学習を支援している。

厚生施設としては，食堂と売店，保健室，学生相談室を備えた厚生会館が整備されており，学生の福利厚生に大きく寄与している。また，コミュニケーションスペースとしては厚生会館のほか，図書館１階のロビーおよび管理棟３階にあるスカイラウンジが学生の集う場所になっており，部活動および学生会活動のミーティング場所としても利用されている。スカイラウンジは飲料の自動販売機を備えており，学生同士の談話や自習の場として広く利用されている。自主的学習環境の利用に関するアンケートを実施した結果，本科生の 70%，専攻科生の 85%が，図書館や情報処理センター等の施設を，自主的学習の場としてある程度利用していることが分かった（資料５－１－③）。

（分析結果と根拠理由）

学生の自主的学習を支援するために，図書館および情報処理センターが整備されている。図書館は夜間および土曜日も開放することにより学習場所を提供し，情報処理センターも学生が自主的にパソコンを使える環境を提供していることから，多くの学生に利用されている。情報処理センターは，夏季休業中の利用者が年々増加していることから，自由な時間をとれる夏季休業中を利用して，課題や自主学習および研究等で有効利用している学生が増加している。福利厚生施設としては，厚生会館を中心に役割を果たしており，学生同士のコミュニケーションをとるうえで不可欠な存在になっている。自主的学習環境利用状況のアンケートの結果からも，図書館，情報処理センター等の施設を，自主的学習の場としてある程度利用していることが分かった。

以上のことから，キャンパス生活，環境等は整備され，効果的に利用されている。

観点５－２　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

本校の施設は，学校要覧に示す通り，平成 13 年１月に科学技術教育棟が新築され，同年７月に講義室棟・研究室棟・管理棟の改修が行われ，次いで平成 14 年７月には物質工学科棟が，さらに平成 15 年 10 月に機械工学科・電気情報工学科・環境都市工学科棟および実習工場の改修が行われ，工業技術実習セン

ターが新築され，校舎の全面的改築が終わった。また，図書館および渡り廊下の耐震改修も実施し，すべての施設の安全対策も完了している。さらに，電気情報工学科が電気工学科から名称変更した際に，学科内にコンピュータールームを設置するなど，ニーズに対応した施設整備が行われている。

また、平成２４年度補正予算により、３Ｄプリンター、動作解析装置等の大型研究設備の設置だけでなく、コンピュータールームの設備一式の更新や、実験室の整備等、教育設備の充実も図られた。

実験室，演習室，情報処理センターなどの授業利用状況を，資料５－２－①に示す。情報処理センターは稼働率が高く，よく利用されている。その他の実験室も利用頻度は高く，有効に使用されている。

障害を持つ学生は現在在籍していないが，キャンパス内の建物の玄関にはスロープが設置されているとともに，エレベーターを利用することにより，建物間を車椅子で移動することが可能である。障害者用トイレも７箇所に設置されているほか，車椅子，担架なども設置している。

教室，実験室は学生が清掃し，校舎全般の清掃は業者委託することで，改修後 10 年以上経過しているが美観と清潔感を維持しており，学生の学習環境を整えている。

さらに緊急時に備え、体育館、学生寮、厚生会館など計５箇所にAEDを配置した上、配置図を学生便覧に掲載することで、学生・教職員へ周知している。

（分析結果と根拠理由）

授業，実験実習，卒業研究，特別研究などを行うために必要な施設，設備は整備されており，情報処理センター，実験室など有効に活用されている。また，障害をもつ学生に対する施設面での整備もなされている。

日々の清掃もあり，校舎は改修工事および耐震工事後の美観と清潔感を維持しながら，学生の良好な学習環境を整えている。

観点５－３　教育内容，方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

ICT 環境整備に係る組織

教育内容，方法や学生のニーズは，情報処理センター専門部会および情報処理センター運営委員会によって，現状の把握がなされている。専門部会の構成員は，教務・学生・寮務の３つの委員会における主事補各１名，図書館長補１名，全学科・学系から情報処理教育を担当する代表教員各１名，セキュリティ管理のために，さらに総務課・学生課の代表職員各１名，および技術教育支援センター（情報処理センター担当）の技術職員１名としている。また，情報処理センター運営委員会の構成員は各課の連絡調整が円滑に行われるよう，センター長，副センター長，各専攻長，各学科長，図書館長，教務主事補の中から１名，総務課長，技術長によって構成されている。

ICT 環境の現状および統計（利用状況や活動状況について）

情報処理センターが管理する端末室は，情報教育ルーム，マルチメディアルーム，ＬＬ教室の３室があり，それぞれ 50 台ずつ（LL 教室は 54 台）の端末を有している。従って，同一時間内に３クラスの授業が可能となっている。各室の授業による使用率は平均して約 50%であり，空いている時間については自学自習および卒業研究等で利用する学生および教職員に開放している（資料５－３－①）。各端末室の利用者数は，情報教育ルームおよびマルチメディアルームについて計測した結果，平成 22 年度まで急速に増加しており，同年度 23,802 名に達している。平成 23 年度には 18,021 名に減少しているが，同年度にＬＬ教室を端末室として情報処理センターに併合した結果であり（資料５－３－②），過密状態が解消され，有効に活用されている。端末室にて利用できるＯＳ環境はWINDOWS7 およびUbuntu10.04（平成 25 年６月現在）の 2 つの環境を選ぶことができ，かつ，各種言語，各種設計支援ソフトウェア，DTP ソフトウェア，科学

技術計算用高級言語等を用意している。また，平成18年に英語教育用e-learningシステム「ALC Net Academy」を導入しており，本学英語LL教育に活用されている。この端末環境は３室ともにほぼ同等であり，情報モラル教育，プログラミング教育，語学教育（e-learning），ＣＡＤ教育，実験実習，および卒業研究などに利用されている。さらに，放課後の自学自習の環境を提供することを目的に，時間外開館という形で平日の午後５時から７時までの間，情報処理センター内端末室１室を開放している。平成25年３月現在での時間外開館利用統計では，一日平均利用者数が11～15名程度であり，有効に活用されている（資料５－３－③）。同様の目的で，図書室と学生寮内に端末コーナーを設け，学生の情報処理教育の支援に努めている。また，教職員のためのセキュリティの高い業務ツールとしてグループウェア（サイボウズ）のサービスも行っている。グループウェアについては，全教職員にＩＤを発行し，スケジュール管理，校内連絡，文書管理などに利用されている。

セキュリティポリシーおよびインシデント等に対応する規則等

情報資産のセキュリティについては，包括的な規定として「秋田工業高等専門学校情報セキュリティポリシー」を定め，高度な安全性を確保するための体制を整備している。さらに情報セキュリティの維持向上のため「秋田工業高等専門学校情報セキュリティ管理規則」，「秋田工業高等専門学校情報セキュリティ推進規則」，「秋田工業高等専門学校情報セキュリティ教職員規則」，「秋田工業高等専門学校情報セキュリティ学生規則」を制定し，具体的な行動指針を示している。

学生のネットワークトラブル防止に対する取組みとして，平成 18 年３月に情報モラル教育に関する講義資料（資料５－３－④）を作成し，平成18年４月から，新入生を対象に，情報処理担当教員が，情報モラルについての講義を１回行うことにしている。また，平成23年度より，新入生合宿研修において，インターネットを上手に使うために必要な最低限のルールやマナーについて講演会を開いて説明を行っている（資料５－３－⑤）。教職員については，平成25年度３月に，ネットワークセキュリティ講習会を開催し，本校ネットワークシステムの概要，および設計ポリシー，マルウエアの脅威等についての講習を行っている（資料５－３－⑥）。

学内LAN構成およびICT環境全般

本校のLANは，学術回線のSINET4秋田DCを経由してインターネットに接続されており，平成24年５月に30ＭｂｐｓからＩＧｂｐｓへ，その通信速度を向上させている。学内LANのネットワークに接続可能なパソコンは，機械工学科97台，電気情報工学科122台，物質工学科75台，環境都市工学科57台，自然科学系31台，人文科学系17台，特任教授３台，事務部88台で合計490台である。さらに，３つの端末室(154台)，図書館(12台)や学寮(10台)に設置されたパソコンも合わせると，その数は660台を超える。また，各教室をはじめとする校内のほぼすべての部屋に情報コンセントが設置され，どこからでも校内LANを使用することができるよう，ネットワーク環境が整備されている。さらに，本校のLANは，「Traffic Analysis」によってモニターされており，回線の使用率，異常等を監視している。

情報処理センター業務等

情報処理センターには，技術職員を２名，LL教室には非常勤職員１名を配置し，情報ネットワークの管理として，コンピュータウィルス情報の監視および利用者への周知，ファイアウォール（スパムメールサーバを含む）・メールサーバの保守，ならびに，授業前後の端末セッティング，授業中の技術的サポート等を行っている。これらの事項の関連情報は，情報処理センター発行の情報誌「いんふぉ」として，全教職員に配布し，周知される。

このように，本校では，教育内容，方法や学生のニーズを満たすICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されている。

（分析結果と根拠理由）

情報処理センター専門部会の審議などにより，学生のニーズが適切に把握されている。また，セキュリティポリシーが定められ，ファイアウォール内のスパムメールサーバの導入など，常に情報ネットワークの適切な管理を行っている。教室を含む校内のほぼすべての部屋に情報コンセントが設置され，校内LANがどこからでも使用できるよう情報ネットワークが整備されている。２つの端末室等に設置されたパソコンは講義の行われていない場合は利用可能としており，利用者の便宜が図られている。端末室の利用者数はLL教室を除く２室で平成25年度実績17,640名である。また，ネットワークトラブル防止の観点から，学生のための情報モラル教育を，教職員のための情報セキュリティ講習等を導入している。

これらのことから，本校では，ICT環境が適切に整備され，有効に活用されている。

観点５－４　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

図書館は，閲覧室，開架書架のほか，学術雑誌を収容する電動書架，参考図書書架，資格本およびシラバスコーナーが整備され，ビデオ，CDなどの視聴覚資料も所蔵しており，閲覧可能な状態になっている。平成26年３月現在の蔵書数は,資料５－４－①に示すように,和書74,924冊,洋書13,040冊の合計87,964冊である。分類別冊数，受入冊数ともに自然科学，工学に関する図書が多くなっている。図書館内の蔵書は，蔵書検索システムOPACにより，利用者はWebブラウザから検索できるようになっている。

また,図書館のホームページから文献検索データベースとして,GeNii学術コンテンツポータル,KANON,JDreamの３つを利用することができ，SD，ACS，AIP/APS等の電子ジャーナルを閲覧することができる。館内にない資料は，文献複写サービスを利用することにより入手可能である。この他にも物質工学科では、物質科学分野の物質情報、反応情報、文献情報を網羅的に検索できる強力な検索ツールとして「SciFinder」の利用案内を行っており、学生・教員の研究活動に役立てられている。

平成24年度の利用者数は57,714名であり（資料５－１－①），貸出冊数は4,515冊であった（資料５－４－②）。過去５年間の貸出冊数と人数の推移から，利用状況は一定の水準を維持している。

図書の整備方針は，図書館運営委員会が中心となって決定する。授業または研究に使う図書および資料を，学生向けの学科選定図書として学科ごとに教員から選定してもらい，各学科，学系の各専門分野の授業および研究に関する図書が系統的に整備されており，学科内で優先順位をつけることで，重要な図書を優先的に購入できるようになっている。

これ以外にも，平成17年度から特定分野強化資料として，新任教員の希望により毎年３分野程度のキーワードを基に重点的に図書を整備しており，パスファインダーとして図書館ホームページ等で紹介している。また，学生に対する学習支援のため，シラバス記載の教科書および参考書，英検や漢検受験のための問題集などが一覧できるように整備されている。

さらに図書の充実と学生の図書館利用促進のため，ブックハンティングを行っており，文学書などの科学系以外の図書を含む学生の希望する図書を購入することができる。平成24年度は約121冊の図書を購入した（資料５－４－③）。また，図書館には備付希望図書申込票が置いてあり，学生は随時図書館に購入の要望ができるようになっている。

これ以外にも，図書館の利用促進に向けた取り組みとしては，読書感想文コンクールが行われており，国語担当の教員を中心に学生に参加を呼びかけて,平成24年度は381編の応募があった(資料５－４－④)。

また館内の一角にはPCが10台設置されており，学習のための必要な図書・論文の検索や情報の収集によく利用されている。

（分析結果と根拠理由）

図書，学術雑誌，視聴覚資料等は，工学系分野を主体として多岐に渡る分野を網羅している。全教員の協力のもと，図書館運営委員会を中心に図書の充実に務めており，授業および研究に活用されている。また，図書館の利用促進のために，ブックハンティングなどで学生の声を取り入れるなどもしている。

以上のことから，教育研究上必要な資料は系統的に整備されており，有効に活用されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

情報処理センター及び図書館は，夜間利用にも対応しており，学生の自学自習などを支援している。

(改善を要する点)

特になし。

（３）項目５の自己評価の概要

学生の自主的学習を支援するために，図書館および情報処理センターが整備されている。図書館は夜間および土曜日も開放することにより学習場所を提供し，情報処理センターも学生が自主的にパソコンを使える環境を提供していることから，多くの学生に利用されている。自主的学習環境利用状況のアンケートの結果からも，図書館，情報処理センター等の施設を，自主的学習の場としてある程度利用している。

授業，実験実習，卒業研究，特別研究などを行うために必要な施設，設備は整備されており，情報処理センター，実験室など有効に活用されている。また，障害をもつ学生に対する施設面での整備もなされている。

情報処理センター専門部会の審議などにより，学生のニーズが適切に把握されている。また，セキュリティポリシーが定められ，ファイアウォール内のスパムメールサーバの導入など，常に情報ネットワークの適切な管理を行っている。教室を含む校内のほぼすべての部屋に情報コンセントが設置され，校内LANがどこからでも使用できるよう情報ネットワークが整備されている。また，ネットワークトラブル防止の観点から，学生のための情報モラル教育を，教職員のための情報セキュリティ講習等を導入している。

図書，学術雑誌，視聴覚資料等は，工学系分野を主体として多岐に渡る分野を網羅しており，授業および研究に活用されている。また，図書館の利用促進のために，ブックハンティングなどで学生の声を取り入れるなどもしている。

項目６　国際交流

（１）観点ごとの分析

観点６－１　外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

平成 20 年６月に本校が海外の高等教育機関と初めて交流協定を締結したことを受け，短期留学生の派遣と受け入れを円滑に実施するために，平成 22 年５月に「国際交流室」が設置された。ＴＯＥＩＣのスコアが所定の点数以上の学生を対象に，本科生は海外インターンシップ，専攻科生は短期留学へと派遣している（資料６－１－①）。

本校では，現在フランス・リール地区４技術短期大学（リールＡ，カレー，ランス，ベトゥーヌ）並びにフィンランド２応用科学大学（ヘルシンキメトロポリア，トゥルク）と学生間交流を行っており，平成 22 年度からフランスへ約２ヶ月間（平成 22 年度は約１ヶ月間）本校から学生を派遣している。これまでに平成 22 年度に３名，平成 23 年度に２名，平成 24 年度に３名，平成 25 年度に３名の派遣実績がある。フィンランドへの学生派遣においては，現在準備中である。ここ２年間の報告会プログラムを，資料６－1－②に示す。

さらに，高専機構主催海外インターンシップ等の海外派遣プログラムにおいても本校として積極的に学生に推奨しており，平成 22 年度にスイス（森精機）へ１名，平成 24 年度にマレーシア（カネカ）へ１名，またシンガポール技術英語研修へ平成 23 年度に２名，平成 24 年度に１名，平成 25 年度に１名が参加している。

フランス・リールＡ短期大学を中心とした短期留学の他，地元企業，研究機関での実習も単位化された。海外派遣に際して，現地での生活や勉学に支障がないようにすべく，英語をはじめとして各種言語の補講を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

国際交流室を設置し，学生の海外派遣を円滑にこなすための組織作りを行っている。現地での生活や勉学を支障なくこなすための語学補講を実施しており，外国留学を円滑に進めるための支援体制が整備されている。

観点６－２　留学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，平成３年度から外国人留学生を受け入れており，平成 26 年度は短期留学生５名を含む 14 名が在籍している（平成 26 年４月５日現在）。外国人留学生にはチューターを配置し，寮生をもって充てている。短期留学生は，いずれかの学科の教員の研究室に所属し，指導教員や所属研究室の学生が，生活支援や学習・研究の支援を行っている。また，国際交流委員会を設置して，留学生の受け入れや指導体制などを審議し，委員は留学生指導教員として留学生をサポートしている。

（分析結果とその根拠理由）

外国人留学生を支援するための組織および施設が整備されており，活用されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）
本校における留学生の受け入れと派遣は，現在では交流相手校もフランス・リール地区４技術短期大学，フィンランド２応用科学大学にまで拡大している。

（改善を要する点）
特になし。

（３）項目６の自己評価の概要

本校においては，国際交流の様々な方策を施している。海外の高等教育機関との交流協定締結により，教員・学生間の国際交流，海外インターンシップ，英語によるプレゼンテーション能力向上のための継続的な学習等を積極的に行っている。そのために国際交流室を設置し，現地での生活や勉学を支障なくこなすための語学補講等，外国留学を円滑に進めるための支援体制が整備されている。また，外国人留学生を支援するためのチューター，指導教員，国際交流委員会等の支援体制も整備されている。

項目７　生涯教育への対応

（１）観点ごとの分析

観点７－１　教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等，豊かな人間性の涵養がなされるよう配慮されているか。また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるように配慮されているか。

（観点に係る状況）

人間の素養の涵養のために，特別活動や各種行事，各種講演会などが行われている。本科１～３年では，特別活動が授業時間割表に設定され，週１単位時間，年間で 30 単位時間の特別活動が実施されている。この特別活動の内容は，担任によって計画され実施されている（資料７－１－①）。また，本科１年の学級担任を一般教科の教員とすることで，専門性に偏りすぎない視点から，学生に将来の進路や展望について様々な角度から話し，きめ細かい学生指導が行われている。

学校行事としては，本科１年で１泊の新入生合宿研修（資料７－１－②），本科４年で２泊３日の工場見学が行われている（資料７－１－③）。このほかに，学校主催の各種講演会が行われ，幅広い体験や豊かな人間性を育む工夫を行っている（資料７－１－④）。

また，他の学生の模範となる優れた活動を行った学生は，学年末に表彰している（資料７－１－⑤）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，教育の目的に照らして，生活指導や課外活動などにおいて，人間の素養の涵養が図られるように配慮している。学生指導が円滑に行われるように，対象学年学生や職員との連携も効果的に進められ，各種行事や各種講演会も積極的に行っている。また，本科１年の学級担任は専門性に偏りすぎない視点から一般教科の教員とし，学生に将来の進路や展望について話し，目的意識を継続できるようにきめ細かい学生指導が行われている。さらに，他の学生の模範となる優れた活動を行った学生は，学年末に表彰している。

以上のことから，技術者としての人間の素養の涵養が，特別活動や課外活動をとおしてなされるよう配慮されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

他の学生の模範となる優れた活動を行った学生は，学年末に表彰している。

（改善を要する点）

特になし。

（３）　項目７の自己評価の概要

本校では，教育の目的に照らして，技術者としての人間の素養の涵養が，特別活動や課外活動，各種行事や各種講演会をとおしてなされるよう配慮されている。また，本科１年の学級担任は専門性に偏りすぎない視点から一般教科の教員とし，学生に将来の進路や展望について話し，目的意識を継続できるようにきめ細かい学生指導が行われている。さらに，他の学生の模範となる優れた活動を行った学生は，学年末に表彰している。

項目８　社会との連携

（１）観点ごとの分析

観点８－１　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

「地域共同テクノセンター」や「広報・地域交流委員会」において，企業や地域のニーズに応える人材を育成し，また地域貢献のために産学連携・地域連携に取り組んでいる。

まず，人材育成面においては，学生の就業意識や問題解決能力等の向上を図るために CO-OP 教育を実施し，CO-OP 教育は，毎年４学科において４，５年生を対象として，前期と後期にそれぞれ１回の計８回にわたって，民間企業等から講師を招いて授業をしている。さらに，英語教育においては，「国際的な情報発信のための e-learning による人材養成プログラム」において国際教養大学 助教 Dr. Andrew Crofts 先生を講師に招聘した講演会"Biotechnology: Solving the World's Biggest Problems"（2011 年１月 20 日）を実施することにより，学生が国際学会等で専門に関する発表をできるための英語力の素地を養成した。平成 24 年度においては，12 月 10 日および 17 日の７，８時限に５年物質工学科生物コースの授業「蛋白・遺伝子工学」において，教科担当の伊藤浩之先生と国際教養大学 Dr. Andrew Crofts 先生の Cooperative Education を実施した。（資料８－１－①）

また，高等専門学校改革推進経費による事業である「コーオプ教育の普及・啓発を目指した高専間連携－地域企業密着型　高度実践ものづくり人材育成の発展 －」（事業主体：阿南高専）に連携校として加わり，平成 22 年度の「2010 コーオプ教育シンポジウム」や「第１回コーオプ教育研究会（準備会）」，2011 年の「第２回コーオプ教育研究会」に参加するとともに，平成 24 年度の同事業の継続申請，さらには平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」に「地域ニーズ対応型スーパーエンジニア育成カリキュラムの開発」のテーマで連携校として他３高専とともに申請した。

また，毎年，本校卒業生を招き，企業が求める人材，特に高専生に求められること，社会人としての心構え等の講演を行い，学生が就職活動を行う上で必要な知識，情報を本科４年生および専攻科１年生を対象に実施している（資料８－１－②）。

その他，知財や先端技術に対する理解を深めるために，本科５年生・専攻科生を対象に知財セミナーや最先端技術講演会を毎年実施している。

（分析結果とその根拠理由）

本校学生の教育活動のため，積極的に企業や他大学，本校卒業生等を活用し，本校学生の教育活動に活用しているため，外部の教育資源を積極的に活用している。

観点８－２　教育課程の編成又は授業科目の内容において，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

平成 15 年度から，秋田県における大学，短期大学および高等専門学校間の単位互換に関する協定を結び，これを継続している（資料８－２－①）。これにより，秋田県内の大学との単位互換が可能となり，学生の勉学の機会を広げることができている。

企業や公的研究機関，他大学でのインターンシップでの学修に対して単位認定を行っており，時間によって１単位あるいは２単位の単位を認定している。１単位の修得には実習日数が 5 日以上もしくは最低実習時間が 30 時間，２単位の修得には実習日数が 10 日以上もしくは最低実習時間が 60 時間である。平成 18 年度から，専攻科１年においても１単位のインターンシップを単位認定している。

また，平成 23 年度から外部講師を招いて本科４，５年を対象に CO-OP 教育講義を行い，最新の技術の動

向を学び，学生の就業意識を高める取り組みをしている（資料８－２－②，③）。

（分析結果とその根拠理由）

社会からの要請等に対応するために，様々な方策を施している。インターンシップは積極的に実施して単位認定を行っている。学外単位の取得に向けては，秋田県における大学，短期大学および高等専門学校間の単位互換に関する協定書により，秋田県内の大学との単位互換が可能である。平成23年度から外部講師を招いてCO-OP教育講義を行い，最新の技術の動向を学び，学生の就業意識を高める取り組みをしている。

以上のことから，社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮したものとなっている。

観点８－３　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の学生に対する進路指導に関しては，主に本科５年の学級担任が窓口となり，各学科長と連携しながら対応している。専攻科課程の学生に対しては，主に各専攻長が窓口となり，特別研究担当教員と連携して対応しており，いずれの課程も学生課事務職員の協力を得て進めている。

進路指導の一環として，本科４年には，就職講演会と保護者進路相談会を行っている。就職講演会は10月に行い，学生の就職，進学に対する興味と意欲の喚起に努めている。なお，就職講演会は専攻科１年も対象としている。11月に行われる保護者進路相談会では，学生，保護者，学級担任の間で進路に関する共通認識をもってもらい，希望や状況について相談して，進路情報を共有できるよう配慮している。専攻科１年には，１月下旬～２月上旬に進路相談週間を設け，学生，保護者，指導教員の間で進路に関する相談を行う。また，最先端の研究開発に従事している研究者や技術者を招いて，実体験も踏まえて研究開発の醍醐味や苦労を講演して頂く，最先端技術講演会を開催し，学生が進路を決定する上で助けになるような機会を設けている。

就職・進学のための資料は，学生課前の進路コーナーや各学科のコミュニティホールにおいて閲覧でき，過年度の本校の就職，進学の情報については学校のホームページで閲覧できるほか，学校だよりにも掲載している。

就職先の開拓や，進路に関する学生指導，支援などを円滑に行うために，進路対策委員会を設置している。また，学科長，本科４年学級担任，専攻長は，就職先を開拓するために企業訪問を行っている。

以上のようなきめ細かい学生への進路指導の結果，卒業時にはほぼ全員の進路が決定しており，常に就職率が100%近い状態を維持している。

（分析結果とその根拠理由）

本科の学生に対しては，主に本科５年の学級担任が窓口となり，専攻科の学生に対しては，主に各専攻長が窓口となり，関係教員と連携しながら学生課事務職員の協力を得て進路指導を進めている。

進路指導の一環として，就職講演会や保護者進路相談会などを行っており，学生，保護者，学級担任の間で進路に関する情報を共有できるよう配慮している。

就職先の開拓や，進路に関する学生指導，支援などを円滑に行うために，進路対策委員会を設置しているほか，学科長，本科４年学級担任，専攻長は，就職先を開拓するために企業訪問を行うなどの努力を重ねている。

以上のことから，就職や進学などの進路指導体制は整備されており，就職率が 100%近い状態を維持していることに示されているように，進路指導体制は機能している。

観点８－４　高等専門学校の教育サービスの目的に照らして，公開講座等の正規課程の学生以外に対する

教育サービスが計画的に実施されているか。

（観点に係る状況）

独立行政法人国立高等専門学校機構法には，その【業務の概要等】として「公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること」などが定められている。本校ではその趣旨に基づき，秋田高専規則集「第２章　組織・運営」において，秋田工業高等専門学校広報・地域交流委員会規則を定め，その【目的】を「本校の教育研究活動を学生，保護者，教職員，卒業生，関係機関，関係企業及び地域社会に対して行う広報活動並びに地域社会への貢献」としている。また，広報・地域交流委員会での【審議事項】を「公開講座に関すること，学校開放に関すること，生涯学習に関すること，その他必要な事項」と定めているが，本校では「公開講座」，「学校開放」，「地域の各種委員会への支援」，「研究生，聴講生，特別聴講学生及び科目等履修生」について教育サービスを実施している。

「学校開放」の一環としての「図書室の開放」に関しては，秋田高専規則集「第４章　図書館」の図書室使用規則（利用できる者）の項に，「図書室の利用を申し出た一般の利用者」を定めており，「正規課程の学生以外」の本校図書室の利用を認めている。また，秋田工業高等専門学校ホームページに「秋田工業高等専門学校図書館　利用案内（学外用）」ならびに「図書館利用案内ポスター」を掲載しており，利用者への便宜を図っている。平成21～25年度の「図書室の学外利用者数と利用冊数」を，資料８－４－①に示す。利用者数は平成22年度に低下しているが，平成23年度以降は増加の傾向が見られる。資料に示すように「図書室の学外利用者への開放」を毎年継続し，計画的に実施している。「学校開放」の一環としての「体育館やテニスコート等の構内施設」の開放に関しては，秋田高専規則集「第６章」に構内施設の一時使用内規を定めており，学校長の許可を受けた者は，施設を使用できることを定めている。ただし，施設を使用する者は，構内施設の一時使用内規に定めた「本校施設を一時使用しようとするものは，不動産一時使用許可申請書を総務課に提出し，学校長の許可を受けなければならない。」の手続きが必要である。平成21～25年度の「体育館やテニスコート等の構内施設」の利用件数および利用者数を，資料８－４－②に示す。このように「構内施設の学外利用者への開放」を毎年継続し，計画的に実施している。

広報・地域交流委員会規則の目的の一つとして「地域社会への貢献」があげられている。「地域の各種委員会」への支援として人的資源を派遣することは，地域社会に貢献することであり，高等専門学校の重要な役割の一つである。本校では，公的な外部の各種委員会へ教職員を派遣し，地域への貢献を果たしている。平成24，25年度における，公的な委員会の派遣先を示す（資料８－４－③）。資料に示すように「地域の公的な委員会」に，教職員を毎年継続的に派遣している。

「研究生制度，聴講生制度，特別聴講生制度」に関しては，秋田工業高等専門学校学則「第12章　研究生，聴講生，特別聴講学生及び科目等履修生」に，特定の専門事項に関し研究を志願する者（研究生），特定の授業科目についての聴講を志願する者（聴講生），特定の授業科目を履修することを志願する規定に基づく学生（特別聴講生）に対する制度が定められており，その受け入れ体制が整えられている。研究生については，平成22年度に１名入学を許可し，指導教員が研究指導を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，秋田高専規則集「第２章　組織・運営」において，広報・地域交流委員会規則を定め，その目的を「本校の教育研究活動を学生，保護者，教職員，卒業生，関係機関，関係企業及び地域社会に対して行う広報活動並びに地域社会への貢献に関すること」としている。広報・地域交流委員会での審議事項は，「公開講座に関すること，学校開放に関すること，生涯学習に関すること，その他必要な事項」と定めているが，本校では「公開講座」，「キャンパスツアー」，「学校開放」，「地域の各種委員会への支援」について毎年継続し，教育サービスを計画的に実施している。「研究生，聴講生，特別聴講学生及び科目等履修生」については，平成23年度以降は該当者がいないが，制度としては確立されており，希望者がある場合は規則に基づき実施できる。

以上のことから，高等専門学校の教育サービスの目的に照らして，公開講座等の正規課程の学生以外に

対する教育サービスが計画的に実施されている。

観点８－５　サービス享受者数やその満足度等から判断して，活動の成果が上がっているか。また，改善のためのシステムがあり，機能しているか。

（観点に係る状況）

「公開講座」，「キャンパスツアー」に関しては，資料８－５－①，②に示すように，毎年継続的に開催されており，活動の成果が上がっている。また，公開講座，キャンパスツアー実施後はアンケート調査を実施し，その満足度を調査（資料８－５－③，④）しており，その結果から，十分満足していることが伺える。これらのアンケート調査は，改善資料として利用されるとともに，広報・地域交流委員会において改善のための措置が講じられている（資料８－５－⑤）。このことから改善のためのシステムが存在し，そのシステムが機能している。

「地域の各種委員会への支援」に関しては，資料８－４－③から，多くの教職員を派遣し，人的資源の提供を通じ地域への貢献を果たしている。また，毎年継続的に委員派遣の要請があることから，活動成果が上がっている。

（分析結果とその根拠理由）

「公開講座」，「キャンパスツアー」に関しては毎年継続的に開催しており，活動の成果が上がっている。また，公開講座，キャンパスツアー実施後はアンケート調査を実施し，その満足度を調査しているが，受講者は十分満足しているという結果が得られている。これらアンケートの調査結果を改善資料として利用するとともに，広報・地域交流委員会を開催し，改善のための措置を講じている。

以上のことから改善のためのシステムが存在し，そのシステムが機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

特になし。

（改善を要する点）

特になし。

（３）項目８の自己評価の概要

本校学生の教育活動のため，積極的に企業や他大学，本校卒業生等を活用し，本校学生の教育活動に活用しているため，外部の教育資源を積極的に活用している。

社会からの要請等に対応するために，インターンシップは積極的に実施して単位認定を行っている。学外単位の取得に向けては，協定を交わし秋田県内の大学との単位互換が可能である。平成 23 年度から外部講師を招いて CO-OP 教育講義を行い，最新の技術の動向を学び，学生の就業意識を高める取り組みをしている。

本科の学生に対しては，主に本科５年の学級担任が窓口となり，専攻科の学生に対しては，主に各専攻長が窓口となり，関係教員と連携しながら学生課事務職員の協力を得て進路指導を進めている。進路指導の一環として，就職講演会や保護者進路相談会などを行っており，また，進路対策委員会を設置して，就職先を開拓するために企業訪問を行うなどの努力を重ねている。

本校では「公開講座」，「キャンパスツアー」，「学校開放」，「地域の各種委員会への支援」について毎年継続し，教育サービスを計画的に実施している。「公開講座」，「キャンパスツアー」に関しては毎年継続的に開催しており，活動の成果が上がっている。また，公開講座，キャンパスツアー実施後はアンケート調

査を実施し，その満足度を調査しているが，受講者は十分満足しているという結果が得られている。これらアンケートの調査結果を改善資料として利用するとともに，広報・地域交流委員会を開催し，改善のための措置を講じている。

「研究生，聴講生，特別聴講学生及び科目等履修生」については，平成 23 年度以降は該当者がいないが，制度としては確立されており，希望者がある場合は規則に基づき実施できる。

項目９　クラブ活動

（１）観点ごとの分析

観点９－１　学生の部活動，同好会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

運動部は顧問２人体制（一部クラブは３人），文化部，同好会は顧問１人体制（一部クラブは２人）でクラブ活動の指導に当たっている（資料９－１－①）。学生会の活動は，学生主事補がその指導に当たり，ロボコン，プロコン，デザコンは専門学科の教員および技術職員が指導に当たっている。外部コーチを依頼し，専門的に指導にあたるクラブには，後援会が財政的支援を行っている。後援会は，地区高専大会や全国大会の参加費用についても一部負担しており，クラブ活動を財政的に支援している。また，クラブ活動の円滑な実施と連携のために，クラブ指導教員会議を行っている。

部室等も整備されているほか，厚生会館２階は合宿所として利用できるよう整備されており，長期休業中のクラブ活動で利用されている。

高専大会以外にも，高等学校体育連盟，高等学校野球連盟，高等学校文化連盟や近隣の大学が主催の各種大会にも積極的に参加している。

ロボコン指導教員や工業技術実習センターにより，課外活動における学生のものづくり支援のために，「ものづくりオフィスアワー」を設置している（資料料９－１－②）。毎週１時間ロボコン指導教員や技術職員が，学生のものづくりについてのアドバイスやサポートを行っており，実習系の授業のスキルアップにもつながっている。

（分析結果とその根拠理由）

学校のクラブ指導体制は整備されており，クラブ指導教員会議で連携を図っている。部室等も整備されており，長期休業中の活動も支援している。外部コーチ，高専大会旅費については，後援会から財政的な支援がある。高専大会をはじめとした，各種大会にも積極的に参加をしている。

ロボコン指導教員らにより，「ものづくりオフィスアワー」を毎週１時間設置しており，学生の課外活動における，ものづくりの支援を実施している。

以上のことから，学生のクラブ活動などの課外活動に対する支援体制は整備されており，クラブ活動は活発に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

特になし。

（改善を要する点）

特になし。

（３）項目９の自己評価の概要

学校のクラブ指導体制は整備されており，長期休業中の活動も支援している。外部コーチ，高専大会旅費については，後援会から財政的な支援があり，各種大会にも積極的に参加をしている。さらに，ロボコン指導教員らにより，「ものづくりオフィスアワー」を毎週１時間設置しており，ものづくりの支援を実施している。

項目１０　学生寮生活

（1）観点ごとの分析

観点 10ー１　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

学生寮においても外国人留学生の生活をサポートしており，寮内の一部を外国人留学生フロアとして使用し，留学生専用のシャワー室および補食室などを完備している。留学生の要望を調査し，設備の変更や書類等の一部英文化を試みている。

（分析結果とその根拠理由）

外国人留学生を支援するための組織および施設が整備されており，活用されている。

観点 10ー２　学生寮は，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生寮は学校敷地内に設置され，管理棟のほか寮生の居室が４棟あり，その中には女子棟（東１号棟）１棟を含む。女子棟には留学生５名を含む 28 名がおり，寮全体では 172 名が在寮している（平成 26 年４月５日現在)。

寮内の設備は，各居室にベッド，シャッターケース，机および椅子が備え付けられ，その他各棟に共有施設と設備が整備されている。また，寮生の希望によりテレビ，パソコン，冷蔵庫を制限付きで許可している。

寮経費は，寄宿料，寮費，給食費を合わせて月額約 36,000 円で，その他，寮生会費が年額で 5,000 円である。

寮運営組織は，寮務委員会であるが，寮生指導は主に寮務主事（１名），主事補（３名）が行い，寮生の事務手続きは寮務事務係（２名）が担当している。教員，職員が交代で毎日宿日直勤務を行い，朝と夜に点呼を行い，在寮確認，寮生の指導等に対応している。また，寮長を中心とする寮生会が組織され，共同生活を円滑に行うために，寮生自身による運営が行われている。

寮生の居室は，２人部屋（本科１・２年）および個室（本科３～５年）を基本とするが，各棟各フロアには談話室が設けられ，寮生同士の交流が図られている。各棟に自学自習室を設置し，特に，低学年の２人部屋の寮生のために便宜を図っている（資料料１０－２－①)。また,パソコン室も設置し，有効に活用されている。定期試験が近づく時期には，食堂で共同学習会を開催し，勉強の情報交換や，先輩や宿直担当教員に質問等が活発に行われて有効利用されている。

寮スタッフ（主事・主事補）により，年４回行われる試験結果を担任から報告してもらい，寮生の成績および欠課時数を集計し，特に，目立つ寮生に対する指導を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

学生寮は学校敷地内にあるので，教育寮として位置づけられ，本科１年から留学生および専攻科学生まで，基本的には同一規則のもとに運営している。生活していくうえで十分な施設・設備を整えているほか，寮務委員会，寮務スタッフ（主事，主事補，寮務係）による管理および宿日直体制により，生活面全般に対する支援が行われている。勉学面でも学習時間の設定や共同学習会の開催，自学自習室の設置のほか，パソコン室も整備され有効に機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）
学習会や寮生の成績調査を行い，学習指導を行っている。

（改善を要する点）
特になし。

（３）項目 10 の自己評価の概要

学生寮は学校敷地内にあるので，教育寮として位置づけられ，本科１年から留学生および専攻科学生まで，基本的には同一規則のもとに運営している。外国人留学生を支援するための組織および施設も整備されており，活用されている。寮務スタッフなどによる管理および宿日直体制により，生活面全般に対する支援が行われている。勉学面でも学習時間の設定や共同学習会の開催，自学自習室の設置のほか，パソコン室も整備され有効に機能している。

項目１１　管理運営，財政

（1）観点ごとの分析

観点 11ー１　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

教育課程を適切に展開するために，本校には事務職員および技術職員が配置されている。技術職員は，以前は，実験実習係として学生課に属していたが，本校において編制された教育課程について，より機能的に支援することと，技術教育支援職員の能力・資質の更なる向上を目指し，平成 19 年度から技術教育支援センターに配置された。

本校の技術職員は，平成 17 年度から技術教育研究発表会（資料 11－１－①）を開催するなど，資質の向上に努めている。なお，科学研究費補助金を獲得している優秀な技術職員もいる。平成 26 年度には、技術職員１名を独立行政法人国立高等専門学校機構職員表彰の候補者として推薦し、高専機構から表彰されている。

（分析結果とその根拠理由）

効率的な人員配置により，教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置され，少人数ながらも水準の高い教育支援体制が保たれている。

また，技術職員は技術教育研究発表会を開催するなど，資質の向上に努めており，科学研究費補助金を獲得している優秀な技術職員もいる。

観点 11ー２　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意志決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

本校では，円滑な学校運営に資するため，教務主事，学生主事および寮務主事の各主事を置き，その役割は本校学則および運営組織規則に規定されている。

また，教務主事を副校長に，学生主事，寮務主事，専攻科長および地域共同テクノセンター長を校長補佐とし，校長を補佐する体制が整えられている。

それぞれの主事の所掌業務をはじめ，学内の各分野に係る課題に応じた事項を審議・検討し，校務の円滑な運営を図るため，秋田工業高等専門学校運営組織規則が制定されており，これを基に各種委員会等の内部組織が設置されている（資料 11－２－①）。各委員会の役割については，それぞれの委員会規則等で明確に示されている。加えて，各種委員会の下に，特定の事項を調査・検討するため，必要に応じた専門部会を置いており，その設置，審議事項，報告等について規則に明記している。

本校の管理運営に関する重要事項については，校長のリーダーシップの下，企画調整会議（毎月定例開催）において，企画・立案し，連絡調整を図り，総務委員会（随時開催）において審議し，教員会議（毎月定例開催）において教職員へ周知する体制をとっている。

なお，企画調整会議・教員会議は，緊急の課題等に対応して定例期日以外にも臨時で開催される。

企画調整会議，総務委員会，教員会議の構成メンバーは，以下のとおりとなっており，メンバー以外にもそれぞれ事務職員等が陪席し，課題等について認識の共有を図っている。

【企画調整会議】校長，副校長（教務主事），校長補佐（学生主事，寮務主事，専攻科長，地域共同テクノセンター長），事務部長，総務課長，学生課長

【総務委員会】校長，副校長（教務主事），校長補佐（学生主事，寮務主事，専攻科長，
地域共同テクノセンター長），各学科長および一般教科長，
情報処理センター長，技術教育支援センター長，実習工場主任，
学級担任会代表，事務部長，総務課長，学生課長
【教員会議】校長，副校長（教務主事），校長補佐（学生主事，寮務主事，専攻科長，
地域共同テクノセンター長），全教員，事務部長，総務課長，学生課長

（分析結果とその根拠理由）

学校の目的を達成するための体制（主事等）や内部組織（委員会等）が整備されており，それぞれの役割は，規則等により明確となっている。

また，校長を補佐する副校長および校長補佐を置き，必要に応じて諮問を行うことができる体制となっており，校長が校務全体を把握して，リーダーシップを発揮できるようになっている。

加えて，管理運営の重要事項は，企画調整会議において企画・立案・連絡調整を行い，総務委員会において審議するという役割が明確化しており，効果的な意志決定が行われている。

その他の各委員会についても，規則で役割等が定められており，必要に応じた専門部会においてもそれは同様である。

以上のことから，本校においては，学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意志決定が行える態勢となっている。

観点 11－３　管理運営の諸規程が整備され，各種委員会および事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また，危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

秋田工業高等専門学校運営組織規則をはじめ，各種委員会規則等が整備されており，本校グループウェアへ掲載している。なお，制定・改廃が必要となった規則は，総務委員会で審議のうえ，校長決裁を経て，本校グループウェアへ掲載している。

また，主要委員会の議事要旨についてもグループウェアを通じて全教職員に周知されている。

本校の管理運営に関する重要事項については，企画調整会議（毎月定例開催）において，企画・立案し，連絡調整を図り，総務委員会（随時開催）において審議し，教員会議（毎月定例開催）において教職員へ周知する体制をとっている。（企画調整会議，教員会議については，必要に応じて臨時で開催することもある。）

各種委員会の役割分担については，秋田工業高等専門学校運営組織規則（およびそれぞれの委員会規則）に定められており，必要に応じて開催し，所掌する業務について審議等を行っている。

加えて，本校グループウェアに管理システムを構築しているＰＤＣＡサイクル（資料 11－３－①）を活用することにより，各委員会間で情報共有が容易となり，より効果的に活動できる体制となっている。

事務組織の役割分担については，秋田工業高等専門学校事務組織規則および秋田工業高等専門学校事務分掌規則に定められており，加えて，事務部内の連絡を緊密にし，より円滑な事務運営を図るため，事務連絡会を毎月開催している。

事務運営は概ね問題なく行われているが，平成 24 年４月 12～13 日に行われた会計検査院実地検査において，品名差し替えや前年度納入，翌年度納入の不適正な経理処理が判明した。これは，教職員の認識不足と，調査対象となった平成 19 年度から平成 22 年度当時は事務担当者による検収が行われていなかったことが大きな原因と推定され，該当教職員の処分を行うとともに，今後の適正な会計処理に向け次の対策を講じた。平成 23 年９月から検収体制を整備し，すべての物品を発注者以外の事務担当者が検収する体制とし，取引業者へも検収への協力について文書により依頼した。さらに，平成 24 年 10 月から教員発注を全面禁止し，教員に周知・徹底するとともに，取引業者に対しても教員発注を禁止したことを文書により

通知した。また、平成25年10月２日付けで「秋田工業高等専門学校における適正な会計処理及び資産管理の徹底について」を決定し，教職員に周知した。その中で，毎年外部から講師を招聘し，全教職員を対象とする「公的研究費等の不正使用防止に関する研修」を開催し，教職員全員の参加を義務付けることとした。加えて，平成26年７月１日付けで「秋田工業高等専門学校物品検収室設置要領」を専門学校会計内部監査実施要項」を改正し，業者からの誓約書を３年に１回提出，教職員からの誓約書を５年に１回提出することとした。

本校における危機管理体制としては，平成 23 年度に秋田工業高等専門学校危機管理規則を定め，リスク管理室を設置し，危機管理に関する諸問題に対応するための体制を整えるとともに，秋田工業高等専門学校防災総合マニュアルを作成し，本校における災害発生時の対応について定めている。

リスク管理室においては，校長を室長とし，そのリーダーシップの下に危機管理に関する諸問題に対応することとしている。特に緊急を要する事象については，校長を本部長とした対策本部を設置し，迅速かつ的確に対応することとしており，必要に応じ見直しを図ることとしている。

非常時の連絡手段としては，学生・保護者・教職員向けの緊急メールシステムを運用しており，緊急時に迅速な情報伝達を行うことのできる体制となっている。

災害時の備えとしては，食料品や日用品等の備蓄品を整備しており，東北地区の６高専間で備蓄品の情報を共有し，状況に応じて融通し合うことのできる体制となっている。

（分析結果とその根拠理由）

管理運営の諸規則が整備されており，必要に応じて規則の制定・改廃が行うことのできる体制となっている。また，各委員会の役割も明確になっている。また，事務組織についても規則により定められており，各部署の役割が明確になっている。平成24年に不適正な経理処理が判明したが，適切な検収の徹底や研修，会計関連規則の改正等の対策を講じており，２度と不適正経理処理が行われないよう運用している。

以上のことから，管理運営に関する各種委員会および事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動していると判断される。

危機管理については，危機管理体制や対処方法等が規則により定められており，リスク管理室を中心に迅速かつ的確に対応できる体制となっている。また，防災総合マニュアルを作成し，本校における災害発生時の対応について定めている。

観点 11－４　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の自己点検・評価は，自己点検・評価委員会で行われ，５年間を１サイクルとして全項目の評価を行っている。過去に平成６，10，16，21 年度に行われており，その結果については報告書に取りまとめ，関係機関に送付したほか，本校ホームページにも公表されている。平成26年度にも「秋田高専自己点検・評価報告書」として報告書にまとめ，関係機関に送付し，ホームページにも公表する予定である。本校で策定した点検・評価項目は，「１教育理念・目標等」，「２教育活動」，「３研究活動」，「４教員組織」，「５施設設備」，「６国際交流」，「７生涯学習への対応」，「８社会との連携」，「９クラブ活動」，「10 学生寮生活」，「11 管理運営，財政」および「12 その他必要な項目」である。本校の自己点検・評価は，サイクルが同じである中期目標・中期計画の取りまとめを行う際に，これらの項目を盛り込んだ点検・評価を行っている。

本校の第三者評価については，平成18年度に JABEE を受審した。平成19年５月に JABEE 認定を受け，認定証は本校ホームページに公表されている（資料11－４－①）。JABEE に関しては，平成20年度，平成23年度に継続審査を受審し認定を継続しており平成26年度も継続審査を受審した。

また，平成16年度および平成23年度に受審した専攻科審査においても科目担当者および特別研究担当教員が認定され，現在に至っている。機関別認証評価についても，平成19年度及び平成26年度に受審し

ている。

（分析結果とその根拠理由）
自己点検・評価は，本校の活動の総合的な状況に対して行われており，評価結果は報告書としてまとめられ，ホームページでも公表されている。

観点 11－５　自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）
本校の外部評価については，参与会（外部有識者による評価機関）により平成 17 年度より行われ，自己点検・評価の内容を含んだ中期目標・中期計画等を検証している。また，参与会における外部有識者の評価については，毎回議事要旨を作成し，グループウェアにおいて校内に公表している。

（分析結果とその根拠理由）
本校で行った自己点検・評価については，外部有識者による評価機関を設け，定期的に検証を受けていることから，適正に検証が実施されている。

観点 11－６　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）
秋田高専自己点検・評価報告書に対する外部有識者の意見・評価に基づき改善すべき事項について，本校の各委員会等においてＰＤＣＡサイクルに基づいた改善策が図られ実施されている。
改善事例としては，グループウェア内のＰＤＣＡサイクル管理システムで具体的改善事例が確認できる体制となっている（資料 11－３－①）。
中期目標・中期計画に対する検証も年度毎に実施されており，前年度の活動実績を踏まえてより改善された活動に取り組めるよう次年度計画に反映させるようになっている。

（分析結果とその根拠理由）
ＰＤＣＡサイクル管理システムの導入により，評価結果から得られた改善事項だけでなく，組織全体の問題事項や改善の進捗状況を把握しやすくなり，本校の目的の達成のための改善が行いやすくなっている。

観点 11－７　外部有識者の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）
独立行政法人化後の本校における管理運営，教育研究活動全般にわたる助言や提言を得るために，学外有識者７名による参与会が平成 17 年度より設置されている。
参与会において自己点検・評価の内容についてのヒアリング，学内施設見学，質疑応答等の評価，提言がなされている。
外部評価での講評，提言を受け，①国際交流に関しては，フランスのリールＡ技術短期大学をはじめとした海外教育機関との協定・連携の拡大と学生の海外派遣および海外インターンシップを実践している。さらに，ＪＩＣＡへの協力を発展させたベトナム国重化学工業人材育成支援プロジェクトにおける教員の派遣など着実に実績を上げている。②広報に関しては，刊行物の活用と学校行事・教育・研究活動状況等を積極的にホームページに掲載するとともに，マスコミへアピールすることにより，地元の新聞・テレビ等に従前より高い頻度で掲載・報道されるようになり，地域社会により広く認知されるようになってきて

いる。③地域連携に関しては，地域共同テクノセンターコーディネータ３名を中心に，きめ細かな県内企業訪問を継続して行うことで，本校と地域企業との相互理解を深めており，平成 25 年度からは教育コーディネータの活用による共同教育にも取組み，共同研究等地域連携協力の土壌が育ってきている。また，本校の特徴的活動として，周辺町内会との懇談会を定期的に開催し，平成 25 年度からは学生の校外指導に町内会より協力を得ることができるなど，身近な地域連携も充実してきている。④入学志願者確保に関しては，今後の学科再編やモデルコアカリキュラムの導入といった体制の整備改革をはじめ，男女共同参画における女性教員の登用や女子学生の志願者数増などの課題を踏まえたＰＲ方法について，従来の実績を見直し，工夫を加えて実践している。

（分析結果とその根拠理由）
外部有識者からの講評，提言を受け，それを次年度の年度計画・目標に反映することができている。

観点 11－８　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）
本校における教育研究活動等の状況に関する情報発信手段は，ホームページのほか，刊行物として学校要覧，学校案内，リーフレット，授業計画，教育活動と研究成果の広報，学生便覧，研究紀要，学校だより，国際交流室だより，青雲通信（寮）などがあり，それぞれ定期に発行している。
このほか，本校の状況をまとめた資料として自己点検・評価報告書が５年に１度，JABEE 自己点検書および機関別認証評価自己評価書はそれぞれ審査受審毎に取りまとめられる。
JABEE 自己点検書を除く刊行物等に掲載されている情報を，学校教育施行法規則第 172 条の２に示された主な項目について示す（資料 11－８－①）。教員の業績についてもホームページ上に公開されているほか，地域共同テクノセンター報，秋田高専研究シーズ集など刊行物を発行しており，それぞれホームページ上に公開されており，広く一般社会に対して情報発信を行っている。

（分析結果とその根拠理由）
本校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報は，刊行物およびホームページによって広くわかりやすく社会に発信している。

観点 11－９　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）
本校の目的に沿った教育研究活動を将来的に適切かつ安定して遂行するために必要な校地・校舎・設備等の資産を有している。また，本校に債務はない。

（分析結果とその根拠理由）
本校の資産は，平成 16 年４月１日の独立行政法人化に伴い，政府から独立行政法人国立高等専門学校機構に出資され，本校が使用している。
また，起債は高専機構が一括して行うため，本校独自の債務はない。

観点 11－10　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）
本校の経常的自己収入は，授業料・入学料・検定料・職員宿舎貸付料・寄宿料のほか，財産貸付料等の雑収入であり，事業遂行に必要な経費から自己収入額を差し引いたものが高専機構から「運営費交付金」として措置され，配分されている。運営費交付金については，国から高専機構を通じて，今後も継続的に交付されるものであり，経常的収入は安定的に確保されている。

（分析結果とその根拠理由）
本校の主な経常的自己収入は，学生からの諸納付金（授業料，入学料等）であるが，入学志願倍率は1.3倍程度を維持しており，継続的収入を確保している。
また，運営費交付金については，国から高専機構を通じて，継続的に交付されており，安定的に確保されている。

観点 11－11　学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行しているか。

（観点に係る状況）
外部の財務資源としては，科学研究費補助金，企業等からの受託研究費，共同研究費，受託事業，受託試験，寄附金等であるが，これらについては，定期開催の教員会議において，直近の外部資金受入決定状況を全教員に報告し，さらなる受入について協力依頼している。これにより，ここ数年間の受入金額は一定の水準を維持しており，平成21～25年度は，約三千万円以上を受け入れている。

（分析結果とその根拠理由）
外部の財務資源については，全教員への受入決定状況の報告とさらなる受入についての協力依頼，獲得のための講習会の開催，公募情報の提供などを行い収入増に努めている。
受け入れた外部資金は，主に教育研究活動および管理運営のために有効活用している。

観点 11－12　学校の目的を達成するための活動の財務資源の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）
予算に係る計画については，企画調整会議・総務委員会において学内予算配分方針を審議のうえ決定し，その方針により適正に配分しており，教職員予算配分書を配付し，周知している。

（分析結果とその根拠理由）
各年度の予算に係る計画については，企画調整会議・総務委員会で審議し承認された学内予算配分方針に基づき適正に配分しており，教職員に学内予算配分書を配付し周知している。

観点 11－13　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）
高専機構会計規則第17条により，高専機構理事長は，毎事業年度開始前に独立行政法人通則第31条第１項に定める年度計画に基づいて予算実施計画を作成し，これに基づいて収入および支出を管理しなければならない。
また，同規則第18条より第17条で作成した予算実施計画に基づく予算額を各高専契約担当者（事務部長）および出納役（総務課長）に通知するものとされている。
本校では，高専機構から通知される事業年度ごとの収支予算額に基づき執行計画を策定し，予算額の範

囲内での支出に努めており，過大な支出超過とはなっていない。

（分析結果とその根拠理由）
高専機構会計規則第 18 条により通知された予算額をもって執行計画を策定し，収支はバランスのとれたものとなっており，過大な支出超過とはなっていない。
ただし，平成 17 年度以降，効率化△１％が適用され，運営費交付金は毎事業年度減額されていることから，さらなる効率的な予算執行を図る必要がある。

観点 11－14　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）
予算の配分方針は，企画調整会議・総務委員会で審議・承認を得ることとしており，その際，本校の中期目標・中期計画を達成するための事項を考慮しつつ配分方針の検討を行っている。
なお，校長裁量経費を設けることにより，柔軟な予算執行を図るとともに，教育研究上特に必要とされる経費については，教育研究活動の活性化のため各学科，教員等からの申請により予算を重点的に配分する学内教育研究プロジェクト経費を設け，ヒアリング等により重点的に配分している。
また，施設整備については，総務委員会において全学的な見地から検討し，資源の効率的な配分を行っている。

（分析結果とその根拠理由）
予算配分は，基本方針が示され，議論がなされたうえで決定している。校長裁量経費，創造教育支援経費，プロジェクト研究経費は，ヒアリング等により十分検討したうえで決定している。

観点 11－15　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）
国立高等専門学校機構のホームページに機構全体の財務諸表等が掲載されている。また，外部監査として，会計検査院による会計実施検査，監事による監査，監査法人による監査が行われている。さらに，内部監査として，毎年度他高専の職員による高専相互会計内部監査と本校職員による学内会計内部監査も実施されている。

（分析結果とその根拠理由）
国立高等専門学校機構のホームページに機構全体の財務諸表等が掲載されており，適切な形で公表されている。また，各種監査も適切な形で行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）
特になし。

（改善を要する点）
特になし。

（3）項目 11 の自己評価の概要

学校の目的を達成するための体制や内部組織が整備されており，それぞれの役割は，規則等により明確となっている。また，校長を補佐する副校長および校長補佐を置き，校長が校務全体を把握して，リーダーシップを発揮できるようになっている。

管理運営の重要事項は，企画調整会議において企画・立案・連絡調整を行い，総務委員会において審議するという役割が明確化しており，効果的な意志決定が行われている。その他の各委員会および各専門部会についても，規則で役割等が定められている。また，事務組織についても規則により定められており，各部署の役割が明確になっている。

危機管理については，危機管理体制や対処方法等が規則により定められており，リスク管理室を中心に迅速かつ的確に対応できる体制となっている。また，防災総合マニュアルを作成し，本校における災害発生時の対応について定めている。

独立行政法人化後の本校における管理運営，教育研究活動全般にわたる助言や提言を得るために，学外有識者７名による参与会が設置されている。参与会において，ヒアリング，学内施設見学，質疑応答が行われ，外部評価での講評，提言を受け，本校の管理運営に反映されている。

自己点検・評価，外部評価，第三者評価が，本校の活動の総合的な状況に対して行われており，評価結果は報告書としてまとめられ，ホームページでも公表されている。

本校の主な経常的自己収入は学生からの諸納付金（授業料，入学料等）であるが，入学志願倍率は 1.3 倍程度を維持しており，継続的収入が確保されている。また，運営費交付金については，国から高専機構を通じて，継続的に交付されている。

外部の財務資源については，全教員への受入決定状況の報告とさらなる受入についての協力依頼，獲得のための講習会の開催，公募情報の提供などを行い収入増に努めている。これにより，ここ数年間の受入金額は一定の水準を維持している。受け入れた外部資金は，主に教育研究活動および管理運営のために有効活用されている。

各年度の予算は，企画調整会議・総務委員会で審議し承認された学内予算配分方針に基づき適正に配分されている。収支はバランスのとれたものとなっており，過大な支出超過とはなっていない。また，校長裁量経費，創造教育支援経費，プロジェクト研究経費は，ヒアリング等により十分検討したうえで配分されている。

外部監査として，会計検査院による会計実施検査，監事による監査，監査法人による監査が行われている。さらに，内部監査として，毎年度他高専の職員による高専相互会計内部監査と本校職員による学内会計内部監査も実施されている。

項目 12　その他必要な項目

該当する項目なし。

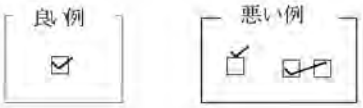
項目１　教育理念・目標等

資料１－２－①

（全学生）

「学校の目的」と「学習等の諸制度」に関するアンケート　回答用紙

注１：隣の文字枠やマーク枠にはみださないように記入してください。
枠の中に大きく記入してください。
HB の鉛筆・シャープペンシルで記入してください。



基本項目

Q0-1　学年　１年 □　２年 □　３年 □　４年 □　５年 □　専１ □　専２ □

Q0-2　学科　M □　E □　C □　B □　生 □　環 □

設問

注２：以下の設問には、必ず問題用紙を読んだ上で回答すること。

		1	2	3	4	5
Q1	本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか?	□	□	□	□	□
Q2	学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」書かれていることを知っていますか?	□	□	□	□	□
Q3	準学士課程の教養教育に設定されている、目標に対応する教科が分かりますか?	□	□	□	□	□
Q4	準学士課程の専門教育に設定されている、目標に対応する教科が分かりますか?	□	□	□	□	□
Q5	専攻科課程に設定されている、目標に対応する教科が分かりますか?	□	□	□	□	□
Q6	オフィスアワーの制度を知っていますか?	□	□	□	□	□
Q7	オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか?	□	□	□	□	□
Q8	オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする程度はどの程度ですか?	□	□	□	□	□
Q9	自主学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか?	□	□	□	□	□
Q10	成績評価・単位認定規定の説明を受け、理解していますか?					

□ □ □ □ □

Q11　進級規定の説明を受け、理解していますか?

□ □ □ □ □

Q12　（準学士課程（5年）のみ）卒業認定規定の説明を受け、理解していますか?

□ □ □ □ □

Q13　（専攻科課程のみ）専攻科修了認定規定の説明を受け、理解していますか?

□ □ □ □ □

Q14　学習支援に関する学生のニーズがあれば意見をお聞かせください（自由記述）

（出典　平成25年度　自己点検・評価に係わるアンケート回答用紙(学生用)）

資料１－２－②

（教職員向）

「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知に関するアンケート　回答用紙

注１：隣の文字枠やマーク枠にはみださないように記入してください。
枠の中に大きく記入してください。
HB の鉛筆・シャープペンシルで記入してください。

良い例 ☑　　悪い例 ☑ ☑

基本項目

Q0-1　教職員　　常勤教員 □　非常勤講師 □　常勤職員 □　非常勤職員 □

設問

注２：以下の設問には、必ず問題用紙を読んだ上で回答すること。

		1	2	3	4	5
Q1	本校には明文化された「学校の目的」が明確に定められていることを知っていますか?	□	□	□	□	□
Q2	学校要覧や学生便覧などに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか?	□	□	□	□	□
Q3	準学士課程の教養教育に設定されている、目標に対応する教科が分かりますか？	□	□	□	□	□
Q4	準学士課程の専門教育に設定されている、目標に対応する教科が分かりますか？	□	□	□	□	□
Q5	専攻科課程に設定されている目標に対応する教科が分かりますか？	□	□	□	□	□
Q6	秋田高専のアドミッションポリシーを知っていますか?	□	□	□	□	□

（出典　平成 25 年度　自己点検・評価に係わるアンケート回答用紙(教職員用)）

資料１－２－③

「学校の目的」と「学習等の諸制度」に関するアンケート集計結果（学生（準学士課程））

2014年度　集計結果

学年- 全学年 / 学科- 機械工学科

集計枚数 - 209 枚

設問 1　47.6 | 2.9 | 8.2 | 2.9 | 38.5　％ 平均: 2.817 (回答数 208)
本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？

設問 2　34.4 | 3.8 | 40.7 | 3.3 | 17.7　％ 平均: 2.660 (回答数 209)
学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか？

設問 3　21.1 | 21.5 | 39.7 | 11 | 6.7　％ 平均: 2.608 (回答数 209)
準学士課程の教養教育では、以下に示す(A)～(C)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(A)自らの意志を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて習得する。
(B)工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意志の疎通ができる実践的な英語能力を習得する。

設問 4　19.1 | 22 | 37.8 | 13.9 | 7.2　％ 平均: 2.679 (回答数 209)
準学士課程の専門教育では、以下に示す(D)～(F)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。
(E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を習得する。
(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

設問 5　29.7 | 19.8 | 33.7 | 8.9 | 7.9　％ 平均: 2.455 (回答数 101)
専攻科課程では、以下に示す(1)～(3)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(1)自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を習得する。
(2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を習得する。
(3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を習得する。

設問 6　17.3 | 18.8 | 30.3 | 21.6 | 12　％ 平均: 2.923 (回答数 208)
オフィスアワーの制度を知っていますか？オフィスアワーとは、学生が自由に教員に質問できる時間です。

設問 7　55.8 | 12.5 | 23.6 | 4.3 | 3.8　％ 平均: 1.880 (回答数 208)
オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？本校では全教員がオフィスアワーを設定しており、研究室の前に時刻を示しています。

設問 8　23 | 29.2 | 28.2 | 12.9 | 6.7　％ 平均: 2.512 (回答数 209)
オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？

設問 9　13.9 | 20.7 | 34.6 | 17.3 | 13.5　％ 平均: 2.957 (回答数 208)
自主的学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか？

設問 10　5.3 | 10.5 | 41.1 | 28.2 | 14.8　％ 平均: 3.368 (回答数 209)
成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、最初の授業(ガイダンス)で説明される項目です。

設問 11　4.9 | 10.7 | 42.7 | 26.2 | 15.5　％ 平均: 3.369 (回答数 206)
進級規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。

設問 12　13.5 | 14.6 | 43.8 | 15.6 | 12.5　％ 平均: 2.990 (回答数 96)
(準学士課程(5年)のみ)卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。

設問 13　26.8 | 12.5 | 41.1 | 10.7 | 8.9　％ 平均: 2.625 (回答数 56)
(専攻科課程のみ)専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ガイダンスなどで説明される項目です。

回答選択肢　まったく利用・理解していない　あまり利用・理解していない　ある程度利用・理解している　利用・理解している　よく利用・理解している

2014年度　集計結果

学年- 全学年 / 学科- 電気情報工学科

集計枚数 - 208 枚

設問 1　48.1　47.6　5 平均 3.010 (回答数 208)
本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？

設問 2　36.1　43.3　19.7　5 平均 2.663 (回答数 208)
学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか？

設問 3　23.6　25　36.5　7.7　7.2　5 平均 2.500 (回答数 208)
準学士課程の教養教育では、以下に示す(A)～(C)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(A)自らの意志を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて習得する。
(B)工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意志の疎通ができる実践的な英語能力を習得する。

設問 4　23.1　22.1　38.5　10.1　6.2　5 平均 2.543 (回答数 208)
準学士課程の専門教育では、以下に示す(D)～(F)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。
(E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を習得する。
(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

設問 5　46.1　16.7　28.4　4.9　3.9　5 平均 2.039 (回答数 102)
専攻科課程では、以下に示す(1)～(3)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(1)自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を習得する。
(2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を習得する。
(3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を習得する。

設問 6　12.5　10.1　17.8　34.1　25.5　5 平均 3.500 (回答数 208)
オフィスアワーの制度を知っていますか？オフィスアワーとは、学生が自由に教員に質問できる時間です。

設問 7　65.4　13.9　15.4　5.3　5 平均 1.644 (回答数 208)
オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？本校では全教員がオフィスアワーを設定しており、研究室の前に時刻を示しています。

設問 8　24　30.3　28.8　8.7　7.2　5 平均 2.447 (回答数 208)
オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？

設問 9　7.7　17.8　35.1　21.6　17.8　5 平均 3.240 (回答数 208)
自主的学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか？

設問 10　2.4　6.7　34.6　38　18.3　5 平均 3.630 (回答数 208)
成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、最初の授業(ガイダンス)で説明される項目です。

設問 11　2.4　3.9　36.2　34.3　23.2　5 平均 3.720 (回答数 207)
進級規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。

設問 12　16.1　12.9　46.8　17.7　6.5　5 平均 2.855 (回答数 62)
(準学士課程(5年)のみ)卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。

設問 13　23.8　14.3　47.6　9.5　4.8　5 平均 2.571 (回答数 21)
(専攻科課程のみ)専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ガイダンスなどで説明される項目です。

回答選択肢　□まったく利用・理解していない　□あまり利用・理解していない　□ある程度利用・理解している　□利用・理解している　□よく利用・理解している

2014年度　集計結果

学年- 全学年 / 学科- 物質工学科

集計枚数 - 200 枚

設問 1　54 | 3 | 3 | 39　平均: 2.680 (回答数 200)
本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？

設問 2　39.7 | 1.5 | 39.7 | 2 | 17.1　平均: 2.553 (回答数 199)
学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか？

設問 3　23 | 21 | 43 | 9 | 4　平均: 2.500 (回答数 200)
準学士課程の教養教育では、以下に示す(A)～(C)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(A)自らの意志を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて習得する。
(B)工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意志の疎通ができる実践的な英語能力を習得する。

設問 4　21.5 | 23 | 40 | 10 | 5.5　平均: 2.550 (回答数 200)
準学士課程の専門教育では、以下に示す(D)～(F)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。
(E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を習得する。
(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

設問 5　35.9 | 19.2 | 30.8 | 9 | 5.1　平均: 2.282 (回答数 78)
専攻科課程では、以下に示す(1)～(3)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(1)自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を習得する。
(2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を習得する。
(3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を習得する。

設問 6　17.1 | 18.1 | 21.6 | 21.6 | 21.6　平均: 3.126 (回答数 199)
オフィスアワーの制度を知っていますか？オフィスアワーとは、学生が自由に教員に質問できる時間です。

設問 7　56.5 | 12 | 20.5 | 4.5 | 6.5　平均: 1.925 (回答数 200)
オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？本校では全教員がオフィスアワーを設定しており、研究室の前に時刻を示しています。

設問 8　18 | 26 | 37 | 10.5 | 8.5　平均: 2.655 (回答数 200)
オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？

設問 9　11.1 | 16.1 | 31.2 | 26.1 | 15.6　平均: 3.191 (回答数 199)
自主的学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか？

設問 10　5.5 | 10.5 | 37 | 31 | 16　平均: 3.415 (回答数 200)
成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、最初の授業(ガイダンス)で説明される項目です。

設問 11　7 | 9 | 37 | 29 | 18　平均: 3.420 (回答数 200)
進級規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。

設問 12　15.1 | 17.8 | 43.8 | 15.1 | 8.2　平均: 2.836 (回答数 73)
(準学士課程(5年)のみ)卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。

設問 13　27.3 | 27.3 | 29.5 | 9.1 | 6.8　平均: 2.409 (回答数 44)
(専攻科課程のみ)専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ガイダンスなどで説明される項目です。

回答選択肢　□ まったく利用・理解していない　□ あまり利用・理解していない　■ ある程度利用・理解している　□ 利用・理解している　■ よく利用・理解している

2014年度　集計結果

学年- 全学年 / 学科- 環境都市工学科

集計枚数 - 183 枚

設問 1　43.7 / 4.4 / 9.8 / 3.8 / 38.3　平均: 2.885 (回答数 183)
本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？

設問 2　37.2 / 5.5 / 42.6 / 2.7 / 12　平均: 2.470 (回答数 183)
学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか？

設問 3　23.1 / 15.9 / 42.9 / 11 / 7.1　平均: 2.632 (回答数 182)
準学士課程の教養教育では、以下に示す(A)～(C)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(A)自らの意志を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて習得する。
(B)工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意志の疎通ができる実践的な英語能力を習得する。

設問 4　20.9 / 21.4 / 39.6 / 12.1 / 6　平均: 2.610 (回答数 182)
準学士課程の専門教育では、以下に示す(D)～(F)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。
(E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を習得する。
(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

設問 5　28.9 / 21.1 / 39.5 / 5.3 / 5.3　平均: 2.368 (回答数 114)
専攻科課程では、以下に示す(1)～(3)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(1)自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を習得する。
(2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を習得する。
(3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を習得する。

設問 6　21.4 / 15.9 / 26.9 / 24.7 / 11　平均: 2.879 (回答数 182)
オフィスアワーの制度を知っていますか？オフィスアワーとは、学生が自由に教員に質問できる時間です。

設問 7　51.1 / 13.7 / 24.2 / 6.6 / 4.4　平均: 1.995 (回答数 182)
オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？本校では全教員がオフィスアワーを設定しており、研究室の前に時刻を示しています。

設問 8　23 / 24.6 / 37.2 / 7.7 / 7.7　平均: 2.525 (回答数 183)
オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？

設問 9　12.1 / 18.7 / 36.8 / 19.8 / 12.6　平均: 3.022 (回答数 182)
自主的学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか？

設問 10　6.6 / 12.1 / 39 / 23.6 / 18.7　平均: 3.357 (回答数 182)
成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、最初の授業(ガイダンス)で説明される項目です。

設問 11　8.9 / 7.8 / 40.2 / 26.8 / 16.2　平均: 3.335 (回答数 179)
進級規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。

設問 12　20 / 12.2 / 48.9 / 10 / 8.9　平均: 2.756 (回答数 90)
(準学士課程(5年)のみ)卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。

設問 13　23.1 / 15.4 / 44.6 / 6.2 / 10.8　平均: 2.662 (回答数 65)
(専攻科課程のみ)専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ガイダンスなどで説明される項目です。

回答選択肢　□まったく利用・理解していない　□あまり利用・理解していない　■ある程度利用・理解している　□利用・理解している　■よく利用・理解している

(出典　平成 25 年度　自己点検・評価に係わるアンケート調査結果)

資料１－２－④

「学校の目的」と「学習等の諸制度」に関するアンケート集計結果（学生（専攻科課程））

2014年度　集計結果

学年- 全学年 / 学科- 生産システム工学専攻

集計枚数 - 30 枚

設問 1　33.3 | 3.3 | 10 | 3.3 | 50　平均: 3.333 (回答数 30)
本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？

設問 2　20 | 3.3 | 46.7 | 3.3 | 26.7　平均: 3.133 (回答数 30)
学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか？

設問 3　0 | 37.5 | 50 | 12.5 | 0　平均: 2.750 (回答数 8)
準学士課程の教養教育では、以下に示す(A)～(C)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(A)自らの意志を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて習得する。
(B)工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意志の疎通ができる実践的な英語能力を習得する。

設問 4　0 | 37.5 | 50 | 12.5 | 0　平均: 2.750 (回答数 8)
準学士課程の専門教育では、以下に示す(D)～(F)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。
(E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を習得する。
(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

設問 5　3.4 | 37.9 | 27.6 | 20.7 | 10.3　平均: 2.966 (回答数 29)
専攻科課程では、以下に示す(1)～(3)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(1)自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を習得する。
(2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を習得する。
(3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を習得する。

設問 6　3.3 | 6.7 | 16.7 | 36.7 | 36.7　平均: 3.967 (回答数 30)
オフィスアワーの制度を知っていますか？オフィスアワーとは、学生が自由に教員に質問できる時間です。

設問 7　26.7 | 20 | 36.7 | 13.3 | 3.3　平均: 2.467 (回答数 30)
オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？本校では全教員がオフィスアワーを設定しており、研究室の前に時刻を示しています。

設問 8　6.7 | 23.3 | 43.3 | 20 | 6.7　平均: 2.967 (回答数 30)
オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？

設問 9　6.7 | 6.7 | 26.7 | 43.3 | 16.7　平均: 3.567 (回答数 30)
自主的学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか？

設問 10　0 | 16.7 | 30 | 23.3 | 30　平均: 3.667 (回答数 30)
成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、最初の授業(ガイダンス)で説明される項目です。

設問 11　6.7 | 13.3 | 30 | 23.3 | 26.7　平均: 3.500 (回答数 30)
進級規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。

設問 12　0 | 40 | 20 | 40 | 0　平均: 3.000 (回答数 5)
(準学士課程(5年)のみ)卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。

設問 13　3.4 | 17.2 | 41.4 | 20.7 | 17.2　平均: 3.310 (回答数 29)
(専攻科課程のみ)専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ガイダンスなどで説明される項目です。

回答選択肢　□まったく利用・理解していない　□あまり利用・理解していない　■ある程度利用・理解している　□利用・理解している　■よく利用・理解している

2014年度　集計結果

学年- 全学年 / 学科- 環境システム工学専攻

集計枚数 - 18 枚

設問 1　本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？
55.6 | 5.6 | 5.6 | 11.1 | 22.2
平均: 2.389 (回答数 18)

設問 2　学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか？
33.3 | 5.6 | 33.3 | 0 | 27.8
平均: 2.833 (回答数 18)

設問 3　準学士課程の教養教育では、以下に示す(A)～(C)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(A)自らの意志を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて習得する。
(B)工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意志の疎通ができる実践的な英語能力を習得する。
41.7 | 33.3 | 16.7 | 8.3 | 0
平均: 1.917 (回答数 12)

設問 4　準学士課程の専門教育では、以下に示す(D)～(F)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。
(E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を習得する。
(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。
25 | 41.7 | 16.7 | 16.7 | 0
平均: 2.250 (回答数 12)

設問 5　専攻科課程では、以下に示す(1)～(3)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(1)自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を習得する。
(2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を習得する。
(3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を習得する。
33.3 | 27.8 | 22.2 | 11.1 | 5.6
平均: 2.278 (回答数 18)

設問 6　オフィスアワーの制度を知っていますか？オフィスアワーとは、学生が自由に教員に質問できる時間です。
5.6 | 0 | 22.2 | 27.8 | 44.4
平均: 4.056 (回答数 18)

設問 7　オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？本校では全教員がオフィスアワーを設定しており、研究室の前に時刻を示しています。
55.6 | 16.7 | 27.8 | 0
平均: 1.722 (回答数 18)

設問 8　オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？
11.1 | 38.9 | 22.2 | 11.1 | 16.7
平均: 2.833 (回答数 18)

設問 9　自主的学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか？
5.6 | 11.1 | 38.9 | 16.7 | 27.8
平均: 3.500 (回答数 18)

設問 10　成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、最初の授業(ガイダンス)で説明される項目です。
0 | 38.9 | 27.8 | 22.2 | 11.1
平均: 3.056 (回答数 18)

設問 11　進級規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。
5.6 | 27.8 | 38.9 | 22.2 | 5.6
平均: 2.944 (回答数 18)

設問 12　(準学士課程(5年)のみ)卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。
0 | 20 | 30 | 40 | 10
平均: 3.400 (回答数 10)

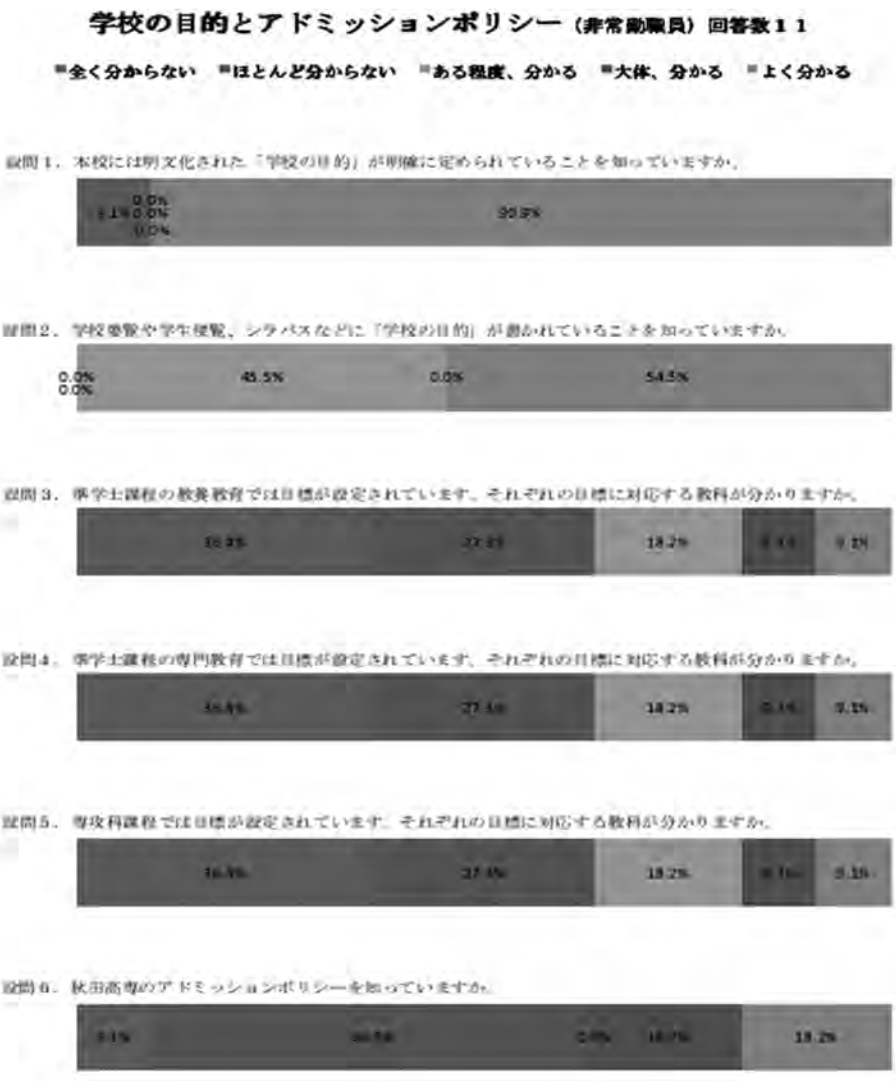
設問 13　(専攻科課程のみ)専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ガイダンスなどで説明される項目です。
0 | 25 | 31.2 | 25 | 18.8
平均: 3.375 (回答数 16)

回答選択肢　□まったく利用・理解していない　□あまり利用・理解していない　□ある程度利用・理解している　□利用・理解している　□よく利用・理解している

(出典　平成 25 年度　自己点検・評価に係わるアンケート調査結果)

資料１－２－⑤

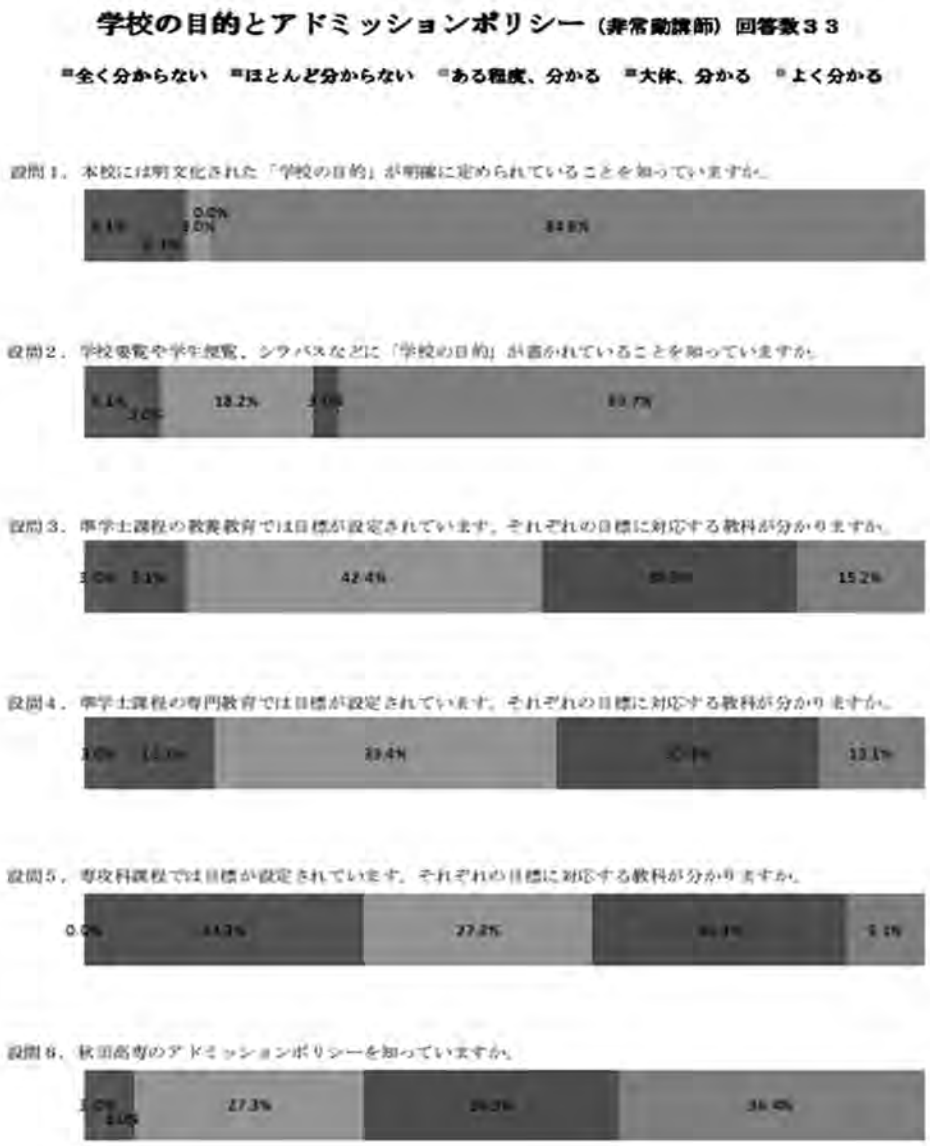
「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知に関するアンケート集計結果
（常勤教員）



（出典　平成 25 年度　自己点検・評価に係わるアンケート調査結果）

資料１－２－⑥

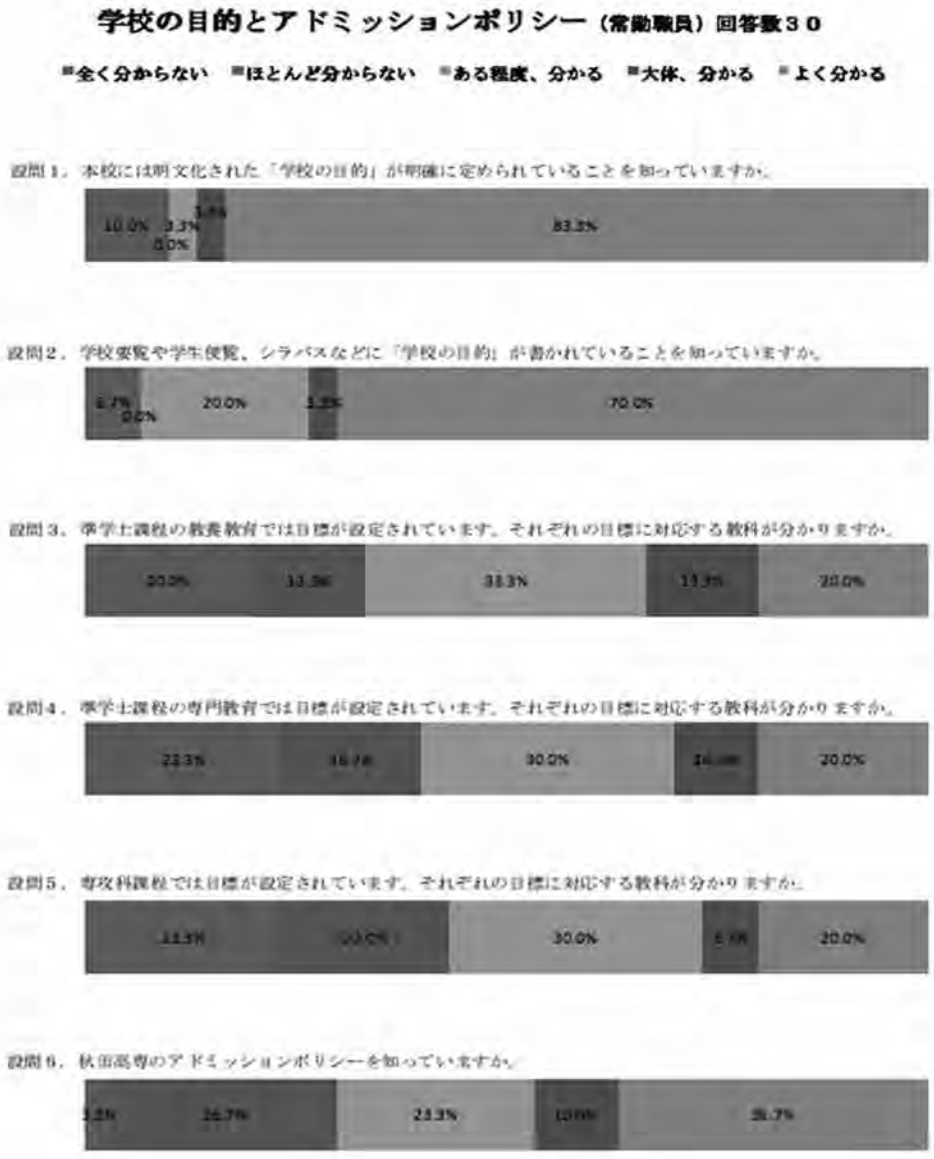
「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知に関するアンケート集計結果
（非常勤講師）



（出典　平成 25 年度　自己点検・評価に係わるアンケート調査結果）

資料１－２－⑦

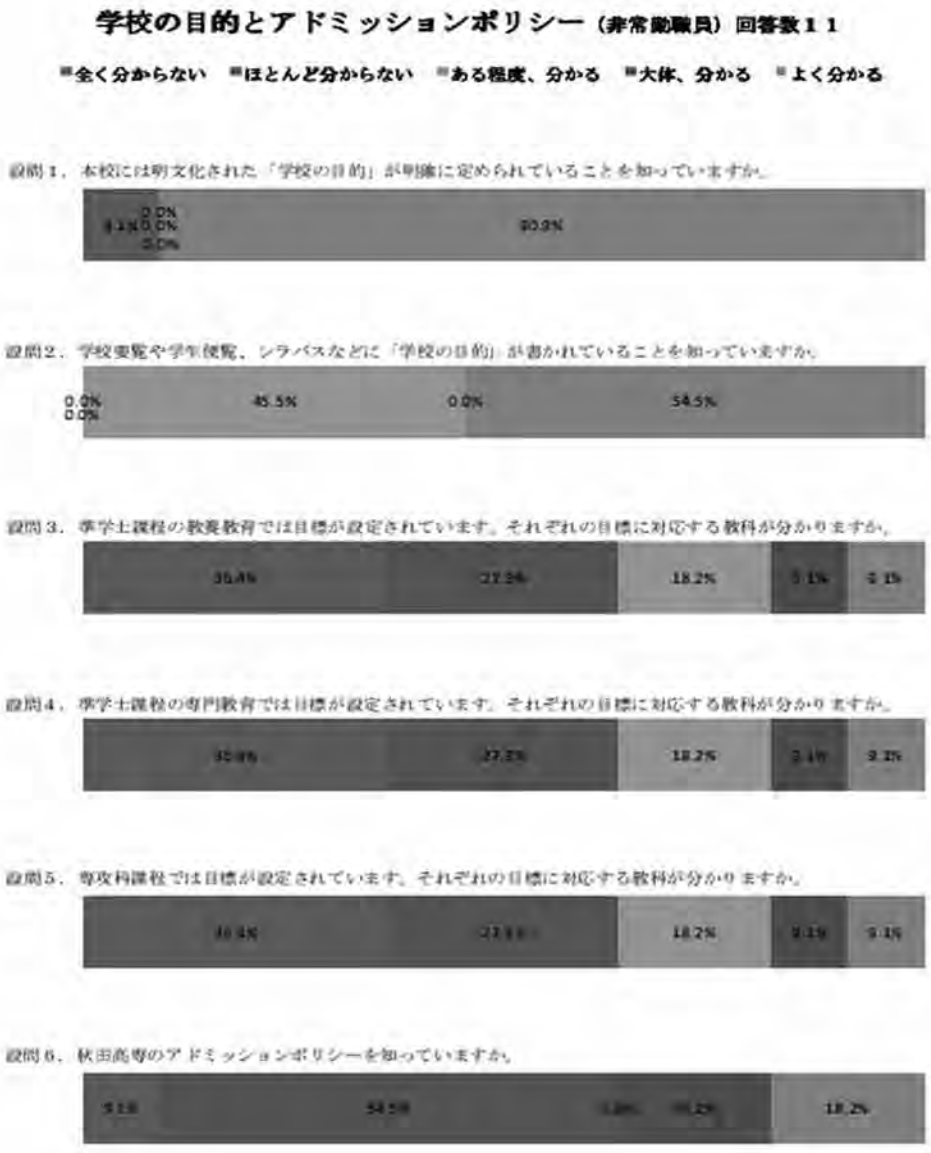
「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知に関するアンケート集計結果
（常勤職員）



（出典　平成 25 年度　自己点検・評価に係わるアンケート調査結果）

資料１－２－⑧

「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知に関するアンケート集計結果
（非常勤職員）



（出典　平成 25 年度　自己点検・評価に係わるアンケート調査結果）

資料１－６－①

学校の目的とアドミッションポリシー（教職員）回答数１２８

■全く分からない　■ほとんど分からない　■ある程度、分かる　■大体、分かる　■よく分かる

設問１．本校には明文化された「学校の目的」が明確に定められていることを知っていますか。

設問２．学校要覧や学生便覧、シラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか。

設問３．準学士課程の教養教育では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。

設問４．準学士課程の専門教育では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。

設問５．専攻科課程では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。

設問６．秋田高専のアドミッションポリシーを知っていますか。

（出典　アンケート調査結果から抜粋）

資料１－６－②

平成２５年度６～７月　中学校訪問先一覧

訪問月日	訪問先	訪問者
６月１７日(月)	湯沢南中学校	上田　学
	横手南中学校	成田　章
６月１８日(火)	大曲中学校，協和中学校	榊　秀次郎
	男鹿南中学校	船山　齊
６月１９日(水)	下川沿中学校，成章中学校	一田　守政
	高瀬中学校	折田　仁典
６月２０日(木)	羽後中学校	山田　宗慶
	岩城中学校，由利中学校	竹下　大樹
６月２１日(金)	秋田東中学校	山田　宗慶
	常盤中学校	脇野　博
	泉中学校	上田　学
６月２４日(月)	土崎中学校	成田　章
	山王中学校	折田　仁典
６月２５日(火)	上小阿仁中学校	山田　宗慶
	八竜中学校	榊　秀次郎
６月２６日(水)	峰浜中学校	竹下　大樹
	下浜中学校	折田　仁典
６月２７日(木)	田代中学校	山田　宗慶
	秋田北中学校	上田　学
６月２８日(金)	潟西中学校，羽城中学校	竹下　大樹
	男鹿北中学校	船山　齊
７月　１日(月)	岩見三内中学校	脇野　博
	美郷中学校	成田　章
	秋田南中学校	一田　守政
７月　２日(火)	横手北中学校，十文字中学校	榊　秀次郎
	東雲中学校	上田　学
	御所野学院中学校	船山　齊
７月　３日(水)	雄和中学校	竹下　大樹

(出典　学生課教務係資料から抜粋)

資料１－６－③

平成25年度　学校説明会希望中学校一覧

平成25年10月1日現在

年 月 日（曜日）	予定時間	開催中学校	対応教諭	対象人数	説明・随行者	備　考
H25.07.04（木）	13:40～	仁賀保中学校	畠山　旬　教諭	生徒・保護者100名		
H25.07.08（月）	14:00～	出羽中学校	三浦　祐子　教諭	生徒・保護者60名		
H25.10.03（木）	13:00～	十文字中学校	柴田　直紀　教諭	生徒・保護者100名		
H25.10.09（水）	13:30～	金浦中学校	佐藤　真二郎教諭			
H25.10.17（木）	13:30～	鳥海中学校	清野　太樹　教諭	生徒・保護者100名		
H25.10.26（土）	13:30～	合川中学校	松岡　雅彦　教諭	生徒・保護者200名		
H25.10.31（木）	13:30～	八竜中学校	藤盛　伸一　教諭	生徒・保護者150名		
H25.10.00（　）		天王中学校	工藤　ひとみ　教諭	生徒・保護者100名		

※10月1日以降は予定です。

（出典　学生課教務係資料から抜粋）

資料１－６－④

学校説明会出席者名簿

１．中学校からの出席者

	中学校名	氏名	備考
1.	秋田大学教育文化学部附属中学校	小白川　浩　司	施設見学１班
2.	合川中学校	松　岡　雅　彦	施設見学１班
3.	二ツ井中学校	松　岡　博　樹	施設見学１班
4.	秋田東中学校	小松田　純　子	施設見学１班
5.	秋田南中学校	伊　藤　隆　幸	施設見学１班
6.	山王中学校	鈴　木　貴　美	施設見学１班
7.	土崎中学校	佐　川　　満	午前中のみ参加
8.	将軍野中学校	後　藤　由美子	施設見学１班
9.	秋田西中学校	木　川　博　之	施設見学２班
10.	外旭川中学校	阿　部　孝　一	施設見学２班
11.	秋田北中学校	佐　藤　健　吉	施設見学２班
12.	豊岩中学校	舘　岡　　学	施設見学２班
13.	城南中学校	鎌　田　佳　子	施設見学２班
14.	城東中学校	吉　沢　　理	施設見学２班
15.	泉中学校	中　村　公　俊	施設見学２班
16.	御野場中学校	佐々木　　衡	施設見学３班
17.	勝平中学校	長谷川　忠　直	施設見学３班
18.	飯島中学校	高　橋　静　子	施設見学３班
19.	御所野学院中学校	渡　邉　系　一	施設見学３班
20.	岩見三内中学校	土　肥　孝　生	施設見学３班
21.	河辺中学校	佐　藤　三和子	施設見学３班
22.	潟西中学校	佐　藤　光　二	施設見学３班
23.	天王中学校	高　砂　　明	施設見学４班
24.	天王南中学校	鈴　木　憲　一	施設見学４班
25.	羽城中学校	倉　田　　泉	施設見学４班
26.	大潟中学校	須　藤　朋　子	施設見学４班
27.	本荘北中学校	阿　部　一　雄	施設見学４班
28.	矢島中学校	工　藤　秀　吾	施設見学４班
29.	西目中学校	佐　藤　　隆	施設見学４班
30.	雄和中学校	高　橋　　卓	施設見学４班

（出典　学生課教務係資料から抜粋）

資料１－６－⑤

平成２５年度進学説明会参加申込状況一覧

平成25年11月17日

#	学校名	秋田会場				横手会場				大館会場				計			
		生徒	保護者	教諭	計	生徒	保護者	教諭	計	生徒	保護者	教諭	計	生徒	保護者	教諭	計
1	秋田東	2	1		3				0				0	2	1	0	3
2	秋田南	1	3		4				0				0	1	3	0	4
4	土崎	1	1		2				0				0	1	1	0	2
5	将軍野		1	1	2				0				0	0	1	1	2
6	秋田西	1	1		2				0				0	1	1	0	2
8	外旭川	1	1		2				0				0	1	1	0	2
11	城南	1	1		2				0				0	1	1	0	2
14	城東	1	2		3				0				0	1	2	0	3
16	御野場		1		1				0				0	0	1	0	1
18	飯島	1	1		2				0				0	1	1	0	2
	計	9	13	1	23	0	0	0	0	0	0	0	0	9	13	1	23
32	大館第一				0				0	1	1	1	3	1	1	1	3
43	鷹巣				0				0		1		1	0	1	0	1
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4	1	2	1	4
68	羽城			1	1				0				0	0	0	1	1
72	大潟			1	1				0				0	0	0	1	1
	計	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
76	矢島	1	2		3				0				0	1	2	0	3
	計	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
103	美郷				0	1	1		2				0	1	1	0	2
	計	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	1	1	0	2
104	横手北				0	1			1				0	1	0	0	1
109	十文字				0	1	1		2				0	1	1	0	2
	計	0	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0	2	1	0	3
115	湯沢南				0	2	2		4				0	2	2	0	4
122	東成瀬				0	1	2	1	4				0	1	2	1	4
	計	0	0	0	0	3	4	1	8	0	0	0	0	3	4	1	8
合計		10	15	3	28	6	6	1	13	1	2	1	4	17	23	5	45

(出典　学生課教務係資料から抜粋)

資料１－６－⑥

平成25年度　キャンパスツアー参加者数

性別・学年別

	男子	女子	計
1年生	3	2	5
2年生	4	0	4
3年生	25	7	32
計	32	9	41

中学校別

	学校名	参加者数
1	秋田北中学校	1
2	秋田大学附属中学校	2
3	泉中学校	6
4	太田中学校	2
5	大館市立第一中学校	1
6	大館市立東中学校	1
7	男鹿東中学校	1
8	男鹿南中学校	1
9	神代中学校	1
10	小坂中学校	1
11	将軍野中学校	5
12	鷹巣中学校	2
13	鳥海中学校	1
14	天王南中学校	1
15	富沢中学校(仙台)	1
16	十和田中学校	1
17	八竜中学校	3
18	東成瀬村中学校	2
19	本荘北中学校	1
20	増田中学校	1
21	美郷中学校	2
22	南外中学校	1
23	山本中学校	1
24	由利中学校	1
25	由利本荘市立東中学校	1

(出典　学生課教務係資料から抜粋)

資料１－６－⑦

一日体験入学参加者数一覧（過去5年）

	生徒	保護者	教諭	合計
平成20年度	174	92	8	274
平成21年度	138	81	4	223
平成22年度	181	111	11	303
平成23年度	154	88	6	248
平成24年度	168	98	6	272
平成25年度	173	100	1	274

（出典　学生課教務係資料から抜粋）

項目２　教育活動

資料２－２－①

平成２１年度
第４回入学者選抜委員会議事要旨

日　　時　平成２１年１２月２２日（火）１６：５５～１７：３０

場　　所　会議室Ａ

出 席 者　山田委員長，対馬副委員長，茂木，高橋，野坂，堀江，手島，成田，本多，工藤（各委員）

１．平成２２年度入学者選抜関係日程表（案）について
対馬副委員長より，資料１に基づき説明があり，審議の結果，承認された。

２．平成２２年度推薦による入学者選抜実施要項（案）について
対馬副委員長より，資料２に基づき説明があり，審議の結果，承認された。

３．平成２２年度推薦による入学者選抜の面接時の質問事項（案）について
対馬副委員長より，資料３に基づき説明があり，審議の結果，承認された。

４．平成２２年度推薦による入学者選抜の合格者判定方針等について
対馬副委員長より，資料４に基づき説明があり，審議の結果，承認された。

５．その他
山田委員長より，本年度から各中学校への推薦枠提示の廃止に伴い，各中学校の反応に留意しつつ適格に対応していただきたい旨，要請があった。

最後に山田委員長から，前回開催された第３回委員会の議事要旨（案）について確認があり，案のとおり了承された。

（出典　学生課教務係資料から抜粋）

資料２－２－②

平成２４年度
第６回入学者選抜委員会議事要旨

Ⅰ．日　時　　平成２５年２月５日（火）　１６：４５～１８：００

Ⅱ．場　所　　会議室Ａ

Ⅲ．出席者　　山田委員長，脇野副委員長，手島，吉井，一田，高橋，野坂（上松代理），桜田，大内，藤本（各委員）
　　欠席者　　なし

Ⅳ．前回の議事要旨の確認
　　平成２５年１月２３日開催の第５回議事要旨（案）を確認した。

Ⅴ．議　事
　１．平成２５年度入学者選抜（学力検査）実施要項（案）について
　　副委員長から，資料１に基づき説明があり，審議の結果，次のとおり修正し承認した。
　・　志願者数の確定後，試験室・面接室の配置に変更がある場合があり，監督者・面接委員についても変更がありうる。
　・　「入学試験実施本部」の略称を，「実施本部」と統一する。
　・　入学試験に関する説明会の開催日を，２月２０日（水）に変更する。
　・　中途退室させる場合には，問題用紙を持ち出すことができない旨を明記する。
　・　「面接記録表」の注釈２に，評価を実施する事項を明確にした上で，面接総合評価を実施する旨を明記する。

　２．平成２５年度入学者選抜（学力検査）の面接質問事項（案）について
　　副委員長から，資料２に基づき説明があり，審議の結果，面接・質問の際の留意事項の積極的な例に，「手の込んだ料理」を追加した上で，承認した。

　３．平成２５年度入学者選抜（学力検査）合格者判定方針（案）について
　　委員長から，資料３に基づき説明があり，審議の結果，承認した。

　４．その他
　　なし

　５．第７回入学者選抜委員会の開催について
　　平成２５年２月２７日（水）１６：００から開催することとした。

（出典　学生課教務係資料から抜粋）

資料２－２－③

平成２３年度
第４回入学者選抜委員会議事要旨

日　　時　　平成２３年８月３０日（火）１０：００～１０：４５

場　　所　　会議室Ａ

出 席 者　　山田委員長，対馬副委員長，一田，髙橋，佐藤（悟），手島，
本多，石川（各委員）

代理出席者　　伊藤（浩）教員（佐藤（恒）委員代理），上田教員（吉井委員代理）

１．平成２４年度編入学生学力検査選抜の合否判定について

対馬副委員長より，資料に基づき各学科毎に説明を行った後，受入可能な人員を考慮しつつ，機械工学科４名，環境都市工学科２名の合格者が承認され，電気情報工学科，物質工学科の受験者については全員不合格とした。

２．その他

１）　山田委員長より，平成２４年度編入学生学力選抜試験に於いて出題ミスがあったとの発言があった。

対馬副委員長より，改善策を検討中であり，併せて採点方法についても検討したいとの発言があった。

２）　対馬副委員長より，和歌山工業高等専門学校で行われている体験型入試方式についての紹介があり，本校でも検討する必要があるとの発言があった。

最後に，委員長から，平成２３年７月２８日に開催された第３回委員会の議事要旨（案）について確認があり，了承された。

（出典　学生課教務係資料から抜粋）

資料２－２－④

平成２３年度
第１回専攻科入学者選抜委員会議事要旨

日　　時　平成２３年 ４ 月１１日（月）１６:４５～１７：１０

場　　所　会議室Ａ

出 席 者　山田委員長，船山副委員長，対馬，浅野，堀江，一田，髙橋，
佐藤（悟），石川（各委員）

代理出席者　野坂教員（佐藤（恒）委員代理）

欠 席 者　本多委員

１．平成２４年度専攻科学生募集要項・入学案内（案）について
船山副委員長から，資料に基づき説明があり，審議の結果，案のとおり承認された。

２．その他
専攻科入学試験に於いて，学校長推薦による選抜における推薦基準の見直し及び学力検査による選抜におけるＴＯＥＩＣスコアによる英語科目の試験免除を検討することとした。

次回開催予定日を４月２６日（火）１６：４５より会議室Ａで行うこととし，「学校長推薦による選抜・学力検査による選抜の各実施要項（案）」について審議することとした。

（出典　学生課教務係資料から抜粋）

資料２－３－①

トップページ>>入試情報>>

入学志願者数及び入学者数

入学志願者数及び入学者数

本科

平成26年5月1日現在

区分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
機械工学科	志願者	55 (0)	58 (1)	60 (2)	50 (0)	51 (1)
	入学者	45 (0)	43 (0)	42 (2)	42 (0)	41 (1)
電気情報工学科	志願者	58 (4)	66 (9)	52 (2)	47 (7)	56 (6)
	入学者	44 (3)	44 (2)	44 (2)	42 (7)	45 (6)
物質工学科	志願者	53(11)	60(19)	52(18)	52(21)	50(15)
	入学者	44(10)	41(16)	42(16)	42(14)	42(13)
環境都市工学科	志願者	63(11)	62 (7)	53 (7)	51(11)	57(16)
	入学者	43 (9)	42 (6)	41 (6)	42(11)	42(12)
計	志願者	229(26)	246(36)	217(29)	200(39)	214(38)
	入学者	176(21)	169(26)	167(25)	168(32)	170(32)

()内は女子学生内数

専攻科

平成26年5月1日現在

区分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
生産システム工学専攻	志願者	23 (0)	24 (1)	19 (1)	17 (0)	18 (0)
	入学者	15 (0)	16 (0)	18 (1)	12 (0)	10 (0)
環境システム工学専攻	志願者	18 (5)	18 (7)	11 (2)	14 (1)	14 (0)
	入学者	14 (5)	13 (7)	10 (2)	10 (1)	10 (0)
計	志願者	41 (5)	42 (8)	30 (3)	31 (1)	28 (0)
	入学者	29 (5)	29 (7)	28 (3)	22 (1)	20 (0)

()内は女子学生内数

(出典　秋田工業高等専門学校ホームページ)

学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する授業形態の割合（平成25年度）

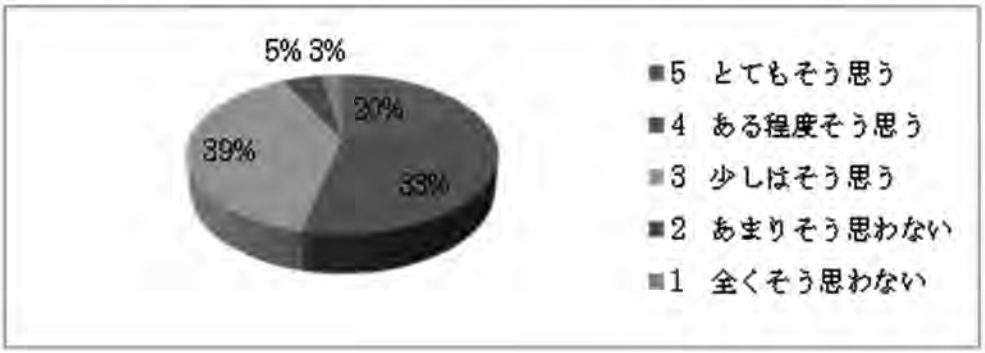
学科名	学年	合計単位数	(A)自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。				(B)工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。				(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。				(D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。				(E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。				(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。			
		割合	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
機械工学科	1年	合計単位数	7	2	0	9	10	0	0	10	6	0	0	6	0	6	0	6	0	0	2	2	0	0	0	0
		割合	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	2年	合計単位数	6	2	0	8	11	0	0	11	6	0	0	6	2	3	0	5	0	0	3	3	0	0	0	0
		割合	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	3年	合計単位数	5	2	0	7	9	0	0	9	2	2	0	4	7	4	0	11	0	2	0	2	0	0	0	0
		割合	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	63.6%	36.4%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%				
	4年	合計単位数	4	1	0	5	7	0	0	7	4	0	0	4	17	2	0	19	0	0	2	2	0	0	2	2
		割合	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	89.5%	10.5%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	5年	合計単位数	1	1	0	2	1	0	0	1	3	0	0	3	17	2	0	19	0	0	2	2	0	0	9	9
		割合	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	89.5%	10.5%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
電気情報工学科	1年	合計単位数	7	2	0	9	10	0	0	10	6	0	0	6	2	4	0	6	0	0	2	2	0	0	0	0
		割合	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	2年	合計単位数	8	2	0	8	11	0	0	11	6	0	0	6	4	2	0	6	0	0	3	3	0	0	0	0
		割合	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	3年	合計単位数	5	2	0	7	9	0	0	9	2	2	0	4	10	0	0	10	0	0	3	3	0	0	0	0
		割合	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	4年	合計単位数	4	1	0	5	7	0	0	7	4	0	0	4	14	4	0	18	0	0	2	2	0	0	2	2
		割合	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	5年	合計単位数	1	1	0	2	1	0	0	1	5	0	0	5	15	4	0	19	0	0	2	2	0	0	9	9
		割合	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	78.9%	21.1%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
物質工学科	1年	合計単位数	7	2	0	9	6	0	0	6	7	2	1	10	7	2	1	10	0	0	2	2	0	0	0	0
		割合	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	70.0%	20.0%	10.0%	100.0%	70.0%	20.0%	10.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	2年	合計単位数	6	2	0	8	11	0	0	11	6	0	0	6	6	0	0	6	0	0	4	4	0	0	0	0
		割合	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	3年	合計単位数	5	2	0	7	9	0	0	9	6	2	0	8	9	0	0	9	0	0	4	4	0	0	0	0
		割合	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	4年	合計単位数	4	1	0	5	6	0	0	6	4	0	0	4	16	0	0	16	0	0	6	6	0	0	2	2
		割合	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	5年	合計単位数	1	1	0	2	1	0	0	1	4	0	0	4	24	0	0	24	0	0	0	0	0	0	9	9
		割合	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%					0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
環境都市工学科	1年	合計単位数	7	2	0	9	10	0	0	10	6	0	0	6	2	2	0	4	0	0	4	4	0	0	0	0
		割合	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	2年	合計単位数	6	2	0	8	11	0	0	11	6	0	0	6	3	5	0	8	0	0	2	2	0	0	0	0
		割合	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	37.5%	62.5%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	3年	合計単位数	5	2	0	7	9	0	0	9	2	2	0	4	9	1	0	10	0	0	2	2	0	0	0	0
		割合	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	90.0%	10.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%				
	4年	合計単位数	4	1	0	5	5	0	0	6	4	0	0	4	19	2	0	21	0	0	1	1	0	0	2	2
		割合	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	90.5%	9.5%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	5年	合計単位数	1	1	0	2	1	0	0	1	3	0	0	3	17	2	0	19	0	0	1	1	0	0	9	9
		割合	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	89.5%	10.5%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%

（出典　カリキュラム表から抜粋）

資料２－６－①

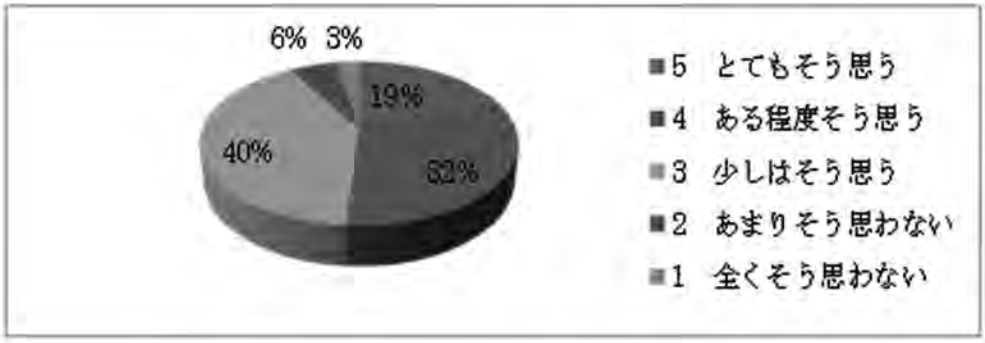
＜講義科目＞

Q3　授業のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか



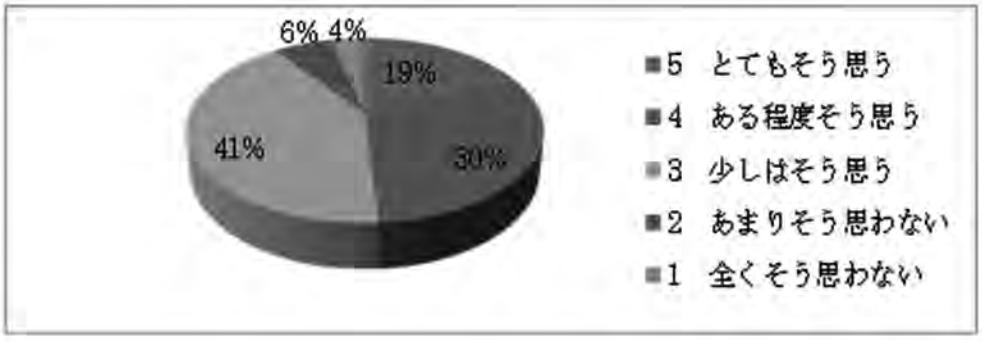
回答数：9378 人

Q4　授業のガイダンスにおいてシラバスの内容を理解したと思いますか



回答数：9382 人

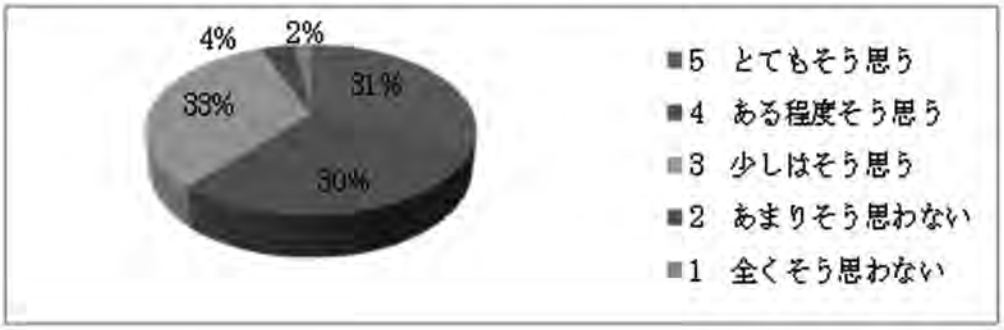
Q5　シラバスを見ることで評価方法や授業の進行状況の把握や理解の助けになったと思いますか



回答数：9387 人

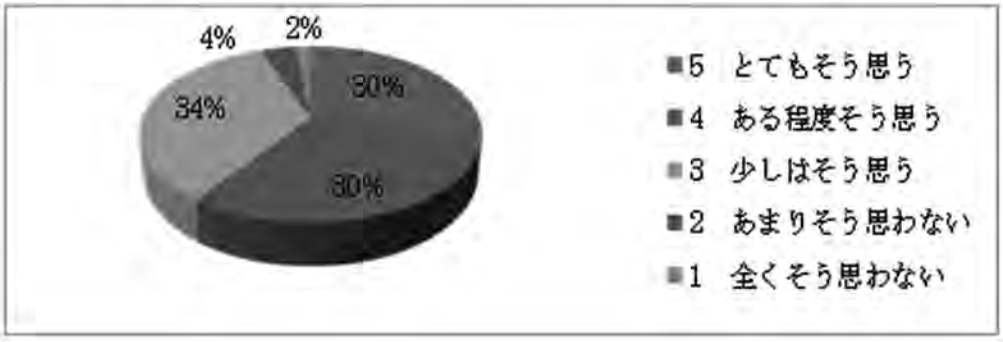
＜体育科目＞

Q1　授業のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか



回答数：671 人

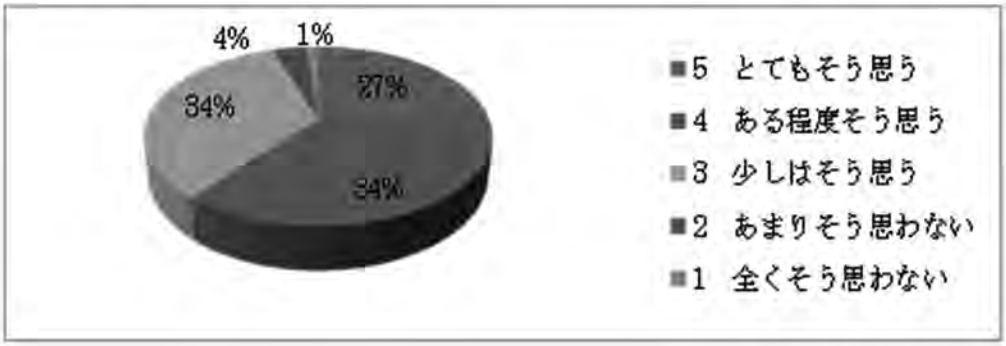
Q2　授業のガイダンスにおいてシラバスの内容を理解したと思いますか



回答数：671 人

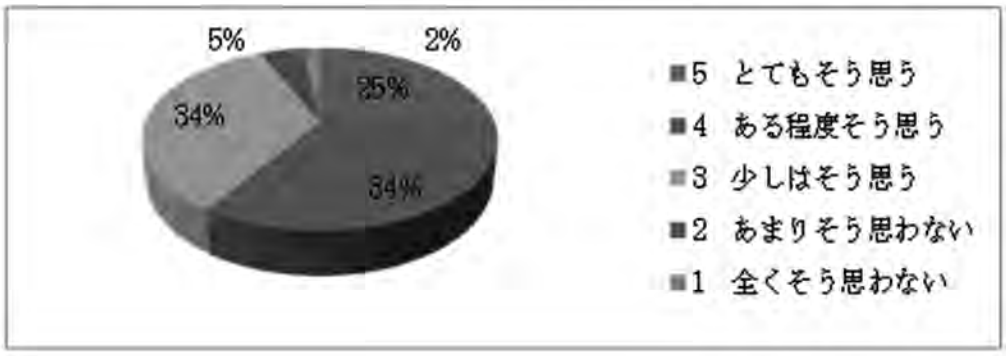
＜実験科目＞

Q3　実験・実習のガイダンスにおいて先生はシラバスを活用していたと思いますか



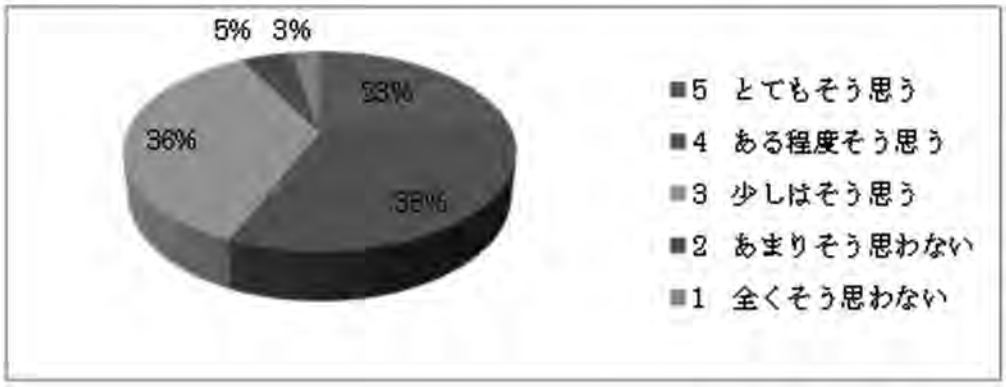
回答数：1192 人

Q4　実験・実習のガイダンスにおいてシラバスの内容を理解したと思いますか



回答数：1193 人

Q5　シラバスを見ることで評価方法や実験・実習の進行状況の把握や理解の助けになったと思いますか

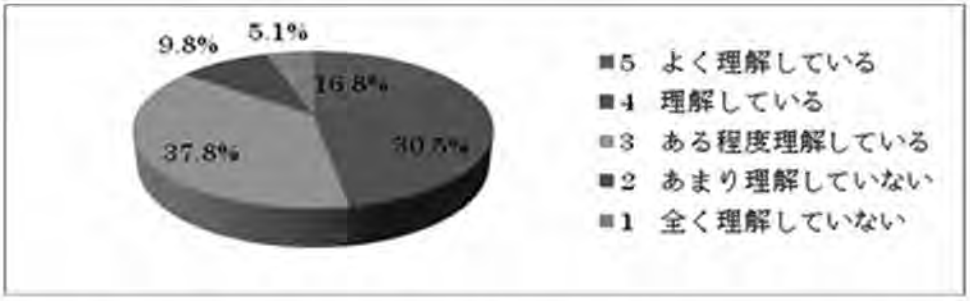


回答数：1194 人

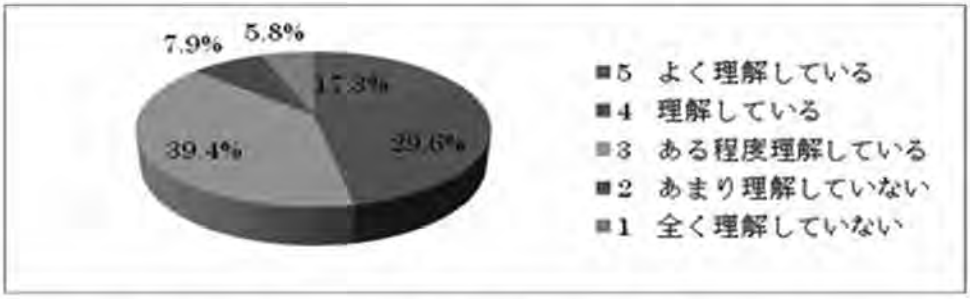
（出典　授業アンケート調査結果　平成 24 年度版より抜粋）

資料２－８－①

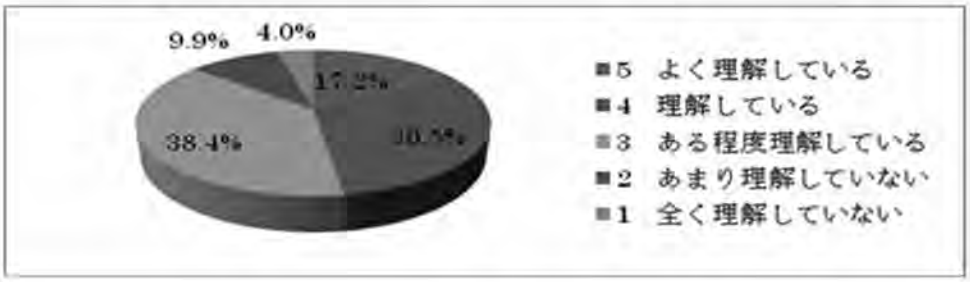
Q1　成績評価・単位認定規程の説明を受け，理解していますか？（準学士課程の１～４年生）



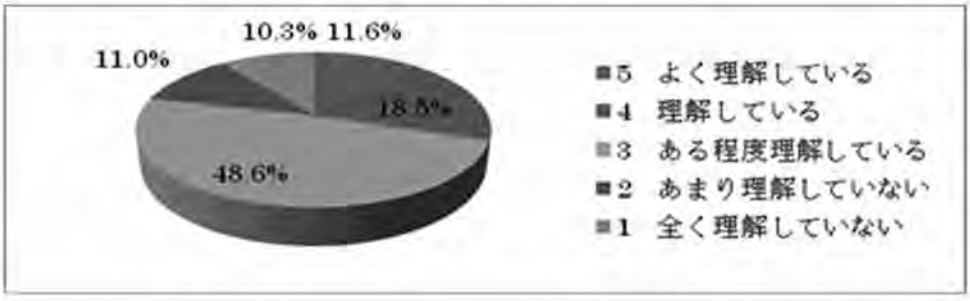
Q2　進級規程の説明を受け，理解していますか？（準学士課程の１～４年生）



Q1　成績評価・単位認定規程の説明を受け，理解していますか？（準学士課程卒業予定者）



Q2　　卒業認定規程の説明を受け，理解していますか？（準学士課程卒業予定者）



（出典　平成 25 年度「学校の目的と諸制度に関するアンケート」結果）

資料２－10－①

学生が修了時に身に付ける学力や資質・能力の各項目に対する授業形態の割合(平成25年度)

学科名	学年		(1)自ら問題を発見、解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。				(2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討議)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。				(3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、学際領域にも対応できる能力を修得する。			
			講義	演習	実験・実習	集計	講義	演習	実験・実習	集計	講義	演習	実験・実習	集計
生産システム工学専攻	1年	合計単位数	0	10	2	12	8	0	0	8	30	0	0	30
		割合	0.0%	83.3%	16.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	2年	合計単位数	0	10	0	10	4	0	0	4	14	0	0	14
		割合	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
環境システム工学専攻	1年	合計単位数	0	10	2	12	8	0	0	8	30	0	0	30
		割合	0.0%	83.3%	16.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	2年	合計単位数	0	10	0	10	4	0	0	4	14	0	0	14
		割合	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%

(出典　平成 25 年度専攻科授業計画　専攻科教育課程から抜粋)

自学自習に係わる課題提出の一覧表

（本科４，５学年の学修単位科目(講義科目必修&選択)および専攻科講義科目対象）

学科（専攻）・学年 環境システム工学専攻・2年 学生氏名 高野 聖

科目名 構造力学特論 （前期）・後期・通年）

担当教員 堀江 保

年 月 日(実施日)	課 題 内 容（予習等を含む）	時間	教員確認
2012．4．14（土）	課題レポート1（例題1）	4	堀江
2012．4．20（金）	弾性荷重法の予習	4	堀江
2012．5．6（日）	課題レポート2（例題2）	6	堀江
2012．5．12（土）	課題レポート3（例題2・マコリーのトラニホト）	4	堀江
2012．5．19（土）	課題レポート4（例題4・片持ち）	4	堀江
2012．5．26（土）	課題レポート5（例題1 例題2）	4	堀江
2012．6．1（金）	トラスのたわみ 予習	4	堀江
2012．6．10（日）	課題レポート6（トラスの変形図）	6	堀江
2012．6．14（木）	たわみ角法の手順 予習	4	堀江
2012．6．20（水）	課題レポート7	4	堀江
2012．6．30（土）	ラーメンのたわみ 予習	4	堀江
2012．7．5（木）	課題レポート8（トラスのたわみ3）	6	堀江
2012．7．11（水）	課題レポート9（層方程式 例題5）	6	堀江

（出典 自学自習に係わる課題提出の一覧表）

資料２－14－①

2014年度　集計結果

学年- 全学年 / 学科- 全て

集計枚数 - 848 枚

設問 1　本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？
48.1 | 2.6 | 5.9 | 2.6 | 40.9
% 平均: 2.856 (回答数 847)

設問 2　学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか？
36.1 | 3 | 41.6 | 2 | 17.4
% 平均: 2.615 (回答数 847)

設問 3　準学士課程の教養教育では、以下に示す(A)～(C)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(A)自らの意志を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて習得する。
(B)工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
(C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意志の疎通ができる実践的な英語能力を習得する。
22.7 | 21.4 | 40.2 | 9.6 | 6.1
% 平均: 2.551 (回答数 819)

設問 4　準学士課程の専門教育では、以下に示す(D)～(F)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。
(E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を習得する。
(F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。
21 | 22.6 | 38.7 | 11.6 | 6.1
% 平均: 2.592 (回答数 819)

設問 5　専攻科課程では、以下に示す(1)～(3)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？
(1)自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を習得する。
(2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を習得する。
(3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を習得する。
32.8 | 20.8 | 32.6 | 7.9 | 5.9
% 平均: 2.333 (回答数 442)

設問 6　オフィスアワーの制度を知っていますか？オフィスアワーとは、学生が自由に教員に質問できる時間です。
16.2 | 15 | 23.8 | 26 | 18.9
% 平均: 3.164 (回答数 845)

設問 7　オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？本校では全教員がオフィスアワーを設定しており、研究室の前に時刻を示しています。
56.3 | 13.4 | 21.5 | 4.4 | 4.5
% 平均: 1.875 (回答数 846)

設問 8　オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？
21.2 | 27.7 | 33 | 10.4 | 7.7
% 平均: 2.555 (回答数 848)

設問 9　自主的学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか？
10.9 | 17.8 | 34.2 | 21.9 | 15.3
% 平均: 3.129 (回答数 845)

設問 10　成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、最初の授業(ガイダンス)で説明される項目です。
4.6 | 10.7 | 37.4 | 30 | 17.2
% 平均: 3.445 (回答数 847)

設問 11　進級規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。
5.7 | 8.5 | 35.7 | 28.8 | 18.3
% 平均: 3.456 (回答数 840)

設問 12　(準学士課程(5年)のみ)卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。
15.5 | 14.9 | 44.9 | 15.5 | 9.2
% 平均: 2.881 (回答数 336)

設問 13　(専攻科課程のみ)専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ガイダンスなどで説明される項目です。
20.8 | 17.7 | 39.8 | 11.3 | 10.4
% 平均: 2.727 (回答数 231)

回答選択肢
□ まったく利用・理解していない　□ あまり利用・理解していない　■ ある程度利用・理解している
□ 利用・理解している　■ よく利用・理解している

(出典　「学校の目的」と「学習等の諸制度」に関するアンケート結果)

資料２－15－①

平成２５年度第１２回教員会議議事要旨

Ⅰ　日　時：平成２６年３月６日（木）１０時００分～１０時１５分
Ⅱ　場　所：会議室Ａ
Ⅲ　出席者：校長，宮脇，若生，宮川，磯部，上田，木澤，小林(義)，今田，渡部，浅野，安東，駒木根，山崎，田中，平石，伊藤(桂)，菅原(英)，竹下，野坂，上松，伊藤(浩)，佐藤(恒)，西野，横山，野中，鈴木，堀江，桜田，佐藤(悟)，恒松，金，寺本，長谷川，増田，脇野，手島，小林(貢)，菅原(隆)，桑本，長井，水野，古河，黒木，渡邊，金田，上田，佐藤(尊)，白根，森本，佐藤(彰)，上林，嶋野，一田，船山，成田
　　欠席者：野澤，坂本，丸山，榊，対馬，井上
　　[陪席]：事務部長，学生課長，学生課課長補佐

Ⅳ　議　事
（１）平成２５年度卒業認定について
　学級担任から，配付資料(取扱注意)に基づき，各科５学年在籍学生の成績評価及び欠課状況，修得単位認定について説明があり，審議の結果，次のとおり卒業が認定された。

(本科卒業認定)

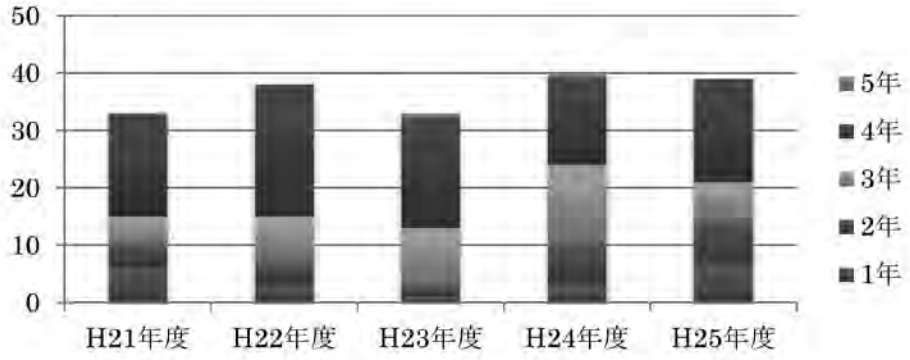
学科名	第５学年	
	現員	認定
機械工学科	４０名	４０名
電気情報工学科	４６名	４６名
物質工学科	４２名	４２名
環境都市工学科	３５名	３５名

（出典　総務課総務係資料）

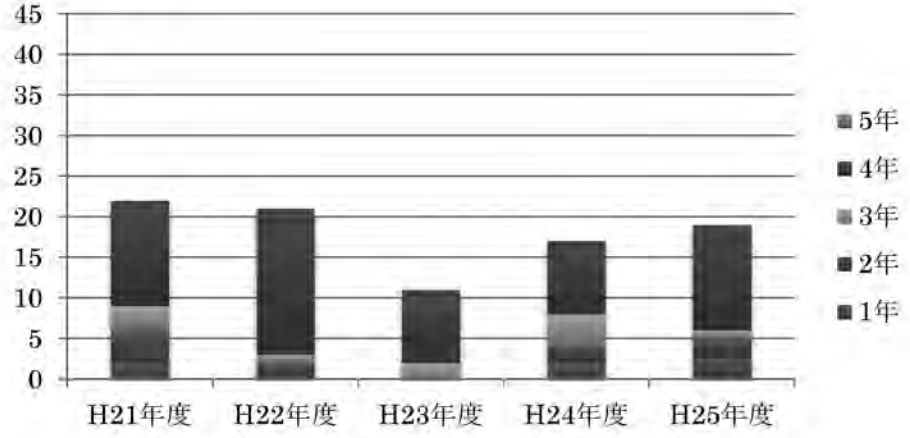
資料２－16－①

「過去５年間の留年・退学学生数の推移」

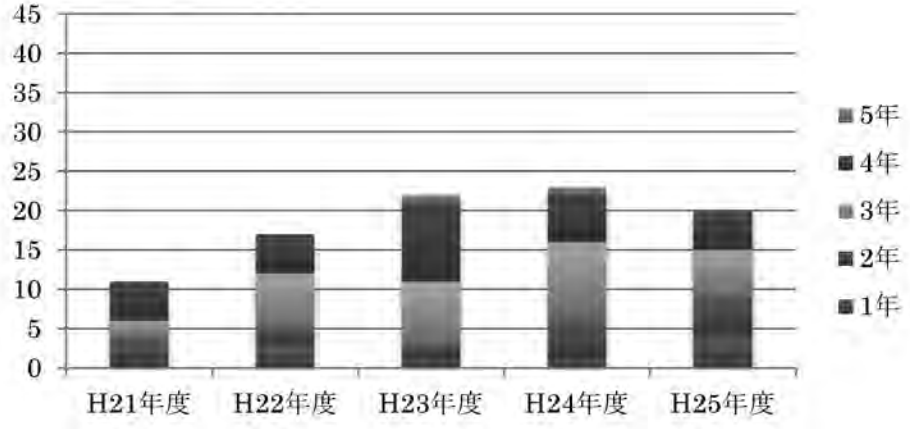
過去５年の留年者・退学者（人数）



過去５年の留年者（人数）



過去５年の退学者（人数）



（出典　教員会議資料から作図）

資料２－12－②

「過去 10 年間における専攻科修了者と学士取得者」

年度	生産システム工学専攻		環境システム工学専攻	
	申請者（修了者）	合格者（授与者）	申請者（修了者）	合格者（授与者）
H16 年度	14	14	10	10
H17 年度	9	9	6	6
H18 年度	11	11	7	7
H19 年度	16	16	12	12
H20 年度	14	14	8	8
H21 年度	15	15	13	13
H22 年度	12	11	12	12
H23 年度	15	15	12	12
H24 年度	17	17	10	10
H25 年度	17	17	8	8
計	140	139	98	98

（出典　学生課教務係資料）

資料２－16－③

「英検実施状況」

英検実績

年度	開催回	準２級合格者数	２級合格者数	
平成 21 年	1	23	2	
	2	10	3	
	3	19	5	
平成 22 年	2	17	2	
	3	12	3	
平成 23 年	2	24	4	
	3	42	3	
平成 24 年	2	7	1	
	3	12	4	
平成 25 年	1	4	0	
	2	37	1	
	3	33	6	

平成 21 年度日本英語検定協会優良団体賞を受賞

※2013 年度より１次学外受験のため年３回（第１回、第２回及び第３回）受験可能。
　学生一人につき年 1，000 円を補助。

（出典　英語教科担当資料）

資料２－16－④

「TOEIC 関係資料」

TOEIC 表彰

平成 23 年度	本科→　大学４年平均 509 点以上	７名
	専攻科→大学院４年平均 593 点以上	１名
平成 24 年度	本科→　大学４年平均 512 点以上	12 名
	専攻科→大学院４年平均 614 点以上	５名
平成 25 年度	本科→　大学４年平均 493 点以上	18 名
	専攻科→大学院４年平均 594 点以上	２名

（出典　英語教科担当資料）

資料２－16－⑤

「外部コンペティション参加状況」

ロボコン

平成23年度

第24回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト　東北地区大会（八戸市）

「ロボ・ボウル」

Aチーム　ザキエル＆ストゥーパ：1回戦（特別賞）

Bチーム　Poler&Bowler：1回戦

平成24年度

第25回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト　東北地区大会（いわき市）

「ベスト・ペット」

Aチーム　はちろう：1回戦

Bチーム　ポーラ＝☆：1回戦

平成25年度

第26回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト　東北地区大会（一関市）

「Shall We Jump?」（シャル・ウィ・ジャンプ）

Aチーム　サーカス・A・サーカス：ベスト４（準決勝敗退）

Bチーム　ファミリー ManyCa：１回戦（特別賞）

プログラミングコンテスト（プロコン）

平成 23 年度

第 22 回プログラミングコンテスト　京都府

競技部門　「よみがえれ、世界遺産」

ヴァッサーマンV2（3 名）：1 回戦敗退

平成 24 年度

第 23 回プログラミングコンテスト　福岡県

競技部門　「数えなサイ　-Here are Dice!-」

代数王サイコロボ-ぼくのかんがえたさいきょうのさいころ-（3 名）：1 回戦敗退

平成 25 年度

第 24 回プログラミングコンテスト　北海道

競技部門　「じょっぴん通信～ダイスきな人に伝えてくだサイ」

シグナルオートゥエス（3 名）：1 回戦敗退

デザインコンペティション

平成 23 年度

全国高専デザインコンペティション 2011in 北海道　「ひらく」

構造デザイン部門

C_O_"（3名）：15位

TrapeYacht（3名）：21位

空間デザイン部門

バスで行こう（1 名）：審査員特別賞

平成 24 年度

全国高専デザインコンペティション 2012in 小山　「デザインが起つ」

構造デザイン部門

ARC　BRDG（3 名）：20 位

B_Light3（3 名）：24 位

平成 25 年度

全国高専デザインコンペティション 2013in 米子　「かえる」

構造デザイン部門

Gorilla（3 名）：9 位

英語スピーチコンテスト
平成23年度
第5回東北地区高等専門学校英語スピーチコンテスト　仙台高専広瀬キャンパス
菅原拓郎、赤澤史佳：出場
平成24年度
第6回東北地区高等専門学校英語スピーチコンテスト　秋田高専
菅原拓郎：出場

航空宇宙研究会
平成23年度
第7回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト　愛知県（ポートメッセ名古屋）
飛行競技　3位(機体名：Mayfly9)
飛行競技　5位(機体名：Mayfly8)
参加チーム名：秋田工業高等専門学校　9名
平成24年度
第8回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト　愛知県（ポートメッセ名古屋）
飛行競技　2位(機体名：M-Revolution)
飛行競技　4位(機体名：Golden eagle-I)
飛行競技　5位(機体名：Mayfly X)
参加チーム名：秋田工業高等専門学校　12名
平成25年度
第9回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト　東京都（羽田空港T101格納庫）
飛行競技自動制御部門　優勝(機体名：PEGASUS)
飛行競技自動制御部門　2位(機体名：FLANGER)
飛行競技自動制御部門　4位(機体名：Golden Eagle-Ⅱ)
特別賞ベストパイロット賞（機体名：Golden Eagle-Ⅱ）
参加チーム名：秋田工業高等専門学校　15名

エコレース部
平成25年度
2013ワールドエコノムーブ　大潟村ソーラースポーツライン
創（19名）：ジュニアクラス15位
平成24年度
2012ワールドエコノムーブ　大潟村ソーラースポーツライン
創（15名）：オープンクラス29位
平成23年度
2011ワールドエコノムーブ　大潟村ソーラースポーツライン
百穂（14名）：ジュニアクラス15位
2011ワールドグリーンチャレンジ　ソーラーバイシクルレース　大潟村ソーラースポーツライン
百穂（17名）：カテゴリーSオープンクラス優勝

その他参加コンペティション
平成23年度
秋田の住宅コンクール　秋田市
コンテナハウス（1名）：優秀賞（魁新聞社賞）
平成25年度
第17回JIA東北建築学生賞　仙台市
創造の学舎（1名）：特別賞

（出典　担当教員資料から作成）

平成26年3月卒業・修了予定者の進路状況

秋田工業高等専門学校

（平成26年3月31日現在）

本科

★求人倍率　機械 15.8 倍　電気 14.3 倍　物質 7.9 倍　環境 18.0 倍　（本科全体）12.4 倍

学科名	卒業予定者数			求人企業数			求人数			就職希望者数			就職内定者数内訳									進学希望者数			進学者数内訳												その他		
													県外内定者数			県内内定者数			未定者数			県外割合(%)	県内割合(%)	未定割合(%)				大学			専攻科			専門学校等			未定者					
	男	女	計	県外企業	県内企業	合計	県外企業	県内企業	合計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
機械工学科	40	0	40	427	14	441	427	14	441	28	0	28	25	0	25	3	0	3	0	0	0	89.3	10.7	0.0	12	0	12	6	0	6	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電気情報工学科	64	2	66	479	13	492	479	13	492	32	2	34	30	2	32	0	0	0	2	0	2	94.1	0.0	5.9	12	0	12	8	0	8	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
物質工学科	36	6	42	227	10	237	227	10	237	25	5	30	21	5	26	4	0	4	0	0	0	86.7	13.3	0.0	11	1	12	6	1	7	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環境都市工学科	26	9	35	231	19	250	231	19	250	20	5	25	17	4	21	3	1	4	0	0	0	84.0	16.0	0.0	6	4	10	1	4	5	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	166	17	183	1364	56	1420	1364	56	1420	105	12	117	93	11	104	10	1	11	2	0	2	88.9	8.4	2.7	41	5	46	21	6	28	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0

専攻科

★求人倍率　生産システム 22.7 倍　環境システム 28.8 倍　（専攻科全体）3.8.7 倍

専攻名	修了予定者数			求人企業数			求人数			就職希望者数			就職内定者数内訳									進学希望者数			進学者数内訳												その他		
													県外内定者数			県内内定者数			未定者数			県外割合(%)	県内割合(%)	未定割合(%)				大学院			専門学校等			その他			未定者					
	男	女	計	県外企業	県内企業	合計	県外企業	県内企業	合計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
生産システム工学専攻	16	1	17	331	9	340	331	9	340	14	1	15	13	1	14	1	0	1	0	0	0	93.3	6.7	0.0	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環境システム工学専攻	6	2	8	211	16	227	211	16	227	6	2	6	4	0	4	1	1	2	1	1	2	50.0	25.0	25.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	22	3	25	542	25	567	542	25	567	20	3	23	17	1	18	2	1	3	1	1	2	78.3	13.0	8.7	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（出典　教員会議資料）

資料２－17－②

平成25年3月卒業・修了者予定者の進路状況

秋田工業高等専門学校

（平成25年3月31日現在）

本科

学科名	卒業者数			求人企業数			求人数			就職希望者数			就職内定者数内訳									進学希望者数			進学者数内訳										その他		
													県外内定者数			県内内定者数			未定者数			県外就合(%)	県内就合(%)	未定就合(%)				大学			専修学校			専門学校等			未定者			
	男	女	計	県外企業	県内企業	合計	県外企業	県内企業	合計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
機械工学科	43	1	44	416	18	434	416	15	431	22	0	22	21	0	21	1	0	1	0	0	0	95.5	2.1	0.0	11	1	12	3	1	4	8	0	8	1	0	1	1	0	1	0	0	0
電気情報工学科	37	3	40	449	17	466	446	17	463	24	3	27	21	1	22	1	2	3	2	0	2	84.3	11.1	7.4	13	0	13	7	0	7	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
物質工学科	70	10	80	705	11	716	758	11	769	16	7	23	15	3	18	0	2	2	0	0	0	93.8	9.7	0.0	12	2	14	5	1	7	3	1	4	1	0	1	0	0	0	0	1	1
環境都市工学科	37	5	42	259	17	276	259	17	276	28	4	32	20	3	23	8	1	9	0	0	0	71.5	20.1	0.0	9	0	9	5	0	5	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合　計	185	19	204	1377	63	1440	1377	60	1437	100	14	114	80	9	87	10	5	15	2	0	2	85.1	13.7	1.3	45	3	48	21	2	23	21	1	22	2	0	2	1	0	1	0	2	2

専攻科

専攻名	修了者数			求人企業数			求人数			就職希望者数			就職内定者数内訳									進学希望者数			進学者数内訳										その他		
													県外内定者数			県内内定者数			未定者数			県外就合(%)	県内就合(%)	未定就合(%)				大学院			専門学校等			その他			未定者			
	男	女	計	県外企業	県内企業	合計	県外企業	県内企業	合計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
生産システム工学専攻	17	0	17	275	11	286	275	11	286	13	0	13	10	0	10	3	0	3	0	0	0	76.9	23.1	0.0	4	0	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環境システム工学専攻	5	5	10	247	10	257	212	10	222	2	2	4	2	2	4	0	1	1	0	0	0	50.0	50.0	0.0	3	2	5	3	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	22	5	27	487	21	508	487	21	508	15	2	17	12	2	14	3	1	4	0	0	0	77.8	22.2	0.0	7	2	9	7	2	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（出典　教員会議資料）

平成24年3月卒業・修了者の進路状況

秋田工業高等専門学校

（平成24年3月31日現在）

本科

★求人倍率　機械 19.6 倍　電気 14.7 倍　物質 9.3 倍　環境 13.0 倍　（本科全体） 11.7 倍

学科名	卒業者数			求人企業数			求人数			就職希望者数			就職内定者数内訳									進学希望者数			進学者数内訳									その他		
													県外内定者数			県内内定者数			未定者数			県外就合(%)	県内就合(%)	未定就合(%)				大学			準専科			専門学校等			未定者					
	男	女	計	県外企業	県内企業	合計	県外企業	県内企業	合計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
機械工学科	40	7	47	338	9	347	338	9	347	32	0	32	27	0	27	4	0	4	1	0	1	84.4	12.5	3.1	11	2	13	6	1	7	5	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電気情報工学科	34	3	37	344	8	352	344	8	352	21	3	24	19	2	21	2	1	3	0	0	0	83.3	12.5	0.0	12	0	12	2	0	2	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
物質工学科	36	7	43	745	6	751	745	6	751	20	7	27	18	6	24	2	1	3	0	0	0	88.9	11.1	0.0	11	0	11	3	0	3	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環境都市工学科	31	4	35	219	10	229	219	10	229	21	3	24	16	2	18	5	0	5	0	0	0	76.2	21.7	0.0	10	2	12	5	0	5	5	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	142	18	160	1646	33	1679	1646	33	1679	94	13	108	80	10	90	13	2	15	1	0	1	84.9	14.2	0.9	44	4	48	16	1	17	28	3	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0

専攻科

★求人倍率　生産システム 23.0 倍　環境システム 17.3 倍　（専攻科全体） 20.0 倍

専攻名	修了者数			求人企業数			求人数			就職希望者数			就職内定者数内訳									進学希望者数			進学者数内訳									その他		
													県外内定者数			県内内定者数			未定者数			県外就合(%)	県内就合(%)	未定就合(%)				大学院			専門学校等			その他			未定者					
	男	女	計	県外企業	県内企業	合計	県外企業	県内企業	合計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
生産システム工学専攻	15	0	15	247	6	253	247	6	253	11	0	11	10	0	10	1	0	1	0	0	0	90.9	9.1	0.0	4	0	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環境システム工学専攻	8	4	12	200	8	207	200	6	207	8	4	12	7	4	11	1	0	1	0	0	0	84.7	8.3	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	23	4	27	446	12	460	446	12	460	19	4	23	17	4	21	2	0	2	0	0	0	91.3	8.7	0.0	4	0	4	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（出典　教員会議資料）

資料２－18－①

「平成 25 年度本科５年による達成度評価」

学習の達成度に関するアンケート　（５年生）　回答数１５１

■全く分からない　■ほとんど分からない　■ある程度、分かる　■大体、分かる　■よく分かる

Q1. 基本的な成果（A）「人間としての素養」の達成度は、どの程度と考えていますか？

Q2. 基本的な成果（B）「基礎学力の充実」の達成度は、どの程度と考えていますか？

Q3. 基本的な成果（C）「コミュニケーション能力」の達成度は、どの程度と考えていますか？

Q4. 基本的な成果（D）「工学基礎知識の習得」の達成度は、どの程度と考えていますか？

Q5. 基本的な成果（E）「実践的な能力」の達成度は、どの程度と考えていますか？

Q6. 基本的な成果（F）「専門的な知識の充実」の達成度は、どの程度と考えていますか？

Q7. 基本的な成果「学科ごとの成果」の達成度は、どの程度と考えていますか？

（出典　学習の達成度に関するアンケート（準学士課程））

資料２－18－②

「平成 25 年度専攻科１年による達成度評価」

学習の達成度に関するアンケート　（専攻科）　回答数２６

■全く分からない　■ほとんど分からない　■ある程度、分かる　■大体、分かる　■よく分かる

Q1. 成果（１）「課題解決能力」の達成度は、どの程度と考えていますか？

Q2. 成果（２）「プレゼンテーション能力」の達成度は、どの程度と考えていますか。

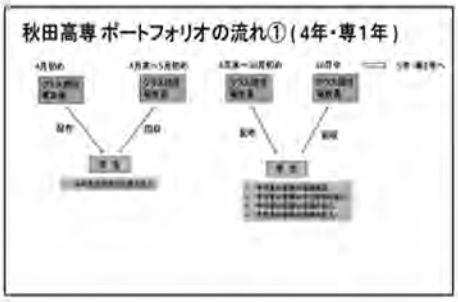
Q3. 成果（３）「複合領域への対応」の達成度は、どの程度と考えていますか。

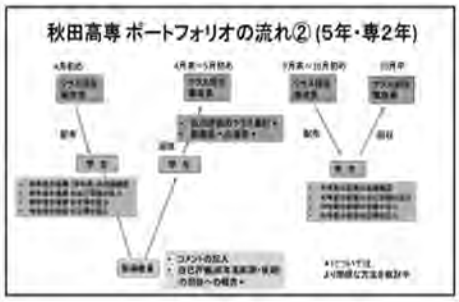
Q4. 成果「専攻の成果」の達成度は、どの程度と考えていますか。

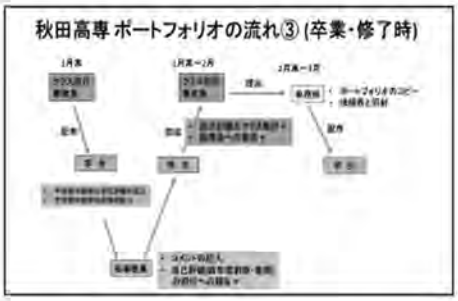
（出典　学習の達成度に関するアンケート（専攻課課程））

資料２－18－③

「平成 25 年度　学習到達度記録簿　秋田高専ポートフォリオの流れ」







（出典　学習到達度記録簿　秋田高専ポートフォリオの流れ）

「平成 25 年度　学習到達度記録簿」

秋田工業高等専門学校
機械工学科（M）
学習達成度記録簿

学籍番号：

氏　　名：

	前　期	後　期
4 学年 指導教員		
5 学年 指導教員		

※4 学年では「基礎研究」，5 学年では「卒業研究」の指導教員を記入。

目標と成果（自己 PR の材料となる半期ごとの記録）

	4 年　前期	4 年　後期
半期での目標	(学習) (その他)	(学習) (その他)
半期での成果	(学習) (その他)	(学習) (その他)
指導教員より		

	5 年　前期	5 年　後期
半期での目標	(学習) (その他)	(学習) (その他)
半期での成果	(学習) (その他)	(学習) (その他)
指導教員より		

学習の記録

達成しようとしている教育目標	時間数	単位数	科目名 「太字は必修」	履修の要				5 年	5 年	5 年	5 年
				必	自	可	再	前期	後期	前期	後期
(A) 広い教養と高度な専門知識に基づき行動できる人，自然を豊かな感性で受け止め，論理的に考え，新しいものを創造する能力を持った人間になるための基礎的素養を修得する。	4	2	**日本語表現**	必	自	可	再				
				必	自	可	再				
	1	1	**科学技術社会史**	必	自	可	再	1	1	1	1
	3	1	**社会と文化**	必	自	可	再	1	1	1	1
	4	1	**スポーツ教育Ⅰ**	必	自	可	再	1	1	1	1
	5	1	**技術者倫理**	必	自	可	再	1	1	1	1
	5	1	**スポーツ教育Ⅱ**	必	自	可	再				
(B) 自学自修としての予習や復習の時間を確保する。	4	2	**応用解析Ⅰ**	必	自	可	再				
				必	自	可	再				
	4	2	**応用解析Ⅱ**	必	自	可	再	1	1	1	1
				必	自	可	再	1	1	1	1
	4	1	**応用化学**	必	自	可	再	1	1	1	1
	4	2	**応用物理ⅡB**	必	自	可	再	1	1	1	1
				必	自	可	再				
	5	1	**応用解析Ⅲ**	必	自	可	再				
(C) 社会の多様化・高度化の歴史（技術）的な発展を踏まえ，広い視野に立って問題を解決する能力を身につける。	4	2	**総合英語Ⅰ**	必	自	可	再				
				必	自	可	再				
	4	2	**ドイツ語**	必	自	可	自	1	1	1	1
	5	2	**総合英語Ⅱ**	必	自	可	自	1	1	1	1
				必	自	可	自	1	1	1	1
	5	1	**上級英語**	必	自	可	自				
(D) 問題（解決）のための学習・準備を実施し，自ら行動する力を身につける。	4	2	**基礎研究**	必	自	可	否	3	3	3	3
	6	9	**卒業研究**	必	自	可	否	3	3	3	3
								1	1		

達成しようとしている教育目標	履修時間	単位数	科目名 「太字は必修」	必履科目				4 年	4 年	5 年	5 年
				必	自	可	再	前期	後期	前期	後期
(A) 広い教養と高度な専門知識に基づき行動できる人，自然を豊かな感性で受け止め，論理的に考え，新しいものを創造する能力を持った人間になるための基礎的素養を修得する。	4	2	**機械加工学**	必	自	可	再				
	4	1	**材料工学Ⅰ**	必	自	可	再				
	3	2	**材料力学Ⅰ**	必	自	可	再				
	3	1	**材料力学Ⅱ**	必	自	可	再				
	3	2	**機械力学Ⅰ**	必	自	可	再				
	1	1	**機械設計**	必	自	可	再				
	2	1	**電子応用**	必	自	可	再				
	4	1	**計測工学**	必	自	可	再	1	1	1	1
	4	2	**工業熱力学Ⅰ**	必	自	可	再				
	4	1	**工業熱力学Ⅱ**	必	自	可	再				
	4	2	**流体工学Ⅰ**	必	自	可	再	1	1	1	1
	4	1	**流体工学Ⅱ**	必	自	可	再				
	4	2	**設計製図Ⅰ**	必	自	可	再				
				必	自	可	再	1	1	1	1
	3	1	**工作機械**	必	自	可	再				
	3	1	**材料工学Ⅱ**	必	自	可	再				
	3	2	**計算力学**	必	自	可	再	1	1	1	1
	3	1	**機械力学Ⅱ**	必	自	可	再				
	3	1	**振動力学Ⅱ**	必	自	可	再				
	3	2	**制御工学Ⅰ**	必	自	可	再	1	1	1	1
	3	1	**制御工学Ⅱ**	必	自	可	再				
	3	1	**ロボット工学**	必	自	可	再				
	3	1	**内燃機関Ⅰ**	必	自	可	再				
	3	1	**内燃機関Ⅱ**	必	自	可	再				
	3	1	**熱工学**	必	自	可	再				
	3	2	**流体工学Ⅱ**	必	自	可	再				
	3	1	**流体機械**	必	自	可	再				
	3	2	**設計製図Ⅱ**	必	自	可	再				
				必	自	可	再				
	3	1	**環境工学**	必	自	可	再				
(B) 自学自修としての予習や復習の時間を確保する。								5	5	5	5
	4	2	**工学実験Ⅰ**	必	自	可	再	4	4	4	4
	4	1	**校外実習Ⅰ**	必	自	可	再	3	3	3	3
	4	2	**校外実習Ⅱ**	必	自	可	再	2	2	2	2
	4	3	**工学実験Ⅱ**	必	自	可	再	1	1	1	1

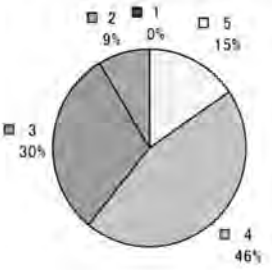
（出典　平成 25 年度学習到達度記録簿　機械工学科　）

資料２－19－①

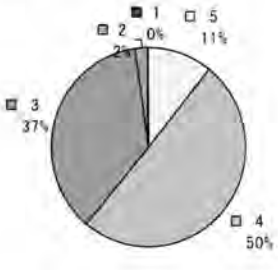
「平成 23 年度準学士課程卒業生の学力や能力に関する調査結果（進路先関係者）」

2012 年度集計結果　　**平成２３年度　卒業生進路先関係者**

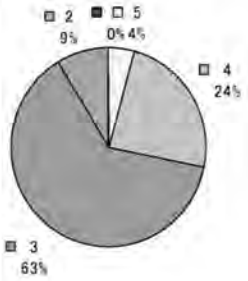
設問 1 （回答数 46）
基本的な成果(A)「人間としての素養」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか



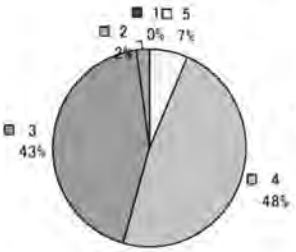
設問 2 （回答数 46）
基本的な成果(B)「基礎学力の充実」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか



設問 3 （回答数 46）
基本的な成果(C)「コミュニケーション能力」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか

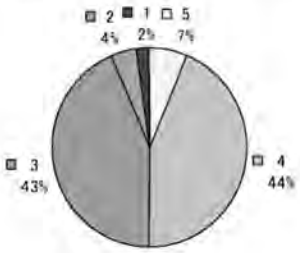


設問 4 （回答数 46）
基本的な成果(D)「工学基礎の習得」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか

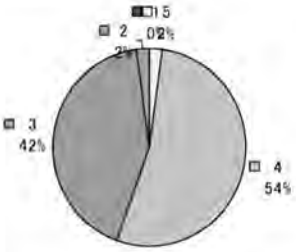


設問 5 （回答数 46）
基本的な成果(E)「実践的な能力」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか

設問 6 （回答数 46）
基本的な成果(F)「専門的な知識の充実」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか



設問 7 （回答数 45）
基本的な成果「学科の成果」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか



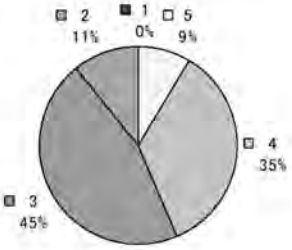
回答選択肢　　評価内容　　【高】5:とても良い ⇒ 4 良い ⇒ 3:普通 ⇒ 2:やや劣る ⇒ 1:とても劣る【低】

（出典　平成 23 年度卒業生・修了生に対するアンケート）

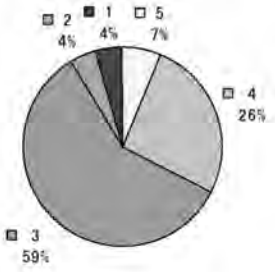
「平成 23 年度本科卒業生による達成度評価」

2012 年度集計結果　　平成２３年度　卒業生

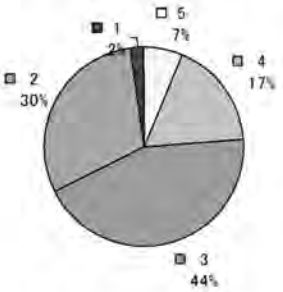
設問 1 （回答数 46）
基本的な成果(A)「人間としての素養」の達成度を自己評価してください



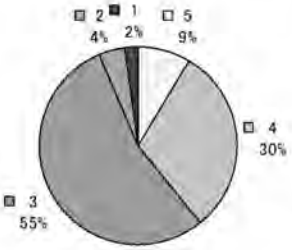
設問 2 （回答数 46）
基本的な成果(B)「基礎学力の充実」の達成度を自己評価してください



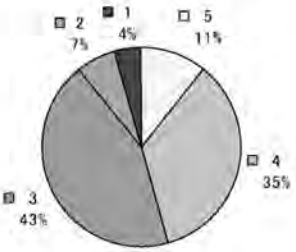
設問 3 （回答数 46）
基本的な成果(C)「コミュニケーション能力」の達成度を自己評価してください



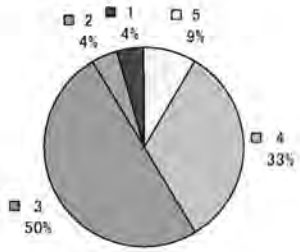
設問 4 （回答数 46）
基本的な成果(D)「工学基礎の習得」の達成度を自己評価してください



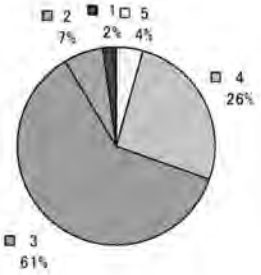
設問 5 （回答数 46）
基本的な成果(E)「実践的な能力」の達成度を自己評価してください



設問 6 （回答数 46）
基本的な成果(F)「専門的な知識の充実」の達成度を自己評価してください



設問 7 （回答数 46）
基本的な成果「学科の成果」の達成度を自己評価してください



回答選択肢	評価内容	【高】5:とても良い ⇒ 4:良い ⇒ 3:普通 ⇒ 2:やや劣る ⇒ 1:とても劣る【低】

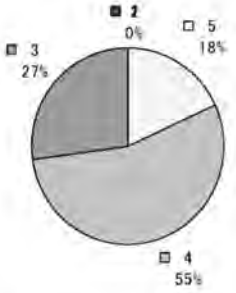
（出典　平成 23 年度卒業生・修了生に対するアンケート）

資料２－19－③

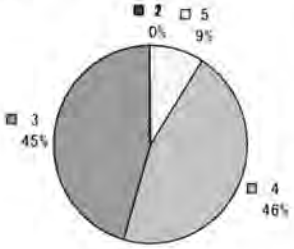
「平成 23 年度専攻科修了生の学力や能力に関する調査結果（進路先関係者）

2012 年度集計結果　　**平成２３年度 修了生進路先関係者**

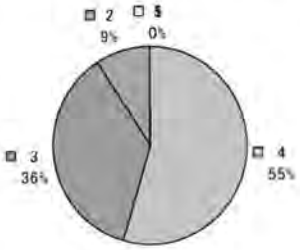
設問 1 〈回答数 11〉
〈修了生〉成果(1)「課題解決能力」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか



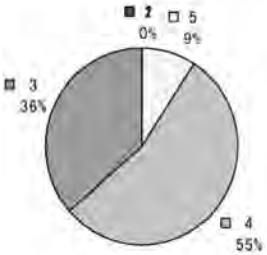
設問 2 〈回答数 11〉
〈修了生〉成果(2)「プレゼンテーション能力」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか



設問 3 〈回答数 11〉
〈修了生〉成果(3)「複合領域への対応」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか



設問 4 〈回答数 11〉
〈修了生〉成果「専攻ごとの成果」の達成度は、どの程度とお考えでしょうか



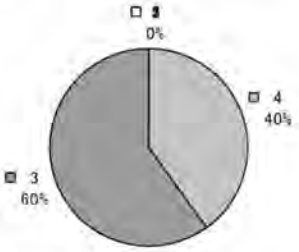
回答選択肢　　評価内容　　【高】5:とても良い ⇒ 4:良い ⇒ 3:普通 ⇒ 2:やや劣る ⇒ 1:とても劣る【低】

（出典　平成 23 年度卒業生・修了生に対するアンケート）

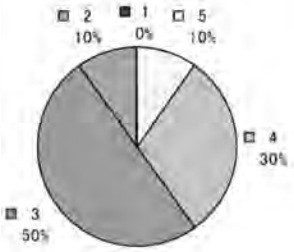
「平成 23 年度専攻科修了生による達成度評価」

2012 年度集計結果　　**平成２３年度　修了生**

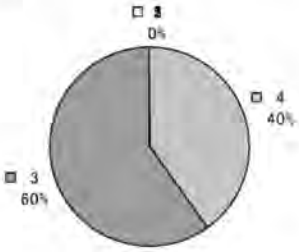
設問 1 （回答数 10）
（修了生）成果（1）「課題解決能力」の達成度を自己評価してください



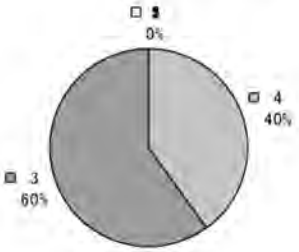
設問 2 （回答数 10）
（修了生）成果（2）「プレゼンテーション能力」の達成度を自己評価してください



設問 3 （回答数 10）
（修了生）成果（3）「複合領域への対応」の達成度を自己評価してください



設問 4 （回答数 10）
（修了生）成果「専攻ごとの成果」の達成度を自己評価してください



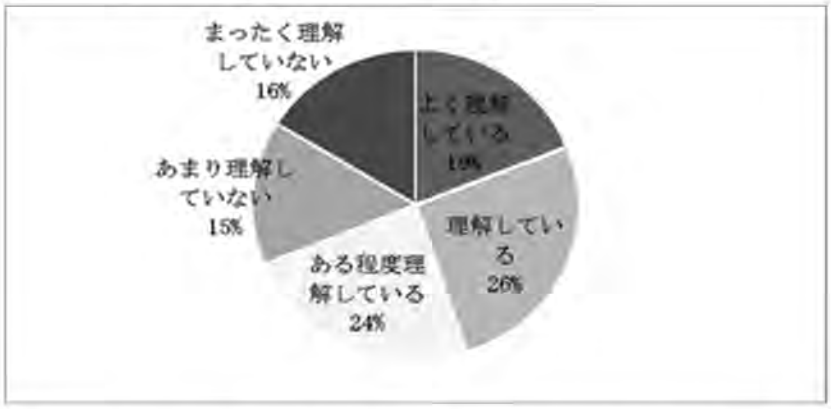
回答選択肢　評価内容　【高】5 とても良い ⇒ 4 良い ⇒ 3 普通 ⇒ 2 やや劣る ⇒ 1 とても劣る【低】

（出典　平成 23 年度卒業生・修了生に対するアンケート）

資料２－20－①

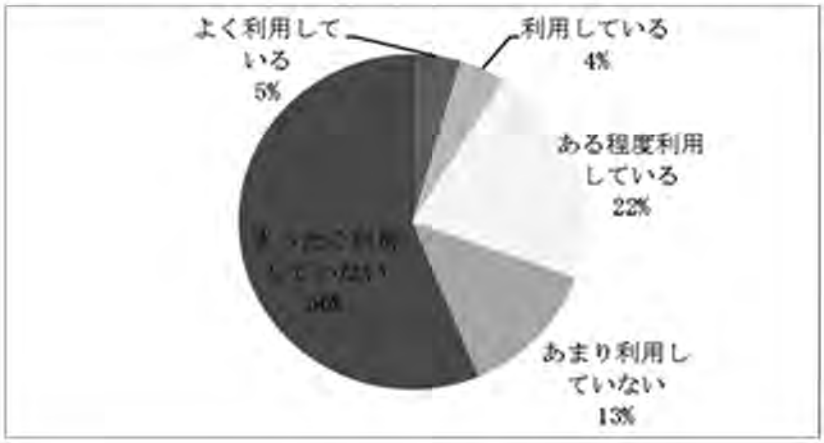
【本科課程】

Ｑ６　オフィスアワーの制度を知っていますか？



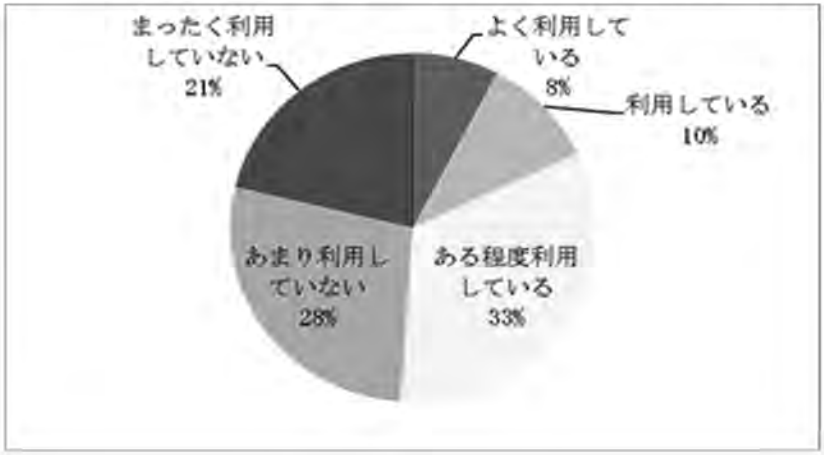
（回答数：845 人）

Ｑ７　オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？



（回答数：846 人）

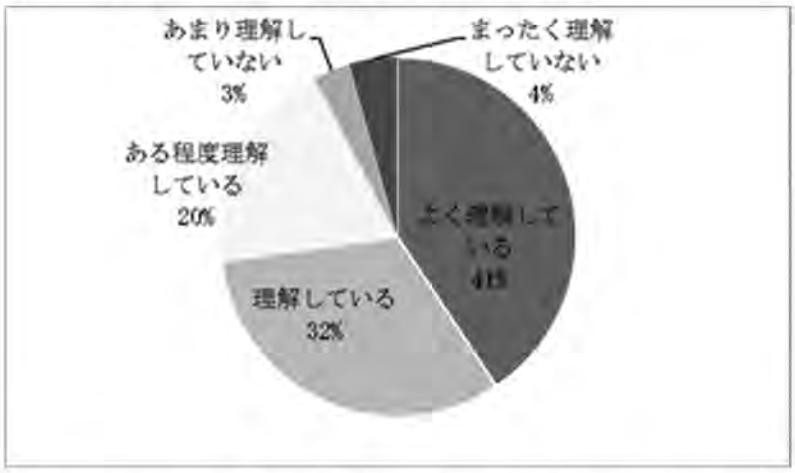
Ｑ８　オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする程度はどの程度ですか？



（回答数：848 人）

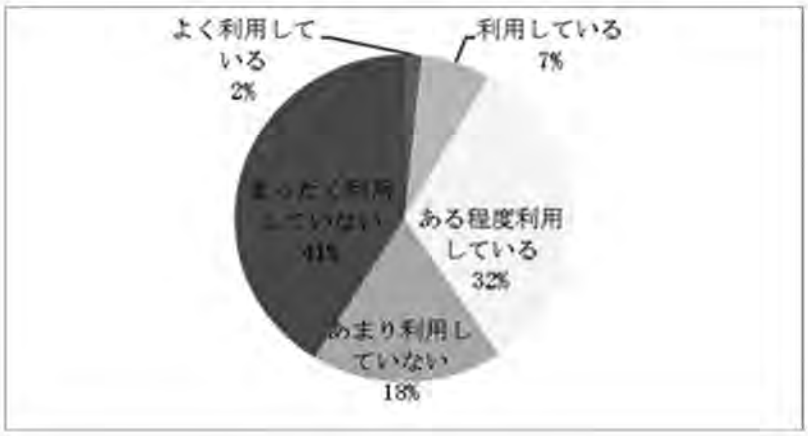
【専攻科課程】

Q６　オフィスアワーの制度を知っていますか？



（回答数：48 人）

Q７　オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？



（回答数：48 人）

Q８　オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする程度はどの程度ですか？

（回答数：48 人）

（出典　「学習等の諸制度」に関するアンケート）

資料２－21－①

年度	申請者数	単位認定科目数計	単位認定単位数計
H２３	１２	１６	２５
H２４	１９	２６	４３
H２５	１５	１７	３０

（出典　学生課教務係資料）

資料２－21－②

平成25年度資格試験等受験者数

TOEIC	190 人
英語検定	185 人
漢字検定	171 人
数学検定	5 人
情報処理技術者試験	9 人
電気工事士試験	1 人
電気主任技術者試験	5 人
電気通信の工事担任者試験	1 人
危険物取扱者試験	8 人
計	575 人

（出典　学生課学生支援係資料）

教員会議 専攻科教員会議 ２６年３月１２日	資料	2

平成２５年度　相談件数・内容

２月２８日現在

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
低学年	35	33	17	21	38	84	47	63	127
１年生				7	14	10	13	9	61
２年生				3	24	29	14	24	43
３年生				11		45	20	30	23
高学年	10	18	25	14	12	25	16	27	56
４年生				9	6	4	14	15	24
５年生				5	6	21	2	12	32
専攻科	1	4	5		5	5	5	2	8
保護者	1	2	11	2	8	5	10	5	8
教職員	8	25	11	10	18	21	33	56	68
その他					1				2
合　計	55	82	69	47	82	140	111	153	269

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
家族関係				14	12	34	18	13	16
学生生活				2	4	31	22	26	51
進路関係				2	6	6	9	11	26
学業関係				8	10	12	6	8	29
健康(心・体)				15	25	33	12	28	58
異性関係				1	2	13	6	7	17
友人関係				4	12	17	12	18	3
寮生活						3		2	2
職場関係				2	2		3	2	1
自殺企図				2	1				4
いじめ					1			2	1
学生指導					3			27	40
その他					23			37	48
合　計				52	101	189	128	181	296

（出典　学生相談室資料）

資料２－23－②

平成25年度授業料免除者数

単位:人

区分	申請者数	全額免除		半額免除		対象外
		適	不適	適	不適	
前期	48	32	7	3	2	4
後期	54	33	12	2	3	4

平成25年度各種奨学金受給者数

○日本学生支援機構	1年	7 人
	2年	20 人
	3年	10 人
	4年	17 人
	5年	15 人
	専攻科	11 人
	計	80 人
○秋田県育英会		7 人
○あしなが育英会		1 人
○天野工業技術研究所奨学金		1 人

（出典　学生課学生支援係資料）

主な支援制度

制度名	対象学生	金額	条件等	貸与・給与の別		25年度受給者
				貸与	給与	
秋田高専学修奨励金制度	本科生 16名以内（1年生を除く）	1人 年額 50，000円	学業成績及び人物が優秀で，経済支援を必要とする学生		○	16名
	専攻科生 4名以内					2名
秋田高専学資貸与制度	全学生	15万円以内	学資負担者（保護者）が突然の解雇・失業等に遭遇した場合	○		0名
			学資負担者（保護者）が突然死亡した場合			
			火災，雪害，風水害等を受けた場合			

主な奨学金制度

団体名	受給対象	月額						貸与・給与の別		25年度受給者
								貸与	給与	
日本学生支援機構奨学金	全学年	第1種奨学金	1～3年生	自宅通学	21，000円又は10，000円	自宅外通学	22，500円又は10，000円	○		80名
			4～5年生	自宅通学	45，000円又は30，000円	自宅外通学	51，000円又は30，000円			
			専攻科生							
	4～5年生 専攻科生	第2種奨学金	30，000円，50，000円，80，000円，100，000円，120，000円から選択							2名
秋田県育英会奨学金	全学年	自宅通学 18，000円，自宅外通学 23，000円						○		8名
公益財団法人ウシオ財団	専攻科生	60，000円							○	
天野工業技術研究所奨学金	5年生	年額 240，000円							○	1名
あしなが育英会	本科生	25，000円						○		1名
男鹿市奨学資金貸与制度	全学年	1～3年生	自宅通学 12，000円，自宅外通学 15，000円					○		2名
		4・5年生	自宅通学 20，000円，自宅外通学 30，000円					○		
		専攻科生	自宅通学 20，000円，自宅外通学 30，000円					○		
潟上市育英会	4～5年生 専攻科生	月額15，000円以内						○		

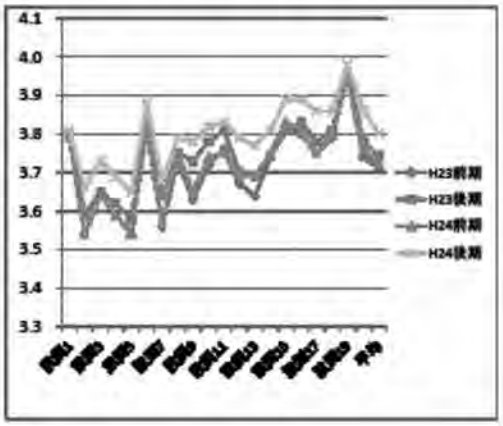
その他　交通遺児育英会奨学金，関育英会奨学金，川村育英会奨学金等の制度があります。

資料２－26－①

H23-24年度 授業アンケート 平均点の解析

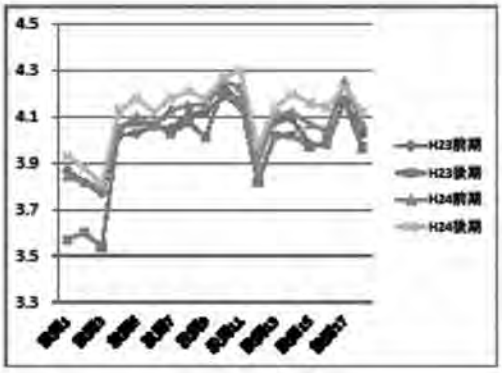
座学

	H23前期	H23後期	H24前期	H24後期
設問1	3.79	3.80	3.79	3.81
設問2	3.54	3.59	3.54	3.66
設問3	3.64	3.65	3.64	3.73
設問4	3.59	3.62	3.59	3.69
設問5	3.54	3.58	3.54	3.65
設問6	3.81	3.83	3.82	3.88
設問7	3.56	3.64	3.57	3.68
設問8	3.73	3.75	3.75	3.79
設問9	3.63	3.73	3.65	3.78
設問10	3.72	3.78	3.74	3.82
設問11	3.76	3.81	3.75	3.83
設問12	3.67	3.70	3.69	3.79
設問13	3.64	3.69	3.69	3.77
設問14	3.74	3.74	3.75	3.81
設問15	3.82	3.81	3.83	3.89
設問16	3.80	3.83	3.81	3.89
設問17	3.75	3.78	3.75	3.86
設問18	3.79	3.81	3.80	3.86
設問19	3.95	3.96	3.95	3.98
設問20	3.74	3.78	3.76	3.86
平均	3.71	3.74	3.72	3.80



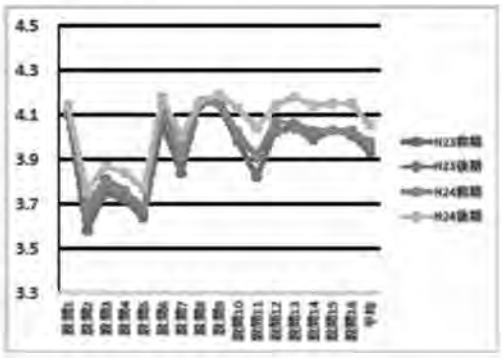
体育

	H23前期	H23後期	H24前期	H24後期
設問1	3.87	3.57	3.84	3.93
設問2	3.82	3.60	3.82	3.88
設問3	3.77	3.54	3.79	3.81
設問4	4.02	4.05	4.05	4.13
設問5	4.03	4.06	4.10	4.18
設問6	4.06	4.07	4.06	4.12
設問7	4.05	4.03	4.13	4.18
設問8	4.11	4.06	4.15	4.21
設問9	4.12	4.01	4.15	4.18
設問10	4.19	4.23	4.25	4.27
設問11	4.15	4.17	4.23	4.30
設問12	3.97	3.82	3.90	3.97
設問13	4.08	4.02	4.11	4.14
設問14	4.09	4.02	4.12	4.20
設問15	3.96	3.97	4.07	4.16
設問16	3.98	3.99	4.04	4.14
設問17	4.17	4.17	4.25	4.23
平均	4.03	3.97	4.06	4.12



実習

	H23前期	H23後期	H24前期	H24後期
設問1	4.10	4.12	4.13	4.14
設問2	3.58	3.65	3.69	3.76
設問3	3.75	3.77	3.81	3.87
設問4	3.72	3.73	3.76	3.84
設問5	3.64	3.66	3.68	3.77
設問6	4.06	4.14	4.14	4.18
設問7	3.84	3.95	3.91	4.00
設問8	4.16	4.15	4.16	4.16
設問9	4.15	4.18	4.15	4.19
設問10	3.98	3.99	4.02	4.13
設問11	3.82	3.92	3.91	4.04
設問12	4.03	4.02	4.07	4.14
設問13	4.04	4.04	4.06	4.18
設問14	4.00	3.99	4.03	4.14
設問15	4.03	4.03	4.03	4.15
設問16	4.01	4.01	4.03	4.15
平均	3.93	3.98	3.97	4.05



（出典　アンケート対応専門部会資料）

校長賞受賞者

○　教員顕彰の本校からの被推薦者

平成 21 年度	人文科学系	教　授	脇野　　博
	人文科学系	講　師	水野　　麗
平成 22 年度	人文科学系	教　授	菅原　隆行
	電気情報工学科	講　師	竹下　大樹
平成 23 年度	環境都市工学科	教　授	対馬　雅己
	電気情報工学科	助　教	伊藤　桂一
平成 24 年度	環境都市工学科	教　授	対馬　雅己
	自然科学系	准教授	森本　真理
平成 25 年度	電気情報工学科	准教授	伊藤　桂一
	物質工学科	准教授	野中　利瀬弘

○「学術賞」を受賞した学生の卒業研究または特別研究指導教員

平成 21 年度	機械工学科	教　授	茂木　良平
	電気情報工学科	教　授	浅野　清光
	電気情報工学科	助　教	坂本　文人
	物質工学科	准教授	横山　保夫
	環境都市工学科	准教授	水田　敏彦
平成 22 年度	機械工学科	准教授	木澤　　悟
	電気情報工学科	教　授	高橋　身佳
	電気情報工学科	助　教	坂本　文人
	物質工学科	准教授	横山　保夫
	物質工学科	准教授	榊　秀次郎

	環境都市工学科	教　授	佐藤　　悟
平成 23 年度	機械工学科	准教授	木澤　　悟
	電気情報工学科	准教授	平石　広典
	電気情報工学科	助　教	坂本　文人
	物質工学科	准教授	横山　保夫
	物質工学科	准教授	丸山　耕一
	環境都市工学科	准教授	金　　主鉉
平成 24 年度	機械工学科	講　師	野澤　正和
	電気情報工学科	准教授	平石　広典
	電気情報工学科	助　教	坂本　文人
	物質工学科	准教授	榊　秀次郎
	物質工学科	助　教	鈴木　祥子
	環境都市工学科	教　授	桜田　良治
平成 24 年度	機械工学科	講　師	野澤　正和
	電気情報工学科	准教授	平石　広典
	電気情報工学科	助　教	坂本　文人
	物質工学科	准教授	榊　秀次郎
	物質工学科	助　教	鈴木　祥子
	環境都市工学科	教　授	桜田　良治
平成 25 年度	機械工学科	助　教	今田　良徳
	電気情報工学科	教　授	安東　　至
	電気情報工学科	准教授	田中　将樹
	物質工学科	准教授	野中　利瀬弘
	環境都市工学科	准教授	金　　主鉉
	環境都市工学科	准教授	寺本　尚史

（出典　教員会議資料から抜粋）

資料３－２－①

学科横断型プロジェクト研究

プロジェクト課題	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
環境技術を駆使した潤いのある社会創成を目指して （代表　物質工学科　須川　浩教授）	（平成16年度～平成18年度）									
ナノテクノロジーを用いた次世代生産技術の創成 （代表　電気情報工学科　浅野　清光教授）		（平成17年度～平成20年度）								
局所構造制御による機能性材料の開発研究 （代表　自然科学系）			中止 （代表　中島　晴彦教授）（代表　黒田　孝二教授）							
ハイブリッド型情報記憶デバイスの創造に関わる基礎研究 （代表　物質工学科　丸山　耕一准教授）				（平成19年度～平成22年度）						
環境材料の開発と応用 （代表　環境都市工学科　対馬　雅己教授）				（平成19年度～平成22年度）						
バイオマス利用技術の開発 （代表　環境都市工学科　金　主哲准教授）				（平成19年度～平成21年度）						
生物プロイの創生 （代表　物質工学科　伊藤　浩之教授）						（平成21年度～平成24年度）		（代表　伊藤　浩之教授）		
水素ガスバリア性に優れたガラス膜樹脂複合材料の研究 （代表　物質工学科　佐藤　恒之教授）							（平成22年度～平成24年度）			
分子動力学シミュレーションによる工学材料の物性の再現と評価 （代表　自然科学系　成田　肇教授）							（平成22年度～平成24年度）			
省電力・超高速レアメタルフリー情報記憶素子開発の基礎的検討 （代表　物質工学科　丸山　耕一准教授）								（平成23年度～）		
人間動作計測技術を用いた各種スポーツにおける運動能力向上に関する研究 （代表　機械工学科　宮脇　和人教授）								（平成23年度～）		
男鹿市潟西石のアルカリ成分を改質する方法に係る技術の開発 （代表　環境都市工学科　対馬　雅己教授）									（平成25年度～）	
秋田県南における温熱環境およびエネルギー利用の効率化に関する調査研究 （代表　環境都市工学科　寺本　尚史　准教授）									（平成25年度～）	

（出典　総務課資料）

資料３－２－②

秋田工業高等専門学校産学協力会会員企業名簿（平成25年８月31日現在）

1　株式会社アキタ・アダマンド
2　秋田活版印刷株式会社
3　秋田指月株式会社
4　秋田十條化成株式会社
5　秋田ジンクソリューションズ株式会社
6　株式会社秋田新電元
7　秋田住友ベーク株式会社
8　株式会社アキタ電子システムズ
9　秋田ニチレキ株式会社 秋田営業所
10　秋木製鋼株式会社
11　東電化工業株式会社
12　インスペック株式会社
13　株式会社エイテックス
14　株式会社オーエスイー
15　大森建設株式会社
16　小林工業株式会社
17　株式会社五洋電子
18　株式会社沢木組
19　株式会社三義
20　株式会社山王電機製作所
21　柴田工事調査株式会社
22　JUKI 電子工業株式会社
23　株式会社菅与組
24　株式会社スズキ部品秋田
25　株式会社創研コンサルタント
26　第一三共プロファーマ株式会社 秋田工場
27　タルイシ機工株式会社
28　千代田興業株式会社
29　TDK 株式会社　秋田総務部
30　東光鉄工株式会社
31　東邦技術株式会社
32　株式会社東北機械製作所
33　十和田オーディオ株式会社
34　株式会社ナカヨ通信機 開発推進本部 北日本事業所
35　並木精密宝石株式会社 秋田工場
36　ニチレキ株式会社 秋田営業所
37　ニット工業株式会社
38　日発精密工業株式会社 横手工場
39　ニューロング秋田株式会社
40　ニューロング技研株式会社
41　日立オートモティブシステムズステアリング株式会社 秋田工場
42　株式会社マツザワ
43　万六建設株式会社
44　三菱マテリアル株式会社 秋田製錬所
45　三菱マテリアルテクノ株式会社 秋田支店
46　三菱マテリアル電子化成株式会社
47　ミツミ電機株式会社 秋田事業所
48　宮腰精機株式会社
49　株式会社 MECARO
50　山岡工業株式会社
51　山崎ダイカスト株式会社
52　横浜電子工業株式会社

（出典　秋田高専産学協力会会報第 53 号　P. 8）

資料３－２－③

平成25年12月末現在

（単位：千円）

区　　分		平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度
科学研究費補助金（助成事業）	申請数	28	28	28	37	46
	採択件数	6	9	7	9	8
	金　額	28,920	9,800	7,800	13,780	10,870
奨学寄附金	件　数	27	28	15	15	10
	金　額	14,094	9,520	7,625	9,252	6,006
共同研究	件　数	7	7	9	15	15
	金　額	2,020	2,752	3,575	2,260	6,176
受託研究	件　数	9	12	9	10	8
	金　額	10,321	9,637	13,157	11,763	5,326
合　　計	件　数	49	56	41	49	41
	金　額	55,355	31,709	32,158	37,055	28,378

（出典　企画室資料）

資料３－２－④

スギ間伐材で牛の飼料

細かく砕き、糖分を保つ

秋田高専と県立大開発

木材需要拡大に期待

スギ間伐材を細かく粉砕し、牛の飼料を製造する方法を秋田高専と県立大の研究グループが開発した。木材を直径０・01～０・05㍉に微粉砕すれば、従来は必要と考えられていた木材の熱処理を省くことができ、内部の糖分も維持できることに着眼した。研究グループは木材需要の拡大のほか、畜産農家への飼料の安定供給にもつなげたい考えだ。

研究を主導した上松仁・秋田高専物質工学科教授（生物工学）によると、木材に含まれる糖分（セルロースとヘミセルロース）は消化が難しいリグニンと結び付いており、牛が効率的に糖分を吸収するにはリグニンの分解が必要。分解のために高温、高圧で蒸すなどの熱処理を行うと糖分が流出することが課題となっていた。

研究グループが開発した製造方法は、熱を加えず微粉砕することでリグニンを分解するため、糖分を失うことなく牛に与えることができる。木材をおがくず大に粉砕した後、微粉砕機を利用して直径０・01～０・05㍉の粉末にすりつぶし、最後には牛が食べやすいよう３～４㍉程度のペレット状に加工する。飼料として主流のトウモロコシと同等の栄養価を確保するには、トウモロコシの１・４倍の量のペレットが必要という。

本荘由利森林組合は昨年度、この方法を活用し、管内の製材工場から出たチップでペレット７００㌧を試験製造した。県畜産試験場の乳牛３頭に与えたところ、ペレットが原因とみられる乳量低下や成分変化はなかったという。

同組合が期待するのは木材需要の拡大。管内の原木生産量は年間７万～８万立方㍍。地域の乳牛など約２６００頭に与えられているトウモロコシの３割程度がペレットに置き換われば、原木換算で年間１万立方㍍の増産につながるという。現段階では製造コストの掛かり増しが課題だが、同組合は「大規模に事業展開できればコストも下がる。木材の新市場開拓が期待できる」と話す。

畜産農家への飼料の安定供給の面でも効果が期待されている。日本はトウモロコシ飼料のほぼ全量を輸入に頼っている上、飼料の価格はバイオエタノール需要の高まりで高騰している。研究グループは製造方法の実用化で国産ペレット飼料を普及させ、農家の経営安定化につなげることも目指している。上松教授は「畜産経営の安定と森林資源が豊富な本県の林業振興に寄与したい」としている。

（梅川正城）

スギ間伐材を微粉砕した粉末（左）とペレット化した飼料

平成２４年　５月１９日（土）秋田魁新報

（出典　新聞記事から抜粋）

平成24年11月30日（金）秋田魁新報　8面

安心な外出へ風活用

視覚障害者向け帽子を試作

来年中の製品化目指す

再び注目に 人口毛皮

県内研究者ら

県内の研究者らが視覚障害者向けに、風音を和らげる帽子の開発に取り組んでいる。主に聴覚によって周囲の状況を把握する視覚障害者は、強風で音からの情報が遮断されるなど、方向感覚を失いかねないことから「強風の日は外出が不安」と聞いたのをきっかけに2008年から研究を始めた。

佐藤さんによると、視覚障害者は音からの音で周りの状況を判断しており、強風で音がかき消されると感覚が狂い、バランスを崩すこともあるという。「市販の帽子や耳当てでは、音の発生源などを感覚的に聞きとることはできない。強風が吹いても、吹き飛ばされないような方法はないか」と話す。

風で視覚が聞き取りにくくなる原因は▽風が耳の周りで渦を巻く、その音が耳の中に入る「雑音」▽帽子や髪に当たった風が音を立てて耳に届く「音源」―の発生が考えられる。風による二つの雑音を減らしながらも、会話や車の走行音など必要な音を聞き取れるように

人工的に起こした風の前でラジオをつけ、帽子の効果を検証する実験

工夫を重ねる。

今年に入り、帽子のデザイン・製造を手掛ける「オオタ・ファニシング」（男鹿市）や、帽子製造の開発・製造の秋田テクノデザイン（秋田市）などの県内企業も開発に加わり、実用化に着手。オオタは医療機器開発を支援する県の助成金約50万円も受けた。

今月10日には秋田市内（同市提供）で試作品のテスト走行を実施。風向調整機能付きの帽子に人工毛皮（ファー）を使った耳当てを取り付け、強風時の音の聞こえ方を調べた。参加した視覚障害者は「風が当たりにくくなり、風の音が小さくなった」「周囲の音を聞き取りやすくなった」などと評価。また耳当てで風音を減らす10万～20万円の帽子を売り出し、視覚障害者には試作品や市販の帽子をおかぶってもらい、その音の聞こえ方を比較した。オオタは「試作品をおかぶり（ラオオタ）ようオオタ（ラオオタ）ようオオタ（ラオオタ）ようオオタ

平成25年度　外部資金受入状況

共同研究

通し番号	研究題目	受入金額(円)	相手方	備考
1	小水力発電システム用水車高性能化の研究	275,000	東北小水力発電株式会社	
2	可変剛性を有するアクチュエータシステムの研究	1,000,000	株式会社東芝	
3	技術者養成のための機械加工技術の習得	150,000	秋田未来株式会社	
4	木材を微粉砕して原料とする牛の木質飼料ペレットの研究開発	719,250	公立大学法人　秋田県立大学	
5	戻りコンクリートを高付加価値で再生利用する技術に係る基盤研究	399,808	大森建設株式会社	
6	霞ヶ浦における表層水温の長期観測データを用いたトレンド解析	200,000	豊橋技科大	増田先生
7	3次元分解能を有するスペックル像の検出と微細溝加工技術	166,000	長岡技科大	丸山先生
8	3次元分解能を有するスペックル像の検出と微細溝加工技術	166,000	長岡技科大	野澤先生
9	対話型進化的計算と進化的多目的最適化の融合に関する研究	250,000	長岡技科大	井上先生
10	スイッチングの事前情報を必要としない直流電流検出による三相電流の復元とその応用	300,000	長岡技科大	安東先生
11	赤外／近赤外域光学干渉トモグラフィ(OCT)法による液晶分子配向の検討	250,000	長岡技科大	丸山先生
12	圧電素子を利用した精密位置決めと加工に関する研究	250,000	長岡技科大	宮脇先生
13	セルラーゼ糖化率を高めた牛のセルロース系濃厚飼料の開発に関する研究	0	国立大学法人　岩手大学	上松先生
14	酢酸リグニンを用いた細胞染色用蛍光粒子の開発	0	公立大学法人　秋田県立大学	上松先生
	累　計　　14　　件	4,126,058		

受託研究

通し番号	研究題目	受入金額(円)	相手方	備考
1	リン含有地下水における回収方法検討(Ⅱ)業務委託	1,499,400	秋田県	
2	高欄用アンカーボルトに係るナットの緩み防止方法	105,000	大森建設株式会社	
3	アンカーボルトに係るナットの引抜き治具の開発	75,000	大森建設株式会社	
4	選択的溶解法による新規ゼオライトの合成	1,000,000	日揮触媒化成株式会社	
5	光偏向制御素子を用いた路肩光カーテンに係る基盤研究	157,500	国立大学法人　秋田大学	
6	卓上型上肢運動訓練のためのリハビリ支援ロボットの開発	980,000	秋田県医工FS	木澤先生
7	空圧駆動の手指拘縮予防装置に係る実現可能性調査	500,000	秋田県産学官連携FS	宮川先生
8	バイオマスから抽出した酢酸リグニンを用いる細胞染色用蛍光粒子の開発	685,000	JST	複数年契約24年度分
	累　計　　8　　件	5,001,900		

（出典　企画室資料）

資料3－2－⑥

資料３－２－⑦

秋田高専地域共同テクノセンター技術研究会　開催一覧

開催日	概　　要	
第9回	研究公開 工業化学の世界における便利な工具－パラジウム化合物とホウ素化合物	物質工学科　横山保夫 氏
平成20年9月25日	研究公開 細胞膜類似リン脂質親性基含有ポリマー(MPCポリマー)の生化学分野での利用	物質工学科　榊秀次郎 氏
	研究公開 近代日本における企業社宅街の形成	環境都市工学科　角　哲 氏
	特別講演 地方分権改革と新たな地域連携	秋田市長　佐竹敬久 氏
	専攻科特別研究等のポスターセッション	
	研究設備の見学会	於 秋田高専
第10回	特別講演 ハードディスクドライブ(HDD)の高密度化と省エネへの取り組み	日立グローバルストレージ　テクノロジーズ取締役 萩原芳樹 氏
平成21年9月17日	研究公開 学科横断型プロジェクト研究「ナノテク技術」成果報告会 光機能性ナノ複合積層薄膜の開発と実用化研究	電気情報工学科　浅野清光 氏
	研究公開 液晶・高分子材料への微粒子の混合	電気情報工学科　田中将樹 氏
	研究公開 ナノオーダー表面性状創生技術	機械工学科　酒井雄二 氏
	研究公開 希土類及びアクチニド化合物の電子状態と磁気及び光学的性質に関する理論的研究	自然科学系　成田　章 氏
	専攻科特別研究等のポスターセッション	
	研究設備の見学会	於 秋田高専
第11回	特別講演 豊田中研でのエンジン研究開発と今後のモビリティへの提言	秋田県産業技術総合研究センター所長　齋藤昭則 氏
平成22年9月17日	研究公開 リハビリ動作の定量評価が可能な腕動作支援システムの開発	機械工学科　宮脇和人 氏
	研究公開 可変支持点を用いた可変ばねに関する基礎研究	機械工学科　小林義和 氏
	研究公開 Massilia sp.BS-1が生産する青紫色素	物質工学科　上松　仁 氏
	研究公開 稲作残渣を用いたアルコール発酵及び製造技術の研究	物質工学科　西野智路 氏
	研究公開 亜酸化窒素を制御指標とした無酸素好気回分式活性汚泥法	環境都市工学科　増田周平 氏
	専攻科特別研究等のポスターセッション	
	研究設備の見学会	於 秋田高専
第12回	特別講演 放射線を正しく理解する	自然科学系　上田　学 氏
平成23年9月16日	研究公開 環境材料の開発と応用	環境都市工学科　対馬雅巳 氏
	研究公開 ハイブリッド型情報記憶デバイスの創造に関わる基礎研究	物質工学科　丸山瑛一 氏
	専攻科特別研究等のポスターセッション	
	研究設備の見学会	於 秋田高専
第13回	※一般社団法人日本機械学会と共催	
平成24年11月24日	特別講演 秋田発 宇宙教育とその展開－教育会負と人材育成の観点から－	秋田大学大学院　工学資源学研究科機械工学専攻　教授　土岐　仁 氏
	講演：36件	於 秋田高専
第14回	特別講演 磁気記録媒体に関するこれまでの研究・・・その作成と評価	秋田県　企画振興部学術国際局　学術振興課研究推進監　有明　順 氏
平成25年9月5日	研究公開 生物アロイの創世	物質工学科　榊秀次郎 氏
	研究公開 水素ガスバリア性に優れたガラス膜樹脂複合材料の研究	物質工学科　佐藤信之 氏
	研究公開 分子動力学シミュレーションによる工学材料の物性の再現と評価	特任教授　成田　章 氏
	専攻科特別研究等のポスターセッション	於 秋田高専

（出典　企画室資料　秋田高専産学協力会会報第51号　P.4）

資料３－２－⑧

知財No. (承継日)	出願番号 (出願日)	発明の名称	発明者(持分%)	審査請求	登録日 (特許No.)
H18-13 (2006.6.28)	特願2006-228798 (2006.8.25)	微粉砕したゴミ溶融スラグと消石灰の混合による路盤改良材	対馬雅己(80)、徳光直樹(20)		2007.4.6 (3936992)
H18-115 (2007.3.15)	特願2007-077621 (2007.3.23)	荷電粒子ビーム減速装置および方法とこれを用いたX線発生装置	山本昌志(33)、東京大学(33)、IHI(33)		2010.9.24 (4590653)
H19-28 (2007.6.29)	特願2007-227137 (2007.8.31)	人工呼吸器用流量計	茂木良平(25)、秋田県(25)、ホクシンエレクトロニクス(25)、メトラン(25)	2007.10.31	
H19-89 (2008.2.14)	特願2008-070566 (2008.3.19)	珪藻土とゴミ溶融スラグの混合による人工軽量骨材	対馬雅己(100)	2008.3.25	2008.11.14 (4214214)
H20-9 (2008.6.24)	特願2008-165259 (2008.3.19)	岩ズリとゴミ溶融スラグと安定剤の混合による地盤及び路盤改良材	対馬雅己(40)、花田智秋(10)、広洋産業(50)	2008.08.25	2010.2.12 (4452780)
H20-30 (2008.10.30)	特願2010-536778 (2009.11.5)	位相シフト型インバータ回路、それを用いたX線高電圧装置、X線CT装置、およびX線撮影装置	安東至(30)、長岡技科大(30)、日立メディコ(40)	2012.10.18	
H20-39 (2009.1.16)	特願2009-22127 (2009.2.3)	岩ズリとゴミ溶融スラグの混合による人工石	対馬雅己(60)、米谷裕(10)、広洋産業(30)	2009.06.05	2010.7.2 (4538575)
H20-57 (2009.2.5)	特願2009-12397 (2009.1.22)	インバータシステムの無駄時間補償装置	安東至(30)、長岡技科大(40)、日立メディコ(30)	2012.1.20	2013.8.2 (5329995)
H21-17 (2009.6.29)	特願2009-176169 (2009.7.29)	泥炭と粉砕木片の混合による有機質ペレット燃料	対馬雅己(80)、米谷裕(20)	2009.07.29	
H21-129 (2010.3.15)	特願2010-160940 (2010.7.15)	無駄時間補償機能を備えたX線CT装置、および、制御装置	安東至(30)、長岡技科大(40)、日立メディコ(30)	2013.06.20	
H22-55 (2010.9.30)	特願2010-256061 (2010.11.16)	家畜飼料の製造方法及び家畜飼料	上松仁(40)、秋田県立大(60)	2013.11.15	
H22-48 (2010.9.21)	特願2010-267523 (2010.11.30)	食品用の燻製材、燻製材の製造方法、食品の加工方法および加工方法により加工された食品	対馬雅己(100)		2012.5.11 (4991003)
H23-1 (2011.4.22)	特願2011-113374 (2011.5.20)	超音波流量計を用いた酸素濃度計	茂木良平(25)、秋田県(25)、ホクシンエレクトロニクス(25)、メトラン(25)	2014.05.20 (期限)	
H23-70 (2011.12.7)	特願2012-022522 (2012.2.3)	人工材料及びその製造方法	対馬雅己(50)、ネクスコ・エンジニアリング東北(50)		2012.10.5 (5099798)
H23-102 (2012.2.27)	特願2012-73456 (2012.3.28)	風音防止装置	茂木良平(100)	2015.03.28 (期限)	
H23-119 (2012.3.29)	特願2012-204244 (2012.9.18)	廃水処理装置、カラム、及び廃水処理方法	金主鉉(70)、上松仁(30)	2015.09.18 (期限)	
H25-8 (2013.5.10)	特願2013-074373 (2013.3.29)	小眼球症関連転写因子制御剤、メラニン産制御剤、化粧品組成物及び抗がん剤	上松仁(50)、秋田大学(50)	2016.03.29 (期限)	
H25-91 (2013.11.29)		誘電体と磁性体を複合(ハイブリッド)させた新規素子の構造および原理	丸山耕一(100)		
H25-92 (2013.11.29)		金属磁性イオンをドープした導電性高分子の多層構造による情報記憶・伝送素子およびその製法	丸山耕一(100)		

(出典　企画室資料)

資料３－２－⑨

各賞受賞一覧

	受賞年度	受賞名	題目	主催
H21	H21	Best Reviewer賞	「日本鉄鋼業の省エネの現状と今後」	(社)「高温学会」春季総合学術講演会
H22		建設工学奨励賞	「下水処理プロセスから発生する温室効果ガスの定量化およびモデル化に関する研究」	財団法人建設工学研究振興会
H22		積雪期の地震防災を広めたで賞	「雪国秋田・積雪期の地震対策」	防災教育推進フォーラム(文部科学省)
H22	H22	国際会議アドバイザー認定証(Certificate of Special Recognition)		コンクリートと構造物国際会議(International Conference on Our world in Concrete and Structures:OWICS)
H22	H21	2009年度優秀論文賞	「超硬スクラップ中タンタルとニオブの塩化揮発挙動」 化学工学論文集	化学工学会
H22	H21	2009年度優秀論文賞	「超硬スクラップ中タンタルとニオブの塩化揮発挙動」 化学工学論文集	化学工学会
H23	H23	Best Award Paper	"Applying qualitative reasoning to a driver's cognitive mental load "	10th IEEE International Conference on Cognitive Informatics and Cognitive Computing (ICCI*CC2011)
H23		情報処理学会第73回全国大会学生奨励賞	「ベイジアンネットワークによる現在地予測に基づくコミュニケーションシステムの設計」	情報処理学会第73回全国大会
H23	H23	優秀ポスター賞	「CHPナノゲルを用いた酵素安定化システム」	化学系学協会東北大会 2011
H23	H23	2011年度日本都市計画学会石川奨励賞		日本都市計画学会
H24	H24	最優秀賞	「H8マイコンを組み込んだチェスボードを用いたチェス支援システム」	芸術科学学会東北支部(アート&テクノロジー東北2012)
H24	H24	最優秀賞	「H8マイコンを組み込んだチェスボードを用いたチェス支援システム」	芸術科学学会東北支部(アート&テクノロジー東北2012)
H24	H24	平成24年度化学系学協会東北大会優秀ポスター賞		化学系学協会東北大会 2012
H24	H24	下水道協会誌奨励賞(学術部門)	「下水処理場の水処理プロセスにおけるメタン発生量の定量化手法に関する検討」	日本下水道協会
H24	H24	最優秀ポスター発表賞	「下水処理場に由来するメタン・亜酸化窒素の直接排出と間接排出の割合に関する考察」	日本下水道協会
H25		情報処理学会学生奨励賞		情報処理学会
H25		東北地区高等専門学校体育連盟 功労賞		東北地区高等専門学校体育連盟
H25	H24	平成24年度国立高等専門学校教員顕彰 優秀賞(一般部門)		独立行政法人国立高等専門学校機構
H25	H25	第27回秋田の住宅コンクール優秀賞 公益社団法人日本建築家協会東北支部秋田地域会長賞	「秋田市市街地に建つ土蔵のあるすまい」	秋田県・一般社団法人秋田県建築士事務所協会 2013
H25	H24	生命ソフトウェアシンポジウム2012優秀発表賞	「近傍探索範囲を漸減させる対話型タブーサーチによる香り生成手法」	日本感性工学会生命ソフトウェアシンポジウム2012
H25		平成24年度 論文賞	「余震による地震入力を受ける場合の応答推定手法に関する検討」	日本コンクリート工学会東北支部
H25		平成24年度 論文賞	「鋼材ダンパーを設置した6層鉄筋コンクリート造ピロティ架構のサブストラクチャ擬似動的実験」	日本コンクリート工学会東北支部
H25	H24	日本下水道協会 若手研究発表賞	「下水処理場における温室効果ガスの発生源解析と発生係数の季節変動」	日本下水道協会
H25	H24	日本水環境学会 クリタ賞	「疑似AO法と循環式硝化脱窒法の下水処理過程におけるCH4, N2O排出特性の評価」	日本水環境学会
H25	H24	日本水環境学会 ライオン賞	「八郎湖とその流入河川における溶存態亜酸化窒素の通年調査」	日本水環境学会
H25		高専大会功労者表彰		

(出典　総務課資料)

資料３－４－①

高専改革推進経費 国際的な情報発信のためのe-learningによる人材養成プログラム

秋田工業高等専門学校人文科学系准教授　小林　貢

▽はじめに

本校の英語教育は「国際交流による国際性豊かな技術者養成」と「英語教育と工学教育との連携」を目標に、教員が協力して教育を行うことにより成果をあげています。平成21年度より本科第4～5学年と専攻科を対象に、スイスでの海外インターンシップに1名、フランス・リールA技術短期大学での短期留学に5名、シンガポールでの語学研修に2名の学生を派遣しました。

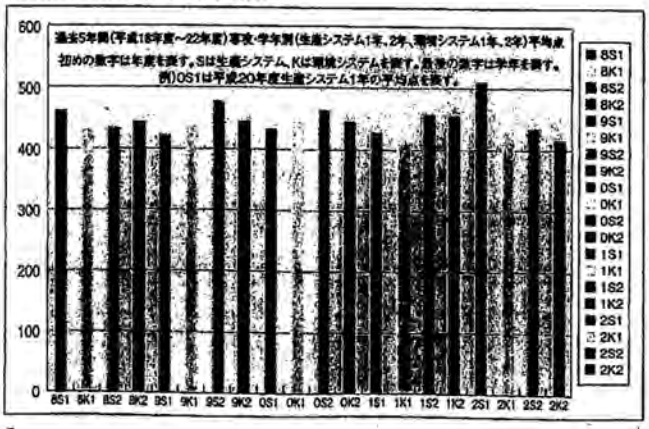
低学年における授業では、英文法を中心とした基礎英語力の強化や、英語でコミュニケーションを図るために発音や音声に関する指導を行っています。これをふまえた上で、高学年においては、英語コミュニケーション能力の基礎としてのTOEIC受験に向けた教育を行っています。さらに専攻科の授業においては、TOEIC受験に向けた教育に加えて、専門知識に関する英語教育と工学教育との連携を実践しています。

TOEIC受験に向けた教育については、平成21年度から平成23年度までの専攻科修了生（修了予定者を含む）におけるJABEE基準のTOEICスコア385点以上を取得した学生の割合が98・75％でした。また、本校は平成20年度日本英語検定協会優秀団体賞および平成21年度日本英語検定協会優良団体賞を受賞しています。

▽本事業の実施と成果

平成21年度における本事業の実施については、平成22年3月にe-learningの準備を行った後、国際教養大学教授 Dr. Kirby Record先生を講師に招へいして、TOEIC430点以上の学生12名を対象に、ライティングのプログラム「情報発信のためのLesson」を実施しました。参加した学生の1人は平成22年度にフラ

専攻科におけるTOEIC平均点



ンスに短期留学し、平成23年度に国際学会で発表を行いました。

平成22年度においては、専攻科1年前期の応用英語Ⅰ、後期の応用英語Ⅱ、専攻科2年前期の応用英語Ⅲに、全面的にALC NetAcademy2（以下「ANET2」）スーパースタンダードコースを導入しました。

図は、過去5年間（平成18～22年度）における本校の専攻科の専攻・学年別（生産システム工学専攻1年および2年、環境システム工学専攻1年および2年）のTOEICスコアのクラス平均点のグラフです。横軸の下にある記号の初めの数字は各年度の下1桁を表します。次のアルファベットはSが生産システム工学専攻、Kが環境システム工学専攻を表します。最後の数字は学年を表しています。例えば、2S1は平成22年度生産システム工学専攻1年のTOEIC平均点511点を表します。全てのクラスのTOEIC平均点は400点を超えていますが、2S1の平均点が、他のクラスの平均点よりもスコアが高い理由は、「情報発信のためのLesson」に参加した学生4名と他の学生のe-learning演習の相乗効果を示しています。具体的には、「情報発信のためのLesson」に参加した学生4名の平均点は602・5点で、クラスの最高点は「情報発信のためのLesson」に参加した学生4名のうちの1人で720点でした。

電気情報工学科4年および物質工学科4年の総合英語Ⅰ（通年）において、ライティングを指導するために、ANET2　ライティング基礎コースを導入しました。1年間演習することにより、電気情報工学科4年の学生はTOEICスコアが最高で180点上昇（495点→675点）しました。物質工学科4年の学生は、TOEICスコアが最高で110点上昇（515点→625点）し、当該学生は平成23年度にシンガポールでの語学研修に派遣しました。

物質工学科5年後期の「工業英語」に、ANET2　技術英語パワーアップコースを導入して英語の論文についての演習を行いました。さらに、自主学習教材としてANET2　TOEIC（R）テスト演習2000コースを導入し、学生のTOEICテストに対するモチベーションを高めました（平成23年度専攻科1年後期の応用英語Ⅱにおいては、授業に導入して演習を行いました）。

講演会 "Biotechnology: Solving the World's Biggest Problems"（2011年1月20日）における質疑応答

秋田魁新報　記事掲載（2010年4月8日）

秋発大秋採用き英語講演

国際舞台へ羽ばたけ

「書く、話す」鍛え発信能力を養う

それに加えて、国際教養大学助教 Dr. Andrew J. Crofts 先生を講師に招へいして、専門分野に関連した講演会として "Biotechnology: Solving the World's Biggest Problems" を5年生対象に実施することにより、国際学会等で学生が発表するための英語力の素地を養成しました。これについては、秋田魁新報にて平成23年2月3日に記事が掲載されています。

▽今後の展望

今後の展望としては、「国際交流による国際性豊かな技術者養成」と「英語教育と工学教育との連携」を継続した目標として、e-learningやネイティブの教員による英語演習により、TOEICに対応できる「国際的な情報受信力」を更に充実させることに加えて、より多くの学生が国際学会等で発表でき、かつ留学できる「国際的な情報発信力」を一層向上させるための英語教育を推進していきます。

（出典　文部科学時報 2012年3月号　P.50～51）

資料３－４－②

9784254231021
1923053029004
ISBN978-4-254-23102-1
C3053 ¥2900E
定価（本体2900円＋税）

制御工学
―基礎からのステップアップ―

大日方五郎 編著

朝倉書店

制御工学

―基礎からのステップアップ―

大日方五郎 編著
池浦良淳 大雄
巖見武裕 悟
大槻太郎 俊
＊大日方五郎 勝明
木澤浩 富
佐藤勝俊 縄
長縄明大 村
中村富雄 山
横山誠 著

まえがき

～ヒューマノイドロボットの時代が始まろうとしている～

ヒューマノイドロボットは人に似せたロボットと定義できようが，その構成要素は，機構系，駆動系，制御系とその上位にある指令系または管理系に分類できる．これらを人のそれに対応づければ，骨格系，筋系，感覚・神経系，大脳・中枢神経系となるであろう．この対応関係からヒューマノイドロボットにおける制御系は，従来から機械の要素であった機構系，駆動系と“人らしさ”根源である大脳・中枢神経を結びつけるものと考えることができる．したがって，まさにロボットにおける中核技術と言えるであろう．

半導体製造技術とディジタル計算機の発展（ディジタル・テクノロジーの発展）によって，高度なセンサやアクチュエータ駆動装置，高速な信号処理が可能となり，複雑で適応的に動作する制御系の構築が容易になった．制御の技術は，必ずしも新しいものではないが，ディジタル＋テクノロジーの発達に支えられて，もう一段飛躍する時にきていると思われる．この時期に，制御工学の教科書を書くことができたのは幸いであり，本書を通して，基礎を身につけ，ヒューマノイドロボットなど高度なメカトロニクス機器の設計開発に挑戦する技術者，研究者が育つことを願っている．

なお，執筆分担は以下のとおりである．

1章：大日方五郎　　2章：中村富雄，大槻太郎
3章：佐藤勝俊，巖見武裕　　4章：池浦良淳
5章：横山　誠　　6章：木澤　浩，長縄明大

最後に，出版に際してお世話頂いた朝倉書店編集部にお礼申し上げます．

2002年6月

著　者

執筆者

池浦良淳　三重大学工学部機械工学科・助教授
巖見武裕　秋田大学工学資源学部機械工学科・講師
大槻太郎　木更津工業高等専門学校電子制御工学科・講師
＊大日方五郎　名古屋大学先端技術共同研究センター・教授
木澤浩　秋田工業高等専門学校機械工学科・助教授
佐藤勝俊　八戸工業高等専門学校機械工学科・教授
長縄明大　秋田大学工学資源学部機械工学科・助教授
中村富雄　宮城工業高等専門学校電気工学科・助教授
横山誠　岐阜大学工学基盤システム工学科・助教授

（五十音順，＊編著者）

2.3.3 ブロック線図の等価変換 …… 25
練習問題 …… 26

3. 過渡応答と周波数応答 …… 29
3.1 基本要素の過渡応答 …… 29
3.1.1 入力信号 …… 29
3.1.2 ステップ応答 …… 31
3.1.3 インパルス応答 …… 38
3.2 伝達関数の極，零点と過渡応答 …… 40
3.2.1 極とステップ応答 …… 41
3.2.2 代表極 …… 42
3.2.3 零点の影響 …… 43
3.3 周波数応答とその表し方 …… 45
3.3.1 周波数応答と伝達関数 …… 45
3.3.2 基本要素のナイキスト線図 …… 50
3.3.3 基本要素のボード線図 …… 56
練習問題 …… 62

4. 安定性 …… 66
4.1 安定性とは …… 66
4.2 ラウス・フルビッツの安定判別法 …… 70
4.3 閉ループシステムの安定性 …… 73
4.4 ナイキストの安定判別法 …… 76
4.5 安定余裕 …… 81
練習問題 …… 85

5. フィードバック制御系の特性 …… 86
5.1 フィードバックの働き …… 86
5.1.1 目標値追従と外乱除去 …… 86
5.1.2 定常特性 …… 88

5.2 閉ループ伝達関数による性能評価 …… 91
5.3 ロバスト性と制御の働き …… 94
5.3.1 モデルの不確かさ …… 94
5.3.2 不確かさの記述 …… 97
5.3.3 スモールゲイン定理 …… 102
練習問題 …… 104

6. コントローラの設計 …… 106
6.1 時間領域におけるコントローラの設計 …… 106
6.1.1 根軌跡 …… 106
6.1.2 PID コントローラ …… 108
6.2 周波数領域におけるコントローラの設計 …… 113
6.2.1 位相進み・位相遅れ補償 …… 113
6.3 内部安定性 …… 122
6.4 安定化コントローラの表現 …… 124
6.4.1 既約分解 …… 125
6.4.2 コントローラのパラメータ表現 …… 127
6.4.3 達成可能な特性とそのパラメータ表現 …… 128
6.4.4 2自由度制御系 …… 133
6.5 H_∞ ノルムによる設計仕様の表現とループ整形 …… 138
6.5.1 H_∞ ノルム …… 139
6.5.2 H_∞ ノルム仕様 …… 140
6.5.3 フリーパラメータによる表現 …… 141
6.5.4 ループ整形手法 …… 142
練習問題 …… 143

A. 付 録 …… 146
A.1 ラプラス変換 …… 146
A.1.1 基本的な関数のラプラス変換 …… 146
A.1.2 ラプラス変換の性質 …… 150

6

コントローラの設計

本章では，古典制御において用いられてきた根軌跡法による過渡応答特性の改善を目指した制御系設計方法，そして，周波数応答特性に基づいた制御系の設計手法であるPIDコントローラおよび位相進み，位相遅れ補償によるコントローラの設計方法について解説する．さらに，ループ整形に基づくコントローラの設計コンセプトとシステムを安定化できるコントローラは唯一ではなく，集合として表現できることを解説する．

6.1 時間領域におけるコントローラの設計

制御系の設計は過渡応答（立ち上がり時間，整定時間，オーバーシュートなど），定常応答などの時間領域での仕様をもとに設計される．特に，過渡応答の挙動は複素平面上において，システムの極に依存する．そこで，古典制御に基づく根軌跡法およびPID制御法について述べる．

6.1.1 根軌跡

制御系の安定性および過渡特性は，複素平面上における閉ループ伝達関数の極の配置に依存する．すなわち，閉ループ系の特性方程式 $1+L(s)=0$ の根がわかればよい．そこで，フィードバック制御系の一巡伝達関数において，比例ゲインを変化させ，閉ループ極の図式的な軌跡から過渡応答特性を調べる方法を**根軌跡**(root locus)という．特性根の複素平面上の配置と過渡応答特性との関係については，すでに3.2節で述べた．ここで，図6.1のフィードバック系を考える．$P(s)$ は制御対象，K は定数ゲインのコントローラである．図の閉

ループ系の伝達関数は

$$\frac{KP(s)}{1+KP(s)} \tag{6.1}$$

と記述でき，その極は次の特性方程式で求められる．

$$1+KP(s)=0 \tag{6.2}$$

根軌跡は式(6.2)において，K をパラメータとして0から ∞ まで変化させたときに極の位置が複素平面上にプロットされたものであり，プロットされた軌跡より過渡応答特性を推測することになる．なお，慣例的に $P(s)$ の極を × 印，零点を ○ 印で表し，K の増加方向に矢印を付ける場合が多い．実際には次数が高いほど特性方程式を解くことは容易ではないが，制御系設計CADソフトを用いることで簡単に解くことができる．

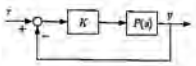


図 6.1 フィードバック制御系

例題 図6.1において制御対象 $P(s)$

$$\frac{1}{s(s+4)}$$

を考える．このとき，特性方程式は式(6.2)より

$$s^2+4s+K=0$$

となる．根軌跡は $K=0$ のとき $s=-4,0$，$0<K<4$ のとき $s=-2\pm\sqrt{4-K}$，$K=4$ のとき $s=-2$（重根），$K>4$ のとき $s=-2\pm\sqrt{K-4}\,j$ である．図6.2に根軌跡を示す．図より定数ゲイン K の増加に伴い極の虚部も増加するがシステムの閉ループ系は安定である．例題は2次系なので簡単に計算できるが，高次のシステムに対しては解析的に求めることは困難である．そのため，根軌跡の基本的な理解は十分大切であるが，

（出典 「制御工学」 大日向五郎 編著，2003年，朝倉書店 ）

項目４　教員組織

資料４－３－①

「各学科の学位取得および企業経験者の配置状況」

学　科　名	学位取得者数		企業経験者数	全教員数
	修士	博士		
機械工学科	2	8	7	11
電気情報工学科		10	3	10
物質工学科		12	5	12
環境都市工学科		11	4	11
計	2	41	19	44

（出典　総務課資料）

「教員公募サンプル」

秋田工業高等専門学校

教職員採用案内

前のページへ戻る　TOPページへ戻る

掲載日 2013/09/13 | 掲載内容有効期限 2013/10/31 | 担当者 教務課人事係 |

トップページ >> 教職員採用案内 >> 教員公募

環境都市工学科(土木計画学関連分野)助教

教員公募のお知らせ

1. 職名・人員　助教　1名

2. 所属学科等　環境都市工学科

3. 専門分野　土木計画学関連分野

4. 担当科目　講義科目:測量学、都市計画、交通工学、環境地域計画学、情報処理等
実験科目:実験実習(測量、地盤等)、基礎研究、卒業研究、特別研究等

5. 応募資格　(1) 博士の学位を有するか取得見込の方
または技術士の資格を有し、博士の学位を取得見込の方
(2) 心身ともに健康で、高等専門学校における教育・研究に関心を持ち、クラス担任、クラブ指導および学生寮の学生指導等に理解と熱意を持っている方
(3) 独立行政法人国立高等専門学校機構秋田工業高等専門学校は男女共同参画を推進しており、業績(教育業績、研究業績、社会的貢献、人物を含む。)の評価において同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。
※本校では、他高等等との人事交流を行うため、採用後、原則として他高等等との間で1～3年程度の交流人事を行う予定になっております。

6. 採用予定日　平成26年4月1日

7. 提出書類　(1) 履歴書(市販の用紙に本人自筆、写真貼付、E-mailアドレス記載のこと)
(2) 個人調書…所定の様式(第1号様式)
(3) 著書・論文等一覧(論文、著書、口頭発表、教育機関研究発表、特許、実務実績、各種資格等を項目別に記載)…所定の様式(第2号様式)
(4) 主要論文(5編以内)の別刷又各1部、コピー可)とその概略(各800字程度)
…所定の様式(第3号様式)
(5) 着任後の教育・研究についての抱負(A4紙用紙に1,000字程度にまとめたもの)
(6) 推薦書(様式任意)又は応募者について参考意見を聞くことができる者の氏名と連絡先
※「所定の様式」については、本校ホームページ(http://akita-nct.jp/b15/b13_01.html)の教職員採用案内から取得のうえ、作成願います。

8. 応募期限　**平成25年10月31日(木)(必着)**

9. 選考方法　第一次選考 書類審査
第二次選考 第一次合格者を対象とした面接

10. 書類提出先　秋田工業高等専門学校総務課人事係
〒011-8511 秋田県秋田市飯島文京町1番1号
※応募書類を郵送する場合は「書留」とし、封筒に「環境都市工学科教員応募書類在中」と朱書きすること。なお、応募書類は原則として返却いたしません。

11. 問い合わせ先　秋田工業高等専門学校 環境都市工学科長 桜田 良治
(直通)Tel.018(847)6075, E-mail. **sakurada@ipc.akita-nct.ac.jp**
(総務課人事係) TEL.018(847)6006、FAX.018(857)2191

提出書類	第1号様式	第2号様式	第3号様式
PDF形式	b1_2013.pdf	b2_2013.pdf	b3_2013.pdf
Word形式	b1_2013.doc	b2_2013.doc	b3_2013.doc
一太郎形式	b1_2013.jtd	b2_2013.jtd	b3_2013.jtd

（出典　秋田工業高等専門学校ホームページ）

資料４－８－①

2011.12.14

平成２３年度　第４回　電気情報工学科教育改善ワーキンググループ　議事録

文責：伊藤

日時：平成23年12月13日（火）16:30～17:40
場所：電気情報工学科棟　情報交換室
出席：髙橋，山崎，田中，平石，竹下，坂本，八重樫（途中参加），浅野(オブザーバ)，上田(オブザーバ)，伊藤

１．電気磁気学のシラバス案について（髙橋，伊藤）
・シラバス案の概要と添付資料の説明（資料1～5）。
・平成23年度科目担当者の浅野先生，山崎先生とも相談し，資料1を平成24年度3Eおよび4E電気磁気学のシラバス案として提案する。
・担当者が学年持上りで担当できるようにしている。1冊の教科書を2年間で教える。平成24年度シラバス案は資料3の平成16年度シラバスとほぼ同じ内容。
・ベクトル解析的な内容は除いており，ベクトル解析を用いた電気磁気学は専攻科で行う。
・高専機構から提示されているコアカリキュラム(資料4)ともほぼ同じ内容。
・議論
・学科によって物理の授業内容が異なる。C，B科では4年前期で電気磁気学を教えている。ベクトルの概念は使っているが，難しいことは教えていない。それでも学生は難しいと言うが。
・本科の段階でベクトルで教えないと困るところはどこか。
→豊橋技科大の入試だけ。他は入試でも出ていない。
→ほとんどスカラーだけで何とかなる。
→ガウスの定理は物理で出るが，対称性が非常に良い問題しか出ないのでスカラーで間に合う。
→電験などの資格ではほとんど問題なし。
→教えるときには勾配などはベクトルの方が楽ではないか。
・工学的にはスカラーをやってベクトルを教えた方がよい。抽象的だと分かりにくい。
→低学年では数式をあまり使わず，イメージをつかめるようにしている。
→高学年ではわかるだろうと思うことが分かっていないから困ってしまう。
→力学は見えるが電磁気は見えないからイメージをつかむのが大変。
・イメージをつかむために結局は演習が必要。演習が少ないと憶えない。
→新シラバスでは演習の時間を取っている。
→学期はじめに振り返りの時間を設けることで学生の理解度向上を目指す。
・ポアソン方程式はどこで習うのか。4年半導体工学で式は使うが概念は教えていない。
→H23では4年の最初。ただし，そこまで行けるか行けないか難しいところ。
・偏微分方程式は応用解析で教えているのか。
→教えているはず。
・学生は電磁波のイメージはつかめているのか。
→難しいだろう。
→コアカリキュラムでは難しいところは専攻科の学習単元になっている。
・高専の場合は3年から4年のギャップが激しい。特に専門科目。
・微分と積分について共通のイメージを持ってほしい。微分は傾き，積分は集めるイメージ。
・3E基礎電気磁気学と4E電気磁気学の平成24年度シラバスは資料1に変更。シラバスの提出は講義担当者。

（出典　電気情報工学科ワーキンググループ資料）

資料４－９－①

目　　次

受講計画・方法・申告
1．受講計画 …… 1
2．受講方法 ― 単位修得の方法 ― …… 1
3．受講申告 …… 3

試　験
1．試験の種類 …… 7
2．試験問題の作成と実施 …… 7
3．試験時における監督者心得 …… 7
4．前期・後期の中間試験に関する申し合わせ …… 9

成　　績
単　位　の　認　定
進級・卒業の要件
1．試験成績の評価方法 …… 11
2．成績の報告等 …… 16
3．再試験について …… 18
4．学業成績の評定 …… 19
5．単位の認定 …… 19
6．進級要件について …… 21
7．卒業要件について …… 22

退学者の取り扱い …… 23

学　生　の　出　欠 …… 25

授業変更の手続き …… 29

専攻科入学試験の受験
大学編入学試験の受験
第４学年までの就職試験等の受験
1．専攻科入学試験の受験について …… 31
2．大学編入学試験の受験について …… 31
3．第４学年までの就職試験等の受験について …… 31

学級担任としての確認事項 …… 33

正課中における事故や不測の事態が起きた場合の対応 …… 37

機関別認証評価（本科・専攻科）及びＪＡＢＥＥ
（本科４，５年と専攻科１，２年が対象）の留意事項 …… 39

（出典　平成25年度教務事務ガイド）

資料４－９－②

平成２５年３月２２日

磯　部　浩　一　様

校　　長

平成２５年度新任教員研修会の開催について（通知）

標記のことについて，本校の現状等を理解いただくため，下記のとおり研修会を開催いたしますので，各研修内容について受講していただくようお願いいたします。

なお，今年度につきましては，受講者が１名のみであることを踏まえ，各担当講師と受講者が開催日時を連絡調整の上，実施することとなりましたので，よろしくお願いいたします。

記

研修実施期間：平成２５年４月中（各講師，受講者で調整）

【研修内容】	【講　師】
・学校の目的等（３０分）	：山田校長
・教務に関すること（６０分）	：脇野教務主事
・学生に関すること（６０分）	：安東学生主事
・寮務に関すること（６０分）	：佐藤寮務主事
・専攻科に関すること（４５分）	：堀江専攻科長
・地域共同ﾃｸﾉｾﾝﾀｰに関すること（４５分）	：宮脇ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ長
・技術教育支援ｾﾝﾀｰに関すること（４５分）	：対馬技術教育支援ｾﾝﾀｰ長
・学生相談（ｾｸﾊﾗ含む）に関すること（４５分）	：渡邊学生相談室長
・JABEEに関すること（４５分）	：佐藤技術者教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ専門部会長
・事務全般に関すること（６０分）	：各担当課長補佐，係長等

※（　　）は，おおよその講義時間を記載しております。
研修場所は，講師により，各研究室，会議室Ｂ等となります。
すべての研修終了後，別紙の「受講票」を人事係に提出願います。

（出典　総務課人事係資料）

資料４－10－①

平成24年12月21日 教育改善専門部会主催
「学生の潜在能力を引き出す教育への転換を目指して」 伊藤桂一（本校電気情報工学科）

平成25年10月７日 教務主事主催
「モデルコアカリキュラム（試案）（MCC）への対応について」 森本真理（本校自然科学系）

平成25年11月13日 教務主事主催
「高等教育における質保証の最近の動向」　上田　学（本校自然科学系）

平成25年11月29日 特別支援教育講演会 教務主事主催
「特別支援教育について」 武田　篤（秋田大学教育文化学部）

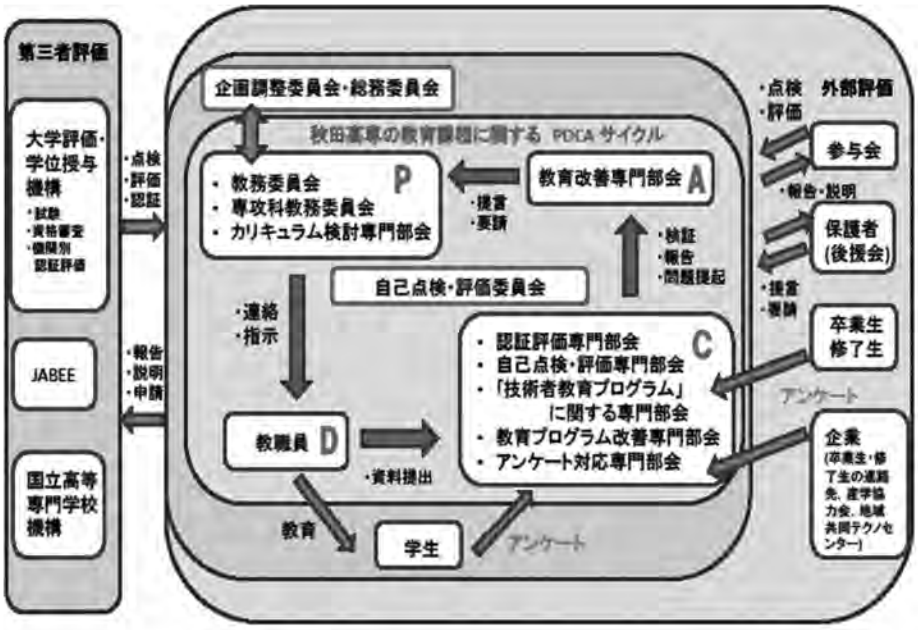
平成26年３月19日 教務主事主催
「１学年シラバス(ルーブリック)作成研修会」　森本真理（本校自然科学系）

（出典　認証評価専門部会資料）

秋田工業高等専門学校　基準１

資料４－12－①

秋田高専の教育課程に関する PDCA サイクル
ならびに自己点検・評価，外部評価，および第三者評価の関連図



（出典　認証評価専門部会にて作成）

項目５　施設設備

資料５－１－①

平成25年度開館日数及び入館者数

	開館日数			入館者数			1日平均	夜間平均	土曜平均
	総数	夜間	土曜	総数	夜間	土曜日			
4月	25	18	4	4,224	735	69	169.0	40.8	17.3
5月	24	21	3	5,504	1,168	75	229.3	55.6	25.0
6月	24	20	4	5,010	980	113	208.8	49.0	28.3
7月	24	20	3	6,177	1,590	133	257.4	79.5	44.3
8月	18	6	1	2,937	315	12	163.2	52.5	12.0
9月	20	5	1	2,074	125	23	103.7	25.0	23.0
10月	26	19	4	3,911	533	219	150.4	28.1	54.8
11月	25	19	5	5,370	1,250	173	214.8	65.8	34.6
12月	20	15	2	3,453	618	52	172.7	41.2	26.0
1月	21	17	3	3,820	762	25	181.9	44.8	8.3
2月	22	15	3	5,256	846	118	238.9	56.4	39.3
3月	20	0	0	2,162	0	0	108.1	0.0	0.0
合計	269	175	33	49,898	8,922	1,012	185.5	51.0	30.7

※うち、学外者入館者数：160

（出典　図書館資料）

資料５－１－②

情報処理センター各室利用者数

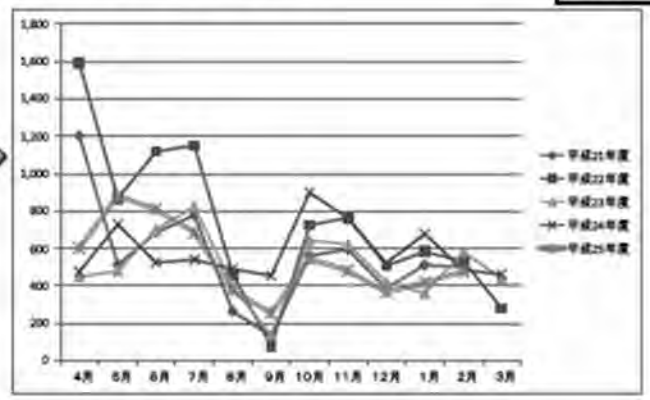
資料２

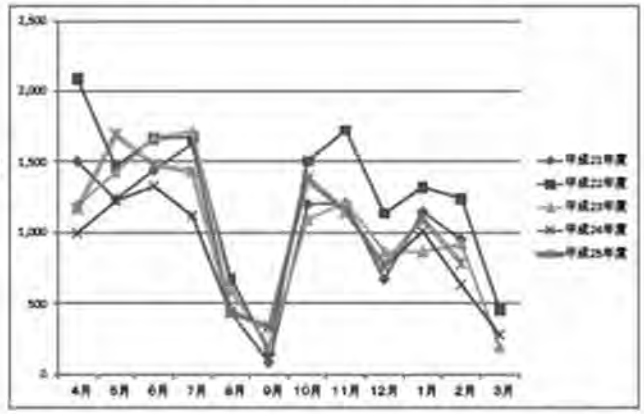
マルチメディアルーム（他パソコン室）

月					
4月	1,204	1,590	449	476	602
5月	513	868	480	730	883
6月	686	1,119	702	525	809
7月	778	1,152	824	941	486
8月	265	462	394	491	375
9月	133	81	138	456	254
10月	562	725	642	899	546
11月	595	765	624	764	482
12月	388	506	420	523	366
1月	513	583	361	678	418
2月	501	533	582	484	476
3月		281	441	462	
計	6,135	8,664	6,054	7,027	5,898

情報教育ルーム（旧教育用端末室）

月					
4月	1,504	2,092	1,194	997	1,169
5月	1,236	1,470	1,427	1,225	1,694
6月	1,443	1,666	1,673	1,331	1,480
7月	1,630	1,678	1,718	1,120	1,432
8月	442	682	594	435	446
9月	85	162	200	341	329
10月	1,203	1,506	1,094	1,368	1,389
11月	1,206	1,725	1,214	1,147	1,148
12月	672	1,137	870	762	775
1月	1,146	1,302	868	1,010	1,097
2月	952	1,242	921	634	785
3月		458	197	281	
計	11,517	15,138	11,967	10,647	11,742

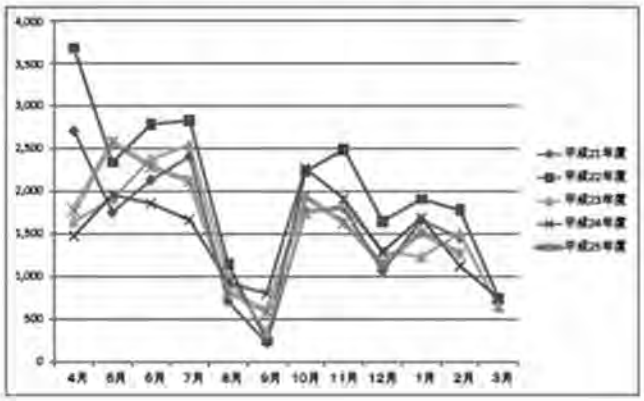




情報処理センター利用者数（２室合計）

統計（情報教育ルーム＆マルチメディアルーム）

月					
4月	2,707	3,682	1,642	1,473	1,771
5月	1,749	2,337	1,907	1,955	2,577
6月	2,129	2,784	2,375	1,855	2,289
7月	2,408	2,829	2,541	1,661	2,118
8月	706	1,143	987	925	821
9月	218	243	338	797	583
10月	1,765	2,231	1,736	2,267	1,935
11月	1,800	2,490	1,838	1,911	1,630
12月	1,060	1,645	1,290	1,285	1,141
1月	1,659	1,905	1,228	1,688	1,515
2月	1,453	1,775	1,503	1,118	1,263
3月		739	638	743	
計	17,652	23,802	18,021	17,674	17,640

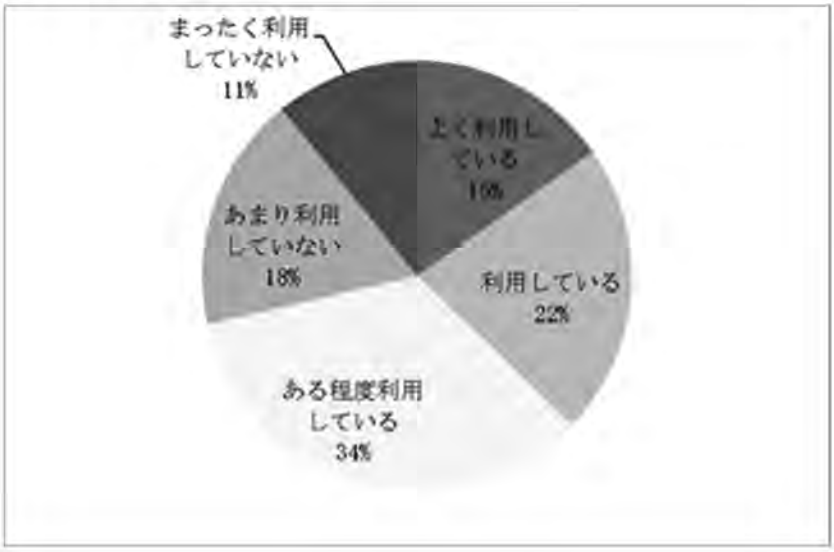


（出典　情報処理センター専門部会資料）

資料５－１－③

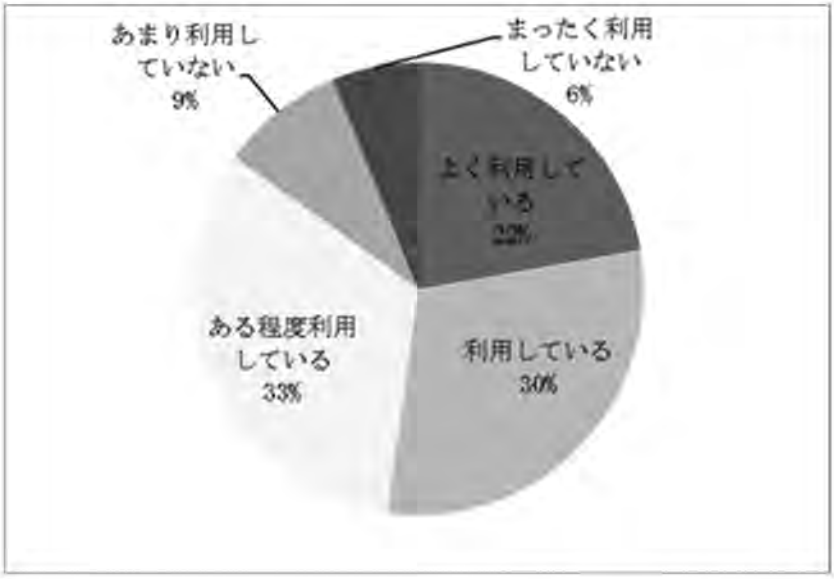
Ｑ９　自主学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか？

【本科課程】



（回答数：845 人）

【専攻科課程】



（回答数：48 人）

（出典　「学習等の諸制度」に関するアンケート）

資料５－２－①

平成25年度後期　実験室，演習室等の使用状況

場所	月			火			水			木			金		
◎管理棟，図書館，情報処理センター，階段教室棟，科学技術教育棟															
情報処理センター（情報教育ルーム）	34	2B	情報処理Ⅱ	34	1C	情報処理	12	5M	ロボット工学	12	4E	ソフトウェア工学演習	12	2E	情報処理応用
	56	1E	情報処理基礎	5-7	5M	工学実験Ⅱ	56	4M	基礎研究	34	2B	基礎設計演習Ⅱ	56	1B	情報処理Ⅰ
										56	5E	コンピュータシミュレーション			
（マルチメディアルーム）				34	4E	ソフトウェア工学演習							56	1M	情報処理Ⅰ
第1ゼミ室							3-6	1年	芸術Ⅰ						
第2ゼミ室							3-6	1年	芸術Ⅰ						
大講義室	12	5年	上級英語												
	78	4年	応用化学												
合併教室	34	5B	都市環境工学	78	4B	建設法規論	12	専1	環境科学	56	4B	環境衛生工学	56	4B	建築系演習Ⅱ
										78	1年	数学補習			
LL教室	12	2M	英語Ⅱ	12	4M	総合英語Ⅰ	12	3B	英語LL演習	12	専1	応用英語Ⅱ	12	5M	総合英語Ⅱ
	34	5C	総合英語Ⅱ	34	4B	総合英語Ⅰ	34	4E	総合英語Ⅰ	34	4C	総合英語Ⅰ	34	5E	総合英語Ⅱ
	56	2B	英語Ⅱ	56	2C	英語Ⅱ	56	3C	英語LL演習				56	5B	総合英語Ⅱ
				78	2E	英語Ⅱ									
化学実験室				12	1-2	化学Ⅰ				12	1-4	化学Ⅰ			
				34	2B	化学Ⅱ				34	1-1	化学Ⅰ	34	1-3	化学Ⅰ
				56	2M	化学Ⅱ				56	2E	化学Ⅱ			
物理実験室	56	2C	物理Ⅰ	56	2B	物理Ⅰ				78	2E	物理Ⅰ	56	2M	物理Ⅰ
801教室				56	留学生	日本語教育	34	5C	ダンパク質工学	56	留学生	日本語教育	34	4C	生物化学工学
							56	留学生	日本語教育						
テクノコミュニティ	12	専1	社会経済史	12	3M	応用物理Ⅰ	34	専2	情報理論	56	専1	超精密加工工学	78	1年	英語補習
				34	3C	応用物理Ⅰ									
◎機械工学科															
実習工場	78	1M	工作実習Ⅰ	34	1E	ものづくり工作実習				567	2M	工作実習Ⅱ	5678	3M	創造設計製作
機械製図室	34	2M	機械製図Ⅱ	34	1M	機械製図Ⅰ	34	3M	機械製図Ⅲ	56	5M	設計製図Ⅱ	78	4M	設計製図Ⅰ
機械工学実験室				567	5M	工学実験Ⅱ				567	4M	工学実験Ⅰ			
材料力学実験室										567	4M	工学実験Ⅰ			
流体力学実験室				567	5M	工学実験Ⅱ				567	4M	工学実験Ⅰ			
精密加工・精密測定室				567	5M	工学実験Ⅱ									
金属材料実験室										567	4M	工学実験Ⅰ			
創造工房				567	5M	工学実験Ⅱ				567	4M	工学実験Ⅰ	5678	3M	創造設計製作
熱機関実験室				567	5M	工学実験Ⅱ									
生産システム実験室				567	5M	工学実験Ⅱ									
◎電気情報工学科															
コンピュータールーム	567	2E	基礎工学実験	567	4E	電気情報工学実験Ⅰ	12	5C	IC応用回路演習	34	3B	コンピュータ基礎	567	5E	電気情報工学実験Ⅱ
										567	3E	電気情報基礎実験			
電気計測実験室	567	2E	基礎工学実験	567	4E	電気情報工学実験Ⅰ				567	3B	電気情報基礎実験	567	5E	電気情報工学実験Ⅱ
電気機械実験室				567	4E	電気情報工学実験Ⅰ				567	3B	電気情報基礎実験			
電気工作実習室	567	2E	基礎工学実験							567	3E	電気情報基礎実験			
◎物質工学科															
無機・有機化学実験室										5-8	専2	創造工学演習	5-8	2C	有機化学実験
分析化学実験室	78	1C	物質工学基礎										5-8	3C	生物化学実験
物理化学実験室							5-8	専1	創造工学演習	5-8	専2	創造工学演習			
化学工学実験室	3-8	4C	化学工学実験												
◎環境都市工学科															
製図室	56	1B	ものづくり実習	56	5B	設計製図Ⅱ	34	4B	建築系演習Ⅰ				34	3B	意匠設計Ⅱ
コンクリート工学実験室				5-8	4B	環境都市工学実験実習									
水理実験室				5-8	4B	環境都市工学実験実習									
地盤工学実験室				5-8	4B	環境都市工学実験実習									

（出典　平成 25 年度後期時間割より作表）

情報処理センター使用時間割表（前期）平成２５年度

開館時間　☆情報処理センター／月～金→午前8:30～午後7:00（長期休業中・テスト期間は午後5:00）
☆図書館　／月～金→午前8:40～午後8:00／土→午前10:00～午後4:00

曜日＼時間	1 8：45～9：35	2 9：35～10：25	3 10：35～11：25	4 11：25～12：15	5 13：05～13：55	6 13：55～14：45	7 14：55～15：45	8 15：45～16：35
月	コンピュータ製図（3M） 木　澤　情報教育				情報処理基礎（1E） 平　石　情報教育		基礎設計演習Ⅰ（2B） 佐藤悟・寺本　マルチメディア	
					情報処理（1C）西　野　マルチメディア			
					生産システム工学特別実験（生産1年）浅野・他			
	総合英語Ⅱ（5E） 黒　木　LL教室		総合英語Ⅰ（4E） 小林貢　LL教室		英語LL演習（3E） 桑　本　LL教室			
火			情報処理Ⅰ（1M） 木　澤　情報教育		情報処理Ⅱ（2B） 井　上　情報教育			
	総合英語Ⅰ（4M） チェケッツ　LL教室		総合英語Ⅰ（4B） チェケッツ　LL教室		総合英語Ⅱ（5C） 黒　木　LL教室			
水	情報処理Ⅲ（3M） 若　生　情報教育		ソフトウェア工学（4E） 竹　下　情報教育		情報処理Ⅱ（2M） 小林義和　情報教育			
					生産システム工学特別実験（生産1年） 浅野・他　マルチメディア			
	応用英語Ⅰ（専攻科1年） 菅　原　LL教室		総合英語Ⅱ（5M） 古　河　LL教室		英語LL演習（3M） 桑　本　LL教室			
木	ソフトウェア工学演習（4E） 平　石　情報教育		情報処理応用（2E） 竹　下　情報教育					
			コンピュータシミュレーション（5E） 松　村　マルチメディア					
	英語Ⅱ（2M） 古　河　LL教室		英語Ⅱ（2B） 古　河　LL教室		英語Ⅱ（2E） 菅　原　LL教室		英語Ⅱ（2C） 菅　原　LL教室	
金					工学実験Ⅱ（5M） 木澤・一田・土田・野澤・渡部・磯部　情報教育			
					情報処理Ⅰ（1B） 恒　松　マルチメディア			
	総合英語Ⅱ（5B） 古　河　LL教室		総合英語Ⅰ（4C） 小林貢　LL教室					

情報教育：情報教育ルーム　マルチメディア：マルチメディアルーム　LL：LL教室

平成２５年3月改訂

情報処理センター使用時間割表（後期）平成２５年度

開館時間　☆情報処理センター／月～金→午前8:30～午後7:00（長 休業中・テスト期間は午後5:00）
　　☆図書館　／月～金→午前8:40～午後8:00／土→午前10:00～午後4:00

曜日＼時間	1 8:45 ～ 9:35	2 9:35 ～10:25	3 10:35 ～11:25	4 11:25 ～12:15	5 13:05 ～13:55	6 13:55 ～14:45	7 14:55 ～15:45	8 15:45 ～16:35
月	英語Ⅱ（2M） 古 河　LL教室		総合英語Ⅱ（5C） 黒 木　LL教室	情報処理Ⅱ（2B） 増 田　情報教育	英語Ⅱ（2B） 古 河　LL教室	情報処理基礎（1E） 平 石　情報教育		
火	総合英語Ⅰ（4M） チェケッツ　LL教室 ロボット工学（5M） 木 澤　情報教育		情報処理（1C） 西 野　情報教育 ソフトウェア工学（4E） 竹 下　マルチメディア 総合英語Ⅰ（4B） チェケッツ　LL教室		工学実験Ⅱ（5M） 宮川・一田・若生・宮脇・野澤・渡部　情報教育 英語Ⅱ（2C） 菅原隆行　LL教室 基礎研究（4M） M科教員　情報教育		英語Ⅱ（2E） 菅原隆行　LL教室	
水	英語LL演習（3B） 桑 本　LL教室 ソフトウェア工学演習（4E） 平 石　情報教育		総合英語Ⅰ（4E） 小林貴　LL教室 基礎設計演習Ⅱ（2B） 恒松・井上　情報教育		英語LL演習（3C） 黒 木　LL教室 コンピュータシミュレーション（5E） 松 村　情報教育			
木	応用英語Ⅱ（専攻科1年） 小林貴　LL教室 情報処理応用（2E） 竹 下　情報教育		総合英語Ⅰ（4C） 小林貴　LL教室		情報処理Ⅰ（1B） 間 所　情報教育 情報処理Ⅰ（1M） 小林義和　マルチメディア 総合英語Ⅲ（5B） 古 河　LL教室			
金	総合英語Ⅱ（5M） 古 河　LL教室		総合英語Ⅱ（5E） 黒 木　LL教室					

情報教育：情報教育ルーム　マルチメディア：マルチメディアルーム　LL：LL教室　　平成２５年８月改訂

（出典　平成 25 年度第２回専門部会会議資料）

資料５－３－②

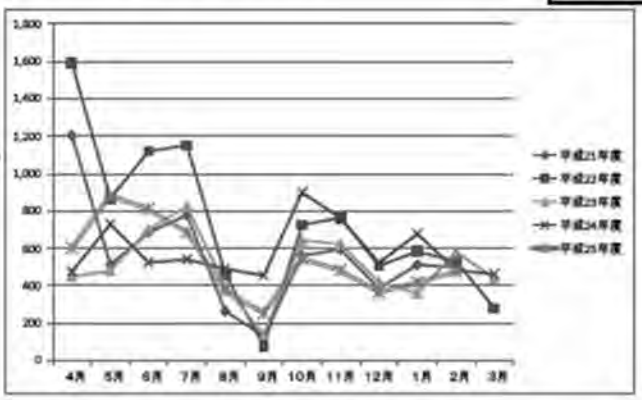
情報処理センター各室利用者数

情報処理センター各室利用者数

資料２

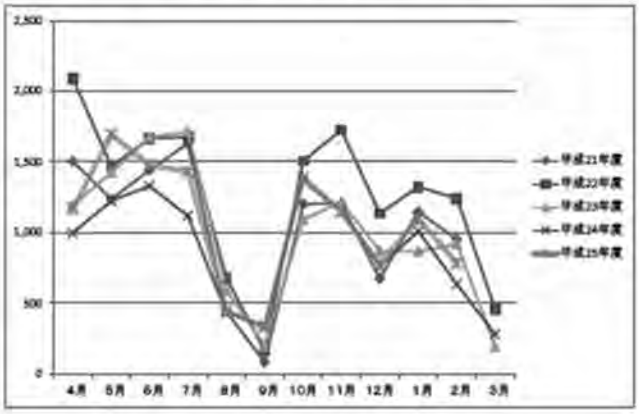
マルチメディアルーム（自パソコン室）

月	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
4月	1,204	1,590	449	476	602
5月	513	868	480	730	883
6月	686	1,119	702	525	809
7月	778	1,152	824	541	686
8月	265	462	394	491	375
9月	133	81	138	456	294
10月	562	725	642	899	546
11月	595	765	624	764	482
12月	388	508	420	523	366
1月	513	583	361	678	418
2月	501	533	582	484	478
3月		281	441	462	
計	6,135	8,664	6,054	7,027	5,898



情報教育ルーム（旧教育用端末室）

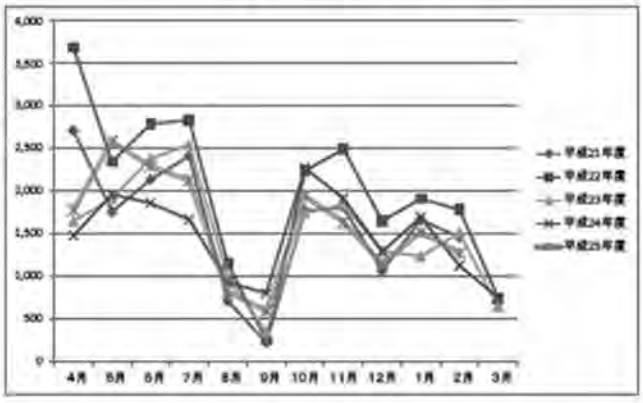
月	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
4月	1,504	2,092	1,194	997	1,169
5月	1,236	1,470	1,427	1,225	1,694
6月	1,443	1,666	1,673	1,331	1,480
7月	1,630	1,678	1,718	1,120	1,432
8月	442	682	594	435	446
9月	85	162	200	341	329
10月	1,203	1,506	1,094	1,368	1,389
11月	1,266	1,725	1,214	1,147	1,148
12月	672	1,137	870	702	775
1月	1,546	1,322	868	1,010	1,097
2月	952	1,242	921	634	785
3月		458	197	281	
計	11,517	15,138	11,967	10,647	11,742



情報処理センター利用者数（２室合計）

総計（情報教育ルーム＆マルチメディアルーム）

月	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
4月	2,707	3,682	1,642	1,473	1,771
5月	1,749	2,337	1,907	1,955	2,577
6月	2,129	2,784	2,375	1,855	2,289
7月	2,408	2,829	2,541	1,661	2,118
8月	706	1,143	987	925	821
9月	218	243	338	797	583
10月	1,765	2,231	1,736	2,267	1,935
11月	1,800	2,490	1,838	1,911	1,630
12月	1,060	1,645	1,290	1,285	1,141
1月	1,659	1,905	1,228	1,688	1,515
2月	1,453	1,775	1,503	1,118	1,263
3月		739	638	743	
計	17,652	23,802	18,021	17,674	17,640



（出典　平成 25 年度第２回専門部会会議資料）

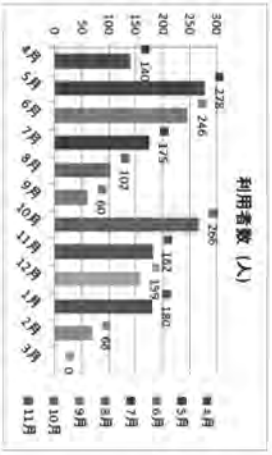
資料５－３－④

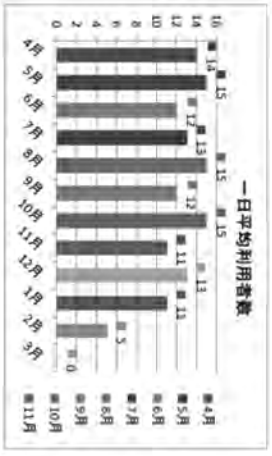
平成 24 年度情報処理センター時間外会館利用統計（平成 26 年３月現在）

平成24年度情報処理センター時間外開館利用統計

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数（人）	140	278	246	175	102	60	266	182	159	180	68	-
開館日数	10	18	20	13	7	5	18	16	12	17	13	-
平均（人）	14	15	12	13	15	12	15	11	13	11	5	-

総計(延べ人数)	1856 （人）
総計（1日平均）	12.5 （人）





（出典　平成 25 年度第２回専門部会会議資料）

情報モラル

秋田工業高等専門学校　情報モラル講義資料作成委員会
山本昌志　木澤悟　佐藤彰彦　佐藤悟

初版:2006 年 3 月 31 日　改訂 2 版：2011 年 3 月 31 日

概要

本テキストは，情報関係の第一回目の講義で使用する．これと PowerPoint を用いて，新入生にコンピュータや携帯電話のような情報機器を使うときの基本的なモラルを説明する．情報モラルの取り扱う範囲は広いが，特に最初に注意すべきことを中心にまとめてある．情報モラルを学習する理由と現代のネット社会での情報の特徴を最初に述べ，重要と思われる具体的なモラルの内容を説明している．ここで取り上げている情報モラルは，情報の信憑性，出会い系サイト，著作権，個人情報の流出，不正アクセス，パスワード，電子メールと携帯電話のネチケット，ネット中毒に関することである．100 分の講義 1 回で全てを述べることは不可能なので，講師が重要と考える内容を選択することになる．あるいは，2 回に分けてもよい．本テキストは毎年改訂し，少しずつ良いものに仕上げたい．

1　本日の学習内容

情報処理関係の第 1 回目の講義で，「情報モラル」について説明する．情報モラルを web で検索すると，

情報化社会で適正な活動を行うための基となる考え方と態度

と書かれているページが多い．このことから，情報機器を使う場合の道徳と考えても差し支えないだろう．それには多岐にわたる内容が含まれ，たった 1 回の講義(100 分)で，全てを説明することは不可能である．そこで，諸君のような初心者に特に重要と思われる項目について説明する．内容は，以下の通りである．

- なぜ情報モラルを学習するか?
- 現代の情報の特徴
- 情報モラル
  - 情報受信
    - ＊ 受信した情報は大丈夫なの
    - ＊ 出会い系サイトは危険がいっぱい
  - 情報の発信
    - ＊ 著作権を侵害していないか?

(出典　情報モラル教育資料より抜粋)

資料５－３－⑤

2014/1/13

インターネットとの上手な付き合い方

－情報セキュリティーポリシーと個人情報－

最近の携帯電話

○ フィーチャーフォン

↓

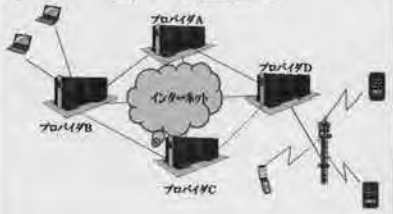
○ スマートフォン

1) i-Phone
2) Android
3) Black Berry
4) Windows

スマートホンの特徴

- 良い点
  - ○インターネット端末としての機能が充実。ほぼ，パソコンと同等。
  - ○大容量の情報を蓄えられる。
  - ○通話が可能
- 悪い点
  - ○上記全てといっても過言ではない。特に，インターネット端末としての機能が充実している点。

インターネットの仕組み



アクセスログ

各プロバイダには，
　　が分かれており，

インターネットで出来ること

- ホームページ検索
  - ウイルス感染　有害サイト（詐欺・爆弾・自殺・薬物等）　ワンクリック詐欺　フィッシング
- 電子メール
  - 迷惑メール　ウイルス感染　詐欺情報　チェーンメール　誹謗中傷デマ等
- SNS（ソーシャルネットワークサービス）
  - 個人情報の漏洩　不用意発言による炎上　出会い系らしき犯罪
- ブログ・プロフの作成
  - 個人情報の漏洩　肖像権侵害　誹謗中傷　不用意発言による炎上
- ホームページの作成
  - 著作隣接権侵害　肖像権侵害　不用意発言による炎上
- ソフトウエアや各種データのダウンロード
  - 著作権侵害　重要データの漏洩
- 同アップロード
- その他

1

（出典　新入生合宿研修講演会資料より抜粋）

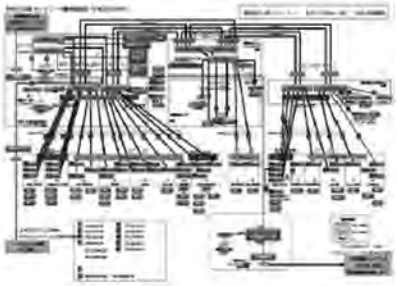
2014/4/2

平成25年度
情報セキュリティ講習会

平成26年3月20日
大講義室

本日の講習内容

1. 本校ネットワークシステムの概要
   - V-LAN
   - 外部接続回線
   - ファイアーウォール
   - ネットワークモニタリング（アクセスログ収集）
   - プロキシ・踏台サーバ
   - 無線LAN
   - そのほかのサーバ群
   - 踏台の運用
2. マルウエアとOSの脆弱性
   - マルウエアとは
   - OSやソフトウェアの脆弱性
3. 本校セキュリティ教職員規則



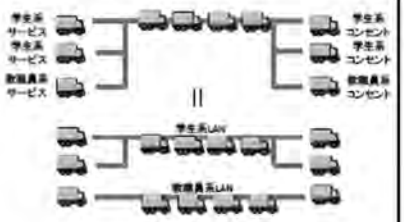
1. 本校ネットワークシステムの概要

- V-LAN

教職員系と学生系はお互いに相互乗り入れできない。

1. 本校ネットワークシステムの概要

- V-LAN



1. 本校ネットワークシステムの概要

- 外部接続回線

（出典　情報セキュリティ講習会資料より抜粋）

資料５－４－①

秋田高専図書館統計

蔵書冊数

平成26年3月31日現在

種別	和書	洋書	計(冊)
図書	70,043	6,288	76,331
製本雑誌	4,881	6,752	11,633
合　計	74,924	13,040	87,964

分類別蔵書冊数

平成26年3月31日現在

区 分	図　書		
	和書	洋書	計(冊)
0 総　記	4,462	256	4,718
1 哲　学	2,803	287	3,090
2 歴　史	5,163	35	5,198
3 社会科学	5,489	382	5,871
4 自然科学	15,466	1,612	17,078
5 工　学	17,990	771	18,761
6 産　業	1,231	12	1,243
7 芸　術	3,591	58	3,649
8 語　学	3,827	1,181	5,008
9 文　学	10,021	1,694	11,715
小　計	70,043	6,288	76,331
製本雑誌	4,881	6,752	11,633
合　計	74,924	13,040	87,964

雑誌所蔵種類数

平成26年3月31日現在

種別	和雑誌	洋雑誌	計
	805	76	881

視聴覚資料所蔵タイトル数

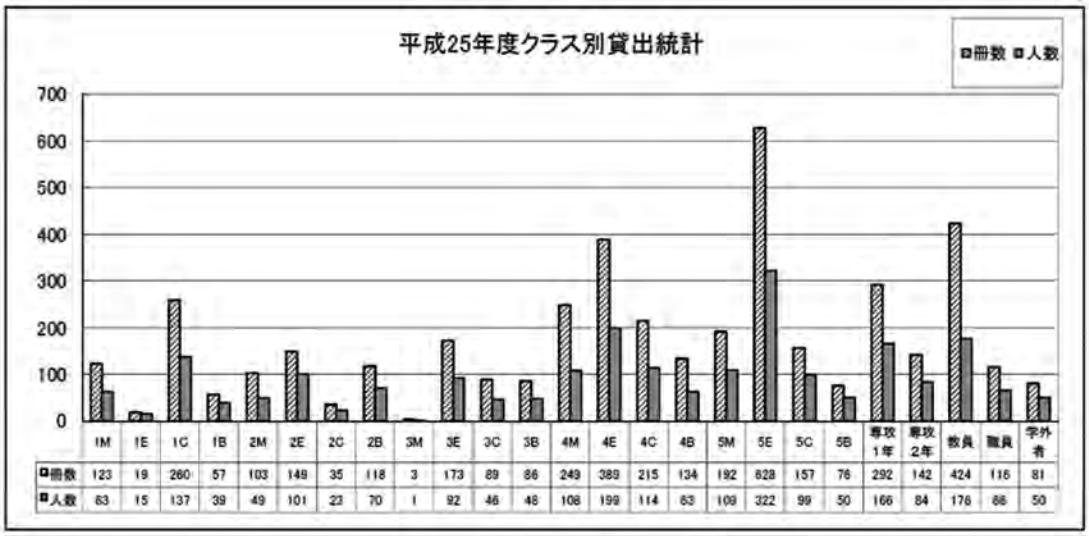
平成26年3月31日現在

DVD	CD	ビデオ	計
62	731	926	1719

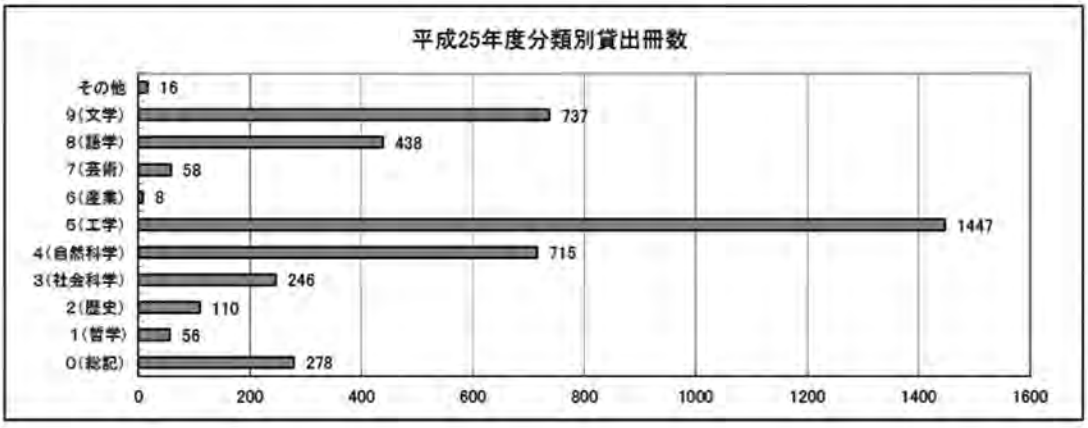
（出典　図書館資料）

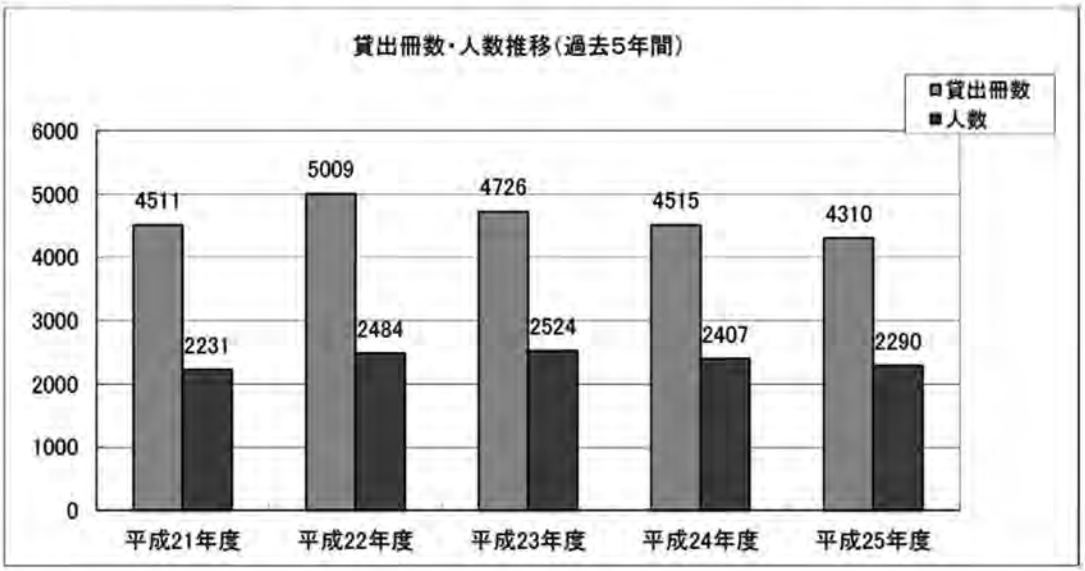
資料５－４－②

貸出関係統計



	1M	1E	1C	1B	2M	2E	2C	2B	3M	3E	3C	3B	4M	4E	4C	4B	5M	5E	5C	5B	専攻1年	専攻2年	教員	職員	学外者
冊数	123	19	260	57	103	148	35	118	3	173	89	86	249	389	215	134	192	628	157	76	292	142	424	116	81
人数	63	15	137	39	49	101	23	70	1	92	46	48	108	199	114	63	109	322	99	50	166	84	176	66	50





(出典　図書館資料)

資料５－４－③

平成２５年６月２７日

文化報道委員のみなさま

ブックハンティング実施要項

図　書　館　長

1．実施期日：平成25年7月２日（火）～7月１９日（金）

2．担当者：各クラス文化報道委員

3.方　　法

①担当者は「ブックハンティング担当者全体ミーティング」に参加する。
②クラスにブックハンティングについて周知する。
③クラスの希望をまとめ、「購入希望リスト」を作成する。
④「購入希望リスト」を図書館へ提出する。

※提出されたリストについては図書館で集約し、学校図書としてふさわしくない
もの等を除き、購入し配架する。

4．説　明　会

担当者全体ミーティング：１回目	7月２日（火）	12時40分～	スカイラウンジ
担当者全体ミーティング：２回目	7月２日（火）	16時40分～	スカイラウンジ

※各クラス文化報道委員は全員参加すること

「購入希望リスト」提出締切　7月19日（金）　提出先：図書館

5．購入金額：１万円前後／クラス

6．購入図書選定上の注意

下記のような図書は原則的に除く。（必□な場□は相談してください。）

① 漫画(画集含む)
② 雑誌およびその増刊号（特集号）
② 公序良俗に反するもの

※ わからない時は、図書館長補　西野先生、　または、図書館まで問い□わせください。

（出典　図書館資料）

資料５－４－④

読書感想文コンクール作品募集要項

内　　容　　文学作品／ノンフィクション／科学論文／科学エッセイ等

字　　数　　2,000字以内(A４原稿用紙換算５枚)
パソコン使用可。ワープロ使用が望ましい。

記　　名　　原稿には，１行目に題名を，２行目に１年生は組と氏名を，２年生以上は学科・学年と氏名を明記し，３行目から書き始めること。

締　　切　　平成25年9月30日　　(月)　　但し，夏休み前も受付ます。

提出方法　　・原稿用紙(A４サイズ)に記述して提出。
・Word，一太郎で原稿用紙様式(A４サイズ)を使用し，メール添付またはUSBメモリーで提出。その際，A５サイズの応募用紙も一緒に提出すること。
※原稿用紙，応募用紙は図書館にあります。
※原稿用紙に記述する場合は，B または2Bの濃い鉛筆か，ボールペンを使用してください。(筆跡が薄いと審査対象外となります。)

提　出　先　　図書館，または担当の国語教員，図書館メールgakujo-dv@akita-nct.jp

審査方法　　１次審査：国語科の教員が担当クラスより１クラス４編以内で選考。
選ばれた作品から６名程度の審査員が入賞作品を選ぶ。
審査員の持ち点は，１０点とする。
審査委員長は図書館長とし，審査員は図書館運営委員とする。

発　　表　　１２月初旬までに選考結果を発表する。

表　　彰　　入賞者には賞状を授与し，副賞として図書券を贈る。
入賞作品を中心に作品集『双瞳』を刊行する。
★最優秀賞：１名　　★優秀賞・入選：各若干名
★佳作：各クラスの第１次選考通過作品　　(各組４名以内)
なお，最優秀賞，優秀賞受賞者の表彰式は校長室にて行う

そ　の　他　　インターネット等からの盗作は許されません。
(毎年数件発見され，国語科で大きく減点しています)

図書館長　　手島邦夫(人文科学系)
図書館長補　　西野智路(物質工学科)
学術情報係　　滝城稚子

(出典　図書館資料)

項目６　国際交流

資料６－１－①

秋田高専　国際交流室だより

— Bulletin of International Exchanging Section, ANCT —　30/8/2012

発行にあたって

国際交流室長　人文科学系准教授　菅原　隆行

本校が海外の高等教育機関と初めて交流協定を締結したのは平成 20 年6月、交流相手校はフランスのリール A 技術短期大学です。その翌年の平成 21 年に4月から6月までの3ヶ月間、フランスの学生を短期留学生として本校に受け入れ、本校からも平成 22 年から学生のフランスへの派遣を開始することになりました。このような状況で、短期留学生の受け入れと派遣を円滑に実施する為に国際交流室が平成 22 年5月に設置されました。

現在では交流相手校もフランス4校、フィンランド2校にまで拡大し、海外からの短期留学生が本校のキャンパスを歩いているのを見かけることも珍しくなくなりました。さらに交流相手校のみならず、高専機構主催の海外インターンシップや、シンガポール技術英語研修など、本校学生が海外へ行くチャンスが以前と比較して格段に増加しました。

このような本校における国際的な活動を広く知っていただくために、「国際交流室だより」を発行することにしました。この「国際交流室だより」を読んで1人でも多くのみなさんが海外を身近に感じ、国際交流について知っていただく一助になることを願っています。

国際交流室について

国際交流室は、本校における留学生の受け入れと派遣、教職員の国際交流に関する調査・研究、及び学生の海外インターンシップに関する業務を円滑に実施するために設置されました。対象学年は主に本科4年から専攻科2年までとなっていますが、学年に関係なく海外に興味のある学生は気軽に下記の国際交流室教員へ相談してください。今年度の国際交流室は以下の教員が担当しています。

フィンランド・トゥルク応用科学大学教員の本校訪問

国際交流室長	人文科学系	菅原　隆行
副室長	物質工学科	横山　保夫
室員	機械工学科	今田　良徳
	電気情報工学科	坂本　文人
	物質工学科	鈴木　祥子
	環境都市工学科	恒松　良純

平成 24 年度外国人学生短期留学受け入れ状況

フランスの3技術短期大学から4名、フィンランド・トゥルク応用科学大学から2名、計6名を4月～6月の3ヶ月間短期留学生として受け入れました。

今年は、初の試みとして入学式に短期留学生も参加してもらいました。ヨーロッパにおいてはこのような式典がないため、式典参加後の留学生は全員「このような式典に参加できたことを誇りに思う」という感想を述べていました。その後オリエンテーション、校長面談、研究担当教員との打ち合わせをし、4月6日からそれぞれのテーマに基づく研究活動と日本語教育の受講を始め、帰国前の6月には各々の研究報告書を完成させました。

今年本校で受け入れた短期留学生が留学先に日本を選んだ理由は、「日本が大好きだから」と、「ヨーロッパとは全く異なる文化を体験したい」とに分かれていましたが、留学生といろいろ会話している中で、秋田での生活をそれぞれ楽しんでいることがわかりました。秋田での短期留学プログラムを終えて帰国した学生たちが、秋田での経験を今後に生かしてもらえればと願っています。

平成 24 年度短期留学受け入れ学生

・短期留学生の所属学科と担当教員

所属学科	留学生名	出身学校	担当教員
機械工学科	Lasse Pekka Ketonen	トゥルク応用科学大学(フィンランド)	小林 義和
電気情報工学科	Chembo Lionel	カレー技術短期大学 (フランス)	平石 広典
電気情報工学科	Christophe Belbegra	カレー技術短期大学 (フランス)	竹下 大樹
物質工学科	Martti Sinnelä	トゥルク応用科学大学(フィンランド)	上松 仁
物質工学科	Kévin Bounoua	リール A 技術短期大学 (フランス)	上松 仁
環境都市工学科	Clément Denis	ベトゥーヌ技術短期大学 (フランス)	対馬 雅己

平成 24 年度 海外協定校教員来校報告

●4 月 17 日(火)フィンランド トゥルク応用科学大学教員 Teppo 氏来校

同大学は東北地区 6 高専と交流協定を締結しており、この協定に基づき Teppo 氏が来校されました。同氏は本年度同大学から派遣された 2 名の学生と面談を行った他、留学生が受講する講義や研究室、学生寮などの設備を視察されました。また、本校の学生に向けてフィンランドや同大学に関する講義をしていただきました。

●6月23日(土)フランス リールA技術短期大学教員 Caillier氏来校

同大学との交流が今年で4年目を迎えました。これに際し同大学からCaillier氏が来校され、本校の国際交流室員と今後の交流について意見交換を行いました。また、同大学からの短期留学生1名及び、本校の学生5名(派遣予定者3名及び前年度派遣者2名)と面談した他、研究室や学生寮等の校内設備を視察されました。

●6月28日(木)フランス カレー技術短期大学教員 Nikyema氏来校

同大学は本年度からフランスリール地区と東北地区6高専との交流に参加し、短期留学生の日本での生活を視察するために Nikyema 氏が来校されました。同氏は国際交流室員と対談し今後の交流について意見交換を行いました。また、本年度同大学からの留学生を担当した平石准教授との対談や、実験室及び学生寮等の校内設備の視察をされました。

海外インターンシップ派遣学生の抱負

今年度は9月3日～11月7日の約2ヶ月間、フランスの Lens 技術短期大学へ1名、Bethune技術短期大学へ2名派遣される他に、高専機構主催海外インターンシップ(カネカ・マレーシア、3週間)へ1名、技術英語研修(シンガポール、2週間)へ1名派遣されます。各インターンシップでそれぞれ事前研修が行われ、8月27日に派遣学生5名との校長面談が行われました。各派遣学生は、今回の海外インターンシップ参加に対して次のような抱負を語ってくれました。

海外派遣学生5名との校長面談

●田村 賢介(生産システム工学専攻1年、フランスBethune技術短期大学)

フランスでは現地の大学で研究を行い、帰ってきてからの研究にも応用できるスキルや、コミュニケーションや発表を通して英語力を身につけてきたいです。

フランス派遣学生の英会話研修

●佐々木 貴晃(生産システム工学専攻1年、フランスLens技術短期大学)

留学先では現地の人とのコミュニケーションを積極的に取りたいと思っています。また、遊びも研究も周りとの繋がりがあってこそ楽しめるものなので、臆せず関わっていけたらと思っています。

●松浦 慶(生産システム工学専攻1年、フランスBethune技術短期大学)

私はフランス北部の Artois 大学に研究に行きます。情報工学系での志望なので様々なプログラム言語を扱う研究になると思います。プログラムも英語も拙いところはありますが、自分にとって有意義な

2ヶ月間にしていきたいと思います。

●鈴木 惇哉(物質工学科5年、カネカ・マレーシア)

英語と現地語を使って積極的な会話と日本紹介をする、そして一国際人になることが抱負です。実験や製造現場でよく用いられる英語の理解、現地文化の体験を期待しています。

●佐藤 万紀子(物質工学科5年、シンガポール技術英語研修)

2週間という限られた期間の中で、論文に用いられるような英語はもちろん、今後に活かせる日常英会話の実際も集中的に学びたいです。

お知らせ

●平成24年度高専機構主催「海外インターンシップ」第2次日程(春季)について

高専機構が全国51高専を対象に毎年夏季と春季に募集する「海外インターンシップ」は、日本企業・団体の海外事業所等に高専学生を派遣し、現地で3週間程度就業体験や実地研修を行うプログラムで、申請資格は次の通りです。

(1) 本科5年生で専攻科へ進学する者、または専攻科の在学生

(2) TOEIC400点以上、またはこれに準ずる資格を有する者

第2次日程(春季)(平成25年3月実施予定)の募集案内は例年10月下旬～11月にかけて本校に届きますので、興味のある学生は国際交流室の教員あるいは学生課教務係に問い合わせてください。

●平成25年度フランス短期留学派遣者選考方法について

本校と交流しているフランスのリールA技術短期大学、カレー技術短期大学、ランス技術短期大学、ベトゥーヌ技術短期大学のいずれかに約2ヶ月間本校学生を派遣し、現地で英語による授業に参加することや研究を行うことで学生の国際性と英語力の向上を目指すプログラムです。このプログラムの申請資格は次の通りです。

(1) 平成25年4月に専攻科に在学している者

(2) 平成25年2月の時点で、平成23年4月以降に受験している TOEIC のスコアが450点以上である者

フランス短期留学に関する説明会は来年2月を予定しています。興味のある学生は国際交流室の教員あるいは学生課教務係に問い合わせてください。

(出典　国際交流室資料)

資料６－１－②

平成 25 年度専攻科インターンシップ報告会

期日　　平成 26 年 1 月 16 日（木）

会場　　３０１教室

報告者

15:00 ～海外インターンシップ

250703　小松　瞭（生産システム，リールＡ）

250707　髙橋　乃基（生産システム，リールＡ）

250802　木村　雪花（環境システム，テマセクポリテク）

250808　鈴木　淳哉（環境システム，リールＡ）

16:00 ～国内インターンシップ

250702　梅木　陽（生産システム，ＮＴＴ秋田支店）

250804　佐藤　丈実（環境システム，東北大学）

報告時間　　発表，質疑応答を含め 10 分～ 15 分を目安とする

報告会の評価　　専攻科長および専攻長

（出典　平成 25 年度専攻科インターンシップ報告会プログラム）

項目７　生涯教育への対応

資料７－１－①

「平成 25 年度前期特別活動計画書」

平成２５年度前期特別活動施設利用計画書

クラス：　1年1組　　学級担任名　　小林　貴

※学年により，特別活動の時間帯に行事が入っている場合がありますのでご注意願います。

（１～３年学級用）

月	日		学校行事	使用場所	備考
4月	10 日	(水)	対面式・学生総会 (7・8限) 尿検査(全校)		
	17 日	(水)	自転車ダブルロック確認及び ステッカー貼付・連絡・ 身体測定(身長，体重，座高，視力，聴力)	駐輪場・第1体育館　他	
	24 日	(水)	1学年学級対抗大縄跳び大会	第1体育館	学年行事
5月	8 日	(水)	アンケート・諸連絡		
	15 日	(水)	作文「自分を見つめる」・諸連絡		
	22 日	(水)	前期中間試験対策・諸連絡		
	29 日	(水)	前期中間試験対策・諸連絡		
6月	5 日	(水)	前期中間試験総括・諸連絡		
	12 日	(水)	校内外大清掃	教室・グランド	校内外大清掃
	19 日	(水)	性教育講演会(1年 7限)	大講義室	(注) 1年は性教育講演会
	26 日	(水)	担任講話，諸連絡		防災避難訓練
7月	3 日	(水)	結団式・壮行会(7限)		
	17 日	(水)	体育大会報告会 全国大会壮行会(7限)		
	22 日	(月)	水曜授業 前期末試験対策		
8月	5 日	(月)	水曜授業 前期末試験総括 夏休み諸注意		

（出典　平成 25 年度前期特別活動計画書）

資料７－１－②

「平成　２５年度新入生合宿研修実施要項」

平成２５年度　新入生合宿研修実施要項

1．趣　旨
（1）　本研修各プログラムを通じ、教員と新入生相互の意志疎通を図り、高専生活の意義と目的の理解に資する。
（2）　合宿生活を通じ、集団生活における規律を体得させることを図り、高専生活への速やかなる適応に資する。

2．日　程　平成２５年４月８日（月）～９日（火）
（別紙日程表のとおり）

3．講　演
演　題　「インターネットとの上手な付き合い方
－情報セキュリティーポリシーと個人情報－」
講　師　　情報処理センター長　　山崎博之　　先生

4．会　場　ユースパル（秋田県青少年交流センター）
〒011-0905　秋田県秋田市寺内神屋敷３－１　℡018-880-2303

5．参加者　学生　　平成２５年度本科１年生　　１６８名
学科５年生（引率学生）　　８名
教職員　校長、教務主事、学生主事、
情報処理センター長、学生相談室長、
学生主事補（２名）、１学年学級担任（４名）、
各代表教員（４名）、事務部（２名）　　１７名
合計　１９３名

6．経　費　１人当たり約６、０００円
（内訳：宿泊費２、５２０円、食事代２、６２５円、国内旅行保険料１５５円）
新入生合宿研修終了後に精算の上、徴収する予定である。

7．服装・携行品
服　装：制服
携行品：保険証の写し、筆記用具、学生便覧、授業計画（シラバス）、
体育着上下、運動靴（屋内用）、洗面具（タオル類含む）
乗り物酔い止めの薬（必要な人のみ）、雨具

（出典　平成 25 年度新入生合宿研修実施要項）

「平成２５年度工場見学計画書４C」

平成25年度　工場見学旅行計画書

学科名	引率者	上松 仁
物質工		橋本祥子
		新井誠吾

月 日	見学先	見学先所在地	依頼状送付先	見学時間	昼食の有無	備考
10月2日(水)	昭和電工(株) 川崎事業所	〒210-0867 神奈川県川崎市川崎区扇町5-1 TEL 044-322-6813	〒210-0867 神奈川県川崎市川崎区扇町5-1 担当者名 担当者名 総務部総務グループ 藤岡 俊太郎 様 TEL 044-322-6810（内線）7810-2215	14:30～16:00	※初日の，昼食は新幹線内にて弁当の予定	昼食は新幹
						横浜マンダ
10月3日(木)	JX日鉱日石エネルギー(株) 中央技術研究所	〒231-0815 横浜市中区千鳥町8番地 TEL 045-625-7111	〒231-0815 横浜市中区千鳥町8番地 担当者名 担当者名 研究サポートグループ 渡辺 孝浩 様 TEL (045)625-7114	10:00～11:45	横浜赤レンガ（昼食）	
	味の素(株) 川崎工場	〒210-0801 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 TEL 0120-003476	〒210-0801 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 担当者名 担当者名 見学グループ 山口 美世子 様 TEL 0120-003476	14:30～16:00		パールホテ
10月4日(金)	大日精化工業(株) 東京製造事業所	〒123-8555 東京都足立区堀之内1-9-4 TEL 03-3899-1111	〒103-8383 東京都中央区日本橋馬喰町1-7-6 担当者名 担当者名 総務・人事本部室 三浦田 綾士 様 TEL 03-3662-7111	9:45～12:30	見学先にて昼食	
	東京都水道局 みやぎ水再生センター	〒120-0047 東京都足立区宮城2-1-14 TEL 03-3919-7458	不要 （見学受付窓口：03－3241－0944）TEL	13:30～15:00		東京駅にて

※1「依頼状送付先」欄には，係名，電話番号まで詳細に記入してください。
※2「昼食の有無」欄には，手配先（見学先，旅行会社），昼食場所についても記入してください。

（出典　学生課資料）

資料７－１－④

「各種講演会」

平成２４年１１月１２日

教職員　各位

学生主事

薬物乱用防止講演会の開催について（通知）

本科２年生及び希望教職員を対象に、標記講演会を下記のとおり開催しますので、ご出席ください。

記

１．実施目的　　薬物乱用の恐ろしさを認識させ、生涯、薬物乱用と縁のない生活態度を確立させることを目的とする。

２．期　　日　　平成２４年１２月１２日（水）１４時５５分～１５時４５分

３．場　　所　　本校大講義室

４．対 象 者　　２年生（１６０名）及び希望教職員

５．講　　師　　医療法人久盛会（きゅうせいかい）秋田緑ヶ丘病院副院長
高 橋 賢 一（たかはし　けんいち）氏

６．演　　題　　『薬物依存症』

平成２５年度講演会開催計画

第１学年	性教育講演会 禁煙教育講演会
第２学年	薬物乱用防止講演会
第３学年	共同教育講演会
第４学年	就職講演会
第５学年 専攻科	最先端技術講演会
全学年	特別講演会

（出典　平成 25 年度年間計画書）

資料７－１－⑤

「平成 25 年度受賞者」

平成25年度 受賞者一覧

卒業生・修了生

学術賞
（卒業研究で顕著な）

機械工学科5年 湯沢 光
電気情報工学科5年 伊藤純市
物質工学科5年 佐渡友広
環境都市工学科5年 中山 望

学術賞
（特別研究及び学業において優秀）

生産システム工学専攻2年 田村賢介
環境システム工学専攻2年 加納 宣

功績賞
（委員として委員会の円滑と発展に尽力）

機械工学科5年 遠田賢也

功績賞
（第9回全日本学生 秋田県ロボットコンテスト）

機械工学科5年 餘目隆也

電気情報工学科5年 伊藤純市
物質工学科5年 池田裕
環境都市工学科5年 菅原大斗

スポーツ賞
（第61回全国高等専門学校体育大会 柔道個人戦 男子個人戦73kg級 準優勝）

機械工学科5年 佐藤靖徳

皆勤賞
（5年間無欠席及び無欠課）

機械工学科5年 伊藤槙一郎
機械工学科5年 倉部貴皓
機械工学科5年 小林英章
機械工学科5年 佐藤靖徳
機械工学科5年 鈴木智大
機械工学科5年 鈴木晋太朗

電気情報工学科5年 相沢 光
電気情報工学科5年 伊藤純市
電気情報工学科5年 小田桐実利
電気情報工学科5年 奈良裕亮
電気情報工学科5年 堀井さやこ
物質工学科5年 坂田谷和司
物質工学科5年 佐渡友広
物質工学科5年 古野篤史
環境都市工学科5年 船木航

奨励賞
（アート＆テクノロジー東京2012）において優秀賞）

生産システム工学専攻2年 真壁純矢

秋田県産業教育振興会会長賞

機械工学科5年
佐藤靖徳

電気学会東北支部優秀学生賞

電気情報工学科5年
今健人

秋田化学工学懇話会奨励賞

環境システム工学専攻2年
菅駿輔

秋田高専産学協力会会長賞

生産システム工学専攻2年
田村賢介

秋田商工会議所会頭賞

環境システム工学専攻2年
工藤瞳

在校生

奨励賞 TOEIC

機械工学科5年
佐藤靖徳

機械工学科5年
モハマドハニフビンチェディン

電気情報工学科5年
伊藤純市

電気情報工学科5年
加藤慶輝

電気情報工学科5年
柳沼奏汰

電気情報工学科5年
宮城諒

物質工学科5年
佐々木開

物質工学科5年
スレーントーンブクピライ

生産システム工学専攻2年
田村賢介

功績賞

機械工学科4年
齊藤諒

機械工学科4年
佐藤佳織

電気情報工学科3年
深谷天馬

環境都市工学科3年
齋藤匠悟

機械工学科2年
五十嵐大樹

機械工学科2年
岡部凌

機械工学科2年
菅原拓斗

機械工学科2年
原田達也

機械工学科2年
吉岡佑真

機械工学科2年
吉田一貴

奨励賞

環境都市工学科4年
荒川真祐

奨励賞

物質工学科2年
藤原直大

奨励賞 TOEIC

機械工学科4年
畠山翔

機械工学科4年
プラナアモーンタナパット

電気情報工学科4年
西島翔

電気情報工学科4年
齋藤太朗

電気情報工学科4年
三浦翔平

電気情報工学科4年
渡辺拓希

物質工学科4年
小林尚広

物質工学科4年
アフィカビンティズルケプリ

環境都市工学科4年
ノールマズニビンティモハマドキールジョハリ

環境システム工学専攻1年
鈴木惇哉

❸

（出典　学校だより Vol.85）

項目８　社会との連携

資料８－１－①

秋田工業高等専門学校
Akita National College of Technology

前のページへ戻る　TOPページへ戻る

掲載日 2013/01/08 | 掲載内容有効期限 2014/01/08 | 担当者 学生課教務係 |

トップページ >> HOT NEWS >>

国際教養大学Andrew J. Crofts(アンドリュー J. クロフツ)先生が本校で授業を行いました

12月10日，17日の2日間，国際教養大学のAndrew J. Crofts(アンドリュー J. クロフツ)先生が本校で授業を行いました。
これは，国際教養大学との連携授業の一環として，「蛋白・遺伝子工学」に関する授業を本校物質工学科5年生の生物コースの学生に対して行ったものです。
授業は全て英語で行われ，英語によるプレゼンテーションに関心を持つ大きなきっかけとなったようです。

前のページへ戻る　TOPページへ戻る

（出典　秋田工業高等専門学校ホームページ）

資料８－１－②

平成２５年度　就職講演会実施要項

１．実施目的　　本校卒業生を招き，企業が求める人材，特に高専生に求められること，社会人としての心構え等の講演を行い，学生が就職活動を行う上で必要な知識，情報を教授してもらうことを目的とする。

２．期　　日　　平成２５年１０月３０日（水）１３時０５分～１５時２０分

３．場　　所　【ＯＢによる講話】　　大講義室
　　【今年度の就職状況について】　　各学科教室

４．対 象 者　　本科４年生（全学科）１７８名，　専攻科１年生　２２名
　　希望する教職員

５．講　　師　【ＯＢによる講話】（１３時１０分～１４時４５分）
　　木　谷　貴　則　　氏　【平成６年３月電気工学科卒業】
　　秋田県産業技術センター　先端機能素子開発部
　　スピン応用グループ　主任研究員
　　演　　題　　『これまでの研究紹介と今すべきこと』

　　阿　部　誠　也　　氏　【平成７年３月土木工学科卒業】
　　株式会社北陽技術コンサルタント　技術部　技術部次長
　　演　　題　　『今後の人生計画と社会人としての心構え』

　　【今年度の就職状況について】（１４時５５分～１５時２０分）

機械工学科５学年担任	土　田　　一
電気情報工学科５学年担任	山　崎　博　之
物質工学科５学年担任	佐　藤　恒　之
環境都市工学科５学年担任	金　　主　鉉
生産システム工学専攻長	浅　野　清　光
環境システム工学専攻長	伊　藤　浩　之

（出典　学生課資料）

秋田県における大学、短期大学及び高等専門学校間の単位互換に関する協定書

秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田看護福祉大学、日本赤十字秋田看護大学、秋田公立美術大学、秋田栄養短期大学、聖霊女子短期大学、日本赤十字秋田短期大学、聖園学園短期大学及び秋田工業高等専門学校（以下「参加大学等」という。）は、相互の交流と協力を推進し、大学教育の活性化と充実に資するとともに、意欲ある学生に多様な学習機会を提供することを目的とし、次により単位互換を行うことに合意する。

（対象学生）

1　本協定により単位互換ができる学生は、参加大学等に在学する学生とする。

（受入学生の呼称）

2　本協定に基づき、参加大学等が受け入れる学生は、特別聴講学生と称する。

（受入学生数）

3　参加大学等が受け入れる特別聴講学生数は、授業に支障のない範囲とし、必要に応じ、参加大学等間で調整する。

（履修方法）

4　特別聴講学生の科目登録、単位の認定等については、受入大学等の規則の定めるところによる。

（授業料等の費用）

5　受入に係る検定料、入学料及び授業料は徴収しない。

（会議）

6　本協定による単位互換を円滑に実施するため、運営に関する会議を大学コンソーシアムあきたに置く。

（有効期間）

7　本協定の有効期間は、平成２５年４月１日から平成２８年３月３１日までとする。

（改廃）

8　この協定の改廃は、参加大学等間の協議によるものとする。

（その他）

9　本協定書の定めるもののほか、単位互換の実施に関する細目は、覚書により別に定める。

平成２５年４月１日

秋田大学	学長　吉村昭彦
秋田県立大学	学長　小川寛
国際教養大学	学長　Mark Williams
ノースアジア大学	学長　小泉律
秋田看護福祉大学	学長　田中禮子
日本赤十字秋田看護大学	学長　安藤六子
秋田公立美術大学	学長　樋田豊次郎
秋田栄養短期大学	学長　小泉律
聖霊女子短期大学	学長　平垣ヨシ子
日本赤十字秋田短期大学	学長　安藤六子
聖園学園短期大学	学長　青木光子
秋田工業高等専門学校	校長　山田京慶

（出典　総務課資料）

平成25年度　CO－OP教育講演会年間一覧表

	学科	時期	開催日	時間	会場	講師所属	講師氏名	演題	対象
1	機械工学科	前期	24. 4. 30	13:05～14:45	テクノコミュニィ	株式会社牧野フライス製作所 加工技術部カスタマーアプリケーショングループ	中川　裕也 氏	工作機械の現状	5M
2	電気情報工学科	後期	26. 1. 29	13:05～14:45	4E教室	(株)秋田放送　経営推進局 総務部　部長	柳沼　秀光 氏	企業が求める人材とデジタル化の中でのアナログ技術	4E
3		後期	26. 2. 25	13:00～	4E教室	アイシン・コムクルーズ(株)　盛岡開発センター　ボデーグループ　グループマネージャー	加藤　誠 氏	車載向け組込みソフト開発の魅力と工夫	4E、希望者
4	物質工学科	前期	25. 7. 11	13:05～14:45	大講義室	元　(財)あきた産業振興機構 地域結集型共同研究推進課 参事兼課長	高橋　幸治 氏	明日の秋田に向けて、心ときめかすこと－科学技術と人生設計とを考える－	4C、5C
5		後期	26. 1. 17	14:00～15:30	大講義室	秋田製錬株式会社	富樫　健一 氏	秋田が誇る素材産業、亜鉛製錬について	4C
6	環境都市工学科	前期	25. 7. 23	13:05～14:45	4B教室	(株)日本ピーエス 東北支店　技術施工部長	薄田　義夫 氏	最近のプレストレストコンクリート技術について	4B
7		後期	26. 2. 7	8:45～10:25	テクノコミュニィ	(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	(執行役員)　松井端　亘 氏 (係長)　澤野　幸輝 氏	地盤環境保全について 軟弱地盤及び斜面災害の対策工について	4B

資料８－２－③

平成25年7月12日

第5回 COOP 教育講演会アンケート結果

H25.7.11 開催　「明日の秋田に向けて 心ときめかすこと
－ 科学技術と人生設計とを考える －」
開発コンサルタント　高橋 幸治 氏

1. 講演会についての感想をお聞かせください。

	大変に有意義であった。	有意義であった。	ありふれた内容であった。	その他
4年生	32.5%（13人）	52.5%（21人）	10%（4人）	0%（0人）
5年生	34.2%（14人）	58.5%（24人）	7.3%（3人）	5%（2人）

2. 講演の内容の理解度をお聞かせください。

	わかりやすかった。	むずかしかった。	その他
4年生	80.0%（32人）	20.0%（8人）	0%（0人）
5年生	78.0%（32人）	19.5%（8人）	2.5%（1人）

3. 講演内容から，今後の学習・研究に活かせる内容があったかお聞かせください。

	大いに役立った（大いに役立ちそうだった）	役立った（役立ちそうだ）	あまり役立たなかった（あまり役立ちそうにない）	役立たなかった（役立ちそうにない）
4年生	37.5%（15人）	47.5%（19人）	10.0%（4人）	5%（2人）
5年生	26.8%（11人）	68.4%（28人）	2.4%（1人）	2.4%（1人）

4. この講演会で興味深かった内容についてご記入ください。

4年生

・光触媒について（同様の意見が合計７件）
・企業の求める人間像についての内容がとても興味深く，これから就職する私達にはとても有益であった。(5)
・学校で学んでいる学業面よりも自分自身の精神面や人間性が大事だと聞けて精進しようと思った
・「Road Mapping」に興味をもちました。何をやってみるにしろ，まずは目的や道筋がなければ意味がない。自分はそう考えています。ですから，それをどのように組み立てるべきなのかを知ることができました。(3)
・様々な本を引用しており，読んでみたいと思った。P.54の棒グラフの結果は意外だと感じた。
・自国を発展させるように高橋さんのようにいろいろがんばりたいと思っています。
・ナノテクノロジーを応用したクモの糸を人工で作成する技術やヤモリの足を分析したヤモリテープの作製などの最新のテクノロジー応用技術なども紹介されていて面白かった。(3)
・面を使って新しいことに取り組もうとしていること。
・日本の現状，特に起業について　・趣味と仕事，２つの両立がすばらしいと思います。
・秋田に大きく貢献していてすごいと思った。　**・秋田の開発の話は興味深かった**
・シリコンウェハー等の使用率について　**・マッハの壁について**

（出典　物質工学科教員資料）

資料８－４－①

「図書室の学外利用者数と利用冊数」

年度(平成)	２１	２２	２３	２４	２５
利用者数	２５	９	３７	８０	１６０
利用冊数	１７	６	６２	２９	８１

（出典　図書館資料から抜粋）

資料８－４－②

「体育館やテニスコート等の構内施設の開放」

年度(平成)	２１	２２	２３	２４	２５
利用者数	約８００	約８００	約８００	１７９０	８６４

（出典　総務課資料およびアンケート調査等から抜粋）

資料８－４－③

「公的な委員会の委員（抜粋）」

＜平成２４年度＞

社団法人日本建築学会東北支部東北支部審査員，青森県県民生活文化課県史編さんグループ青森県史編さん専門委員，社団法人全国石油協会技術顧問，秋田県スポーツ科学センターアスリート総合診断アドバイザー財団法人インテリジェント・コスモス学術振興財団評議員，一般財団法人石油エネルギー技術センター評議員会会長，独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構業務評価委員会石油・天然ガス技術評価部会審査専門委員，秋田市公共事業評価審議委員会委員，秋田県農業農村整備事業総合評価落札方式（業務方針提案型）選定委員会委員，秋田県生コンクリート品質管理監査会議議長，一般財団法人石油エネルギー技術センター重質油等高度対応処理技術評価小委員会委員，八郎湖研究会専門家委員，「あきたサイエンスクラブ」運営委員会委員，東日本高速道路株式会社東北支社秋田地域技術懇談会委員，一般財団法人日本機械学会機素潤滑設計部門運営委員，秋田県国民文化祭秋田県実行委員会委員，秋田県技術高度化支援事業審査会委員，秋田県新エネルギー関連製品開発事業審査会委員，あきた総合科学技術会議委員，公益社団法人石油学会事業推進会議委員，秋田市廃棄物専門委員会委員，秋田県廃棄物処理施設技術専門委員会委員，秋田市建築紛争調停委員会委員，

＜平成２５年度＞

一般社団法人日本建築学会東北支部東北支部審査員，国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所秋田プロック総合評価委員会評価委員，秋田大学手形地区におけるヒトを対象とした研究倫理審査委員会委員，秋田大学工学資源学研究科非常勤講師，秋田県スポーツ科学センターアスリート診断アドバイザー，「あきたサイエンスクラブ」運営委員会委員，秋田県環境審議会委員，秋田県景観保全審議会委員，八郎湖研究会専門家委員，土木学会土木計画学研究委員会「交通関連ビッグデータの社会への実装研究小委員会」委員，秋田県国民保護協議会委員，国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科非常勤講師，一般財団法人石油エネルギー技術センター重質油等高度対応処理技術評価小委員会委員，高専機構国際交流委員会国際協力専門部会委員，

（出典　総務課資料　兼業従事一覧表から抜粋）

資料８－５－①

「公開講座の開催数および参加人数」

開催年度(平成)	２１	２２	２３	２４	２５
開催件数(件)	８	７	７	９	８
参加人数(名)	１６３	２００	２８２	２８９	２７０

（出典　総務課　公開講座資料から抜粋）

資料８－５－②

「キャンパスツアーの参加人数」

開催年度(平成)	２１	２２	２３	２４	２５
参加人数(名)	８０	５７	７１	６９	４１

（出典　総務課　キャンパスツアー資料から抜粋）

資料８－５－③

「公開講座受講者のアンケート調査結果（抜粋）」

質問１．この講座を何で知りましたか。
A. 中学校の先生(19)　B. ポスター(４)　C. その他(5)
質問２．誰にすすめられてこの講座に参加しましたか。
A. 中学校の先生(1)　B. 家族(2)　C. 自分で(24)　D. その他(1)
質問５．講座の内容は中学校での勉強の参考になりましたか。
A. 参考になった(26)　B. 参考にならなかった。(２)
質問６．この講座に参加して満足できましたか。
A. 充分できた(26) B. 概ねできた (2) C. 普通 (０) D. あまりできなかった (０)
E. 全くできなかった (０)
質問７．来年もこのような講座を開くとすれば友人や後輩に参加をすすめますか。
A. すすめる(23)　B. すすめない(0)　C. わからない(5)
記述回答(抜粋)
質問３．　おもしろかった（または興味があった）ところは何ですか。（複数回答可）
・回路の製作。
・飛行機のラジコン。（複数回答）
・一から自分の力で組みたてていき完成させていくところ。（複数回答）
・飛行ロボット部を見られたこと。（複数回答）
・製作。（複数回答）
・微調整しながらラインの上を走らせるのがおもしろかった。
・自分達で工作していくところがおもしろいと思った。（複数回答）
・自分ですべてのロボットを作ったところ。
・センサーについて学べたこと。
・ロボットをしっかりと走らせることができたところ。
・ライントレースロボットの作成。
・回路図や写真から車を組み立てていくところ。
・抵抗？を調節してラインの上を走るようにしたところ。
・ロボットがセンサーによって左右に方向をかえてラインにそって走るところがすごいと感じた。初めて作ったのでつくり方は分からなかったけれど、自分で組み立てるとロボットが走ってくれたとき、とてもうれしい気持ちになった。
質問４．難しかったところは何ですか。
・キャスターの組み立て。
・グリスをぬりきれなかった。
・配線作業。（複数回答）
・センサーの調節。（複数回答）
・ギアをつくるところ。（複数回答）
・ロボットの組み立て。（複数回答）
・様々なものを指定されている位置にはめ込むのが難しかった。
・さまざまなコースの上をうまく走らせるところ。

・ロボットを調整するところ。（複数回答）
・最後の感度調節。
・線にしっかり沿うようにするのは難しかったです。
・モーターの組み立て。
・ロボットの回線つなぎ。
・一つの見落としで車が動かなくなるところ。
・ミスをなくすのが、かなり難しく感じた。

質問８．その他、気づいたことやしてみたかったことなど、何でも結構ですのでお書きください。
・飛行機をつくってみたかった。（複数回答）
・設備がとても充実している。
・自分で二足歩行のロボットを作れないだろうか。
・はんだごてを使って何か作ってみたかった。
・違うロボットの製作。（複数回答）
・ロボコンにでたロボットを見たかった。
・初めてラジコンの飛行機を見られて良かった

質問９．こんな公開講座があったら受けてみたいと思う講座やテーマがありましたらお書きください。
・プラモをつくろう。
・自動車、電車系
・飛行機の作り方を学んでみたい。
・体験授業。
・日常生活で活用できる物を作ってみたい。
・理科の実験。（複数回答）

質問１０．秋田高専についてどう思いますか。感じたことを書いてください。
・理科や技術が好きな人にはすばらしい学校だと思う。
・でかくてひろい。（複数回答）
・自分達で進めていき、作りあげていくのだと思った。
・勉強が大変と聞いていましたが、とても自由でおもしろい学校だと感じました。
・やっぱりかっこいいと感じました。
・ぜひ入学したいと思いました。
・設備もきれいで、とても居心地の良いところだと思った。
・先輩や先生方がとても優しかったので、質問しやすかった。
・施設が充実していてすごいと思った。
・先生方が優しく設備が整っていて、とても良い環境だと思った。先輩方も楽しそうに取り組んでいて、秋田高専に体験入学して正解だったと思います。
・非常に頭のいい学校だと思った。
・「理数の学校」というイメージ、楽しいというイメージが強い。
・レベルが高くてすごいと思いました。

・ロボコンで優勝したことがあるのは、ロボット作りは難しいのですごいと思った。
・自分の将来について考えられる場所で、専門的なことを学べると思った。
・工業を大学と同じくらいのレベルで学べる学校。
・将来に役立つ事を教えてくださって、とてもいい学校だと思います。（複数回答）
・先生方や先輩などみんな優しい方ばかりだったので、楽しそうな学校だなと思いました。また、機械のことなどもかなり詳しく勉強できるところだと分かった。

（出典 総務課　公開講座資料から抜粋）

資料８－５－④

「キャンパスツアー実施後のアンケート調査」

秋田工業高等専門学校キャンパスツアー

アンケート調査

※該当箇所を○で囲んでください。

質問１．このキャンパスツアーを何で知りましたか。
A．ポスター（１１）B．ホームページ（８）C．その他/プリント等（２１）
D．その他/学校等（０）E．その他/先生等（０）F．その他（０）

質問２．誰にすすめられてこのキャンパスツアーに参加しましたか。
A．中学校の先生（１６）B．家族（５）C．自分で（１８）D．その他（０）

質問３．おもしろかった，あるいは興味があったところは何ですか。（複数回答可）
A．機械工学科（１５）B．電気情報工学科（２１）C．物質工学科（１８）
D．環境都市工学科（２５）E．技術教育支援センター（２７）

質問４．キャンパスツアーの内容は進路を考える参考になりましたか。
A．参考になった（４０）B．参考にならなかった。（０）

質問５．キャンパスツアーに参加して満足できましたか。
A．充分できた（３３）B．概ねできた（５）C．普通（２）
D．あまりできなかった（０）E．全くできなかった（０）

質問６．来年もキャンパスツアーを開くとすれば友人や後輩に参加をすすめますか。
A．すすめる（３１）B．すすめない（１）C．わからない（８）

質問７．キャンパスツアーの開催時期は，何月ごろが適当だと思いますか。
A．６月（４）B．７月（５）C．８月（１１）D．９月（１５）　E．１０月（４）
F．１１月（０）G．その他（０）

質問８．秋田高専についてどう思いますか。感じたことを書いてください。
・自分の好きな事を学べると思った。
・すばらしい環境で、専門の学問を勉強できるとても良い学校だと思います。
・設備がしっかりしているし、全体的にきれいで、より専門的な事を学べる良い学校だとおもった。
・専門のことが学べるので、夢に近づきやすい所がいいと思った。
・広くてきれいなので、過ごしやすそうです。
・環境も良く設備が整っていて良かったです。（複数回答）
・しっかりとしたところで気に入った。
・自主性が強い。
・かなり専門的なことを学習でき、雰囲気も楽しそうに感じた。

・知識を身に付けるための環境が素晴らしいと思いました。
・いろいろな設備がそろっていて、勉強しやすい環境だと思いました。
・大変だけど楽しそう。
・先生や生徒が優しかった。
・ハイレベルな高専だと思いました。
・専門的な学習をするのによい環境だと思った。（複数回答）
・校舎がきれいでとても広かったです。（複数回答）
・楽しい、実験が多くて良いと思った。
・いろんな学科があって、おもしろそうだと思った。
・自分の夢のために絶対行きたい目標の学校。
・秋田高専だけでしか学べない専門技術があり、とてもいいと思った。
・とても楽しく活動できる場だと思った。
・設備が整っていて他の高校ではできないようなことも出来るので良かった。
・東北の高専の中で、特に整備されていてきれいだと感じました。
・魅力的に思いました。

質問９．キャンパスツアーでこんなことをやってほしいと思うものがありましたらお書きください。
・部活動の見学などもやってほしかった。（複数回答）
・学食の試食。
・現状でいいと思う。（複数回答）
・来年もPCの分解組立はやったほうがいいと思います。（複数回答）
・公開授業。
・技術教育支援センターでやったようなことをもっとたくさんやってほしい。
・景品をもっと出してほしい。
・飛行ロボットを飛ばすこと。
・部品作り。
・学生寮の見学。（複数回答）

質問１０．その他、お気付きの点などありましたらお書きください。
・楽しかったです。ありがとうございました。
・全学科を回るのではなく、選択した科（２～３）のみと、総合説明で良いと思う。
・水理実験が何をやっているのか分かりませんでした。

（出典　総務課　公開講座資料から抜粋）

資料８－５－⑤

第２回広報・地域交流委員会議事要旨

日　時：平成２４年１０月２２日（月）１６：４５～１７：３５
場　所：会議室Ａ
出　席：脇野委員長，安東副委員長，佐藤（悟），堀江，山崎，大上，田中，榊，金，小林（貢），成田，石川，藤本，柴田　各委員
欠　席：宮脇，手島　各委員
陪　席：富樫企画係員

議　題：１．来年度公開講座及びキャンパスツアーの実施について

キャンパスツアーについて，例年 10 月末に行われている一日体験入学と内容や対象が重なることから，どちらかを廃止あるいは両者を統合する案が提示された。これについては，各行事への参加者と入学志願者の相関関係がわかるデータを基に慎重に判断すべきであるとした。また，当日のスケジュールが参加中学生及び保護者にとって負担の大きいものとなっていることから，休憩時間・場所の確保が必要であること，開催日に関しては中学校の学校祭と重なる時期であることが当日のアンケート調査等から分かっており，来年度の開催に向け検討の必要があるとした。

公開講座，キャンパスツアーを通じた問題点としては，予算面で２点あげられている。１点は当日の学生アルバイトについて，今年度は昨年度と同様学生アルバイトの賃金に上限を設定し，実質的には１人あたり３時間分しか賃金が支給されなかったことに疑問の声があがった。これについては，これらの行事を手伝うことをいわゆる「学生アルバイト」として捉えるのではなく，拘束時間に対する見返りは例えば当日の昼食提供等によるのが良いとする意見があった。もう１点は行事全体にかかる予算について，結果的に予算をオーバーするところも出てくることから学科間での配分に均衡が取れていない現状について，来年度は予算を企画係でもつのではなく予め各学科・学系に配分し，アルバイト学生にかかる支出も含めた予算管理を学科ごとに行うとする意見も事務方から提案された。

いずれも明確な決定事項はなく，次回以降再度検討する予定である。

議題２，３　（略）

（出典　平成 24 年度第２回広報・地域交流委員会議事要旨）

項目９　クラブ活動

資料９－１－①

60 クラブ等指導教員

クラブ名等		指導教員名			
体育系	陸上競技部	渡邊 朋雄	鈴木 祥子		
	バスケットボール部	伊藤 浩之	平石 広典		
	バレーボール部(男)	榊 秀次郎	伊藤 桂一		
	バレーボール部(女)	土田 一	井上 誠		
	ソフトテニス部	上松 仁	横山 保夫		
	卓球部	浅野 清光	木澤 悟		
	柔道部	上田 学	佐藤 尊文		
	剣道部	駒木根 隆士	上林 一彦		
	サッカー部	長井 栄二	野中 利瀬弘	坂本 文人	
	硬式野球部	桜田 良治	磯部 浩一	白根 弘也	
	水泳部	対馬 雅己	小林 貢	山崎 博之	
	ラグビー部	野坂 肇	丸山 耕一	黒木 暁人	
	山岳部	吉井 洋二	小林 義和		
	テニス部	宮脇 和人	増田 周平		
	ハンドボール部	堀江 保	佐藤 恒之		
	合気道部	森本 真理	渡部 英昭		
	少林寺拳法部	金 主鉉	寺本 尚史		
	バドミントン部	金田 保則	野澤 正和		
	ビリヤード同好会	金 主鉉			
文化系	エコレース部	若生 昌光	今田 良徳		
	囲碁将棋部	手島 邦夫	吉井 洋二		
	電気部	古河 美喜子			
	写真部	菅原 英子			
	吹奏楽部	菅原 隆行	嶋野 和史		
	茶道部	古河 美喜子			
	現代視覚文化研究同好会	上林 一彦			
	萬画研究同好会	丸山 耕一			
	航空宇宙研究会	今田 良徳			
コンテスト	ロボットコンテスト	宮川 豊美	西野 智路	小林 義和	田中 将樹
		長谷川 裕修			
	プログラミングコンテスト	竹下 大樹			
	デザインコンペティション	対馬 雅己	恒松 良純		
	英語スピーチコンテスト	桑本 裕二			

（出典　平成 25 年度役職教員・各種委員会委員等名簿）

資料９－１－②

平成２３年４月４日

担任各位

ものづくりオフィスアワーの掲示について(お願い)

ロボコン指導教員　小林義和　田中将樹
西野智路　増田周平
工業技術実習センター長　対馬雅己

継続的なものづくり教育の一環として，学生が自転車のパンク修理や点検整備を行ったり，ボール盤や帯のこ盤などを使って部品や作品を制作したりすることができる「ものづくりオフィスアワー」を設けました。ものづくりオフィスアワーでは，センター内にある工具類や工作機械を用いた作業について，ロボコン指導教員がアドバイスやサポートを行っていきたいと考えていますので，クラス学生にものづくりオフィスアワーの利用を積極的に呼び掛けていただければ幸いです。

学生向けのポスターを作成しましたので，お手数をおかけして申し訳ございませんが，ポスターを教室に掲示していただけますようお願いいたします。

記

ものづくりオフィスアワー

日 時：毎週水曜日　１７：００～１８：００

場 所：工業技術実習センター

担 当：ロボコン指導教員（小林義和，田中将樹，西野智路，増田周平）

以上

（出典　学級担任配布資料）

項目 10　学生寮生活

資料 10－1－①

自学自習室の設置

各棟に自学自習室を設置しています。
寮内で管理する机，イスを利用して 36 席準備しました。
皆さんの勉学のため，有効な利用を望みます。

部屋番号と席数は次の通りです。

東 1 棟 106（4 席）
東 2 棟 108（4 席），203（4 席），306（4 席）
西 1 棟 118（4 席），204（4 席），304（4 席），
西 2 棟 110（4 席），206（4 席）

使用に際しては，以下の注意事項を厳守してください。

（1）勉強に必要なものだけを持参し，終了後は必ず持ち帰り，部屋には私物を置かないようにしてください。

（2）自学自習を目的としているので，部屋では静粛にしてください。

（3）使用時間は，消灯（23:30）までとします。

（4）使用者は，使用簿に必ず記入してください。

（5）ルールを守らない場合は，一時的に閉鎖することもあります。

寮　務　主　事

（出典　学生課寮務係資料）

項目 11　管理運営、財政

資料 11－１－①

「平成２４年度 技術教育研究発表会プログラム」

第８回 秋田工業高等専門学校技術教育研究発表会

日　　時　平成２４年９月１３日（木）　１３：００～１７：００
場　　所　本校テクノコミュニティ

受　　付　　12:30～12:50

1．挨　　拶　　13:00～13:10

秋田工業高等専門学校長　　山　田　宗　慶

2．講　　演　　13:10～14:10

『地域から学ぶ社会人基礎力ー地域とつながり、地域から学ぶ』
秋田大学　教育文化学部
教授　　長　沼　　誠　子　　氏

休　憩

3．技術研究発表　14:20～16:00

司　会　　松　田　英　昭

(1)『岩ズリとごみ溶融スラグの混合による地盤改良について』
秋田工業高等専門学校
技術教育支援センター　技術専門職員　花　山　智　秋

(2)『リサイクル材料による地盤および路盤材としての適用性について』
秋田工業高等専門学校
技術教育支援センター　技術職員　　大　友　渉　平

(3)『垂直軸クロスフロー水車をモデルとした PBL 教材の開発 -模型製作から詳細設計まで-』
八戸工業高等専門学校
教育研究支援センター　技術職員　　小屋畑　勝　太

(4)『ペーパーブリッジ競技のための載荷装置の製作』
仙台高等専門学校
教育研究技術支援室　　技術長　　森　　弘　則

休　　憩

(5)『プレゼンテーション用タイマーの試作』
八戸工業高等専門学校
教育研究支援センター　技術職員　　小笠原　英　俊

(6)『旋盤における工作実習の取り組みと改善について』
秋田工業高等専門学校
技術教育支援センター　技術職員　　辻　　尚　史

4．総　　評　　16:05～16:15

技術教育支援センター長　　対　馬　雅　己

5．学内施設見学　16:30～

（出典　平成 24 年度 技術教育研究発表会プログラム）

資料 11－2－①

秋田工業高等専門学校　各種委員会等系統図(平成26年度)

(出典　総務課資料)

資料 11－３－①

（出典　秋田工業高等専門学校グループウェア（サイボウズ））

資料 11－ 4 －①

秋田工業高等専門学校

JABEE プログラム

前のページへ戻る　TOPページへ戻る

トップページ >> JABEEプログラム >>

JABEE認証関連の公表資料

本校のJABEEプログラム「創造工学システムプログラム」が平成19年5月に日本技術者教育認定機構（JABEE）より認定されました。本校ではひき続き、教育改善のために様々な活動に取り組んでおります。

認定プログラム一覧 >> (http://www.jabee.org/OpenHomePage/kijun/kijun_1.htm)

「創造工学システムプログラム」は、融合・複合型の学習・教育により「創造性豊かな実践的技術者」の育成を目指しております。

認　定　証

第 00030 号

秋田工業高等専門学校
専攻科

プログラム名：創造工学システムプログラム

工学（融合複合・新領域）関連分野

Quality Assurance by

同書の技術者教育プログラムは審査の結果
JABEE 認定基準に適合していることを
認定します

Since 1999

認定開始年度：2006 年度

2007 年 5 月 14 日

日本技術者教育認定機構

会長　大橋　秀雄

JABEEについて | 創造工学システムプログラムについて | 学習・教育目標 |
学習・教育目標とJABEE基準との対応表 | 科目の構成 | 卒業者・修了要件 |
JABEE認証関連の公表資料 |

（出典　秋田工業高等専門学校ホームページ）

資料 11－8－①

学校教育法施行規則 第172条の2 に基づく情報の公表状況

		公表手段	HP	認証評価報告書	学校要覧	学校案内	シラバス	募集要項	学生便覧	高専だより
公表先（配布先）		ホームページ掲載	○	○	○	○	○	○		
		企業等			○					
		中学生（保護者）				○		○		
		中学校				○		○		○
		在学生（保護者）					○		○	○
【1】	目的		○	○	○	○	○	○	○	
【2】	基本組織		○	○	○	○		○	○	
【3】	教員組織	教員数		○	○		○		○	
		職別人数		○	○		○		○	
		役割分担	○	○	○				○	
		年齢構成		○						
		男女別		○						
		研究業績	○	○	○					
		その他の業績		○	○					
		教育内容	○	○	○		○		○	
【4】	入学・卒業	受入方針	○	○		○		○	○	
		入学者数	○	○	○	○				○
		卒業者数	○	○	○					○
		進学・就職状況	○	○	○	○		○		○
		編入学者数	○		○					
【5】	授業	方法，内容	○		○	○	○		○	
		計画	○				○			
【6】	成績評価	卒業認定基準		○			○		○	
		取得可能な学位	○	○		○	○		○	
【7】	施設・設備	キャンパス概要		○	○	○			○	
		運動施設		○	○	○			○	
		課外活動	○	○	○	○		○	○	○
		学習環境	○	○	○	○			○	
		主な交通手段	○		○	○		○		
【8】	経費	授業料				○		○	○	○
		学生寮費				○		○	○	
		教材購入費等				○		○	○	
【9】	学生支援	修学支援		○						
		進路指導		○						
		保健，相談室	○	○					○	○
		留学生支援		○						
		障がい者支援		○						
	その他の教育研究活動等	進路状況								○
		課外活動状況	○							○
		各種行事	○							○
		教育関連情報	○							○
		人事異動								○

（出典　総務課資料）

秋田工業高等専門学校 自己点検・評価報告書

平成27年３月　発行

編　集　　秋田工業高等専門学校自己点検・評価委員会

発　行　　秋田工業高等専門学校

〒011-8511　秋田市飯島文京町１番１号

ＴＥＬ 018（847）6106　企画室

ＦＡＸ 018（857）3191

ＵＲＬ http://akita-nct.jp